

P3FY-1910-03

ServerView V03.10 ユーザースガイド

本書の構成



このマニュアルでは、サーバ管理の基本事項、ServerView を使用する場合にオペレーティングシステムに固有の要件、ServerView のインストールと ServerView のユーザインタフェースについて説明しています。

このマニュアルは ServerView のドキュメンテーションの一部であり、次のコンポーネントで構成されます。

- ServerView のインストールと基本的な操作方法について説明しているマニュアル
- 個々のメニューとコマンドについて詳細な説明をしているオンラインヘルプシステム
- トラップとしきい値に関するオンラインの説明
- ServerView の情報ファイル。特に Fujitsu ServerView Hints ファイルには、マニュアルに収録できなかった最新情報が記載されています。ServerView の情報ファイルは、対応するエントリをクリックすれば ServerView のプログラムグループから呼び出すことができます。

2002 年 4 月

Microsoft、Windows、Windows NT、MS、MS-DOS は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

Intel および Pentium は、米国インテル社の登録商標です。

その他の各製品は、各社の商標、登録商標または著作物です。

Microsoft Corporation のガイドラインに従って画面写真を使用しています。

All Rights Reserved, Copyright© 富士通株式会社 2001, 2002

本書の表記について



キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：[Ctrl] キー、[Enter] キー、[] キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「+」でつないで表記しています。

例：[Ctrl] + [F3] キー、[Shift] + [] キーなど

ボタンの表記

画面に表示されるボタンは、次のように [] で囲んで記述しています。

例：[OK]

コマンド入力

本文中では、コマンド入力を次のように表記しています。

```
diskcopy a: a:
```

の箇所のように文字間隔をあけて表記している部分は、[Space] キー（キーボード手前中央にある何も書かれていない横長のキー）を1回押してください。

また、上記のようなコマンド入力を英小文字で表記していますが、英大文字で入力してもかまいません。

本文中の表記

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。



ポイント

ハードウェアやソフトウェアを正しく動作させるために必要なことが書いてあります。



ヘルプ

操作を間違えてしまったときの元の状態への戻しかたや、困ったときの対処方法が書いてあります。

連続する操作の表記について

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「-」でつないで記述しています。

例：[スタート]をクリックし、「プログラム」をポイントし、「アクセサリ」をクリックする操作

[スタート]-[プログラム]-[アクセサリ]をクリックします。

画面例について

本書に記載されている画面は一例です。お使いのサーバに表示される画面やファイル名などが異なる場合があります。ご了承ください。

製品の呼びかたについて

本書に記載されている製品名称を、次のように略して表記しています。

- M i c r o s o f t W i n d o w s N T S e r v e r n e t w o r k o p e r a t i n g s y s t e m V e r s i o n 4 0 を W i n d o w s N T と表記しています。
- M i c r o s o f t W i n d o w s 2 0 0 0 S e r v e r o p e r a t i n g s y s t e m を W i n d o w s 2 0 0 0 と表記しています。
- R e d H a t L i n u x 7 2 を L i n u x と表記しています。

目次

第 1 章 ServerView の概要 1

1	ServerView について	1
2	ServerView の機能	2
	リカバリ機能	2
	予防保守機能	2
	モニタ機能	2
	管理機能	3
	システムセキュリティ	3
	リモートアクセスサービス (RAS) を使用する	3
	S.M.A.R.T. サポート	5
	リモートサービスボードのサポート	5
	統合オプション	5
	ServerView Basic	6

第 2 章 インストール 7

1	動作環境	7
2	インストールの準備	10
	動作環境を準備する (TCP/IP プロトコルと SNMP サービスのインストール)	10
	IP アドレスが複数存在するサーバの監視について	14
	Web server のインストール	14
3	サーバに ServerView をインストールする	19
	ServerView Basic / Full のインストール	19
	ServerView Linux のインストール	22
4	ServerView の管理端末を構築する	34
5	インストール後の処理について	36
	各サービスの設定 (OS が Linux の場合)	36
	Service Pack を適用する	41
	ServerView 使用前情報を設定する	42
	ServerView の監視機能を設定する	42
	管理ユーザを設定する	42
	FUJITSU SVUSER グループを手作業で作成する	47
6	管理端末から管理コンソールをアンインストールする	49
7	サーバから ServerView をアンインストールする	51
	ServerView Basic / Full のアンインストール	51
	ServerView Linux のアンインストール	52
8	オプション装置の追加インストール処理	53

第 3 章 ServerView の使用方法 .. 55

1	ServerView を使用する前に	55
2	Server View コンソールの起動と終了	55
3	Server View コンソールのメイン画面	56
4	ServerView の重要な機能	58

	監視機能.....	58
	リカバリ機能.....	59
	アラームの管理.....	60
	しきい値の管理.....	61
	レポートの管理.....	62
	デフォルト値の管理.....	63
5	リモートサービスボードのサポート	65
	ServerView フロントエンド.....	65
	[Remote Service Board] プロパティウィンドウ.....	66
	[Remote Service Board] プロパティページ.....	66
6	メニューの概要	67
7	サーバの一覧.....	71
	サーバが「管理不可能」の場合.....	71
	サーバが「管理不可能」でRSBアイコンがある場合	72
	サーバ一覧の確認	72
8	新しいオブジェクトの定義と追加	74
	サーバブラウザウィンドウ	74
	参照 (ブラウジング).....	74
	新しいサーバをサーバの一覧への追加	77
9	ServerView	79
	構成情報.....	79
	アクション	80
	オペレーティングシステム	84
	システム ステータス.....	84
	外部記憶装置.....	84
	外部記憶装置 - RAID コントローラ	88
	外部記憶装置 - MultiPath	90
	外部記憶装置 - DuplexWrite.....	92
	ベースボード.....	94
	電源.....	95
	環境.....	97
	ネットワークインタフェース	98
	しきい値.....	98
	レポート.....	98
	デフォルト	99
10	設定	100
	外部アプリケーション	100
	デフォルトの設定	100
	単位の設定	101
	ユーザ認証	101
11	レポート	102
	レポートマネージャ	102
	レポート一覧.....	103
12	しきい値	104
	しきい値マネージャ	104
	しきい値一覧.....	106
13	アラームサービス	107
	アラームマネージャ	108
	アラームモニタ	110
	アラーム設定.....	112
	ポケットベルの設定について	117

	インストール後のコンピュータ情報変更	119
14	ツール	120
	アーカイブマネージャ	120
	データのエクスポート	124
	Global Flash	124
15	ウィンドウ	125
16	プロパティウィンドウ	126
	サーバブラウザ	126
	プロパティの設定	126
	クラスタのプロパティウィンドウ	127
	ASR 設定	127
	RSB プロパティウィンドウ	128
	ボタンとその他の項目	128
	プロパティページのタイプ	129
	プロパティページ	131
17	ServerView Linux Agent の使用方法	134
	ServerView Linux Agent の状態表示	134
	ServerView Linux Agent の起動	134
	ServerView Linux Agent の停止	134
	ServerView Linux Agent のログについて	135
	WebExtension/AlarmService について	135

第 4 章 ServerView Basic..... 137

1	ServerView Basic のインストール	137
2	ServerView Basic の使用方法	138

第 5 章 オプション装置の割り込み情報 登録処理 139

1	概要	139
2	割り込み情報の登録処理	139
3	オプション装置のアラーム監視	141

第 6 章 LDSM 連携 143

1	LDSM 連携について	143
----------	--------------------------	------------

第 7 章 SystemWalker 連携 145

1	SystemWalker と ServerView 連携による管理	145
2	SystemWalker/CentricMGR との連携による機能	146
3	SystemWalker/CentricMGR との連携手順	147

第 8 章 **UPS 管理ソフトウェア連携** **153**

1	UPS 管理ソフトウェア連携でできる機能	153
2	連携できる UPS 管理ソフトウェアについて	153
3	UPS 管理ソフトウェア連携を行うための設定について ..	154
4	UPS 管理ソフトウェア（クライアントプログラム）を ServerView 管理コンソールから起動する	158

第 9 章 **RemoteControlService** **159**

1	RemoteControlService の概要	159
2	RemoteControlService の構成	159
3	RemoteControlService の機能	160
4	システム要件	161
5	RomPilot の設定	162
6	インストール／アンインストール	167
7	RemoteControlService/LAN の起動と終了	170
8	RemoteControlService/LAN の使用	172
	RemoteControlService/LAN のメニュー	172
	RemoteControlService/LAN のポップアップメニュー	174
	パスワード保護	176
	リモートサーバの管理	178
	管理端末からのサーバの BIOS セットアップ	180
	管理端末からのサーバのブート	180
	リモートサービスボード（Telnet）のサポート	183
9	留意事項	188

第 10 章 **バックグラウンド情報.....** **191**

1	エージェントと管理コンソール	191
2	Management Information Base.....	193
3	SNMP の基本原理	194
	SNMP のデータ要素	194
	SNMP のプロトコル要素	194
	コミュニティ	195
	トラップ	195
	Fujitsu サーバ管理	196

第 11 章 **トラップ.....** **197**

第 12 章 InventoryView..... 199

1	構造	199
2	サーバ管理タスクとの統合	200
	タスクの選択.....	200
3	InventoryView ウィンドウ	202
4	エクスポート機能	204

第 13 章 エクスポートマネージャ.. 205

1	エクスポートマネージャの開始	206
2	エクスポートデータの定義とエクスポート操作	208
3	エクスポートフォーマットの定義	210
4	CSV フォーマットでの保存作業の定義	211
	エクスポートファイルの構造定義	212
5	ODBC フォーマットでの保存作業の定義.....	213
6	SQL フォーマットでの保存作業の定義.....	216
7	エクスポート作業の開始	218
8	エクスポートデータの閲覧	220
	Microsoft EXCEL ワークシートでの CSV 形式エクスポートデータの 閲覧.....	220
9	エクスポートされるコンテンツの一覧	221

第 14 章 リモートサービスボード.. 223

1	リモートサービスボードについて	223
2	ファームウェアのアップデート	224
3	ドライバのインストール	226
4	通信インタフェースの設定	227
	LAN インタフェースの設定	227
	シリアルインタフェースの設定.....	230
5	管理ユーザの設定	234
	LAN インタフェースからのパスワードの変更	234
	シリアルインタフェースからのパスワードの変更.....	234
6	Web インタフェース	236
	スタート画面.....	236
	[Overview] ページ	237
	[Recovery] ページ.....	239
	[ASR Properties] ページ	240
	[Service Processor Battery Backup] ページ	246
	[System Board] ページ	246
	[Power Supply] ページ	247
	[Environment] ページ.....	247
	[Service Processor] ページ	247
	[Storage Subsystems] ページ	247
	[LAN Interface] ページ	248
	[SNMP Interface] ページ.....	249

	[Serial Line Configuration] ページ.....	249
	[User Accounts] ページ.....	249
7	ダイヤルアップ接続.....	250
8	留意事項.....	258

付録..... 259

1	アイコンリスト.....	259
	Server List.....	260
	ServerView メニュー.....	261
	Mylex の Device View ウィンドウ.....	262
	DPT Disk Array Devices ウィンドウ.....	262
	ネットワークインタフェースウィンドウ.....	263
	バスとアダプタウィンドウ.....	264
	Alarm Manager ウィンドウと Alarm Monitor ウィンドウ.....	265
	クラスタのステータス (未サポート).....	266
	その他のアイコン.....	269
2	トラップリスト.....	271
	Adaptec トラップ.....	271
	APC トラップ.....	272
	クラスタトラップ.....	274
	DPT トラップ.....	276
	DuplexWrite トラップ.....	278
	EMC トラップ.....	279
	Generic トラップ.....	280
	HardDisk トラップ (S.M.A.R.T.).....	280
	MultiPath トラップ.....	281
	Mylex トラップ.....	282
	NetWare トラップ.....	285
	NT トラップ.....	287
	PCI HotPlug トラップ.....	288
	PXRE トラップ.....	289
	RAID Adapter トラップ.....	292
	RomPilot トラップ.....	294
	ServerControl トラップ.....	294
	ServerView トラップ.....	297
	ServerView ステータストラップ.....	297
	Tape トラップ.....	298
	Team Server トラップ (Fujitsu).....	305
	しきい値トラップ.....	308
	UPS トラップ.....	308
3	しきい値リスト.....	311
	監視される値.....	311
	概要.....	311
4	略語.....	318

1 ServerView の概要

ここでは、ServerView の概要について説明します。

1 ServerView について

ServerView はサーバを監視するソフトウェアです。

ServerView を使用すると、Windows NT または Windows 2000 が動作する標準的なパーソナルコンピュータから、ネットワーク上にあるすべての PRIMERGY サーバを監視できます。

ServerView は監視を行うためのコンソール：ServerView 管理コンソール（管理コンソール）と、監視されるサーバ：ServerView エージェント（サーバ）から成ります。

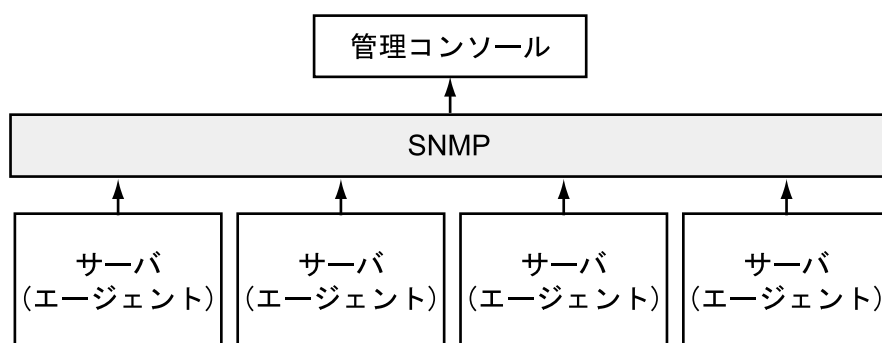


図 1：エージェントと管理コンソール

ServerView では、ハードディスクドライブ、冷却ファン、電源ユニット、または装置の温度などの重要なサーバ機能をチェックします。これらのパラメータの値が指定した値を超えたりエラーが発生した場合には、メッセージが出力され、必要なときには修正処置が施されます。

ServerView を使用してサーバを管理すると、大規模ネットワークのオペレータに次のような決定的な利点をもたらします。

- サーバの信頼性が高まるため、生産性が向上する。
- データ処理インフラストラクチャを自動的に監視することにより、コストが削減される。
- 状況の変化に問題なく ServerView を適用させることができるため、柔軟にシステムを拡張できる。
- エラー分析を簡素化したため、ダウン時間が短縮される。
- エラー発生時の対応時間が短縮される。
- ネットワークコンポーネントとそのリソースを効率的に使用することにより、総運用費（総維持費）が削減される。
- ソフトウェアの人間工学を考慮することにより操作が容易である。データのわかりやすい表示、インテリジェントなユーザインタフェース、頼りになるヘルプシステムが提供されている。

2 ServerView の機能

ServerView には、サーバをモニタし、エラーを迅速に訂正し、ボードの故障を早期発見するための全寿命期間にわたってのモニタリング、エラーメッセージが送信されるようにする数多くのオプションを持つアラーム管理システム機能があります。

ServerView には、他のサーバ管理システムと統合する多くの方式があります。また、記憶域拡張もサポートします。

ServerView で利用可能な機能の概要を次に説明します。

リカバリ機能

サーバをモニタし、エラー発生時のその対策を ASR&R（自動サーバ再構成と再起動）の支援により、指定できます。この方式では、適切なシャットダウンを開始するか、または欠陥部分を自動的に使用不能にしてリブートできます。

予防保守機能

予防保守機能は、特定のサーバ部品のエラーを早期に検出します。これにより、障害発生前に個々の部品を訂正できます。

次の部品をモニタします。

- ファン
- CMOS バッテリ
- S.M.A.R.T. 標準をサポートする SCSI および RAID コントローラ上のハードディスク

モニタ機能

ハードウェアのインベントリ（目録）を作成し、ServerView で利用可能なモニタ機能を使用して、様々なシステムパラメータをモニタできます。このような機能により、特に次のことができます。

- インストールしたハードウェアのインベントリの作成
- サーバオペレーションの稼動時間カウンタを含むすべてのハードウェアコンポーネントのモニタ
- システムがダウンする前に、適切な通知をする全寿命期間にわたるモニタ
- 故障電源ユニットの迅速な認識
- バスシステム、プロセッサ、主記憶装置、ハードディスク（RAID ドライブを含む）、ネットワークコントローラ、およびその他の内蔵コントローラの詳細情報の取得
- 長期モニタの目的で集めた情報の記録（性能分析、エラー頻度率）
- 弊社の記憶域拡張のモニタ

管理機能

ServerView には、ユーザフレンドリな優れた構造の中央管理ツールがあります。このツールを使用すると、それぞれの必要条件に応じてシステムを最適化できます。ServerView は、次のようなシステムを提供します。

- 簡単に使用できるアラーム管理システム（アラームのグループ化、ユーザフレンドリな Alarm Manager によるトリガしたアラームとその他の機能の管理と分析）および様々なアラーム発信メカニズム
- しきい値をモニタするためのしきい値管理システム
- 長期間にわたり、様々なサーバのパラメータをモニタするためのレポート管理システム
- ネットワーク上の別のサーバに SNMP 構成データをリファンスサーバから転送するデフォルトの管理システム

システムセキュリティ

SNMP は、パスワード入力後に限って変更できます。

リモートアクセスサービス (RAS) を使用する

Windows NT のリモートアクセスサービス (RAS) を使用すると、コンピュータをリモートのネットワークに接続できます。接続したコンピュータに ServerView がインストールされている場合、そのコンピュータを使用して ServerView エージェントを管理できます。これにより、どの場所からでもサーバを管理できます。

RAS の機能

RAS を使用すると、コンピュータ (RAS クライアントという) は、アナログまたはデジタルの電話回線を介して、リモートのコンピュータに接続できます。接続を実現するリモートのコンピュータ (RAS サーバ) は、「アクセスステーション」として機能します。データ通信は、PPP、PPTP または SLIP などの通常のプロトコルで行われます。RAS サーバは、ネットワーク全体にアクセス、または RAS サーバ自体だけにアクセスするように構成できます。

RAS 配下のアプリケーションは、リモートのネットワークに接続しているシステム上で実行されます。RAS サーバは、通信だけを担当し、プログラムの実行には関係ありません。

接続のセットアップは常に RAS クライアントから開始するので、トラップはリモートシステムには発信されません。これとは対照的にエラーは、ページメッセージを使用して発信できます。

Windows NT 環境での設定

Windows NT は、Microsoft RAS プロトコルだけではなく、RAS クライアント上の PPP および SLIP などの他のリモートアクセスプロトコルをサポートします。これにより、Windows NT ワークステーションを実行しているシステムは、Windows NT

サーバ(バージョン 3.5 以上)でインターネットにリンクしている別のコンピュータにダイヤルできます。または数多くの PPP または SLIP ベースの業界標準インターネットサーバにも接続できます。

Windows NT、Microsoft Windows for Workgroups、MS-DOS (Microsoft Network Client ソフトウェアをインストールしているもの)、LAN Manager または PPP クライアントを実行しているシステムは、どれも Windows NT RAS サーバのクライアントになることができます。

Windows NT Server のアドミニストレータは、RAS Administration プログラムを使用して、RAS サーバを管理し、ユーザを管理し、許可を割り当て、RAS 伝送をモニタできます。RAS Administration の詳細については、RAS のヘルプを参照してください。

サーバは次に示すものを備えている必要があります。

- マルチポートのアダプタまたは
- モデム (許容可能な性能を得るには、最低 9600Baud を推奨) で
- アナログ回線または
- 他の何らかの WAN リンクおよび
- RAS ソフトウェアがインストールされていること
- サーバが他のネットワークにもアクセスするように構成されている場合、個別のネットワークアダプタを必要な各ネットワークに対してインストールし、そのネットワークに接続する必要があります。

クライアントは次の条件を満たす必要があります。

- モデム (最低 9600Baud) および
- アナログ電話回線または
- 他の何らかの WAN リンクおよび
- リモートアクセス用のソフトウェアがインストールされていること

RAS ソフトウェアの最初のインストール時に、RAS サーバは構成されます。特に Configuration ダイアログには、ネットワーク全体にアクセスするか、RAS サーバのみにアクセスするかを定義するオプション、LAN で使用するプロトコル (IPX および TCP/IP) を選択するオプション、暗号化された認証だけを受け入れるかどうかを選択するオプションがあります。

RAS サーバのポートは、個別に構成されます。各ポートに対して、クライアント、サーバ、またはその両方のいずれかひとつを選択できます。このような設定は、指定したポートだけに有効になり、すべてのポートに対しては有効になりません。RAS サーバは、たとえば、ネットワーク全体にアクセスするように構成できます。この場合、COM1 は呼び出しだけを受け入れ、COM2 は呼び出しの発信と受信の両方に使用できます。この場合、リモートユーザは、両方の COM ポートを通じてダイヤルインできます。しかし、ローカルユーザは、発信する RAS 呼び出しに対して、COM2 だけしか使用できません。

Windows NT RAS クライアントとサーバのイベントログにイベントとエラーが記録されます。イベントログの分析は、多くの場合、問題の原因を特定するのに役立ちます。



ポイント

RAS と Windows NT 環境での RAS クライアントと RAS サーバの構成の詳細については、Windows NT のマニュアルを参照してください。

S.M.A.R.T. サポート

セルフモニタリングおよびレポーティング技術 (S.M.A.R.T.) は、ハードディスクのエラーを早期に検出します。これは、S.M.A.R.T. アルゴリズムによって、実現します。このアルゴリズムは、ディスクのパラメータをモニタし、差し迫った故障を検出し、それを SCSI コントローラまたはホストに通知します。

S.M.A.R.T. の概念は、パラメータ値に基づいて、いわゆる「予測可能なエラー」だけを検出します。たとえば、突然の電源故障または機械故障による予測に反するエラーは、この方式では予期できません。

S.M.A.R.T. は、現在すべての SCSI ドライブでサポートされており、また数多くの IDE ドライブでも利用できます。

差し迫ったエラーの早期警告の効果は、主にアルゴリズムの効率と、モニタされたパラメータの数に依存します。このようなコンポーネントは、メーカー固有のもので、ハードディスクのタイプにより異なる可能性があります。

ServerView は、SCSI および RAID のコントローラ上の S.M.A.R.T. 互換のハードディスクをサポートします。S.M.A.R.T. が差し迫ったエラーを検出すると割り込みが発生し、S.M.A.R.T. エラーが発生したドライブが特別な色 (マゼンタ) で表示されます。

リモートサービスボードのサポート

リモートサービスボード (RSB) を使用すれば、サーバの状態にかかわらず、モデムまたは LAN を介してサーバに対する SNMP アクセスおよび Web アクセスが可能になります。これにより、起動プロセスのトレースやシステム電源の投入 / 切断など、さまざまな管理機能をリモートで実行できます。補助電源 (AC アダプタ) で動作できるため、これらの管理機能はサーバから完全に独立しています。

統合オプション

ServerView は、次に示す標準化されたプロトコルとインタフェースを使用している SNMP または DMI 標準をインプリメントする他の管理システムに簡単に接続できます。

- Intel LANDesk® Server Manager (LDSM) 連携
- SystemWalker 連携

ServerView Basic

ServerView Basic を使用すると、ローカルサーバを監視できます。ServerView Basic には、監視用に一定の ServerView 機能が備わっています。詳細情報については、「4 ServerView Basic」(137 ページ) を参照してください。

2 インストール

標準のインストーラには、次の 5 つがあり、ServerView の各ソフトウェアをインストール / アンインストールできます。

- ServerView Basic のインストーラ
- ServerView Full のインストーラ
- ServerView Linux Agent のインストーラ (Linux 版のみ)
- ServerView Console のインストーラ
- Server View Basic/Full 共通のアンインストーラ
- ServerView Console のアンインストーラ

ここでは、標準のインストーラを使用して ServerView をインストール / アンインストールする方法について説明しています。

1 動作環境

ServerView が動作するのに必要なシステムの環境は次のとおりです。

サーバ (ServerView エージェント)

サーバのシステム		動作条件
ハードウェア	使用メモリ	32MB 以上 (Linux Agent の場合は 128MB 以上)
	ハードディスク	空き領域が 130MB 以上 (Linux Agent の場合は、50MB 以上)
	ディスプレイ	SVGA(800 × 600) 以上の解像度。(推奨：1024 × 768)
	LAN カード	必要 (オンボード LAN でも可)
	マウス	必要
	モデム	ポケットベルを使用して公衆回線経由で通信を行う場合にだけ必要です。 サポートしているモデムについては、弊社の「PRIMERGY システム構成図」をご覧ください。
ソフトウェア	OS	<ul style="list-style-type: none"> Microsoft Windows 2000 Server Operating System ServicePack1 以降 Microsoft Windows 2000 Advanced Server Operating System ServicePack1 以降 Microsoft Windows NT Server Network Operating System Version 4.0 ServicePack 6a 以降 Microsoft Windows NT Server Enterprise Edition Version 4.00 ServicePack 6a 以降 RedHat Linux 7.2
	Web サーバ	<ul style="list-style-type: none"> Microsoft Internet Information Server V5.0 (Windows2000 Server の場合) Microsoft Internet Information Server V3.0/4.0 (Windows NT Server 4.0 の場合) または <ul style="list-style-type: none"> ServerView Web-Server (Apache for Win32 ベース) (ServerView のインストール時に自動インストールされます)
	プロトコル	TCP/IP が動作していること
	サービス	SNMP(サービス及びトラップ) が動作していること
	アプリケーション	OS が Windows NT または Windows 2000 の場合、Microsoft Internet Explorer 5.5 以降がインストールされていること。また、Microsoft Virtual Machine 機能は必須です。 OS が Linux の場合、Netscape Navigator/Comunicator V4.78 以降がインストールされていること。
	パッケージ (RPM)	ucd-snmp (snmpd サービス) apache (httpd サービス) gcc、make、byacc、vim-minimal、glibc、libstdc++、rpm、gawk、openssl、mod_ssl、kernel-headers
	アカウント	Administrator と同等の権限が割り当てられていること

管理コンソール (ServerView 管理コンソール)

パソコンのシステム		動作条件
ハードウェア	パソコン	IBM PC 互換機
	プロセッサ	Pentium® 以上
	メモリ	32MB 以上
	ハードディスク	空き領域が 130MB 以上
	ディスプレイ	SVGA(800 × 600) 以上の解像度。(推奨 : 1024 × 768)
	LAN カード	必要 (オンボード LAN でも可)
	マウス	必要
	モデム	ポケットベルを使用して公衆回線経由で通信を行う場合にのみ必要です。
ソフトウェア	OS	<ul style="list-style-type: none"> Microsoft Windows 2000 Professional Operating System ServicePack1 以降 Microsoft Windows NT Workstation Network Operating System Version 4.0 ServicePack 6a 以降
	Web サーバ	<ul style="list-style-type: none"> Microsoft Internet Information Server V5.0 (Windows2000 Server の場合) Microsoft Internet Information Server V3.0/4.0 (Windows NT Server 4.0 の場合) または <ul style="list-style-type: none"> ServerView Web-Server (Apache for Win32 ベース) (ServerView のインストール時に自動インストールされます)
	プロトコル	TCP/IP が動作していること
	サービス	SNMP(サービス及びトラップ) が動作していること
	アプリケーション	Microsoft Internet Explorer 5.5 以降がインストールされていること。 また、Microsoft Virtual Machine 機能は必須です。
	アカウント	Administrator と同等の権限が割り当てられていること (Windows NT, Windows 2000 の場合に必要)

2 インストールの準備

ServerView をインストールする前に、インストールが正しく行われるように準備をしておく必要があります。

動作環境を準備する (TCP/IP プロトコルと SNMP サービスのインストール)

ServerView が正しく動作するためには、監視機能をインストールするサーバに、TCP/IP プロトコル、および SNMP サービスが正しく設定されている必要があります。

TCP/IP プロトコル、および SNMP サービスを設定するには、サーバの OS によって次のそれぞれの手順で操作します。

Windows NT の場合

- 1 Windows NT のコントロールパネルから [ネットワーク] アイコンをダブルクリックします。
- 2 [ネットワーク] ダイアログボックスで、[プロトコル] タブを選択します。
- 3 [ネットワークサービス] ボックスのリストの中に「TCP/IP」が表示されていない場合には、次の操作で TCP/IP をインストールします。
 - 1 [追加] をクリックします。
 - 2 [ネットワークサービス] ボックスのリストの中から「TCP/IP」を選択し、[OK] をクリックします。
 - 3 メッセージに従って操作します。
- 4 [ネットワーク] ダイアログボックスで、[サービス] タブを選択します。
- 5 [ネットワークサービス] ボックスのリストの中に「SNMP サービス」が表示されていない場合には、次の操作で SNMP サービスをインストールします。
 - 1 [追加] をクリックします。
 - 2 [ネットワークサービス] ボックスのリストの中から「SNMP サービス」を選択し、[OK] をクリックします。
 - 3 メッセージに従って操作します。
- 6 [ネットワークサービス] ボックスのリストの中の「SNMP サービス」を選択して [プロパティ] をクリックします。
- 7 [トラップ] タブを選択します。

- 8 コミュニティ名ボックスに既に「public」がある場合は「public」を選択します。
存在しない場合はコミュニティ名ボックスに「public」を入力して[追加]をクリックします。
- 9 トラップ送信先の[追加...]をクリックします。
- 10 コンソールをインストールするサーバのホスト名、IP または IPX アドレスを入力し、[追加]をクリックします。
- 11 [セキュリティ] タブを選択します。
- 12 コミュニティ「public」を選択します。
- 13 [編集] をクリックします。
- 14 [コミュニティ権利] コンボボックスから「READ_CREATE」を選択します。
- 15 [OK] をクリックします。
 - [受け付けるコミュニティ名] ボックスのリストの中に、コミュニティ名「public」が存在しない場合は、次の操作でコミュニティを追加します。
 - 1 [追加] をクリックします。
 - 2 [コミュニティ権利] コンボボックスから「READ_CREATE」を選択します。
 - 3 [コミュニティ] ボックスに「public」と入力します。
 - 4 [追加...] をクリックします。
- 16 [セキュリティ] タブを選択します。
- 17 SNMP パケットを受け付けるホストの設定を行います。
 - すべてのホストのパケットを受け付ける場合
 - 1 [すべてのホストからの SNMP パケットを受け付ける] をチェックします。
 - 指定したホストのパケットのみを受け付ける場合
 - 1 [次のホストからの SNMP パケットを受け付ける] をチェックします。
 - 2 [追加] をクリックします。
 - 3 コンソールをインストールするサーバのホスト名、IP または IPX アドレスを入力し、[追加] をクリックします。



ポイント

- SNMP セキュリティ設定では、どのコミュニティとサーバからトラップを受信するかを指定します。
SNMP トラップ設定では、トラップの送信先を指定します。
ここでは、ServerView コンソールの IP アドレスを入力する必要があります。
- SNMP エージェントをインストール済みのサーバにおいて、独自の IP アドレスとローカル IP アドレス（「127.0.0.1」または「localhost」）からの SNMP 要求を受信できるように設定する必要があります。
- SNMP はパスワードで保護されていないオープンプロトコルなので、相応の権限を持つマネージャだけを入力するようにしてください。無許可のネットワークユーザは、重要なシステムパラメータを変更し、サーバのオペレーションを中断させる可能性があります。
- Windows NT のインストールの際に、サービスパックを適用してから SNMP サービスをインストールした場合は、再度サービスパックを適用してください。

Windows 2000 の場合

- 1 Windows 2000 コントロールパネルから [ネットワークとダイヤル アップ接続] アイコンをダブルクリックします。
- 2 メニューバーの [詳細設定] より、[オプションネットワークコンポーネント] を選択します。
- 3 次のいずれかの操作を行います。
 - [オプションネットワークコンポーネントウィザード] において [管理とモニタツール] がすでにチェックされていた場合は、[管理とモニタツール] を選択し、[詳細] をクリックして、[簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP)] がサブコンポーネントとしてチェックされているかを確認してください。チェックされている場合は、すでに SNMP サービスがインストールされています。この場合は、手順 4 に進んでください。
 - [オプションネットワークコンポーネントウィザード] において [管理とモニタツール] がチェックされていない場合は、次の操作で SNMP サービスをインストールします。
- 1 [オプションネットワークコンポーネントウィザード] で [管理とモニタツール] のチェックボックスをクリックして選択します。
- 2 [詳細] をクリックし、[管理とモニタツール] のサブコンポーネントとして [簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP)] が選択されていることを確認し、[OK] をクリックします。
- 3 [オプションネットワークコンポーネントウィザード] で [次へ] をクリックします。
- 4 メッセージに従って操作します。

- 4 コントロールパネルから [管理ツール] アイコンをダブルクリックします。
- 5 [コンピュータの管理] アイコンをダブルクリックしてコンピュータの管理ウィンドウを開きます。
- 6 コンソール ツリーで、[サービスとアプリケーション] - [サービス] をクリックします。
- 7 詳細情報のウィンドウ領域で [SNMP Service] をクリックします。
- 8 [操作] メニューのプロパティをクリックします。
- 9 [トラップ] タブをクリックします。
- 10 コミュニティ名ボックスに既に「public」がある場合は「public」を選択します。
存在しない場合はコミュニティ名ボックスに「public」を入力して [追加] をクリックします。
- 11 トラップ送信先の [追加 ...] をクリックします。
- 12 コンソールをインストールするサーバのホスト名、IP または IPX アドレスを入力し、[追加] をクリックします。
- 13 [セキュリティ] タブを選択します。
- 14 コミュニティ「public」を選択します。
- 15 [編集] をクリックします。
- 16 [コミュニティ権利] コンボボックスから「READ_WRITE」または「READ_CREATE」を選択し、[OK] をクリックします。
(「READ_WRITE」を推奨)
 - [受け付けるコミュニティ名] ボックスのリストの中に、コミュニティ名「public」が存在しない場合は、次の操作でコミュニティを追加します。
 - 1 [追加] をクリックします。
 - 2 [コミュニティ権利] コンボボックスから、「READ_WRITE」または「READ_CREATE」を選択します。
(「READ_WRITE」を推奨)
 - 3 [コミュニティ] ボックスに「public」と入力します。
 - 4 [追加 ...] をクリックします。
- 17 SNMP パケットを受け付けるホストの設定を行います。
 - すべてのホストのパケットを受け付ける場合
 - 1 [すべてのホストからの SNMP パケットを受け付ける] をチェックします。
 - 指定したホストのパケットのみを受け付ける場合
 - 1 [次のホストからの SNMP パケットを受け付ける] をチェックします。
 - 2 [追加] をクリックします。

3 コンソールをインストールするサーバのホスト名、IP または IPX アドレスを入力し、[追加] をクリックします。



ポイント

- SNMP セキュリティ設定では、どのコミュニティとサーバからトラップを受信するかを指定します。
SNMP トラップ設定では、トラップの送信先を指定します。
ここでは、ServerView コンソールの IP アドレスを入力する必要があります。
SNMP エージェントをインストール済みのサーバにおいて、独自の IP アドレスとローカル IP アドレス (「127.0.0.1」または「localhost」) からの SNMP 要求を受信できるように設定する必要があります。
- SNMP はパスワードで保護されていないオープンプロトコルなので、相応の権限を持つマネージャだけを入力するようにしてください。無許可のネットワークユーザは、重要なシステムパラメータを変更し、サーバのオペレーションを中断させる可能性があります。

IP アドレスが複数存在するサーバの監視について

ServerView では、IP アドレスが複数存在する場合 (複数枚の LAN カードを持つ等) ネットワークのバインドで設定された順序にしたがって自サーバの IP アドレスを検索します。管理コンソールとの通信を行うアダプタを最初に検索するようにバインドしてください。

Web server のインストール

ServerView の以下のコンポーネントは、Web ベースで構築され、Web ブラウザから閲覧できます。

- ServerView AlarmService
- ServerView ArchiveService
- ServerView WebExtension

動作には Web サーバが必要であり、ServerView では Microsoft Web servers (MS Internet Information Server) または ServerView Web-server(Apache for Win32 ベース) をサポートしています。

ServerView Web-Server

Web サーバとして ServerView Web-Server を使用する場合は、ServerView のインストール時に自動的にインストールされます。

MS Internet Information Server

オペレーティングシステムごとに、次の WWW サーバがサポートされています。

OS	説明
Windows NT 4.0 Server	Windows NT Server 4.0 では、Web サーバとして Internet Information Server (IIS) バージョン 3.0 と 4.0 がサポートされています。インターネット接続用のセキュリティ補助機能を利用する場合は、IIS 4.0 をインストールしてください。これには、補助機能として SSL (Secure Socket Layer) が用意されています。
Windows 2000	Windows 2000 のバージョンによっては、IIS v5.0 がプレインストールされている場合とされていない場合があります。 Windows 2000 IIS v5.0 はプレインストールされています。 Windows 2000 Advanced Server IIS v5.0 はプレインストールされています。 Windows 2000 または Windows 2000 Advanced Server を使用する場合は、IIS v5.0 がプレインストールされているかどうかを確認してください。 後で IIS v5.0 をインストールする手順は、Windows 2000 のすべてのバージョンで同じです。この手順は次のとおりです。 Windows 2000 CD-ROM を CD-ROM ドライブに挿入し、[スタート]-[設定]-[コントロールパネル]-[アプリケーションから追加と削除] から Windows コンポーネントを選択します。

(1) IIS V3.0 のインストール

IIS V3.0 をインストールするには、次のものがが必要です。

- Windows NT 4.0 インストール用 CD-ROM
- Windows NT 4.0 Service Pack 3 以降



ポイント

最上位のフォルダに autorun.inf というファイルを含む CD-ROM を CD-ROM ドライブに挿入すれば、CD-ROM からスタートアッププログラムを実行することができます。ただし、この場合は、自動スタートアップを無視してプログラムをただちに終了してください。

IIS V3.0 をインストールするには、次の手順で行います。

- 1 IIS V3.0 をインストールしようとしているシステムに、IIS V2.0 が既にインストールされているかどうかを確認します。
V2.0 がインストールされている場合は、手順 3 に進みます。
V2.0 がインストールされていない場合は、手順 2 に進みます。

- 2 Windows NT 4.0 インストール用 CD-ROM からプログラム inetstp.exe を実行し、Windows エクスプローラを利用して IIS V2.0 をインストールします。
inetstp.exe は、フォルダ <CD-ROM ドライブ>:\I386\INETSRV にあります。
- 3 Service Pack 3 をインストールします。
これにより、IIS のバージョンが自動的に V3.0 に更新されます。



ポイント

Service Pack の言語バージョンは、OS の言語バージョンと同じでなければなりません。
Windows NT 4.0 に Service Pack 3 以降がインストールされている場合、Service Pack 3 はインストールされません。よって、IIS V3.0 もインストールされません。この場合、IIS V4.0 をインストールしてください。

(2) IIS V4.0 のインストールと構成

IIS V4.0 をインストールするには、次のものがが必要です。

- Windows NT 4.0 Option Pack CD-ROM
- Windows NT 4.0 Service Pack 3 以降



ポイント

最上位のフォルダに autorun.inf というファイルを含む CD-ROM を CD-ROM ドライブに挿入すれば、CD-ROM からスタートアッププログラムを実行することができます。ただし、この場合は、自動スタートアップを無視してプログラムをただちに終了してください。

IIS V4.0 をインストールするには、次の手順で行います。

- 1 IIS V4.0 をインストールしようとしているコンピュータに、Internet Explorer (IE) V4.01 以降が既にインストールされているかどうかを確認します。
IE V4.01 以降がインストールされている場合は、手順 3 に進みます。
IE V4.01 以降がインストールされていない場合は、手順 2 に進みます。
- 2 Windows NT 4.0 Option Pack CD-ROM からプログラム ie4setup.exe を実行し、Windows エクスプローラを利用して IE V4.01 をインストールします。
ie4setup.exe は、フォルダ <CD-ROM ドライブ>:\Ie401\X86 にあります。
別の方法として、IE V4.01 が含まれている Windows NT 4.0 Service Pack 4 をインストールすることもできます。



ポイント

Service Pack の言語バージョンは、OS の言語バージョンと同じでなければなりません。
IE は必要に応じて、V4.01 以降をインストールしてください。

- 3 Windows NT 4.0 Option Pack CD-ROM からプログラム setup.exe を実行し、Windows エクスプローラを利用して IIS V4.0 をインストールします。



ポイント

SSL (Secure Socket Layer) 機能を使用する場合は、手順 4 に進みます。SSL を完全に使用するには、適切な認証証明書が必要です。このような証明書は、MS Certificate Server などを使用して作成することができます。この Certificate Server は Windows NT 4.0 Option Pack CD-ROM に格納されています。

ファイル setup.exe は、フォルダ <CD-ROM ドライブ>:\ にあります。標準インストールを使用する場合は、インストールプログラムの指示に従ってください。



ポイント

インストール時に、IE V4.0 より前のバージョンがコンピュータに既にインストールされていることを示すエラーメッセージが表示された場合は、インストールを終了し、手順 2 からやり直してください。

- 4 Certificate Server を IIS V4.0 の追加モジュールとしてインストールします。

この作業は、手順 3 の指示に従います。ただし、この場合は標準インストールを使用しないで、インストールプログラムのパラメータを修正し、追加コンポーネントとして Certificate Server を選択します。次にインストール指示に従ってください。

ドメイン管理者のアカウントを使用して、[コントロールパネル]-[サービス] で証明サービスを起動します。次に、サービスが正しく起動したことを確認します。確認するには、[コントロールパネル]-[サービス] で [Certificate Authority] を選択し、[スタートアップ] ボタンをクリックして、[アカウント] オプションが有効になっていることと、ドメイン管理者が入力されていることを確認します。



ポイント

コンピュータが NT ドメインに属していない場合は、アカウントを指定しないでサービスを起動してください。

- 5 認証証明書が必要な場合は、適切なプロバイダから入手します。

会社内で使用する場合は、ユーティリティルーチンを使用して認証証明書を作成することもできます。



ポイント

以下の説明はシステムによっては該当しないことがあるため、説明とは異なるステップが必要になることがあります。IIS V4.0 は Microsoft 製品であるため、以下の説明は一般的なものであり、詳細な説明ではありません。

自分で認証証明書を作成する場合は、Microsoft の Key Manager (IIS V4.0 の標準インストールの場合、ファイル keyring.exe はフォルダ <Windows インストールディレクトリ>:\system32\inetsrv にあります) などのユーティリティルーチンが必要です。

Key Manager ユーティリティーは、次のメニューで検索できます。

- 1 [スタート] [プログラム] [Windows NT Option Pack]
[Microsoft Internet Information Server] [インターネット サービス
マネージャ]を選択して、IIS を起動します。
- 2 IIS ファイルツリーの ServerView インストールディレクトリを開き
ます。
このディレクトリは、Internet Information Server <ローカルホスト
名> 既定の Web サイト SCRIPTS の順に選択すると開くことがで
きます。
- 3 右クリックして[プロパティ]ウィンドウを開きます。
- 4 [ディレクトリ セキュリティ] タブをクリックして、[セキュリティ
で保護された通信]ウィンドウを開きます。
[キー マネージャ] ボタンをクリックすると、ユーティリティーチ
ン keyring.exe を起動できます。
- 5 [キー] [新しいキーの作成]メニューを使用して、新しいキーを
作成します。
- 6 キーの作成に成功した後、次の操作を行います。
 - 1 ポート番号を 443 に変更します。
 - 2 [編集] ボタンでこのリソースにアクセスする場合は[このリソース
にアクセスする時に、セキュリティで保護されたチャネルを必要とす
る]オプションを有効にして、セキュリティで保護された通信を開始
します。
- 7 ドメイン管理者のアカウントを使用して、[コントロールパネル]-[
サービス]で証明サービスを確認します。



ポイント

コンピュータが NT ドメインに属していない場合は、アカウン
トを指定しないでサービスを起動できます。

- 8 サービスへの無許可のアクセスを防止するために、パスワードを割り
当ててセキュリティを強化することもできます。パスワードを割り当
てるには、次の手順に従います。
 - 1 [ディレクトリ セキュリティ] タブで、[匿名アクセスと認識]の[
編集] ボタンをクリックします。
 - 2 [基本認識] オプションを有効にします。
 - 3 [編集] ボタンをクリックし、システムが属しているドメインの名前
を入力します。システムがドメインに属していない場合は、ここで入
力する必要はありません。

3 サーバに ServerView をインストールする

OS が Windows NT または Windows 2000 の場合は、ServerView Basic / Full のどちらかをインストールします（「ServerView Basic / Full のインストール」（19 ページ）参照）。

OS が RedHat Linux の場合は、ServerView Linux Agent をインストールします（「ServerView Linux のインストール」（22 ページ）参照）。

インストールするには、次の操作を行います。

⚠ 注意

- サーバに ServerView Basic がインストール済のサーバには、ServerView Full を追加インストールすることはできません。ServerView Full に変更したい場合には、一度 ServerView Basic をアンインストールしたあとで、新規に ServerView Full をインストールしてください。
- RAS 支援サービスをインストールする場合には、必ず RAS 支援サービスをインストールした後に、ServerView をインストールしてください。
誤って、RAS 支援サービスを後からインストールした場合は、第 2 章の「8 オプション装置の追加インストール処理」（53 ページ）に従って、ServerView エージェントを再インストールしてください。
- 既に古い版数の ServerView Basic / Full がインストールされている場合、アップデートインストールを行います。

ServerView Basic / Full のインストール

- 1 管理者または管理者と同等の権限をもつユーザ名でログインします。
- 2 実行中のアプリケーションをすべて終了させます。
- 3 ServerView の CD-ROM から、次のいずれかの操作を行います。

- 「ServerView Full」をインストールする場合

ServerView の CD-ROM から、次のプログラムを起動します。

<CD-ROM のドライブ>: ¥SVMANAGE¥JAPANESE¥SV_FULL.EXE

- 「ServerView Basic」をインストールする場合

ServerView の CD-ROM から、次のプログラムを起動します。

<CD-ROM のドライブ>: ¥SVMANAGE¥JAPANESE¥SV_BASIC.EXE

- 4 ServerView System Requirements が表示されます。インストールを継続する場合は [OK] を、中止する場合は [キャンセル] をクリックします。
- 5 「Web サーバの選択」ダイアログが表示されます。ServerView Service で使用する Web サーバプログラムを選択します。
選択後、インストールを継続する場合は [次へ] を、中止する場合は [キャンセル] をクリックします。

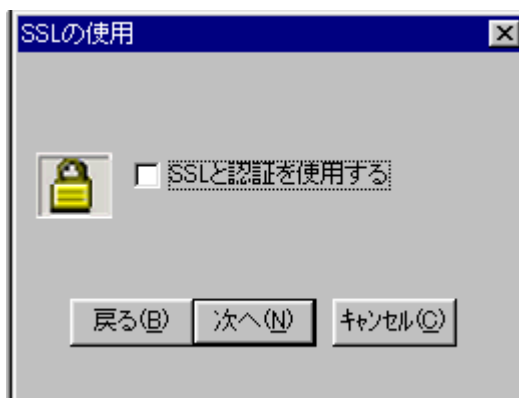


⚠ 注意

- ServerView Web-Server を選択した場合、Apache for Win32 をベースとした Web サーバをインストールし、それを使用します。
- IIS を選択した場合、既存の IIS を Web サーバとして使用します。IIS が未インストールの場合、IIS のラジオボタンは無効になります。
- 自動インストールで ServerView をインストールした場合、Web サーバは ServerView Web-Server が選択されています。IIS 使用に変更したい場合、一度アンインストールしたあとで、新規にインストールしなおしてください。

「Web サーバの選択」で ServerView Web-Server を選択した場合のみ、「SSL の使用」ダイアログが表示されます。このチェックボックスを選択した場合、Web 接続時に SSL 接続が使用できるようになり、また、接続時に認証が要求されるようになります。

選択後、インストールを継続する場合は [次へ] を、中止する場合は [キャンセル] をクリックします。



⚠ 注意

- 自動インストールで ServerView をインストールした場合、SSL と認証の使用は無効になっています。有効にしたい場合、一度アンインストールしたあとで、新規にインストールしなおしてください。
- 認証に使用するユーザ名とパスワードは、デフォルトでユーザ名「svuser」、パスワード「fsc」に設定されています。

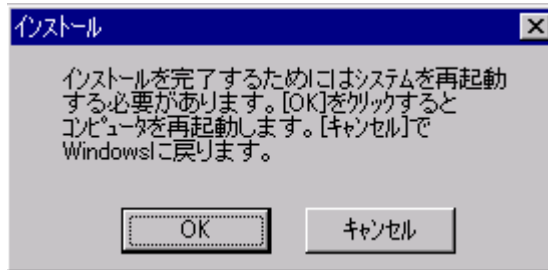
- 6 「Agent Installation Actions」ダイアログが表示されます。オプション装置を追加監視するために必要なエージェントを追加します。追加するエージェントを選択して、[OK] をクリックします。



ポイント

- サーバと管理コンソールが通信するには、各サーバに SNMP Agent をインストールして ServerView で制御する必要があります。SNMP Agent に関する詳しい説明については、インストール完了後 [Fujitsu ServerView] - [SNMP Agents] - [Known Problems] を参照してください。
- 何も選択せずに [OK] をクリックすると、基本のエージェント機能のみがインストールされます。
- オプション装置の監視に必要なエージェントについては、第 2 章の「8 オプション装置の追加インストール処理」(53 ページ) を参照してください。
- 既に古い版数の ServerView Basic / Full がインストールされている場合、アップデート インストールを行います。そのため、「Agent Installation Actions」ダイアログは表示されません。

- 7 ServerView Hints が表示されます。インストールを継続する場合は [OK] を、中止する場合は [キャンセル] をクリックします。
- 8 インストールを完了すると、システム再起動メッセージが表示されます。すぐに再起動する場合は [OK] を、あとから再起動を行う場合は [キャンセル] をクリックします。



ポイント

- インストール中にエラーメッセージが表示された場合は、インストールが正しく行われていません。この場合には、インストールされていないソフトウェアが正しくインストールされるように対処し、もう一度インストールし直す必要があります。
- ServerView をインストールすると、同時に管理コンソールとアラームサービスがインストールされます。アラームサービスは、監視対象のサーバから SNMP トラップで受け取った状態をモニタしたり、受け取る情報を選択したりするサービスです。

インストールが終了したら、ServerView を運用するための設定を行ってください
(「5 インストール後の処理について」(36 ページ) 参照)。

ServerView Linux のインストール

ServerView Linux をインストールするには、以下の方法があります。

- インストールスクリプトを使ったインストール
(「インストールスクリプトでの ServerView Linux のインストール」(22 ページ) 参照)
- 手動でのインストール
インストールスクリプトを使ったインストールができない場合、ServerView Linux を手動でインストールします。
(「手動での ServerView Linux のインストール」(28 ページ) 参照)

インストールスクリプトでの ServerView Linux のインストール

ServerView の CD-ROM 内のインストールスクリプトを利用して、ServerView のインストールおよび SNMP サービス設定ファイル (/etc/snmp/snmpd.conf) を編集できます。



ポイント

/etc/snmp/snmpd.conf は、ServerView のインストール後に手動で編集することもできます。
手動で編集したあとは、"/etc/rc.d/init.d/snmpd restart" コマンドを実行してください。

インストールスクリプトがエラーメッセージを表示して終了した場合は、「インストールスクリプトのトラブルシューティング」(25 ページ)を参照してください。

(1) インストールスクリプトの起動方法

インストールスクリプトによるインストールは、スーパーユーザでログインして ServerView の CD-ROM をドライブにセットし、次のコマンドを実行して行います。

```
# mount /mnt/cdrom/
# cd /mnt/cdrom/Svmanage/JAPANESE
# ./inssv
```

(2) IP アドレスの入力

インストールスクリプトのタイトル表示の後、IP アドレスの入力を要求されます。SNMP トラップを送信したい IP アドレスを入力して [Enter] キーを押してください。サーバ自身の IP アドレス (127.0.0.1) は自動的に設定されるので、ここで入力する必要はありません。

複数装置に送信したい場合は、各装置の IP アドレスを入力します。

入力した IP アドレスは、/etc/snmp/snmpd.conf に書き込まれます。

IP アドレスを入力し終わったら [e] キーを押してください。次の処理に進みます。

```
-----
ServerView install / RPM control script version VX.XLXX
Copyright (C) FUJITSU LIMITED 2002

Please input IP-addresses to where you want to send SNMP-traps.
(Note : No need to input the IP address of this server,
        it will be added automatically by the installer.)
Press "e" key to continue.

>192.168.1.10
>192.168.1.20
>e
-----
```

(3) ロケーションの入力

コンピューターのロケーション (設置場所) を入力します。

入力されたロケーションは、/etc/snmp/snmpd.conf 内の syslocation 項目に書き込まれ、ServerView のプロパティで開いた際に、「場所」として表示されます。

半角文字で 64 バイトまで入力できます。

ロケーションを入力したら [Enter] キーを押してください。次の処理に進みます。

何も入力しないで [Enter] キーを押すことによって、デフォルト値を書き込むこともできます。

```
-----
Please input a location of the server.
The specified location will be shown as a property of the server
at the ServerView console.
```

```
You can change the location of the server later,
by editing the /etc/snmp/snmpd.conf.
>(Example: computer room L200)
-----
```

(4) 管理者の入力

コンピューターの管理者名を入力します。

入力された管理者名は、/etc/snmp/snmpd.conf の syscontact 項目に書き込まれ、ServerView のプロパティで開いた際に、「管理者」として表示されます。

半角文字で 64 バイトまで入力できます。

管理者名を入力したら [Enter] キーを押してください。次の処理に進みます。

何も入力しないで [Enter] キーを押すことによって、デフォルト値を書き込むこともできます。

```
-----
Please input a name of the root user.
The specified name will be shown as a property of the server
at the ServerView console.

You can change the name of the root user later,
by editing the /etc/snmp/snmpd.conf.
>(Example: Your name)
-----
```

(5) RPM を実行

snmpd を起動した後、ServerView Agent(eecd/agents)/WebExtension/AlarmService の RPM を実行します。

各 RPM の出力結果が表示されます。

以下は、正常時の出力結果例です。

```
-----
snmpd を起動中 : [ OK ]

The package kernel-headers or kernel-source has to be   srvmagt-
eecd の出力
installed (kernel-headers is normaly installed by default).
and module compilation must succeed.

Compiling modules for 2.4.7-10smp:
cop(Ok) copa(Ok) i960(Ok) ihpci(Ok) ipmi(Ok) smbus(Ok) [ OK ]
Loading modules: smbus [ OK ]
Starting eecd[ OK ]
snmpd を停止中 : [ OK ]   srvmagt-agents の出力
snmpd を起動中 : [ OK ]
Starting agent scagt[ OK ]
Starting agent busagt[ OK ]
Starting agent hdagt[ OK ]
Starting agent mylexagt[ OK ]
Starting agent unixagt[ OK ]
Starting agent etheragt[ OK ]
Starting agent biosagt[ OK ]
```

```
Starting agent securagt[ OK ]
Starting agent statusagt[ OK ]
Starting agent invagt[ OK ]
Starting agent vvagt[ OK ]
Starting snmptrapd: [ OK ] AlarmService の出力
Starting SVFwdServer:
Restarting srvmagt, please wait...
Restarting eecd, please wait...
-----
```

(6) 実行結果の確認

ServerView Agent(eecd/agents)/WebExtension/AlarmService が正常にインストールされた場合、最終行に下記の正常終了メッセージが表示されます。

```
ServerView's RPMs are installed successfully.
```

上記メッセージが表示された場合は、「各サービスの設定 (OS が Linux の場合)」(36 ページ)を実施してください。

上記メッセージが出力されない場合は、「インストールスクリプトのトラブルシューティング」(25 ページ)を参照してください。

インストールスクリプトのトラブルシューティング

インストールスクリプトはインストールエラーを検出すると、エラーメッセージを表示して終了します。

下記の対処方法で解決しない場合は、「手動での ServerView Linux のインストール」(28 ページ)を参照して、インストールスクリプトを使用しないインストールを実施してください。

エラー No.	エラーメッセージ
	原因と対処方法
1001	login user is not root! Please try again as root.
	ログインユーザがスーパーユーザではありません。 スーパーユーザでログインし直してから、ServerView のインストールスクリプトを実行してください。
1002 ~ 1003	kernel version is under 2.4
	カーネルのバージョンが 2.4 以下のためインストールできません。
1004	Not supported Distribution.
	サポート対象外のディストリビューションです。
1005	Available disk space is not enough.
	空きディスク容量が不足しています。

エラー No.	エラーメッセージ
	原因と対処方法
2001 ~ 2999	**** package is not installed.
	<p>ServerView のインストールに必須の RPM パッケージがインストールされていません。</p> <p>RedHat Linux の CD-ROM から **** の RPM パッケージを再インストールした後、ServerView のインストールスクリプトを実行してください。</p> <p>RPM パッケージのインストール方法については、「 手動での ServerView Linux のインストール」(28 ページ)を参照してください。</p>
4101	failure in "mv" command.
	<p>Linux のシステムコマンドでエラーが発生しました。</p> <p>「 手動での ServerView Linux のインストール」(28 ページ)を参照してインストールしてください。</p>
4102	/etc/snmp/snmpd.conf is not exist.
	<p>SNMP サービスの設定ファイルが見つかりませんでした。</p> <p>次のコマンドを実行した後、ServerView のインストールスクリプトを実行してください。</p> <pre># cp /mnt/cdrom/Svmanage/snmpd.conf /etc/snmp/snmpd.conf</pre>
4103 ~ 4401	failure in "****" command.
	<p>Linux のシステムコマンドでエラーが発生しました。</p> <p>「 手動での ServerView Linux のインストール」(28 ページ)を参照してインストールしてください。</p>
4402	failure in "/etc/rc.d/init.d/snmpd start" command.
	<p>snmp サービスの起動に失敗しました。</p> <p>/etc/rc.d/init.d/snmpd ファイルが存在するかどうか確認してください。</p> <p>存在しない場合は、RedHat LinuxOS の CDROM から ucd-snmp の RPM パッケージを再インストールした後、ServerView のインストールスクリプトを実行してください。</p> <p>RPM パッケージのインストール方法については、「 手動での ServerView Linux のインストール」(28 ページ)を参照してください。</p>
6001	"srvmagt-eecd" installation failed.
	<p>ServerView Agent(srvmagt-eecd) のインストールに失敗しました。</p> <p>次のコマンドを実行して srvmagt-eecd のインストールを再試行してください。</p> <pre># rpm -i /mnt/cdrom/Svmanage/Agent/srvmagt-eecd-X.XX-XX.redhat.rpm (X.XX-XX はバージョンを示します。) # cd / # /etc/rc.d/init.d/eecd restart</pre>

エラー No.	エラーメッセージ
	原因と対処方法
6002	"srvmagt-agents" installation failed.
	<p>ServerView Agent(srvmagt-agents) のインストールに失敗しました。</p> <p>次のコマンドを実行して srvmagt-agents のインストールを再試行してください。</p> <pre># rpm -i /mnt/cdrom/Svmanage/Agent/srvmagt-agents-X.XX-XX.redhat.rpm (X.XX-XX はバージョンを示します。) # groupadd svuser # cp /mnt/cdrom/Svmanage/config /etc/srvmagt/config # chmod 644 /etc/srvmagt/config # cd / # /etc/rc.d/init.d/srvmagt restart</pre>
6003	"AlarmService" installation failed.
	<p>AlarmService のインストールに失敗しました。</p> <p>次のコマンドを実行して AlarmService のインストールを再試行してください。</p> <pre># cd /mnt/cdrom/Svmanage/JAPANESE/Sv/ # ./InstallAlarmService AlarmServiceStarter-X.X-X.i386.rpm (X.X-X はバージョンを示します。)</pre>
6004	"WebExtension" installation failed.
	<p>WebExtension のインストールに失敗しました。</p> <p>次のコマンドを実行して WebExtension のインストールを再試行してください。</p> <pre># cd /mnt/cdrom/Svmanage/JAPANESE/WebExt/ # ./InstallWebExtension WebExtensionStarter-X.X-X.i386.rpm (X.X-X はバージョンを示します。)</pre>
7001	failure in "groupadd" command.
	<p>グループの作成に失敗しました。</p> <p>次のコマンドを実行してください。</p> <pre># groupadd svuser</pre>
7002	failure in copy default config file.
	<p>ServerView Agent のデフォルト設定ファイルのコピーに失敗しました。</p> <p>次のコマンドを実行してください。</p> <pre># cp /mnt/cdrom/Svmanage/config /etc/srvmagt/config # chmod 644 /etc/srvmagt/config # cd / # /etc/rc.d/init.d/srvmagt restart</pre>
7003	failure in "\chmod\" command.
	<p>/etc/srvmagt/config ファイルの権限の変更に失敗しました。</p> <p>次のコマンドを実行してください。</p> <pre>#chmod 644 /etc/srvmagt/config</pre>
7004	failure in "cd /" command.
	<p>カレントディレクトリの変更に失敗しました。</p> <p>次のコマンドを実行してください。</p> <pre># cd / # /etc/rc.d/init.d/srvmagt restart</pre>

エラー No.	エラーメッセージ
	原因と対処方法
7005	failure in "/etc/rc.d/init.d/srvmagt restart" command.
	ServerView Agent(srvmagt-agents) の再起動に失敗しました。 次のコマンドを実行してください。 # cd / # /etc/rc.d/init.d/srvmagt restart
7006	failure in "cd /" command.
	カレントディレクトリの変更に失敗しました。 次のコマンドを実行してください。 # cd / # /etc/rc.d/init.d/eecd restart
7007	failure in "/etc/rc.d/init.d/eecd restart" command.
	ServerView Agent(srvmagt-eecd) の再起動に失敗しました。 次のコマンドを実行してください。 # cd / # /etc/rc.d/init.d/eecd restart

手動での ServerView Linux のインストール

インストールスクリプトでのインストールができない場合、スーパーユーザでログインして手動でインストールする必要があります。

以下に、手動での ServerView のインストール手順を示します。

- 1 動作環境を確認します。
「1 動作環境」(7 ページ) を参照して、インストールの条件を満たしていることを確認してください。
- 2 パッケージ (RPM) のインストール状態を確認します。
次のコマンドを実行して、ServerView が動作するのに必要なパッケージ (RPM) のインストール状態を確認します。

```
# rpm -q ucd-snmp
# rpm -q apache
# rpm -q gcc
# rpm -q make
# rpm -q byacc
# rpm -q vim-minimal
# rpm -q glibc
# rpm -q libstdc++
# rpm -q rpm
# rpm -q gawk
# rpm -q openssl
# rpm -q mod_ssl
# rpm -q kernel-headers
```

RPM がインストールされている場合は、"RPM 名 -XX.XX-XX" が表示されます (X.XX-XX はバージョンを示します)。

インストールされていない RPM は、下記の例を参考にインストールしてください。

⚠ 注意

次の RPM インストール方法は一例です。RedHat Linux のインストール方法によっては、" エラー: 依存性の欠如:" が発生する場合があります。その場合には、エラーメッセージに従い、必要とされる RPM を先にインストールしてください。

RPM	インストール方法
ucd-snmp	RedHat Linux のインストール CD-ROM-1 をドライブにセットし、次のコマンドを実行します。 # mount /mnt/cdrom/ # rpm -ivh /mnt/cdrom/RedHat/RPMS/ucd-snmp-4.2.1-7.i386.rpm
apache	RedHat Linux のインストール CD-ROM-1 をドライブにセットし、次のコマンドを実行します。 # mount /mnt/cdrom/ # rpm -ivh /mnt/cdrom/RedHat/RPMS/mm-1.1.3-1.i386.rpm # rpm -ivh /mnt/cdrom/RedHat/RPMS/apache-1.3.20-16.i386.rpm
gcc	RedHat Linux のインストール CD-ROM-1 をドライブにセットし、次のコマンドを実行します。 # mount /mnt/cdrom/ # rpm -ivh /mnt/cdrom/RedHat/RPMS/cpp-2.96-98.i386.rpm # eject RedHat Linux のインストール CD-ROM-2 をドライブにセットし、次のコマンドを実行します。 # mount /mnt/cdrom/ # rpm -ivh /mnt/cdrom/RedHat/RPMS/binutils-2.11.90.0.8-9.i386.rpm # rpm -ivh /mnt/cdrom/RedHat/RPMS/glibc-devel-2.2.4-13.i386.rpm # rpm -ivh /mnt/cdrom/RedHat/RPMS/gcc-2.96-98.i386.rpm
make	RedHat Linux のインストール CD-ROM-1 をドライブにセットし、次のコマンドを実行します。 # mount /mnt/cdrom/ # rpm -ivh /mnt/cdrom/RedHat/RPMS/make-3.79.1-8.i386.rpm
byacc	RedHat Linux のインストール CD-ROM-2 をドライブにセットし、次のコマンドを実行します。 # mount /mnt/cdrom/ # rpm -ivh /mnt/cdrom/RedHat/RPMS/byacc-1.9-19.i386.rpm
vim-minimal	RedHat Linux のインストール CD-ROM-1 をドライブにセットし、次のコマンドを実行します。 # mount /mnt/cdrom/ # rpm -ivh /mnt/cdrom/RedHat/RPMS/vim-minimal-5.8-7.i386.rpm
glibc	RedHat Linux のインストール CD-ROM-1 をドライブにセットし、次のコマンドを実行します。 # mount /mnt/cdrom/ # rpm -ivh /mnt/cdrom/RedHat/RPMS/glibc-2.2.4-13.i386.rpm

RPM	インストール方法
libstdc++	RedHat Linux のインストール CD-ROM-1 をドライブにセットし、次のコマンドを実行します。 # mount /mnt/cdrom/ # rpm -ivh /mnt/cdrom/RedHat/RPMS/libstdc++-2.96-98.i386.rpm
rpm	pm パッケージ以外からインストールする必要があります。RedHat Linux の開発元へお問い合わせください。
gawk	RedHat Linux のインストール CD-ROM-1 をドライブにセットし、次のコマンドを実行します。 # mount /mnt/cdrom/ # rpm -ivh /mnt/cdrom/RedHat/RPMS/gawk-3.1.0-3.i386.rpm
openssl	RedHat Linux のインストール CD-ROM-1 をドライブにセットし、次のコマンドを実行します。 # mount /mnt/cdrom/ # rpm -ivh /mnt/cdrom/RedHat/RPMS/openssl-0.9.6b-8.i386.rpm
mod_ssl	RedHat Linux のインストール CD-ROM-1 をドライブにセットし、次のコマンドを実行します。 # mount /mnt/cdrom/ # rpm -ivh /mnt/cdrom/RedHat/RPMS/mod_ssl-2.8.4-9.i386.rpm
kernel-headers	RedHat Linux のインストール CD-ROM-1 をドライブにセットし、次のコマンドを実行します。 # mount /mnt/cdrom/ # rpm -ivh /mnt/cdrom/RedHat/RPMS/kernel-headers-2.4.7-10.i386.rpm

- 3 /etc/snmp/snmpd.conf のバックアップファイルを作成します。
次のコマンドを実行します。

```
# ls /etc/snmp/
snmpd.conf
```

snmpd.conf.org が存在しない場合のみ、次のコマンドを実行してください。

```
# cp /etc/snmp/snmpd.conf /etc/snmp/snmpd.conf.org
```

- 4 CD-ROM から /etc/snmp/snmpd.conf をコピーします。
デフォルト値を設定済みの /etc/snmp/snmpd.conf を、ServerView の CD-ROM からコピーします。
次のコマンドを実行します。

```
# mount /mnt/cdrom/
# cp /mnt/cdrom/Svmanage/snmpd.conf /etc/snmp/snmpd.conf
# chmod 644 /etc/snmp/snmpd.conf
```

- 5 /etc/snmp/snmpd.conf を編集します。
/etc/snmp/snmpd.conf 内の次の項目を編集します。



注意

/etc/snmp/snmpd.conf の変更を反映するには、"/etc/rc.d/init.d/snmpd restart" コマンドを実行する必要があります。

なお、snmpd.conf の詳細は、/etc/snmp/snmpd.conf 内のコメントを参照してください。

項目	設定内容
com2sec	<p>com2sec 項目に下記の設定例を追加します。</p> <p>設定例：com2sec svSec default public com2sec svSec localhost public com2sec svSec xxx public</p> <p>：xxx には以下のいずれかの設定値を代入してください。</p> <p>default：すべてのサーバ/クライアントからのアクセスを許可します。</p> <p>localhost：自サーバのみアクセスを許可します。</p> <p><IP アドレス>：特定のサーバ/クライアントからのアクセスを許可します。</p> <p><subnet>/<netmask>：特定のネットワークからのアクセスを許可します。</p>
trapsink	<p>trapsink 項目に下記の設定例を追加します。</p> <p>設定例：trapsink 127.0.0.1 public trapsink <IP アドレス> public</p> <p>SNMP トラップを送信したい IP アドレスを指定します。</p> <p>サーバ自身の IP アドレス (127.0.0.1) は既に設定されているので、改めて記述する必要はありません。</p> <p>複数装置に送信したい場合は、同じ記述で IP アドレスが異なるものを複数行記述します。</p>
syslocation	<p>syslocation 項目に下記の設定例を追加します。</p> <p>設定例：syslocation computer room L200</p> <p>コンピュータのロケーション（設置場所）を半角文字で入力します。</p> <p>ServerView のプロパティで開いた際に、「場所」として表示されます。</p>
syscontact	<p>syscontact 項目に下記の設定例を追加します。</p> <p>設定例：syscontact Your name</p> <p>コンピュータの管理者名を半角文字で入力します。</p> <p>ServerView のプロパティで開いた際に、「管理者」として表示されます。</p>

6 RPM コマンドを実行します。

srvmagt-eccd/srvmagt-agents/AlarmService/WebExtension の順番でインストールします。

```
# /etc/rc.d/init.d/snmpd restart
# rpm -i /mnt/cdrom/Svmanage/Agent/srvmagt-eccd-X.XX-XX.redhat.rpm
# rpm -i /mnt/cdrom/Svmanage/Agent/srvmagt-agents-X.XX-XX.redhat.rpm
```

```
# cd /mnt/cdrom/Svmanage/JAPANESE/Sv/
# ./InstallAlarmService AlarmServiceStarter-X.X-X.i386.rpm
# cd /mnt/cdrom/Svmanage/JAPANESE/WebExt/
# ./InstallWebExtension WebExtensionStarter-X.X-X.i386.rpm
(X.XX-XX はバージョンを示します。)
```

7 RPM コマンドの実行結果を確認します。

正常にインストールできたかどうかを確認するため、次のコマンドを実行します。

RPM コマンドが正常に終了している場合は、インストールされている RPM パッケージのバージョンが表示されます。

```
# rpm -q srvmagt-eecd
srvmagt-eecd-X.XX-XX

# rpm -q srvmagt-agents
srvmagt-agents-X.XX-XX

# rpm -q AlarmService
AlarmService-X.X-X

# rpm -q WebExtension
WebExtension-X.X-X
(X.XX-XX はバージョンを示します。)
```

8 ServerView Agent のデフォルト設定を行います。

次のコマンドを実行します。

```
# groupadd svuser
# cp /mnt/cdrom/Svmanage/config /etc/srvmagt/config
# chmod 644 /etc/srvmagt/config
# cd /
# /etc/rc.d/init.d/srvmagt restart
# /etc/rc.d/init.d/eecd restart
```

9 インストール終了後の設定を行います。

「各サービスの設定 (OS が Linux の場合)」(36 ページ) を実施してください。

RPM バージョンの確認 / 上書きインストール

ここでは、RPM バージョンの確認、および上書きインストールについて説明します。

(1) RPM バージョンの確認

インストールされている RPM パッケージのバージョンは、次のコマンドを実行して確認できます。

```
# rpm -q srvmagt-eecd
srvmagt-eecd-X.XX-XX
```

```
# rpm -q srvmagt-agents
srvmagt-agents-X.XX-XX

# rpm -q AlarmService
AlarmService-X.X-X

# rpm -q WebExtension
WebExtension-X.X-X
(X.XX-XX はバージョンを示します。)
```

(2) 上書きインストール

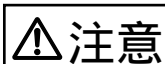
バージョンの新しい RPM パッケージが配布された場合の上書きインストールは、スーパーユーザでログインして次のコマンドを実行して行います。

```
# rpm -U srvmagt-eeed-xx.xx-xx.redhat.rpm
# rpm -U srvmagt-agents-xx.xx-xx.redhat.rpm
# ./InstallAlarmService -upgrade AlarmServiceStarter-x.x-x.i386.rpm
# ./InstallWebExtension -upgrade WebExtensionStarter-x.x-x.i386.rpm
(X.XX-XX はバージョンを示します。)
# /etc/rc.d/init.d/eeed start
# /etc/rc.d/init.d/srvmagt start
```

4 ServerView の管理端末を構築する

ServerView の監視システムで管理端末を使用したい場合には、管理端末に使用したい任意のパソコンに ServerView Console をインストールします。

ServerView Console をインストールするには、次の操作を行います。



注意

- 新規に管理端末を構築する前に、必ず「2 インストールの準備」(10 ページ)を行ってください。
- インストールは最後まで確実に行ってください。
- 既に古い版数の ServerView Console がインストールされている場合、アップデート インストールを行います。

- 1 管理者または管理者と同等の権限をもつユーザとしてログインします。
- 2 実行中のアプリケーションをすべて終了させます。
- 3 ServerView の CD-ROM から、次のプログラムを起動します。

<CD-ROM のドライブ>: ¥SVMANAGE¥JAPANESE¥CONSOLE.EXE

- 4 ServerView System Requirements が表示されます。インストールを継続する場合は [OK] を、中止する場合は [キャンセル] をクリックします。
- 5 「Web サーバの選択」ダイアログが表示されます。ServerView Service で使用する Web サーバプログラムを選択します。
選択後、インストールを継続する場合は [次へ] を、中止する場合は [キャンセル] をクリックします。

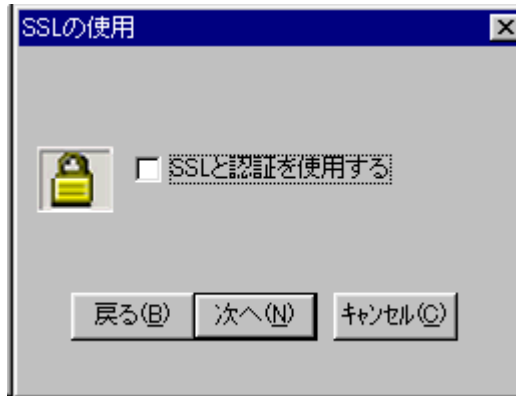


⚠ 注意

- ServerView Web-Server を選択した場合、Apache for Win32 をベースとした Web サーバをインストールし、それを使用します。
- IIS を選択した場合、既存の IIS を Web サーバとして使用します。IIS が未インストールの場合、IIS のラジオボタンは無効になります。
- 自動インストールで ServerView をインストールした場合、Web サーバは ServerView Web-Server が選択されています。IIS 使用に変更したい場合、一度アンインストールしたあとで、新規にインストールしなおしてください。

「Web サーバの選択」で ServerView Web-Server を選択した場合のみ、「SSL の使用」ダイアログが表示されます。このチェックボックスを選択した場合、Web 接続時に SSL 接続が使用できるようになり、また、接続時に認証が要求されるようになります。

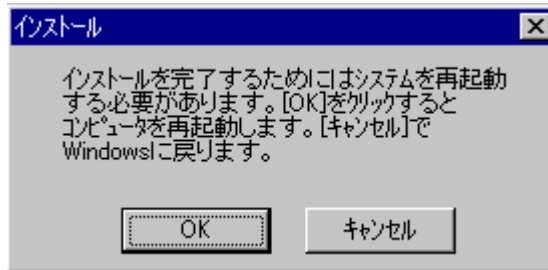
選択後、インストールを継続する場合は [次へ] を、中止する場合は [キャンセル] をクリックします。



⚠ 注意

- 自動インストールで ServerView をインストールした場合、SSL と認証の使用は無効になっています。有効にしたい場合、一度アンインストールしたあとで、新規にインストールしなおしてください。
- 認証に使用するユーザ名とパスワードは、デフォルトでユーザ名「svuser」、パスワード「fsc」に設定されています。

- 6 ServerView Hints が表示されます。インストールを継続する場合は [OK] を、中止する場合は [キャンセル] をクリックします。
- 7 インストールを完了すると、システム再起動メッセージが表示されます。
すぐに再起動する場合は [OK] を、あとから再起動を行う場合は [キャンセル] をクリックします。



⚠ 注意

- 途中で処理を中断したり、インストール中にエラーメッセージが表示された場合は、インストールが正しく行われていません。この場合には、インストールされていないソフトウェアが正しくインストールされるように対処し、もう一度インストールし直す必要があります。
- 管理コンソールをインストールすると、同時にアラームサービスがインストールされます。アラームサービスは、監視対象のサーバから SNMP トラップで受け取った状態をモニタしたり、受け取る情報を選択したりするサービスです。

インストールが終了したら、ServerView を運用するための設定を行ってください
(「5 インストール後の処理について」(36 ページ) 参照)。

5 インストール後の処理について

ServerView をインストールしたあとは、ServerView を正しく運用できるように以下の処理を行います。また、ご使用の際には、ご使用上の留意事項をよくお読みになり、正しくご使用ください。

各サービスの設定 (OS が Linux の場合)

OS が Linux の場合、ServerView をインストールしたあとに、サーバで以下の設定をする必要があります。

- 「 httpd サービス設定ファイルの編集」(37 ページ)
- 「 SNMP サービス /httpd サービスの自動起動設定」(37 ページ)
- 「 Firewall の設定」(38 ページ)
- 「 ServerView コンソールから ASR 設定やシャットダウン、再起動するための設定」(40 ページ)

httpd サービス設定ファイルの編集

- 1 /etc/httpd/conf/httpd.conf を編集します。
/etc/httpd/conf/httpd.conf 内の下記の項目を編集します (Linux インストール時に設定した HOST 名を記述します)。

```
----- httpd.conf -----
ServerName h200linux
-----
```

- 2 httpd サービスを再起動します。
次のコマンドを入力し、httpd サービスを再起動します。

```
# /etc/rc.d/init.d/httpd restart
```

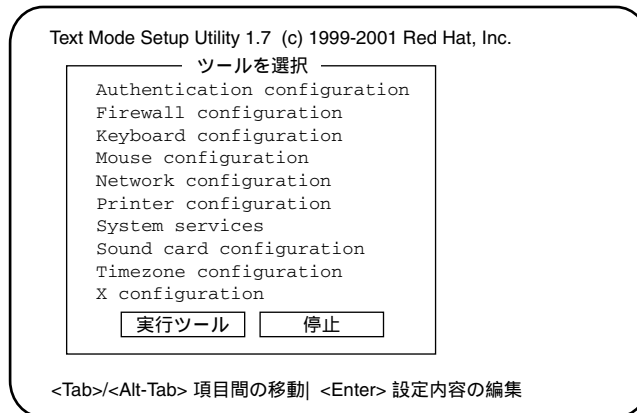
SNMP サービス /httpd サービスの自動起動設定

setup コマンドでサービスを有効にしていない場合、次にシステムを再起動したときにサービスを手動で起動しなければいけません。有効にしておけば、システム再起動時に自動でサービスが起動されます。setup コマンドでサービスを有効にする方法を次に示します。

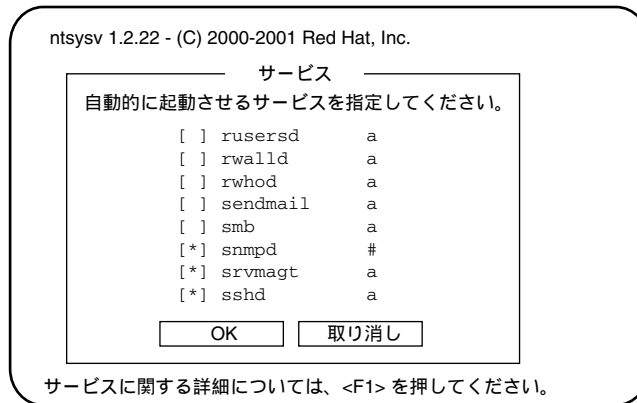
- 1 スーパユーザでログインし、次のコマンドを実行します。

```
# /usr/sbin/setup ( setup コマンドは RedHat 専用のコマンドです )
```

メニュー画面が表示されます。



- 2 「System services」を選択し、[Enter] キーを押します。
サービス画面が表示されます。



- 3 「snmpd」および「httpd」の項目に「*」印を付けます。
[/] キーで「snmpd」項目にカーソルを合わせ、[Space] キーを押します。同様に、「httpd」項目にカーソルを合わせ、[Space] キーを押します。
- 4 サービス画面で [Tab] キーを使って「OK」を選択し [Enter] キーを押します。次に、メニュー画面で [Tab] キーを使って「停止」を選択し [Enter] キーを押し、setup を終了します。

Firewall の設定

RedHat Linux 7.1 から Firewall が標準で装備されています。インストール時に「Firewall なし」に設定できますが、ここでは Firewall を設定するときの方法を説明します。

Firewall の設定は、Linux インストール時または setup コマンドで行います。

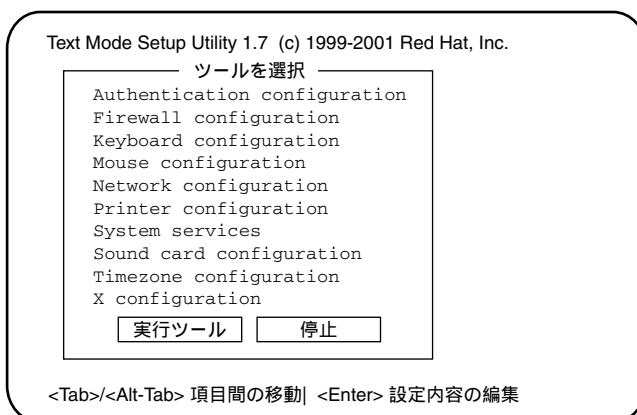
以下に setup コマンドでの設定方法を示します。

なお、Linux インストール時と setup コマンド実行時で画面が異なりますが、設定項目は同じです。Linux インストール時の設定方法については、Redhat Linux のマニュアルおよび次の設定方法を参考にしてください。

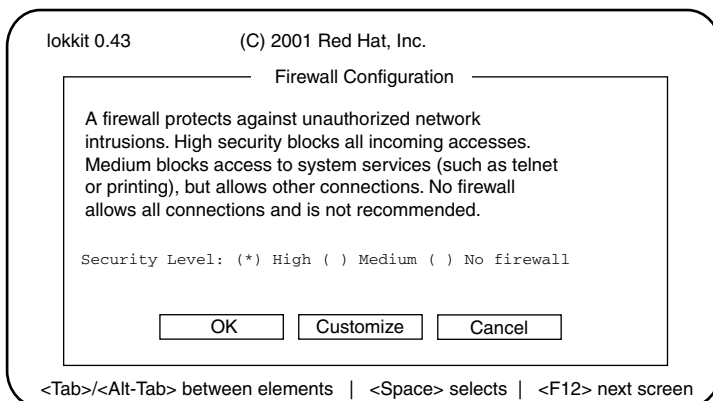
- 1 スーパユーザでログインし、/usr/sbin/setup を実行します。

```
# /usr/sbin/setup
```

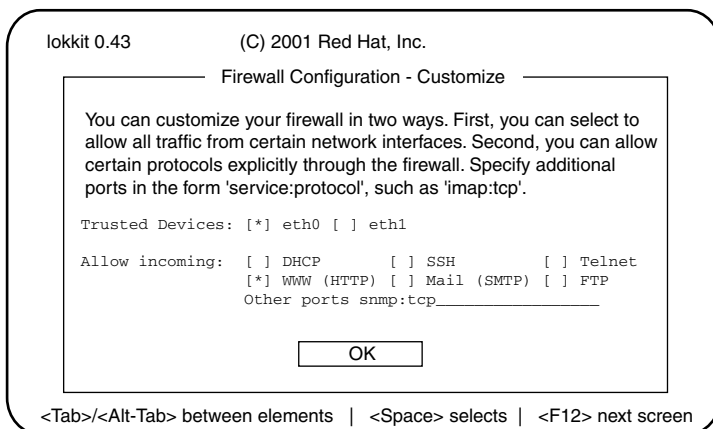
メニュー画面が表示されます。



- 2 「Firewall configuration」を選択し、[Enter] キーを押します。
Firewall Configuration 画面が表示されます。



- 3 「Security Level」を選択します。
「High」に (*) 印をつけ、[Tab] キーで [Customize] を選択し、[Enter] キーを押します。
Firewall Configuration - Customize 画面が表示されます。



- 4 Firewall Configuration - Customize 画面で使用するプロトコルを指定し、そのプロトコルが Firewall の外へ出るように設定します。

次の 2 つのプロトコルを設定します。

プロトコル	説明
http	WebServer を立ち上げるのに必須
snmp	snmp サービスを立ち上げるのに必須

- 1 ネットワークが接続されている Trusted Devices を選択します。
「eth0」に [*] 印を付けます。
- 2 WWW(HTTP) を選択します。
[*] 印を付けます。
- 3 Other ports に「snmp:tcp」と記述します。
- 4 [Tab] キーで [OK] ボタンを選択し、[Enter] キーを押します。



ポイント

その他の機能を有効にする場合、この Firewall を設定する必要があります。

- 5 Firewall Configuration 画面に戻り、[Tab] キーで [OK] ボタンを選択し、[Enter] キーを押します。

ServerView コンソールから ASR 設定やシャットダウン、再起動するための設定

ServerView エージェントが稼働中に、ServerView コンソールから、ASR (Automatic Server Recovery) 設定 (ファン / 温度 / 再起動設定など) や電源の投入 / 切断を行うには、管理ユーザのユーザ名とパスワードの入力が求められます。

管理ユーザは、以下の手順で設定できます。



注意

ServerView での管理ユーザとは、「svuser」グループに所属しているユーザです。
ServerView をインストールスクリプトでインストールした場合、「svuser」グループは自動的に作成されます。

- 1 新規ユーザを管理ユーザとして作成します。
スーパーユーザでログインし、次のコマンドを実行します。

```
# useradd -G svuser < ユーザ名 >
# passwd < ユーザ名 >
```

⚠ 注意

- useradd コマンドの G オプションでは、「svuser」グループを指定します。
<ユーザ名> には、作成するユーザのユーザ名を指定します。
- passwd コマンドでは、作成したユーザのパスワードを設定します。パスワードは、確認のため、2 回入力します。
なお、作成したユーザ名は、パスワードを設定すると有効になります。

各コマンドの詳細は、useradd(8),passwd(1) の man ページを参照してください。

- 2 既存ユーザを管理ユーザとして設定します。
設定する既存ユーザが、複数のグループに属しているかどうかをシステム管理者に確認し、次のコマンドを実行してください。

- ユーザがメイングループにのみ属している場合

```
# usermod -G svuser <ユーザ名>
```

- ユーザが複数のグループに属している場合

```
# usermod -G svuser,<所属グループ,...> <ユーザ名>
```

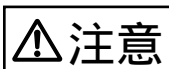
⚠ 注意

- usermod コマンドの G オプションでは、「svuser」グループを指定します。複数のグループを指定する場合は、カンマ(,) で区切って指定します。なお、以前所属していたグループをここで指定しなかった場合は、そのグループからは削除されます。所属すべきグループは、すべて指定してください。
<ユーザ名> には、管理ユーザにするユーザ名を指定します。
usermod コマンドの詳細については usermod(8) の man ページを参照してください。
- vigr コマンドを使用して直接グループを設定することや、GUI ツールを使用して設定を行うこともできます。詳細は vigr(8) の man ページ、RedHat のマニュアルを参照してください。

Service Pack を適用する

ServerView を使用する前に、Service Pack の適用を行ってください。

- Windows NT4.0 の場合、Service Pack 6a 以降を適用します。
- Windows 2000 の場合、Service Pack 1 以降を適用します。



Service Pack の適用は必ず行ってください。Service Pack を適用しない場合には、動作は保証されません。

ServerView 使用前情報を設定する

ServerView を使用する前に、下記設定処理の適用を行ってください。

- ServerView の CD-ROM から、次のプログラムを起動します。

<CD-ROM のドライバ>: ¥SVMANAGE¥TOOLS¥VMSETUP.EXE

Microsoft Virtual Machine がインストールされます。

Microsoft Internet Explorer において、プロキシ サーバを使用するように設定されている場合、アラームサービスのウィンドウが表示されない場合があります。現在使用しているマシンの IP アドレスに対しては、プロキシ サーバを使用しないようにしてください。

以下に、Microsoft Internet Explorer 5 を例に設定手順を示します。

- 1 [ツール] メニューの [インターネット オプション] を起動します。
インターネットオプション プロパティが表示されます。
- 2 [接続] タブをクリックします。
- 3 [LAN の設定] ボタンをクリックします。
ローカルエリアネットワーク (LAN) の設定ダイアログボックスが表示されます。
- 4 プロキシサーバ ダイアログボックスの [詳細] ボタンをクリックします。
プロキシの設定ダイアログボックスが表示されます。
- 5 [例外] フィールドに、現在使用しているマシンの IP アドレスを追加し、[OK] ボタンをクリックします。

ServerView の監視機能を設定する

「3 ServerView の使用方法」(55 ページ) をよくお読みになり、ServerView の監視機能を設定してください。

管理ユーザを設定する

監視機能をインストールすると、デフォルトで ServerView の管理権限をもつグループ (FUJITSU SVUSER) が設定されます。このグループに属するユーザだけが ServerView で監視対象サーバの設定変更、シャットダウンなどが行えます。このグ

グループに属するユーザは自動的に作成されませんので、監視対象サーバごとに ServerView の管理者を FUJITSU SVUSER グループに追加します。

FUJITSU SVUSER グループにユーザを追加するには、以下の操作を行います。



ポイント

- FUJITSU SVUSER グループに、(グローバル)グループを追加しても、追加されたグループに含まれているユーザには管理権限は与えられません。
FUJITSU SVUSER グループには、ユーザのみを追加してください。
- リモートサービスボードを取り付けている場合は、サーバのシステム上で「FUJITSU SERVER」グループに登録したユーザアカウントと同一のユーザ名とパスワードを持つユーザアカウントを、リモートサービスボードにも作成してください。リモートサービスボードのユーザアカウントの作成については、「14 リモートサービスボード」の「6 Web インタフェース」の「[User Accounts] ページ」(249 ページ)を参照してください。
- FUJITSU SVUSER グループは、自動的に生成されない場合があります。この場合、「FUJITSU SVUSER」という名前のグループを、手作業で直接作成してください。詳細は「FUJITSU SVUSER グループを手作業で作成する」(47 ページ)を参照してください。
- 管理ユーザを SVUSER 以外に設定した場合、プログラムの起動直後にログオンを行うと失敗する場合があります。この場合、いったん[キャンセル]ボタンをクリックしログオン画面から抜けます。その後、サーバのプロパティのログインタブにてログオンの設定を再度行ってください。

Windows NT Workstation の場合

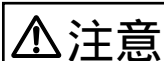
- 1 スタートメニューから[プログラム] - [管理ツール(共通)] - [ユーザー マネージャ]を選択します。
- 2 [ユーザー マネージャ]ウィンドウで、FUJITSU SVUSER グループをクリックします。
- 3 [ユーザー]メニューの[プロパティ]をクリックします。
ユーザー アカウントのフルネームを表示するには、[フルネームで表示]をクリックします。
ローカルグループにほかのドメインからのユーザーが多数含まれている場合は、表示に時間がかかることがあります。
- 4 新しいメンバーを追加するには、[追加]をクリックし、[ユーザーとグループの追加]ダイアログボックスで必要な情報を設定します。

Windows NT Server で、プライマリ・ドメイン・コントローラ、またはバックアップ・ドメイン・コントローラではない場合

- 1 スタートメニューから [プログラム] - [管理ツール (共通)] - [ドメインユーザー マネージャ] を選択します。
- 2 [ユーザー] メニューの [ドメインの選択] を選択します。
- 3 「¥¥ コンピュータ名」(コンピュータ名の前に円記号を 2 つ付けます) のように入力し、[OK] をクリックします。
- 4 [ドメイン ユーザー マネージャ] ウィンドウで、FUJITSU SVUSER グループをクリックします。
- 5 [ユーザー] メニューの [プロパティ] をクリックします。
ユーザー アカウントのフル ネームを表示するには、[フル ネームで表示] をクリックします。
ローカル グループにほかのドメインからのユーザーが多数含まれている場合は、表示に時間がかかることがあります。
- 6 新しいメンバーを追加するには、[追加] をクリックし、[ユーザーとグループの追加] ダイアログ ボックスで必要な情報を設定します。

Windows NT Server で、プライマリ・ドメイン・コントローラ、またはバックアップ・ドメイン・コントローラの場合

- 1 プライマリ・ドメイン・コントローラ、またはバックアップ・ドメイン・コントローラの場合、FUJITSU SVUSER グループは自動的に作成されないので「FUJITSU SVUSER グループを手作業で作成する」(47 ページ) を参考にグループを作成します。
- 2 スタートメニューから [プログラム] - [管理ツール (共通)] - [ドメインユーザー マネージャ] を選択します。
- 3 [ドメイン ユーザー マネージャ] ウィンドウで、FUJITSU SVUSER グループをクリックします。
- 4 [ユーザー] メニューの [プロパティ] をクリックします。
ユーザー アカウントのフル ネームを表示するには、[フル ネームで表示] をクリックします。
ローカル グループにほかのドメインからのユーザーが多数含まれている場合は、表示に時間がかかることがあります。
- 5 新しいメンバーを追加するには、[追加] をクリックし、[ユーザーとグループの追加] ダイアログ ボックスで必要な情報を設定します。



注意

対象のサーバ本体をバックアップ・ドメイン・コントローラとして使用している場合には、設定終了後に必ず再起動してください。

Windows2000 で ActiveDirectory を使用しない場合

- 1 [コントロール パネル] から [管理ツール] アイコンをダブルクリックします。
- 2 [コンピュータの管理] アイコンをダブルクリックしてコンピュータの管理ウィンドウを開きます。
- 3 [コンソール ツリー] で、[ローカル ユーザーとグループ] の [グループ] をクリックします。
- 4 FUJITSU SVUSER をクリックします。
- 5 [操作] をクリックし、[プロパティ] をクリックします。
- 6 [追加] をクリックします。
- 7 追加するユーザーまたはグループの名前を下ボックスに入力するか、ユーザーまたはグループを上ボックスで選択して [追加] をクリックします。
- 8 追加するユーザー名またはグループ名を確認する場合は、[名前の確認] をクリックします。
- 9 必要なすべてのユーザーを追加したら、[OK] をクリックします。

Windows 2000 で Active Directory を使用する場合

- 1 [コントロールパネル] から [管理ツール] アイコンをダブルクリックします。
- 2 [Active Directory ユーザとコンピュータ] アイコンをダブルクリックして、Active Directory ユーザとコンピュータウィンドウを開きます。
- 3 ユーザを FUJITSU SVUSER グループに追加します。
 - 1 [ツリー] で Users をクリックします。
 - 2 FUJITSU SVUSER をクリックします。
 - 3 [操作] - [プロパティ] の順にクリックします。
 - 4 [メンバー] タブを選択して、[追加] ボタンをクリックします。
 - 5 追加するユーザ名を下ボックスに入力するか、または上のボックスで選択して [追加] ボタンをクリックします。
 - 6 必要なすべてのユーザを追加したら、[OK] をクリックします。
- 4 Windows2000 で ActiveDirectory を使用している場合、ユーザは Administrator グループに属している必要があるので、ユーザを Administrator グループに追加します。
 - 1 [ツリー] で Users をクリックします。
 - 2 Administrator をクリックします。
 - 3 [操作] - [プロパティ] の順にクリックします。

- 4 [メンバー] タブを選択して、[追加] ボタンをクリックします。
- 5 追加するユーザ名を下のボックスに入力するか、または上のボックスで選択して [追加] ボタンをクリックします。
- 6 必要なすべてのユーザを追加したら、[OK] をクリックします。



ポイント

- ServerView からログインするためのユーザは、「ローカル ログオン」ができる必要があります。
ローカルにログオンできない場合は、以下を確認してください。
 - 新規ユーザを作成した場合、[ユーザは次回ログオン時にパスワード変更が必要]のチェックボックスがオンになっています。このチェックボックスをオフにするか、ローカルにログオンしてパスワードの変更を行ってください。
 - また、パスワードの期限が切れた場合も [ユーザは次回ログオン時にパスワード変更が必要]のチェックボックスがオンになるので、ローカルにログオンしてパスワードの変更をしてください。
 - [アカウントを無効にする]のチェックボックスはオフにしてください。

上記を行っても、対象のユーザでローカルにログオンできない場合、ローカルログオンの権利が与えられていない可能性があります。

対象のユーザを FUJITSU SVUSER グループに追加したのと同様の手順でローカルの Users グループにも追加してください。

- 正しく設定しローカルへのログオンに成功しても ServerView でログインできない場合は、SNMP が正しく設定されていない可能性があります。「動作環境を準備する (TCP/IP プロトコルと SNMP サービスのインストール)」(10 ページ)を参照してください。

FUJITSU SVUSER グループを手作業で作成する

FUJITSU SVUSER グループは、自動的に生成されない場合があります。この場合、「FUJITSU SVUSER」という名前のグループを、手作業で直接作成してください。以下に各 OS での作成方法を示します。

Windows NT Workstation の場合

- 1 スタートメニューから [プログラム] - [管理ツール (共通)] - [ユーザー マネージャ] を選択します。
- 2 [ユーザー マネージャ] ウィンドウで、[ユーザー] - [新しいローカルグループ] を選択します。
- 3 グループ名に「FUJITSU SVUSER」と指定して [OK] をクリックします。

Windows NT Server の場合

- 1 スタートメニューから [プログラム] - [管理ツール (共通)] - [ドメインユーザー マネージャ] を選択します。
- 2 [ドメイン ユーザー マネージャ] ウィンドウで、[ユーザー] - [新しいローカルグループ] を選択します。
- 3 グループ名に「FUJITSU SVUSER」と指定して [OK] をクリックします。

Windows 2000 で Active Directory を使用しない場合

- 1 [コントロール パネル] から [管理ツール] アイコンをダブルクリックします。
- 2 [コンピュータの管理] アイコンをダブルクリックしてコンピュータの管理ウィンドウを開きます。
- 3 [コンソール ツリー] で、[ローカル ユーザーとグループ] の [グループ] を選択します。
- 4 [操作] - [新しいグループ] を選択します。
- 5 グループ名を「FUJITSU SVUSER」と指定して [作成] をクリックします。

Windows 2000 で Active Directory を使用する場合

- 1 [コントロールパネル] から [管理ツール] アイコンをダブルクリックします。
- 2 [Active Directory ユーザとコンピュータ] アイコンをダブルクリックして、Active Directory ユーザとコンピュータウィンドウを開きます。
- 3 「ツリー」で Users を選択します。
- 4 [操作] - [新規作成] - [グループ] をクリックします。
- 5 以下のように設定し、[作成] をクリックします。

項目	設定値
グループ名	FUJITSU SVUSER
グループの範囲	ドメインローカル
グループの種類	セキュリティ

6 管理端末から管理コンソールをアンインストールする

管理端末を他のパソコンに切り替えて使用する場合、または ServerView をレベルアップする場合などに、管理端末から現在の管理コンソールをアンインストールするには、次の操作を行います。

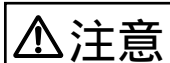
⚠ 注意

- 管理コンソールをアンインストールする前に、すべての ServerView プログラムを必ず終了させてください。アラームサービスおよび管理コンソールが起動している状態でアンインストールを実行した場合、その後の OS 動作が保証されません。
- 下記のアンインストールの操作は、途中で中断したり、操作説明から外れた操作を行うと、正しくアンインストールされません。アンインストールは最後まで確実に行ってください。
- ServerView をアンインストールした後、ディレクトリ、サブディレクトリ、ファイルが削除されないことがあります。また、アンインストールした後に ServerView がプログラムグループから削除されないことがあります。

- 1 [スタート] ボタンから [プログラム] を選択し、[Fujitsu ServerView] 内の [Uninstall Fujitsu ServerView] を実行してください。
アンインストールを開始するメッセージが表示され、アンインストールが開始します。



- 2 「自動アンインストール」を選択し、[次へ] を実行します。

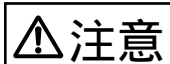


注意

ここでは、必ず「自動アンインストール」を選択し実行してください。「詳細アンインストール」を選択すると、アンインストールを行いたいファイル、レジストリの選択ができますが、一部のファイルやレジストリをアンインストールした場合に、その後の動作が保証されません。



- 3 [アンインストール] を実行します。
- 4 アンインストールが開始します。
アンインストールが完了すると、アンインストール画面が自動的に終了します。



注意

アンインストールの画面において、図と文字が一部重なる場合があります。動作に影響はありません。

7 サーバから ServerView をアンインストールする

ServerView Basic / Full のアンインストール

サーバをレベルアップしてサーバの監視システムを再構築する場合などに、サーバから現在の ServerView Basic / Full をアンインストールするには、次の共通操作を行います。



ポイント

- ServerView をアンインストールする場合、全ての ServerView プログラムを終了させてから行って下さい。ServerView をアンインストールした後、ディレクトリ、サブディレクトリ、ファイルが削除されないことがあります。また、アンインストールした後に ServerView がプログラムグループから削除されないことがあります。
- アンインストールを行う時に、途中で処理を中断したり下記手順以外の操作を行うと、正しくアンインストールされません。アンインストールは最後まで確実に行ってください。
- サーバの BIOS に記憶された項目は ServerView をアンインストールしても元の状態に戻りません。設定を元の状態にしてから、ServerView をアンインストールしてください。
(「2 ASR (Automatic Server Reconfiguration & Restart) (自動再構築 / 再起動)」(80 ページ) および「6 電源 ON / OFF タイマの設定」(97 ページ) 参照)

- 1 管理者または管理者と同等の権限をもつユーザ名でログインします。
- 2 実行中のアプリケーションをすべて終了させます。
- 3 管理コンソールをアンインストールします。
(「6 管理端末から管理コンソールをアンインストールする」(49 ページ) を参照)
- 4 ServerView の CD-ROM から、次のプログラムを起動します。

<CD-ROM のドライブ>:¥SVMANAGE¥JAPANESE¥UNAGENT.EXE

ServerView Linux のアンインストール

アンインストールは、スーパーユーザでログインして次のコマンドを実行して行います。

```
# rpm -e WebExtension
# rpm -e AlarmService
# rpm -e srvmagt-agents
# rpm -e srvmagt-eecd
```


8 オプション装置の追加インストール処理

サーバに搭載 / 接続されているオプション装置の監視機能を有効にする場合には、各オプション装置の監視ソフトウェアをインストールする必要があります。オプション装置によりインストール方法等に違いがありますので注意してください。

- 1 管理者または管理者と同等の権限をもつユーザとしてログインします。
- 2 実行中のアプリケーションをすべて終了させます。
- 3 ServerView の CD-ROM から、以下の操作を行います。

- 1 監視サーバの ServerView エージェントをアンインストールするため、以下起動します。

<CD-ROM のドライブ >: ¥SVMANAGE¥JAPANESE¥UNAGENT.EXE

⚠ 注意

- アンインストールするのは、エージェントのみで、上記のコマンドのみ使用してください。管理コンソールがインストールされていないと、オプション装置の追加インストールが行えません。
- ServerView 管理コンソールをアンインストールせずに、ServerView SNMP Agent をアンインストールした場合は SNMP Agent がプログラムグループから削除されないことがあります。この場合、管理コンソールのアンインストール時に削除されます。

アンインストール後、再起動を促すメッセージが表示されますので、マシンを再起動してください。

- 2 オプション装置を追加監視するエージェントの追加インストールを行うため、以下を起動します。

<CD-ROM のドライブ >: ¥SVMANAGE¥TOOLS¥ADDAGENT.EXE

「Agent Installation Actions」ダイアログボックスが表示されます。



Install ServerView agents

基本のエージェントのみをインストールします。

Install Mylex dac960 Disk Array Agent

基本のエージェントおよび PG-143/144 アレイコントローラエージェントをインストールする場合に指定します。

Install PCI Hot Plug Agent for SCSI Host Adapter

基本のエージェントおよび PCI Hot Plug のエージェントをインストールする場合に指定します。(未サポート)

Install NT Cluster Agents

基本のエージェントおよび NT Cluster のエージェントをインストールする場合に指定します。(未サポート)

Install Token Ring Agents

基本のエージェントおよび Token Ring のエージェントをインストールする場合に指定します。(未サポート)

Install PROMISE Fasttrak IDE Disk Array Agent

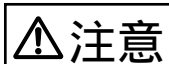
基本のエージェントおよび IDE アレイコントローラエージェントをインストールする場合に指定します。

Install DPT Disk Array Agent

基本のエージェントおよび PG-141/142 アレイコントローラエージェントをインストールする場合に指定します。
StorageManager がインストールされている場合、この指定を行わなくても参照が可能です。

3 インストール方法を選択し、[OK] をクリックします。

インストーラが起動し、インストールが完了すると、インストール画面が自動的に終了します。



途中で処理を中断したり、インストール中にエラーメッセージが表示された場合は、インストールが正しく行われていません。この場合には、インストールされていないソフトウェアが正しくインストールされるように対処し、もう一度インストールし直す必要があります。

3 ServerView の使用方法

この章では、ServerView の使用方法について説明します。

ServerView は、便利な GUI（グラフィカルユーザインタフェース）を使用して操作します。ウィンドウ内のメニューの操作方法は GUI の規格に準拠しているため、ここでは詳しく説明しません。

1 ServerView を使用する前に

Server View の管理タスクを実行できるようにするには、監視するコンピュータに ServerView 管理コンソールをインストールし、管理対象のサーバに ServerView エージェントをインストールする必要があります。



ポイント

画面表示は、使用しているシステムによって部分的に異なることがあるため、ご使用のシステムに表示されるものと細部が正確には一致していない場合があります。また、使用できるメニュー項目もシステムによって異なる項目が表示される場合があります。

2 Server View コンソールの起動と終了

ServerView を起動するには、[スタート] - [プログラム] - [Fujitsu ServerView] - [Fujitsu ServerView] をクリックします。



ポイント

ServerView コンソールを起動できない場合は、インストールディレクトリに CTxxxx.tmp（この場合の xxxx は、0000 から FFFF の間の 16 進数）というファイルがないかどうかをチェックし、あれば削除してください。

ServerView コンソールを終了するには、ファイルメニューの終了メニュー項目を使用します。

3 Server View コンソールのメイン画面

ServerView を起動すると、以下のメインウィンドウ [サーバの一覧] が表示されます。

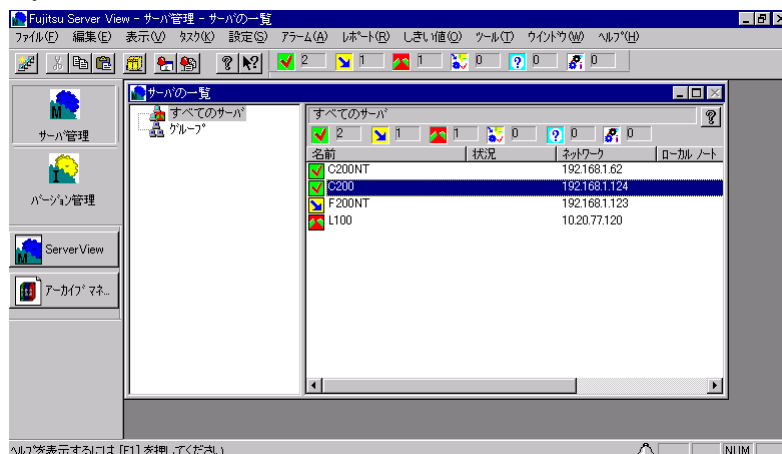


図 2：サーバの一覧ウィンドウ（中央）



ポイント

ServerView をインストールした後に初めて ServerView を起動すると、ローカルサーバが自動的にサーバの一覧に追加され、[サーバの一覧] メインウィンドウに表示されます。

サーバの一覧ウィンドウには、ユーザ定義グループにある設定済みオブジェクトのすべての概要が表示されます。このウィンドウが、管理者が実行する大部分の管理タスクの開始点です。

サーバの一覧ウィンドウは次の 2 つの領域に分割されています。

- 左側には、ファイルツリー構造で既存のグループが表示されます。
- 右側には、選択されたグループのサーバが表示されます。

画面の右側からは、次の情報を取得できます。

- 選択されたグループの名前が付いたタイトルバーと Help ボタン
- 選択されたグループに含まれるすべてのサーバのステータスの概要
- 選択されたグループのすべてのサーバのリスト

表示メニューで詳細メニュー項目を選択すると、すべてのサーバのリストの詳細が出力され、次の情報が得られます。

- 対応するサーバのステータスアイコンと名前
- サーバのステータスやほかのイベントのステータスに関する情報を提供する各種のアイコン
- ネットワーク情報。たとえば、ネットワークプロトコルに関する情報など。
- 対応するサーバに関するユーザ定義コメントをその中に格納できる Local Note

サーバの一覧ウィンドウの列幅は列ごとに設定できます。「...」という文字列が入っている場合は、テキストが列幅に収まらなかったということです。

サーバの一覧ウィンドウの補足情報は、「7 サーバの一覧」(71 ページ)に記載されています。

それぞれのアイコンの詳細情報については、「付録 1 アイコンリスト」(259 ページ)に記載されています。

ServerView には包括的なヘルプシステムも備わっています。

4 ServerView の重要な機能

ServerView を用いて実行できる重要な機能を、以下の項目で簡単に説明します。

監視機能

サーバステータスのチェック

サーバの一覧には、監視されるすべてのサーバのリストが表示されます。このリストに入力された各サーバは、そのステータスを知らせるアイコンによって示されます。これらのアイコンの意味は、「付録1 アイコンリスト」(259 ページ) で説明しています。

新しいサーバの選択

[ファイル] メニューで [新しいサーバ] を選択して、サーバブラウザを立ち上げます。ここでは、新しいサーバの名前とインターネットアドレスを入力し、適用ボタンを使用してそのサーバを監視対象のサーバのリストに追加することができます。詳細は「8 新しいオブジェクトの定義と追加」の「新しいサーバをサーバの一覧への追加」(77 ページ) で説明しています。

なお、ServerView Basic では、サポートしていません。

サーバの削除

[サーバの一覧] ウィンドウにおいて、今後監視対象としないサーバを選択して強調表示にします。次に、ファイルメニューで削除メニュー項目を選択します。

なお、ServerView Basic では、サポートしていません。

監視対象サーバの表示

[サーバの一覧] ウィンドウには、監視対象サーバのリストが表示されます。サーバの名前をダブルクリックすることにより、サーバの詳細情報を含むウィンドウを開きます。詳細は「9 ServerView」(79 ページ) で説明しています。

選択したステータスのサーバだけの表示

[表示] メニューで [サーバのフィルタ] を選択し、サーバのフィルタウィンドウを開きます。そのウィンドウにおいて、特定のステータスを有するサーバだけをサーバの一覧に表示させるかどうかを指定できます。

監視対象サーバへの接続のチェック

[ファイル] メニューで [接続テスト] を選択します。その後、ServerView により監視対象サーバのステータスがチェックされ、ネットワーク接続、SNMP エージェント、またはトラップ接続に関する問題がある場合は通知されます。

[サーバの一覧] ウィンドウの表示の変更

[表示] メニューには、[サーバの一覧] ウィンドウの表示を変更するために使用できる機能が用意されています。詳細は「 表示メニュー」(68 ページ) で説明しています。

グループの作成

[サーバの一覧] ウィンドウで、親になるグループを選択してから、[ファイル] メニューで [新しいグループ] を選択します。

サーバデータの要求

[サーバの一覧] ウィンドウで、データを要求するサーバをダブルクリックします。その後、ServerView ウィンドウの中のサブシステムグループの外部記憶装置、ペースボード、電源、環境というボタンを用いて、対応する設定に関する情報を要求するか、または構成情報ボタンを用いてグローバルシステム情報を呼び出すことができます。

リカバリ機能

ASR 設定の指定

[サーバの一覧] ウィンドウで必要なサーバをダブルクリックして Server View ウィンドウを開きます。[Server View] ウィンドウ - [アクション] ボタン、[アクション] ウィンドウ - [ASR] ボタン、とボタンをクリックする事で ASR プロパティの設定ウィンドウが開きます。

ASR プロパティの設定ウィンドウでは次の 4 つのアクションを選択できます。

- ファンをチェックする時刻を指定し、ファンが故障したときに起動されるアクションをファンタブにて定義します。
- 温度センサからのアラームへの対応を温度センサタブにて定義します。
- 停電後のサーバの反応と、サーバのシャットダウンから再起動の試行を開始するまでの待機時間、またはサーバでの再起動の試行回数を再起動設定タブにて指定します。サーバが指定した試行回数内に再起動されない場合のシステムの反応を定義します。ソフトウェア ウォッチドッグとブート ウォッチドッグの設定も再起動設定タブにて指定します。
- ポケットベル タブページは未サポートです。

詳細は「2 ASR (Automatic Server Reconfiguration & Restart) (自動再構築 / 再起動)」(80 ページ) で説明しています。

アーカイブ

[ツール] - [アーカイブ マネージャ] を選択、またはタスクバー上の [アーカイブ マネージャ] ボタンをクリックして、アーカイブ マネージャウィンドウを表示します。

このウィンドウでは、アーカイブデータの作成、表示および比較を行うことができます。

作成したアーカイブは、ServerView ウィンドウの表示データで選択することで、作成時のデータを参照できます。

詳細は、「14 ツール」の「アーカイブマネージャ」(120 ページ)を参照してください。

アラームの管理

アラームの表示

[アラーム] メニューで [マネージャ] を選択し [アラーム マネージャ] ウィンドウを起動すると、アラームログリストに記録されたすべてのアラームがここに表示されます。アラームログリストに記録させるアラームを指定するには、「12 アラームサービス」の「アラームのアクション」(78 ページ)を参照してください。

アラーム マネージャのフィルタ機能を使用して、表示させるアラームを定義することもできます。これを実行するには、アラーム マネージャの [フィルタの設定] ボタンをクリックして、フィルタの設定を行い、[フィルタを有効にする] ボタンでフィルタを有効にしてください。

アラームマネージャの詳細は「13 アラームサービス」の「アラームマネージャ」(108 ページ)で説明しています。

[アラーム] メニューの [モニタ] を用いて、アラームを表示させることもできます。現在の ServerView セッション中に記録されたすべてのアラームがここに表示されます。詳細は「13 アラームサービス」の「アラームマネージャ」(108 ページ)で説明しています。

アラーム設定

[アラーム] メニューの [設定] でアラームの設定の開始ウィンドウを開きます。ここでは、ウィザードを使用してすべての設定を行う (デフォルト) か、いずれかのウィンドウに直接ジャンプするかを選択できます。詳細は「13 アラームサービス」の「アラーム設定」(112 ページ)で説明しています。

共通設定

このウィンドウでは、アラーム処理の全体的な設定を定義できます。[共通設定] ウィンドウが開きます。

「13 アラームサービス」の「 設定」(113 ページ)を参照してください。

サーバのフィルタ

このウィンドウでは、特定のサーバからのアラームメッセージを受信しないように設定できます。

「13 アラームサービス」の「 サーバのフィルタ処理」(114 ページ)を参照してください。

アラームグループの作成 / 編集

このウィンドウでは、新しいアラームグループの作成、または既存のアラームグループの編集を行います。アラームグループにはサーバのセットとアラームの

セットの組み合わせで、指定したアラームグループに対する複数のアクションをグループ化して設定できます。

「13 アラームサービス」の「アラームグループの編集」(114 ページ)を参照してください。

アクションの作成 / 編集

このウィンドウでは、先に設定された全てのアラームグループに対するアクションを設定できます。

「13 アラームサービス」の「アラームのアクション」(115 ページ)を参照してください。

全設定の表示

このウィンドウでは、すべてのアラーム定義の概要を表示できます。

「13 アラームサービス」の「全設定の表示」(116 ページ)を参照してください。

しきい値の管理



しきい値の設定

最初に [しきい値] メニューで [マネージャ] を選択し、[しきい値マネージャ] ウィンドウを開きます。次に必要なサーバを指定し、[テーブルの設定] ボタンをクリックして、しきい値テーブルを定義します。しきい値テーブルにおいて、必要な値を指定することができます。

[監視しない項目] フィールドから変数のリストを選択し、監視対象とする変数を [監視する項目] フィールドに追加します。

変数を追加すると、[しきい値設定の追加] ウィンドウが開きます。ここでは、しきい値のタイプ、ポーリング間隔の秒単位の時間、監視対象とする値の範囲を定義します。[しきい値テーブルの設定] ウィンドウに戻るには、[OK] ボタンをクリックします。[保存] ボタンを用いて [しきい値テーブルの設定] ウィンドウから出て、このしきい値テーブルの名前を入力します。次に [しきい値テーブルの設定] ウィンドウで [OK] ボタンをクリックします。

監視を開始するには、[開始] ボタンをクリックします。2つの異なるテーブルで同じ変数が選択されるような競合を避けるために、1つのサーバで開始できるタスクは1つだけです。

しきい値テーブルの編集

[しきい値テーブルの設定] ウィンドウでは、既存のしきい値テーブルを編集できます。[編集] ボタンを用いて、変数の追加や削除、およびしきい値の設定の編集を行うことができます。

しきい値テーブルがアクティブな場合、変更を有効にするには、しきい値テーブルを停止してから再度起動する必要があります。

しきい値監視の終了

[しきい値] メニューで [マネージャ] を選択してから、対応するサーバとしきい値テーブルを選択します。次に、[停止] ボタンをクリックします。これでタスクが停止されます。

しきい値の表示

[しきい値] メニューで [一覧] を選択します。ここでは、アクティブなすべてのしきい値タスクに関する情報を入手できます。

レポートの管理



システム値の記録

最初に [レポート] メニューで [マネージャ] を選択し [レポート マネージャ] ウィンドウを開きます。必要なサーバを指定してから、[テーブルの設定] ボタンをクリックして [レポート テーブルの設定] ウィンドウを開きレポートテーブルを定義します。レポートテーブルにおいて、必要な値を指定します。

[監視しない項目] フィールドで変数のリストを選択してから、[監視する項目] フィールドに監視対象とする変数を追加します。

[保存] ボタンを押して、このレポートテーブルの名前を入力し、その後 [レポート テーブルの設定] ウィンドウを閉じます。

レポートマネージャの期間では、値を監視する期間を指定します。単位に無期限と入力すると、システム値が常に監視されます。つまり、時間の制限はありません。次に、レポートテーブルの名前を指定し、[開始] ボタンをクリックして監視を開始します。2 つの異なるテーブルで同じ変数が選択されるような競合を避けるために、1 つのサーバで開始できるタスクは 1 つだけです。

一覧メニュー項目を用いると、すべてのレポートのリストを取得できます。

システム値の記録の終了

システム変数の記録に制限時間が指定されている場合、その制限を超えると記録が停止されます。

制限時間を超える前に記録を終了させる場合や、制限時間のない変数の記録を終了させる場合は、レポートメニューでマネージャメニュー項目を選択し、対応するレポートテーブルを指定してから停止ボタンをクリックします。

システム値の表示（一覧）

[レポート] メニューで [一覧] を選択します。ここでは、すべてのレポートに関する情報を取得できます。

デフォルト値の管理



別サーバのデフォルト設定の使用、または別サーバへのデフォルト設定の転送

[設定] メニューで [デフォルトの設定] を選択します。[デフォルトの設定] ウィンドウでは、次の作業を行います。

- [コピー元] の [セット] で、デフォルト設定を使用するサーバを指定します。
- [コピー先] の [セット] で、デフォルト設定の転送先とするサーバを指定します。

ファイルからのデフォルト設定の読み取り、またはファイルへのデフォルト設定の書き込み

[設定] メニューの [デフォルトの設定] を選択します。[デフォルトの設定] ウィンドウでは、次の作業を行います。

- [コピー元] の [セット] で、デフォルト設定を読み取るファイルを指定します。
- [コピー先] の [セット] で、デフォルト設定を書き込むファイルを指定します。

5 リモートサービスボードのサポート

リモートサービスボード（RSB）を使用すれば、サーバの状態にかかわらず、モデムまたは LAN を介してサーバに対する SNMP アクセスおよび Web アクセスが可能になります。これにより、起動プロセスのトレースやシステム電源投入 / 切断など、さまざまな管理機能をリモートで実行できます。補助電源（AC アダプタ）で動作できるため、これらの管理機能はサーバから完全に独立しています。

ServerView フロントエンド

ServerView フロントエンドは、次のように完全に独立した 2 つのルートを通じてサーバ情報を受信します。

- サーバが稼働中の場合は、プライマリチャンネルを通じて受信します。
- サーバが稼働中でない場合は、セカンダリチャンネルを通じて受信します。このチャンネルで受信できる情報は限られています。

プライマリチャンネルはサーバ本体の LAN であり、オペレーティングシステムと共有されます。

セカンダリチャンネルは、RSB の LAN です。

IP アドレスを使用することで、ServerView フロントエンドは情報を送信したチャンネルを識別できます。

サーバにアクセスできないことがわかると、ServerView フロントエンドは RSB にアクセスできるかどうかを確認します。RSB がセカンダリチャンネルを介して応答した場合、次のアイコンがサーバの一覧に表示されます。



図 3 : RSB アイコン

このアイコンをダブルクリックすると、[ServerView in RSB Mode] ウィンドウが開きます。RSB モードでのサーバは、機能が限られています。

- [アクション] ボタンを押すと、サーバを監視する方法を指定し、アラームに対するリアクションを定義できます。
- [System Board] ボタンを押すと、ボード上のデータを照会できます。
- [電源] ボタンを押すと、電源の設定とステータスを照会できます。
- [環境] ボタンを押すと、ファンのステータスなどのサーバ環境を照会できます。

各機能の説明は、「7 サーバの一覧」(71 ページ) を参照してください。

[Remote Service Board] プロパティウィンドウ

[Remote Service Board] プロパティウィンドウで、RSB のパラメータを定義できます。このウィンドウを開くには、[アクション] ウィンドウの [RSB] ボタンをクリックします。プロパティページを利用して、さまざまなパラメータを表示、定義することができます。

[再起動設定] プロパティページ

このプロパティページで、サーバの起動 / シャットダウン、再起動の定義、起動ステータスの表示を行うことができます。サーバ電源の投入と切断は、パスワードで保護されています。[サーバのプロパティ] プロパティウィンドウの [ログイン] プロパティページでパスワードを保存しておくよう設定することもできます。

[バックアップバッテリー] プロパティページ

このプロパティページで、オプションのバッテリーパックのステータスを表示できます。[Do Charge Cycle] ボタンを使用して、バッテリーパックの充電と放電を行います。

なお、バックアップバッテリーはサポートしていません。

[インタフェース] プロパティページ

このプロパティページで、プライマリ / セカンダリチャネルと電話番号の設定を表示できます。

[Remote Service Board] プロパティページ

[Remote Service Board] プロパティページは、[Setting Properties for <server>] ウィンドウに追加された新しいページです。このプロパティページには、セカンダリチャネルの IP アドレスとサーバ名が表示されます。[RSB 接続テスト] ボタンを押すと、RSB への接続をテストできます。

このプロパティページは、[サーバブラウザ] プロパティウィンドウにも表示されます。このウィンドウに表示されるプロパティページでは、プライマリチャネルを介してサーバにアクセスできない場合に使用されるセカンダリチャネルの IP アドレスとサーバ名を指定できます。サーバにアクセスできるようになると、自動的にプライマリチャネルが再入力されます。

[設定] ボタン

このボタンを押すと、RSB の Web インタフェースが開き、ユーザ名とパスワードの入力を求められます。

RSB の Web インタフェースの詳細については、「14 リモートサービスボード」の「6 Web インタフェース」(236 ページ) を参照してください。

6 メニューの概要

以下に、高度な ServerView メニューについて説明します。このマニュアル内のより詳細な情報は相互参照で検索することができます。またすべてのメニュー項目は、ヘルプでも詳しく説明されています。

ファイルメニュー

ファイルメニューのメニュー項目

メニュー項目	説明
新しいサーバ ...	サーバの一覧で新しくサーバを作成するときに使用します。
新しいグループ	サーバの一覧で新しくグループを作成するときに使用します。
インポート アーカイブ	ServerView にアーカイブをインポートすることができます。
インポート サーバ	サーバの一覧にサーバをインポートすることができます。
開く	選択したサーバの Server View ウィンドウ、選択したデスクトップの DeskInfo アプリケーションを開くときに使用します。
アプリケーション ...	すべての登録済みアプリケーションを表示するアプリケーションリストボックスを開く。サーバの一覧で選択したオブジェクト用のアプリケーションを起動するには、リストからアプリケーションを選択し、OK ボタンをクリックするか、そのアプリケーションをダブルクリックします。
印刷 ... 印刷プレビュー プリンタ設定 ...	他のアプリケーションから認識する印刷ダイアログを起動するときに使用します。
削除	サーバの一覧からオブジェクトを削除するときに使用します。
名前の変更	サーバの一覧のグループの名前を変更するときに使用します。
サーバのプロパティ	サーバプロパティページを起動し、サーバパラメータを定義するときに使用します。
グループのプロパティ	グループプロパティページを起動し、グループパラメータを定義するときに使用します。
接続テスト	サーバの一覧で選択したサーバやクラスタへの接続をテストするときに使用します。
サーバの再検出	選択したオブジェクトのステータスチェックプロセスを開始します。このプロセスは、サーバがネットワークに存在するかどうかを動的に確認します。サーバが SNMP プロトコルに応答できるかどうかのテストも行います。このメニュー項目を選択したことにより取得される結果と、定期的に行われる自動ステータスチェックの結果は同じです。
終了	ServerView を終了するときに使用します。

表 1：ファイルメニューのメニュー項目

編集メニュー

編集メニューのメニュー項目

メニュー項目	説明
切り取り	サーバオブジェクトを別の場所に挿入するためにクリップボードに移動するときに使用します。
コピー 貼り付け	サーバオブジェクトをサーバの一覧にコピーまたは貼り付けるときに使用します。

表 2：編集メニューのメニュー項目

表示メニュー

表示メニューのメニュー項目

メニュー項目	説明
ツールバー	ServerView ウィンドウの上隅にあるツールバーを表示または非表示にするとときに使用します。
ステータスバー	ServerView ウィンドウの下隅にあるステータスバーを表示または非表示にするとときに使用します。
ステータスサマリ	ツールバーの下にステータスバー（サーバステータスの概要）を表示するために使用されます。
タスクバー	タスクバーを表示するときに使用します。
大きいアイコン 小さいアイコン 一覧 詳細	サーバの一覧ウィンドウでのサーバのレイアウトや表示を変更するときに使用します。各機能は Windows エクスプローラの機能と同一です。
サーバのフィルタ ...	サーバのリストに対するフィルタを編集するときに使用します。たとえば、現在特定の状態にあるすべてのサーバを表示するようにフィルタを定義することができます。
すべてのサーバの再検出	すべての定義済みサーバのステータスのクエリを再度行います。このプロセスは、サーバがネットワークに存在するかどうかを動的に確認します。サーバが SNMP プロトコルに応答できるかどうかのテストも行います。このメニュー項目を選択したことにより取得される結果と、定期的に行われる自動ステータスチェックの結果は同じです。

表 3：表示メニューのメニュー項目

タスクメニュー

タスクメニューのメニュー項目

メニュー項目	説明
サーバ管理	このメニュー項目を選択すると、サーバ管理用のツールが使用できます。サーバの一覧からは ServerView ウィンドウが起動されます。
バージョン管理	このメニュー項目を選択すると、バージョン管理用のツールが使用できます。サーバの一覧からは InventoryView が起動されます。

表 4：タスクメニューのメニュー項目

設定メニュー

設定メニューのメニュー項目

メニュー項目	説明
レポートを無効にする	このメニュー項目をチェックすると、現在定義済みでかつアクティブなすべてのレポートが、このメニュー項目のチェックを外すまで停止されます。
外部アプリケーション	サーバに割り当てる外部アプリケーションを定義するときに使用します。
デフォルトの設定	サーバの初期値設定を定義するときに使用します。
単位の設定	温度表示の測定単位を設定するときに使用します。
ユーザ認証	[サーバへのログイン] プロパティページを起動し、選択したサーバへのユーザ名とパスワードを定義するときに使用します。

表 5：設定メニューのメニュー項目

アラームメニュー

アラームメニューのメニュー項目

メニュー項目	説明
マネージャ	アラームマネージャを起動し、アラームログリストに格納されたアラームメッセージを参照して編集するときに使用します。
モニタ	アラームモニタを起動し、アラーム割り込みされたメッセージを参照するときに使用します。
設定	[アラーム設定の開始] ウィンドウを開きます。このウィンドウで、アラームを設定できます。
受領	選択したサーバのアラームインジケータを消去します。
すべて受領	すべてのサーバのアラームインジケータを消去します。

表 6：アラームメニューのメニュー項目

レポートメニュー

レポートメニューのメニュー項目

メニュー項目	説明
マネージャ	レポートマネージャを起動するときに使用します。
一覧	レポート一覧を起動し、アクティブなすべてのレポートを表示させるときに使用します。

表 7：レポートメニューのメニュー項目

しきい値メニュー

しきい値メニューのメニュー項目

メニュー項目	説明
マネージャ	しきい値マネージャを起動し、サーバのしきい値の有効化や無効化を行うときに使用します。
一覧	しきい値一覧を起動し、アクティブなすべてのしきい値を表示させるときに使用します。

表 8：しきい値メニューのメニュー項目

ツールメニュー

ツールメニューのメニュー項目

メニュー項目	説明
アーカイブマネージャ	アーカイブマネージャを起動します。
エクスポートマネージャ	エクスポートマネージャを起動します。
Global Flash	GlobalFlash ツールを起動します。

表 9：ツールメニューのメニュー項目

ウィンドウメニュー

ウィンドウメニューのメニュー項目

メニュー項目	説明
アイコンの整列 重ねて表示 縦に並べて表示	アイコンの整列、重ねて表示、縦に並べて表示メニューオプションを含むウィンドウメニューは、他の Windows アプリケーションのウィンドウメニューと同様に使用します。
すべて閉じる	サーバー一覧以外の、すべてのウィンドウを閉じます。

表 10：ウィンドウメニューのメニュー項目

ヘルプメニュー

ヘルプメニューのメニュー項目

メニュー項目	説明
トピックの検索	トピックの検索は ServerView Help システムを呼び出すときに使用します。
アラーム	弊社によって指定されたアラームの説明を含みます。
アイコン	ServerView の表示要素の説明を含む Server Manager Help システムのセクションを開くときに使用します。
用語	このメニュー項目をクリックすると、Help システムが起動し、Help システム用語集が表示されます。ヘルプが必要なエントリをここで選択できます。
ServerView について	使用中の ServerView のバージョンに関する情報を返信します。

表 11：ヘルプメニューのメニュー項目

7 サーバの一覧

サーバの一覧は、その後のすべての設定や定義の基礎になります。それは、サーバをサーバの一覧から選択した場合に限り、定義や設定を指定できるからです。その他の設定は、選択したサーバが存在しており、かつアドレス指定が可能な場合のみ行うことができます。

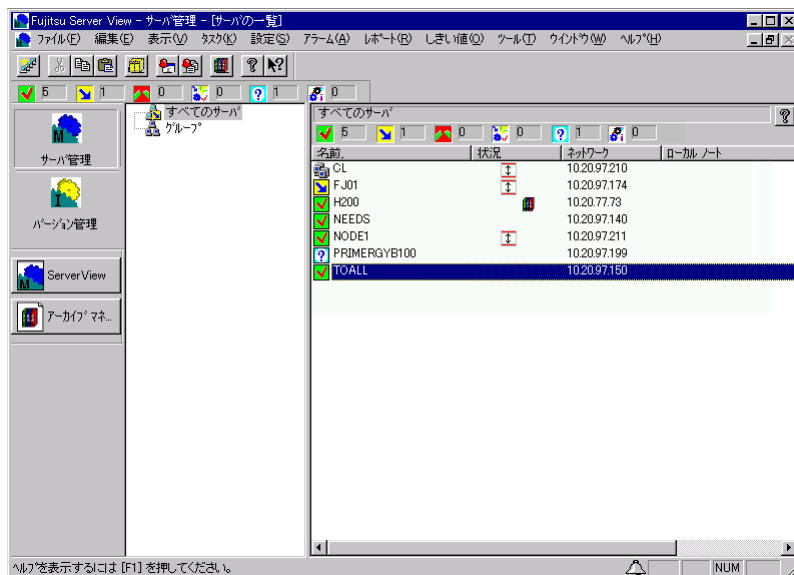


図 4：設定済みサーバの一覧の例

サーバが「管理不可能」の場合

サーバが「管理不可能」のアイコン付きで [サーバの一覧] ウィンドウに表示された場合は、そのサーバと管理コンソールの設定を確認します。

たとえば「PRIMERGY」というサーバの設定は、以下のように行います。

- 1 そのサーバの BIOS において Server Management 設定 (Server メニュー) が「Enabled」に設定されていることを確認します。
- 2 BIOS の ASR&R 機能 (Server メニュー) がすべてのデバイスで起動されていることを確認します。
- 3 エージェントがすべてのサーバにインストールされており、かつ SNMP サービスがすべてのデバイスで起動されていることを確認します。

サーバが「管理不可能」で RSB アイコンがある場合

ServerView フロントエンドは 2 つの完全に独立した経路を経由してサーバの情報を取得します。

- サーバが起動していればプライマリチャネル経由
- サーバが起動していなければセカンダリチャネル経由（このチャネル経由では情報は限られたものになります）

プライマリチャネルは OS と共有されますが、セカンダリチャネルは RSB によってのみ使用される LAN アダプタです。

サーバがアクセス不能な場合、ServerView は RSB がアクセス可能かどうか調査します。RSB がセカンダリチャネル経由で反応をかえた場合、次のアイコンがサーバの一覧に表示されます。



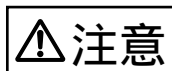
図 5：RSB アイコン

このアイコンをダブルクリックすると、RSB モードの ServerView ウィンドウが起動します。RSB モードのサーバは限られた以下の機能を持っています。

- [アクション] ボタンでは、サーバ監視方法、アラームへの反応を指定できます。
- [ベースボード] ボタンでは、ボード上のデータの問い合わせができます。
- [電源] ボタンでは、電源のステータスと設定の問い合わせができます。
- [環境] ボタンでは、サーバの環境（つまり FAN のステータス）を問い合わせできます。

サーバ一覧の確認

サーバの一覧を設定すると、監視機能が自動的に起動されます。システム全体とそのサブシステムのステータスが表示されます。たとえば、外部記憶装置、ベースボード、電源、ファンと温度の監視機能、OS が対象となります。



サーバの一覧のセットアップを行う場合は、サーバの一覧で設定するコンピュータ名が有効であることを確認する必要があります。コンピュータ名は、OS のインストール中にサーバに割り当てられた名前です。1 つの IP アドレスに複数のコンピュータ名を同時に割り当てることはできません。

- 1 サーバ名と IP アドレスが正しく入力されていることを確認します。
- 2 [ファイル] メニューの [接続テスト] を用いて指定されたタイムアウト期間内にサーバが応答するかどうかをテストします。
 - 4 種類のテストを行います。
 - 1 ネットワークのコネクティビティ（Ping）。IP プロトコルが設定されている場合、このテストは ping ユーティリティを用いて行います。

- 2 SNMP のコネクティビティ (Check Inventory MIB) エージェントがサーバにインストールされているかどうかを確認するためにサーバのクエリを行います。
 - 3 チャンネルタイプ (Channel Type)。このアドレスのタイプが、Fujitsu サーバ制御エージェントから受信したチャンネルタイプに適合するかどうかチェックします。
 - 4 Test トラップ (Send Test Trap)。このサーバからのトラップが受信可能かどうかを確認するテストを行います。
- 3 上記のステップを各サーバについて繰り返します。

さらに、フィルタ機能を用いると [サーバの一覧] ウィンドウへの表示を特定のサーバに限定できます (詳細については、「監視機能」(58 ページ) を参照)。

8 新しいオブジェクトの定義と追加

ネットワークを参照する代わりに、既知のドメインをブラウザに追加することもできます。

サーバブラウザウィンドウ

サーバブラウザを用いると、[サーバの一覧]ウィンドウに新しいサーバを定義できます。

新しいサーバのパラメータは、プロパティページを使用して定義できます。その後、最初のプロパティページでサーバ名とアドレスを指定することによりサーバを1つ定義するか、またはブラウザから1つまたは複数のサーバを選択することができます。

サーバブラウザは、[ファイル]メニューの[新しいサーバ]を用いて開くことができます。

ブラウザ部の左側のウィンドウには、ServerViewに登録されているすべてのネットワークエンティティが表示されます。

ブラウザ部の右側のウィンドウには、ネットワークエンティティ内で見つかったすべてのコンピュータが表示されます。通常、コンピュータオブジェクトは、最低レベルのネットワークリソースにのみ含まれます。このようなリソースは、Microsoft Windows ネットワークではドメインと呼ばれます。

各コンピュータについて以下の特性が表示されます。

- プレフィックス付きのコンピュータ名。2つのステータスアイコンで構成される。
- タイプの説明 (ServerView で検出できる場合)。
- ネットワークアドレス (ServerView で判別できる場合)。
- コメント (ServerView で検出できる場合)。

新しいサーバの基本的なプロパティは、[サーバブラウザ]ウィンドウのプロパティページの設定を用いて定義できます。[サーバの一覧]ウィンドウに追加されたすべてのコンピュータには、必ず現在の設定が適用されます。

[サーバブラウザ]ウィンドウの[自動]をチェックすると、選択した個々のオブジェクトに、ブラウザにより自動的に決定されたタイプが割り当てられます。

参照 (ブラウジング)

ブラウジングの開始点として以下が利用できます。

- ローカルドメイン
- 追加ドメイン及びネットワーク
- 信頼関係にあるドメイン
- ネットワーク全体

(1) ローカルドメイン

ローカルドメインは、ログインコンピュータのドメインです。Windows NT において、ドメインは、ネットワークサーバやその他のコンピュータの論理的なグループで、共通のセキュリティやユーザアカウントを共有しています。管理者は、各ユーザに対して1つのユーザアカウントをドメインに作成します。その後、ユーザはドメインにある個々のサーバではなく、ドメインにログオンします。

ドメインは、Windows NT サーバディレクトリサービスの管理単位です。ドメインコントローラは、ドメインのユーザ間のやりとりをすべて管理し、ディレクトリデータベースを維持します。

Windows NT サーバドメインにおいて、プライマリドメインコントローラは、ドメインにログオンするユーザの認証に使用されるディレクトリデータベースを維持し、ドメインの全アスペクトを管理します。ドメインには、1つのプライマリドメインコントローラと、1つまたは複数のバックアップドメインコントローラが含まれます。

(2) 追加ドメインおよびネットワーク

ブラウザに手動で追加したドメインとネットワークがここに表示されます。

Windows NT サーバドメインは、[ファイル] メニューかポップアップメニューから [新しいドメイン] を選択し、新しいドメイン名を入力することにより追加できます。ドメインは、Microsoft Windows ネットワークからアクセスできる必要があります。

ブラウザにより見つかった各ドメインやネットワークを、ドラッグアンドドロップを用いて自動的に追加することもできます。

(3) 信頼関係にあるドメイン

この項目には、ServerView により検出された、信頼されたすべての Windows NT サーバドメインが含まれます。

信頼されたドメインとは、ログインドメインとの安全な両方向関係を構築したドメインです。

安全な両方向関係とは、各ドメインが他のドメインのユーザアカウントを信頼していることを意味します。ユーザはいずれかのドメインのコンピュータから、自分のアカウントが含まれるドメインにログオンできます。各ドメインには、アカウントとリソースの両方を含めることができます。グローバルユーザアカウントやグローバルグループは、どちらのドメインからでも使用でき、どちら側のドメイン内のリソースに対する権限も与えられています。

(4) ネットワーク全体

ネットワーク全体をブラウズすると、コンピュータにインストールされているすべてのネットワークプロバイダが表示されます。

通常、コンピュータがローカルネットワークに正しく組み込まれていれば、Microsoft Windows ネットワークが必ず表示されます。

Microsoft Windows ネットワーク

Microsoft Windows ネットワークにより、ネットワーク上の表示可能なすべての Windows NT サーバドメインをブラウズできます。

トラブルシューティング

ブラウザは常に正常に動作するとは限りません。多数の原因が考えられ、その影響もさまざまです。

- ServerView により、現在電源が入っているコンピュータしか検出されない。
- Microsoft Windows ネットワークの走査中に一部のネットワーク情報が検出されないことがある。この現象は、ネットワーク情報を取得するために Windows が使用している方法（ブロードキャスト方法の使用）により発生します。
- セキュリティポリシーの設定により、ドメインにアクセスできない。また、ドメインサーバにアクセスできないために、ドメインにアクセスできない。この場合、タイムアウトの期限を超えた後、ブラウズ操作がキャンセルされます。ただし、これには数分かかることがあります。
- 他のネットワークシステム（NetWare サービスなど）が同様の理由でアクセスできない。
- ブラウザが完全に失敗し、ブラウザウィンドウを数分間ブロックしている。悪くすると、ブラウザウィンドウが永久にブロックされたり、ブラウザ処理中に ServerView アプリケーション全体がブロックされることがあります。この現象は、Windows NT ドメインに問題がある場合や、ネットワークパフォーマンスが非常に悪い場合に発生します。
この場合は、そのブラウザメカニズムを使用しないでください。ブラウザウィンドウを含むコンポーネントは、[参照 <<] ボタンをクリックすることにより閉じることができます。
- IP アドレスに対するコンピュータ名の解決に時間がかかる場合は、ログインコンピュータで Windows Internet Name Services（WINS）または Domain Name System（DNS）が正しくセットアップされていない可能性があります。プライマリ WINS サーバやセカンダリ WINS サーバのアドレス、または DNS サーバのアドレスが有効でない可能性があります。WINS プロトコルが正しく起動されていない場合、IP アドレス解決では非常に低速の名前クエリブロードキャストが使用されます。WINS や DNS は、ネットワーク設定の TCP/IP プロパティで設定できます。
- IP アドレスが見つからなかった場合は、次のようないくつかの原因が考えられます。
 - リモートコンピュータに TCP/IP がインストールされていない。
 - ログインしているコンピュータで WINS が有効でない。
 - LAN に WINS サーバ、DNS 情報、または LMHOSTS ファイルがない。
 - WINS データベースが更新されていない。
 - WINS、DNS、またはいずれかの LMHOSTS ファイルを用いてアドレスを解決できなかった場合は、名前クエリブロードキャストが使用中です。このブロードキャストは、たとえばドメインのルータによって名前クエリブロードキャストが送信されないような場合に、ネットワークポロジやパフォーマンスの問題により失敗することがあります。

新しいサーバをサーバの一覧への追加

設定済みのサーバの名前とネットワークアドレスは他にはないものである必要があります。設定済みのサーバと同じ名前や同じネットワークアドレスを使用して新しいサーバを作成しようとすると、エラーメッセージが表示されます。

ネットワークエンティティ全体を[サーバの一覧]ウィンドウに追加することができます。この場合、すべてのネットワークは、見つかったコンピュータを含む新しいグループとして追加されます。ただし、追加されるのは、ネットワークサーバの内容だけです。

クラスタの管理はサポートしていません。サーバのみ追加してください。

- 1 以下のいずれかの方法を使用して、追加するサーバを選択します。
 - [サーバのアドレス]プロパティページの[サーバブラウザ]でサーバを定義します。
 - ブラウザで1つまたは複数のサーバを選択します。
- 2 その後、選択したサーバを次のいずれかの方法で[サーバの一覧]ウィンドウに追加します。[サーバのアドレス]プロパティページでサーバを定義した場合は、選択したサーバを次の方法で[サーバの一覧]ウィンドウに追加します。
 - 1 [適用]ボタンをクリックします。
- 3 ブラウザでサーバを選択した場合、選択したサーバをサーバの一覧に追加するには、以下の2つの方法があります。
 - 1 ドラッグアンドドロップを使用して、選択したサーバをサーバの一覧ディスプレイのグループにドラッグします。
 または
 - 1 [サーバの一覧]ウィンドウから必要なグループを選択します。
 - 2 [編集]メニューの[コピー]を使用して、選択したサーバをコピーします。
 - 3 [サーバの一覧]ウィンドウの[編集]メニューから[貼り付け]ンを選択し、サーバを追加先のグループにコピーします。

(1) ドメインとネットワークの追加

ドメインまたはネットワークを追加するには、以下の手順を実行します。

- 1 サーバブラウザの[ファイル]メニューから[新規ドメイン]を選択します。
 - 2 [ドメインを追加]ウィンドウでドメイン名を入力します。
- または
- 1 ブラウズしたネットワークの既知のドメインを、ドラッグアンドドロップまたはコピーアンドペーストにより[追加されたドメインおよびネットワーク]グループにコピーします。

すべてのユーザ定義ドメインは、左側のブラウザウィンドウの [追加されたドメインおよびネットワーク] に追加されます。このウィンドウでは、Windows NT サーバドメインのみ入力できます。Microsoft Windows ドメインに未登録の名前を入力すると、エラーメッセージが表示されます。

(2) ドメインとネットワークの削除

ドメインまたはネットワークを削除するには、以下の手順を実行します。

- 1 [追加されたドメインおよびネットワーク] から、削除するドメインまたはネットワークを選択します。
- 2 [ファイル] メニューまたはポップアップメニューから [削除] を選択します。



ポイント

[追加されたドメインおよびネットワーク] から削除できるのは、ドメインとネットワークだけです。

9 ServerView

[ファイル] メニューの [開く] を使用すると、Server View [サーバ名] ウィンドウが開きます。

[ServerView] ウィンドウにより、選択したサーバに関する詳細情報が表示されます。

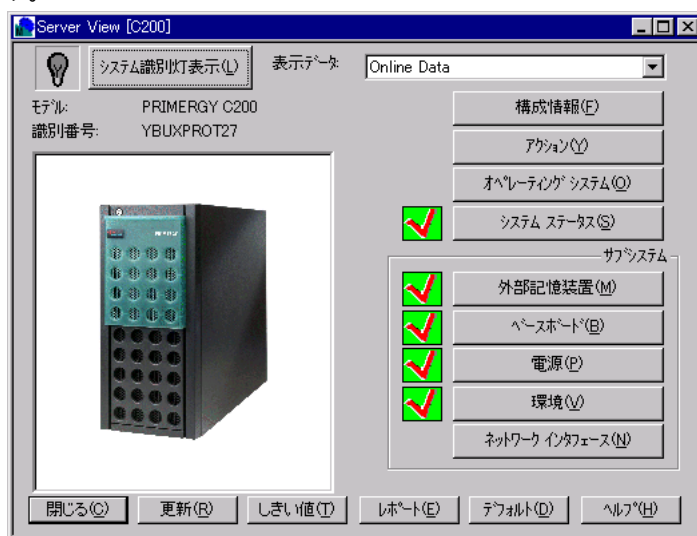


図 6 : ServerView ウィンドウ

サーバがシステム識別灯表示をサポートしていれば、このウィンドウの左上隅の [システム識別表示] ボタンを利用して、システム識別灯表示の切り替えが行えます。

表示データプルダウンメニューでは、データが現在のデータかアーカイブデータのいずれかを指定します。ServerView では、[プロパティの設定 [サーバ名]] ウィンドウの [アーカイブ] タブ (「14 ツール」(120 ページ) を参照) を用いてアーカイブデータを設定できるので、サーバが利用不可能な場合に記録済みのアーカイブデータにアクセスすることができます。これにより、必要な場合は障害の原因を確認できます。

構成情報

選択したサーバの一般情報は、構成情報ボタンをクリックすると表示されます。表示される情報には以下のものがあります。

- System Info (インストールされている OS などのシステム情報)
- MassStorage (ハードディスク、論理ドライブ、ファイルシステムに関する情報)
- Network Interfaces (接続されているネットワークカードに関する情報)
- Expansion boards (拡張ボードに関する情報)

- Recovery (エラーバッファの内容)
- Others (サーバの電源とアップ / ダウン時間)
- Overall Information (すべての情報)

アクション

サーバの継続的な監視とアラームへの応答は、[アクション] ボタンをクリックすることにより指定できます。重大な状況が発生すると、ServerView プログラムはユーザが設定したとおりにこの状況に対応します。

このため、たとえばオーバヒートの発生時、サーバを自動的にシャットダウンし、一定の遅延時間の後、自動的に再起動するように指定することができます。



図 7 : アクションウィンドウ

(1) Maintenance (メンテナンス)

[Maintenance] ボタンをクリックすると、[メンテナンス] ウィンドウが表示されます。このウィンドウには、内蔵の CMOS バッテリやファンの使用期間に関する情報が表示されます。

(2) ASR (Automatic Server Reconfiguration & Restart) (自動再構築 / 再起動)

[ASR] ボタンをクリックすると、[ASR プロパティの設定 [サーバ名]] ウィンドウが開きます。



注意

ASR プロパティページでの設定は、サーバの Bios に記憶されます。これらを変更したまま、ServerView をアンインストールした場合、予期せぬ原因でサーバがシャットダウンされることがあります。



図 8 : ASR プロパティの設定ウィンドウ

ファン

ファンチェック時間を使用すると、ファンをチェックする時間を設定し、ファンの障害時に実行する対応を定義することができます。利用できるオプションは以下のとおりです。

- 継続稼働する :
ファンの障害時にもサーバの実行を継続させます。
- 指定した時間後にサーバをシャットダウンする :
この場合、サーバは一定の遅延時間の後に制御済みの方法でシャットダウンされる。遅延時間は秒単位で指定できます。

⚠ 注意

拡張ディスク装置を接続すると、拡張ディスク内のファン情報が表示される場合がありますが、拡張ディスク装置の自動シャットダウンを行うことはできません。

温度センサ

ここには、サーバの考えられるオーバーヒートに関する情報が表示されます。実行の必要がある対応も定義できます。

- 継続稼働する :
オーバーヒート時にもサーバの実行を継続させます。
- ただちにサーバをシャットダウンする :
温度が危険な値に達すると、サーバは制御済みの方法で即座にシャットダウンされます。
Windows NT では、サーバのシャットダウン動作も制御できます。

⚠ 注意

拡張ディスク装置を接続すると、拡張ディスク内の温度センサ情報が表示される場合がありますが、拡張ディスク装置の自動シャットダウンを行うことはできません。

再起動設定

再起動設定では、再起動を実行する条件を定義します。以下のオプションを利用できます。

- サーバを再起動する。
- サーバを再起動しない。
- オーバヒートの場合などにサーバを冷却できるように、遅延期間 [自動電源投入までの待ち時間] の後、サーバを再起動する。
[再起動の最大リトライ回数] を実行した後は、次の 2 つのアクションを実行できます [再起動リトライ回数超過時のアクション]。
 - 診断システムを開始する (未サポート)
 - 再起動を中止し、電源を切断する
サーバの再起動の試行が停止され、シャットダウンされます。

ソフトウェアウォッチドッグ

ここではソフトウェアウォッチドッグの起動や停止を行うことができます。ソフトウェアウォッチドッグにより、ServerView エージェントの機能が監視されます。ServerView エージェントが BIOS に接続されると、ソフトウェアウォッチドッグが起動されます。

ServerView エージェントは、あらかじめ定義された間隔でサーバ管理ファームウェアに報告する必要があります。ServerView エージェントがサーバ管理ファームウェアへの報告を停止すると、システムが正常に実行していないと見なされ、その後、定義済みのアクションが起動されます。

時間間隔は、ウォッチドッグタイムアウトディレイにおいて分単位で設定できます。時間の妥当性は、管理コンソールとエージェントで確認されます。指定できる最小時間は 1 分です。

Action では、指定したタイムアウトを超過すると起動されるアクション (再起動する、継続稼動する) を定義します。

エージェントが停止すると (SNMP コマンドの `net stop` などによる)、ウォッチドッグが自動的に停止し、予定外の再起動が行われないようにします。

ブートウォッチドッグ

ここでは、ブートウォッチドッグの起動や停止を行います。

ブートウォッチドッグにより、システムが起動してから、ServerView エージェントが利用可能になるまでの間隔が監視されます。ServerView エージェントにより、定義された期間内にサーバ管理ファームウェアとの接続が確立されないと、ブートアッププロセスが失敗したと見なされ、定義済みのアクションが起動されます。

時間間隔はウォッチドッグタイムアウトディレイにおいて分単位で設定できます。

アクションでは、指定したタイムアウトを超過すると起動されるアクション (再起動する、継続稼動する) を定義します。

ポケットベル

このページは未サポートです。



ポイント

ASR&R が記憶媒体や、サーバの運用ステータスにおいて深刻な状況（CPU エラー、メモリエラー、OS のハングなど）を検出すると、システムが再起動され、問題のあるハードウェアコンポーネントは再起動中に使用不可能になります。



注意

- 誤った設定を行うと、システムが起動しなくなる場合がありますので、システムにあった設定を行ってください。
- ウォッチドックタイマー値について
ServerView で参照および設定可能な値は「1 ~ 120」分となります。
なお、「1 ~ 120」分以外が設定されている場合、ServerView での表示は「N/A」となります。
「N/A」と表示されている場合、各機種で設定されたツールにより設定時間の確認をお願いいたします。

(3) RSB (Remote Service Board)

[RSB] ボタンをクリックすると、[RSB プロパティ [サーバ名] [ランレベル]] ウィンドウが開きます。このウィンドウには、RSB に含まれる情報（ブートステータス、バックアップバッテリーステータス、インタフェース）が表示されます。サーバが RSB モードであれば、電源の on/off 制御が可能です。



ポイント

このボタンは、RSB が利用でき、かつ Server Control agent でサポートされている場合のみ有効になります。

(4) Restart (再起動)

サーバを再起動します。サーバが再起動されるまでに必要な経過時間もここで指定します。セキュリティのために、ログインダイアログが最初に呼び出されます。したがって、このタスクを実行するには、サーバ用のユーザ名とパスワードが必要です。

(5) Shutdown and Off (シャットダウン / 電源切断)

サーバをシャットダウンし、電源を切断します。サーバがシャットダウン & 電源断されるまでに必要な経過時間もここで指定します。セキュリティのために、ログインダイアログが最初に呼び出されます。したがって、このタスクを実行するには、サーバ用のユーザ名とパスワードが必要です。

(6) Abort Shutdown (シャットダウンの中止)

ここでは、(3) (4) で開始されるシャットダウンを中止させることができます。セキュリティのために、ログインダイアログが最初に呼び出されます。したがって、このタスクを実行するには、サーバ用のユーザ名とパスワードが必要です。ただし、既にシャットダウンが開始されてしまっている場合は中止できません。



ポイント

ログインウィンドウで「デフォルトユーザの変更」を行った場合、一時的にデフォルトユーザが変更されます。しかし、ServerView をいったん終了させるとこの情報は失われてしまうため、常用する変更であれば、サーバのプロパティのログインプロパティページで設定してください(「ログイン」プロパティページ(サーバ))(131 ページ)。

オペレーティングシステム

オペレーティングシステムボタンをクリックすることにより、サーバにインストールされている OS に関するデータを取得します。現在実行しているプロセスに関するデータや、OS の名前、バージョン、言語などを取得できます。システム稼働時間も表示されます。

システム ステータス

システムステータスボタンをクリックすることにより、ステータスエージェントのシステム情報を表示できます。

システムは、コンポーネントが集合したサブシステムへ細分化されており、ツリービューでは、既知のすべてのサブシステムとコンポーネントのステータスについての概観が表示されます。

この画面は、サーバの一覧から右クリックしポップアップメニューの [ステータス] を選択することで表示されます。この場合、常に現在の値を表示します。

また、ServerView ウィンドウからシステム ステータスボタンをクリックして表示した場合は、[表示データ] コンボボックスで選択した値によって、現在の値とアーカイブデータの値を切り替えることができます。

外部記憶装置

[外部記憶装置] ボタンをクリックすると、ハードディスクとコントローラに関する詳細情報が表示されます。

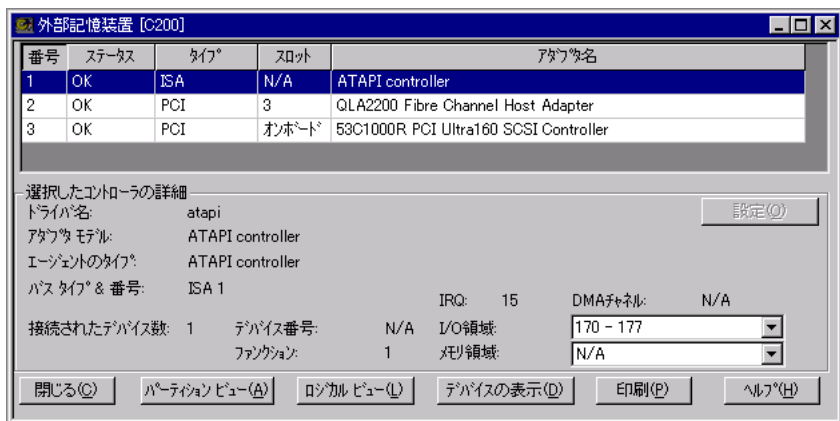


図 9：外部記憶装置ウィンドウ

コントローラリストには、コントローラに関する重要なデータ、番号、ステータス（OK または FAIL）、タイプ（EISA、PCI、ISA）、スロット、ドライバ名が表示されます。

[選択したコントローラの詳細] には、HD と EISA MIB に関するデータが表示されます。それには、ドライバ名、アダプタモデル（EISA MIB のモデル）ステータス（値は HD MIB を参照）、エージェントのタイプ（HD Adapter Bus Type など）、バス タイプ & 番号（EISA 0 など）、Slot Number、ファンクション、チルドレンの数、接続されたデバイス、IRQ、DMA チャネル、I/O 範囲、メモリ範囲があります。

[外部記憶装置] ウィンドウには、[パーティションビュー] [ロジカルビュー] [デバイスの表示] の各ボタンも表示されます。これらのボタンを使用して、追加情報を呼び出すことができます。

選択したコントローラを設定するために使用するアプリケーションは、[設定] ボタンをクリックして起動します（[設定] ボタンはすべてのコントローラに対して表示されるわけではありません）。



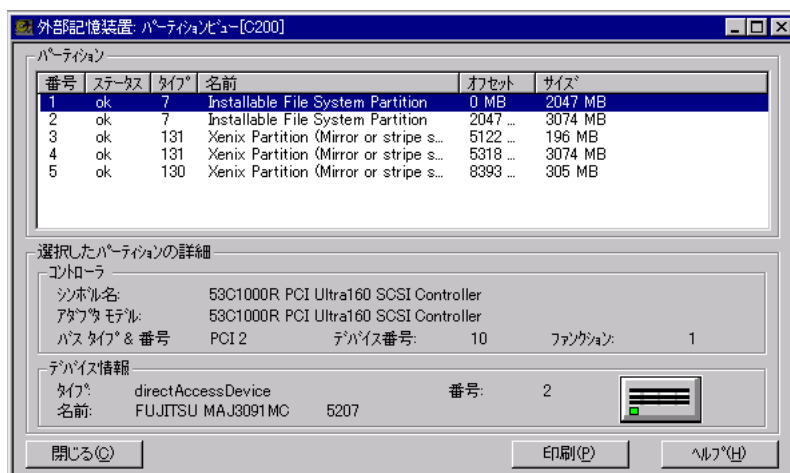
ポイント

情報を取得するリストエントリを必ず最初にクリックします。それ以外の場合、別のリストエントリの情報が表示されることがあります。

（１）パーティションビュー（外部記憶装置共通）

ここには、最も重要なサーバパーティションデータ（番号、ステータス、種類、名前、オフセット、サイズ）が表形式で表示されます。

選択したパーティションの詳細には、リストから選択したパーティションに関する追加データが表示されます。



コントローラ

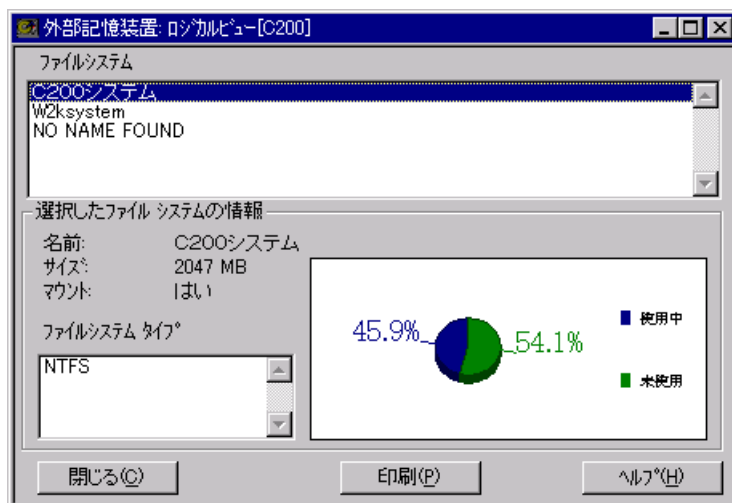
パーティションが所属するコントローラを示します（シンボル名、アダプタモデル、バスタイプ & 番号、デバイス番号、ファンクションによる）。

デバイス情報

パーティションが作成されたデバイスを示します（種類、名前、番号、およびディスプレイのステータスを持つデバイスタイプのシンボルによる）。

(2) ロジカルビュー（外部記憶装置共通）

ここには、論理ドライブ上に存在するファイルシステムに関する情報が表示されます。



ファイルシステム

選択したサーバのファイルシステムが、ファイルシステムの下に表形式で表示されます。

選択したファイルシステムの詳細

選択したファイルシステムの詳細には、選択したファイルシステムに関する追加情報（名前、サイズ、マウント、ファイルシステムタイプ、パーセント単位の Used およびフリー状態のファイルシステム領域）が表示されます。

（３）デバイスの表示

ここには、特定のコントローラに接続されている記憶装置に関する詳細情報が表示されます。



選択したコントロールの詳細

[選択したコントロールの詳細] には、これらのデバイスを制御するコントローラに関する最も重要なデータが再表示されます。表示されるデータは、シンボル名、アダプタモデル、デバイス番号です。

接続されたデバイスの一覧

[接続されたデバイスの一覧] には、このコントローラに接続されているデバイスに関する最も重要なデータが表示されます。表示されるデータは、No.、Status、S.M.A.R.T.、Type（HD-MIB を参照）、Name です。このリストから 1 つまたは複数のデバイスを選択できます。

選択したデバイスの詳細

[選択したデバイスの詳細] には、リストから選択したデバイスに関する追加データが表示されます。表示されるデータは、容量、SCSI チャンネル、SCSI ターゲット Id、SCSI-LUN、セクタ、シリンダ、ブロックサイズ、セクタサイズ、およびディスプレイのステータスを持つ Device Type のシンボル）です。

- S.M.A.R.T. (Self Monitoring and Reporting Technology)

S.M.A.R.T. に表示される情報は、S.M.A.R.T. プロシージャから返信されます。S.M.A.R.T. は、ハードデバイスのエラーを早期に検出するために使用する技術です（PDA = Prefailure Detection and Analysis）。SCSI ハードドライブと ATA ハードドライブがサポートされます。



ポイント

S.M.A.R.T. は、Windows NT でのみ利用できます。

(4) 設定

[設定] ボタンにより、選択したコントローラを設定するためのアプリケーションが起動されます (利用可能な場合)。

現在、以下のアプリケーションがサポートされています。

- GlobalArrayManager(GAM:PG-143B)
- StorageManager (PG-142B/PG-142C)

外部記憶装置 - RAID コントローラ

[外部記憶装置] ボタンをクリックすると、PG-142B/PG-142C や PG-143B コントローラに関する詳細情報も得られます。「外部記憶装置」(84 ページ) に示されているシステム出力との相違部分について説明します。

(1) デバイスの表示

[デバイスの表示] の左側の表に、そのコントローラで定義済みのシステムドライブが一覧表示されます。表のエントリは、シリアル番号、ステータス、SCSI ID (PG-142B/PG-142C のみ)、メガバイト単位のサイズ、RAID レベル、キャッシュタイプです。

システムドライブを選択すると、これらのシステムドライブが定義されているハードディスクドライブがチャンネル ID 表で強調表示されます。チャンネル ID グリッドの選択ボタンは、ステータス (Online/Dead/Standby-Rebuild を示す色付きのシンボル) とサイズをメガバイト単位で表示させる場合に使用します。ハードディスクドライブの代わりに別のデバイス (CD-ROM、ストリーマ、プリンタなど) が接続されている場合は、対応するイメージが選択ボタンに表示されます (選択ボタンの詳細については、「付録 1 アイコンリスト」(259 ページ) を参照)。

アダプタ ビュー

[コントローラ] アイコンをクリックすると、[アダプタビュー] ウィンドウが開きます。[ハードウェアの情報] には、デバイスのモデル、ファームウェアのバージョン、BIOS のバージョン、キャッシュサイズ、バスのタイプ、スロット、IRQ、ベースアドレス、EEPROM サイズ (PG-143B のみ) などコントローラ固有のデータが表示されます。[ディスクアレイの情報] には、チャンネル番号、再作成タスク優先順位、論理セクタサイズ、物理セクタサイズ、システムドライブ数、システムドライブの最大数、物理デバイス数、物理デバイスの最大数、BIOS のバージョン (PG-143B のみ) が表示されます。

物理的なデバイスの表示

チャンネルID グリッドの選択ボタンをクリックすると、[物理的なデバイスの表示] ウィンドウが開き、接続されているデバイスに関する詳細情報が表示されます。[SCSI デバイスの情報] には、デバイスモデル、デバイスタイプ (ディスク、CD-ROM など)、アダプタチャンネル、チャンネルのアダプタ ID、SCSI アトリビュート (Fast SCSI、Wide SCSI、タグ付きキューイング) に関する情報が表示されます。[ディスクの情報] には、ステータス、SMART ステータス、キャパシティ、再作成速度、パリティエラー、ソフトエラー、ハードウェアエラー、その他のエラーが表示されます。

(2) ブリッジコントローラの詳細

SCSI ハードドライブブリッジコントローラがサーバにインストールされていると、サーバマネージャにより検出され、ユーザは [外部記憶装置] ウィンドウのデバイスの表示ボタンをクリックすることにより特別なウィンドウを開くことができます。このウィンドウには、サーバ上の特定のコントローラに接続されている記憶装置に関する情報が表示されます。



図 10 : 外部記憶装置ウィンドウ : PG-143B コントローラの Device View

このウィンドウには、[設定] ボタンと [RAID の表示] ボタンも表示されています。

[設定] ボタンをクリックすると、選択したコントローラを設定するために使用するアプリケーションが起動されます。

[RAID の表示] ボタンをクリックすると、そのコントローラで定義されているシステムドライブに関する情報が表示されるウィンドウが開きます。システムドライブを選択すると、それらのシステムドライブが定義されているハードディスクドライブがチャンネル ID 表で強調表示されます。

ここに示した情報とボタンに関する説明は、「3 デバイスの表示」(87 ページ) に記載されています。

外部記憶装置 - MultiPath

MultiPath がインストールされていると、[外部記憶装置] ボタンをクリックすることにより、MultiPath に関する詳細情報も表示されます。以下に、「外部記憶装置」(84 ページ) に示したシステム出力との相違部分について説明します。

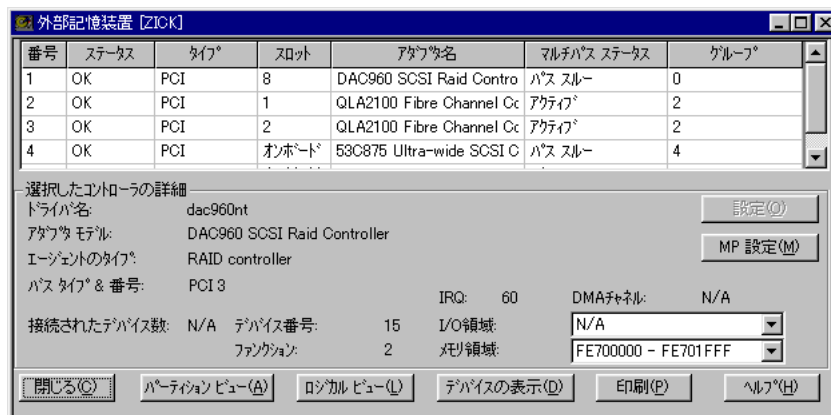


図 11：外部記憶装置ウィンドウ：MultiPath ドライバがインストールされている場合のデバイスの表示

MultiPath を使用すると、複数の HBA（ホストバスアダプタまたはファイバチャネルホストバスアダプタ）を、冗長パスを経由して同一の記憶装置に接続できます。MultiPath により、接続や HBA の障害が発生してもデバイスに対する高可用性が得られます。障害が発生した場合、入力や出力は別の I/O パスを経由してデバイスに転送されます。さらに、負荷をより均等に分散するためにロードバランシング機能も提供されます。

ドライバの設計は、元になる SCSI またはファイバチャネルホストアダプタに依存しません。IDE ディスクコントローラはサポートされません。ドライバの設計は MSCS に準拠しています。

MultiPath がインストールされていると、ServerView の [外部記憶装置] ダイアログに項目が追加されます。それには、マルチパスステータス列、グループ列、MP 設定ボタンがあります。

(1) マルチパスステータス

マルチパスステータス列のエントリには、次のいずれかの値が表示されます。

値	意味
パススルー	2 番目のポートを使用できない。
アクティブ	起動中のチャネル。ユーザが選択する。
スタンバイ（非活性）	停止中。ユーザが選択する。ロードバランス機能が有効な場合、このステータスは表示されません。
無効	メンテナンスアクティビティのため、停止中。
エラー	このポートでエラーが発生した。
MultiPath Port はありません	このチャネル / ポートは MultiPath 機能（atapi など）をサポートしない。

表 12：マルチパスステータス

（２）グループ

MultiPath のグループ番号、または MultiPath 機能にエントリが存在しない場合は「」が表示されます。

1 つのグループは、システムキャビネットと外部記憶装置キャビネット間の 2 つ（または最大 4 つ）の冗長接続で構成され、すべて同じデバイスに接続されます。

MultiPath Group を設定するには、外部記憶装置リストでエントリを選択し、[MP 設定] ボタンをクリックします。[マルチパス設定] ダイアログが起動されます。

（３）MP 設定

[MP 設定] ボタンにより、[マルチパス構成グループ] ダイアログが起動されます。このダイアログは、MultiPath グループを設定する際に使用します。MultiPath がインストールされている場合は、常に MP Configure ボタンが表示されます。

（４）Configuration Group

このダイアログでは、単一の MultiPath グループを設定できます。[マルチパス構成グループ] ダイアログでのすべての変更（チェックボックスやボタンなど）は、即座に MultiPath の設定に反映されます。



図 12：マルチバス構成グループ

このウィンドウのさまざまな要素とその機能は、対応するヘルプテキストで説明されています。

外部記憶装置 - DuplexWrite

[外部記憶装置] ウィンドウでデバイスの表示ボタンをクリックすると、特別なウィンドウが開きます。DuplexWrite ドライバがインストールされている場合、このウィンドウには、そのドライバに関する情報が表示されます。

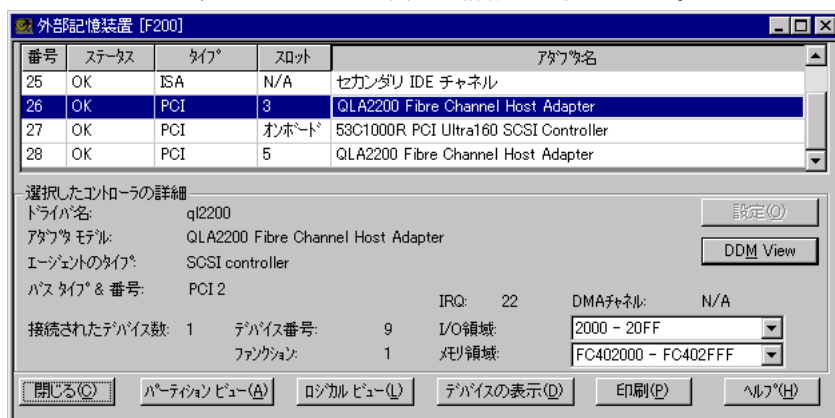


図 13：外部記憶装置：デバイスの表示ウィンドウ

DuplexWrite は、ディスクストレージサブシステムの能力を向上させるソフトウェアです。ファイバチャネル接続技術を共に使用することにより、災害許容設定をセットアップできます。DuplexWrite により、異なるディスクストレージサブシステムの 2 つのディスクに同一の情報が含まれるよう、書き込み操作が複製されます。このソリューションは、ファイルシステムデータなどの論理データ構造に依存しないので、「物理ミラーリング」と呼ばれます。

いずれかのドライブが失敗すると、まだ動作しているディスクにアクセスして割込みを行わなくても、DuplexWrite によりデータの処理を継続できることが確認されます。問題のあるドライブが修復されると、通常の運用中にデータのリカバリを実行できます。再起動は必要ありません。このことは、複雑な RAID ボリュームだけでなく物理ディスクにも適用されます。

DuplexWrite がインストールされている場合、ServerView の外部記憶装置 - Device View ダイアログに以下の項目が追加されます。

- 列 : Write ステータス、Duplex Disk
- ボタン : DW 設定

(1) Write ステータス

Write ステータス列のエントリには、次のいずれかの値が表示されます。

値	意味
オンライン	DuplexWrite ディスク。優先的に読み取られる。
エラー	エラー状態のため、ディスクがオフラインである。
アクション	ディスクがリカバリ中である。
無効	メンテナンスアクティビティのため、ディスクが停止に設定されている。
シンプレックス	ディスクが DuplexWrite 用に設定されていない。
N/A	DuplexWrite がインストールされていないか、ステータスを取得できない。
MultiPath	MultiPath を経由した、ディスクまでの第 2、第 3、または第 4 のパス。
Missing	ディスクが存在しない (パートナーディスクの COD により生成されるエントリ。「COD」の説明は用語集を参照)。
<name>	ディスクが他の MSCS クラスターノード <name> により使用されている。

(2) Duplex Disk

Duplex Disk 列は、DuplexWrite グループ (詳細については、用語集の「Duplex Write group」を参照) を指定するために必要です。DuplexWrite グループは、1 つまたは 2 つのディスクで構成されます。

(3) DW 設定

[DW 設定] ボタンをクリックすると、[Disk group] サブメニューが開きます。このメニューは、DuplexWrite グループを設定する際に使用します。

DuplexWrite グループを設定するには、外部記憶装置 : Device View メニューでエントリを選択し、[DW 設定] ボタンをクリックします。これにより、[ディスクグループ] ダイアログが開きます。

DW 設定ボタンは、選択したサーバに DuplexWrite エージェントがインストールされており、かつ選択したエントリに N/A、MultiPath、<cluster node name> 以外の DuplexWrite ステータスが表示されている場合に選択できます。

(4) ディスクグループ

このダイアログでは、単一の DuplexWrite Disk グループを設定できます。



ポイント

DuplexWrite 設定におけるすべての変更は、即座に DuplexWrite の設定に反映されます。

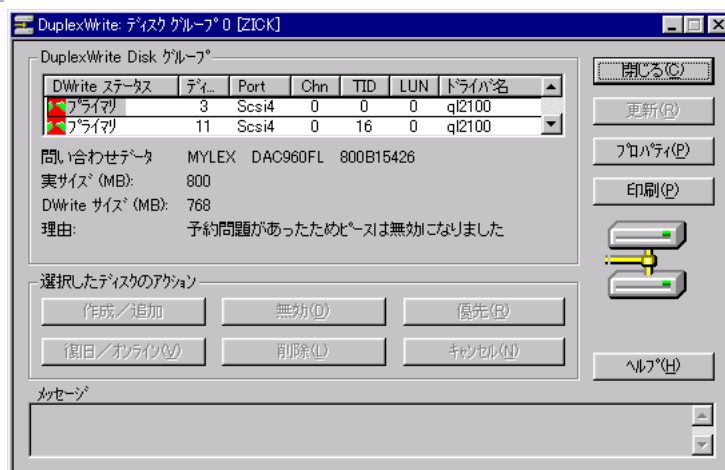


図 14 : DuplexWrite: ディスクグループウィンドウ



ポイント

ServerView は、データのスナップショットと設定データのオフラインでの読み取りのために Archive Data モードを用意しています。このモードが有効な場合は、DuplexWrite の設定を行えません。Close、Print、Help ボタンを除くすべてのボタンとチェックボックスは使用できません。

このウィンドウの構成要素とその機能は、対応するヘルプテキストで説明されています。

ベースボード

[ベースボード] ボタンをクリックすると、プロセッサ、メモリモジュール、バスシステム、コントローラに関するデータ (ベースボードの Board-ID や OS の BIOS Version など) が表示されます。



図 15 : ベースボードウィンドウ

(1) Utilization

Utilization には、プロセッサの使用率や、マルチプロセッサシステムにおける単一プロセッサの使用率を表示できます。さらに、EISA および PCI バスの使用率も表示できます。一部のサーバタイプでは、PCI バスロード、PCI バスの転送速度、PCI バスの効率に関する情報も表示されます。

(2) メモリモジュール

[メモリモジュール] ウィンドウには、すべてのメモリモジュールが、その No.、Bank、State、Error Count、Start Address、Size、Type、Designation (オプション) により表示されます。

(3) 電圧

電圧ボタンは、サーバ上のベースボードの電圧に関する情報を表示させるときに使用できます。

(4) バスとアダプタ

[バスとアダプタ] ウィンドウには、利用可能なバスシステム (EISA、PCI など) および接続されているコントローラとその機能に関する情報が表示されます。

電源

[電源] ボタンをクリックすると、サーバの電源に関する設定とステータスが表示されます。

電源が正常に動作している場合は、対応するダイアグラムの右下隅に緑色の四角が表示されます。

冗長電源は、重なり合う 2 つの四角で示されます。

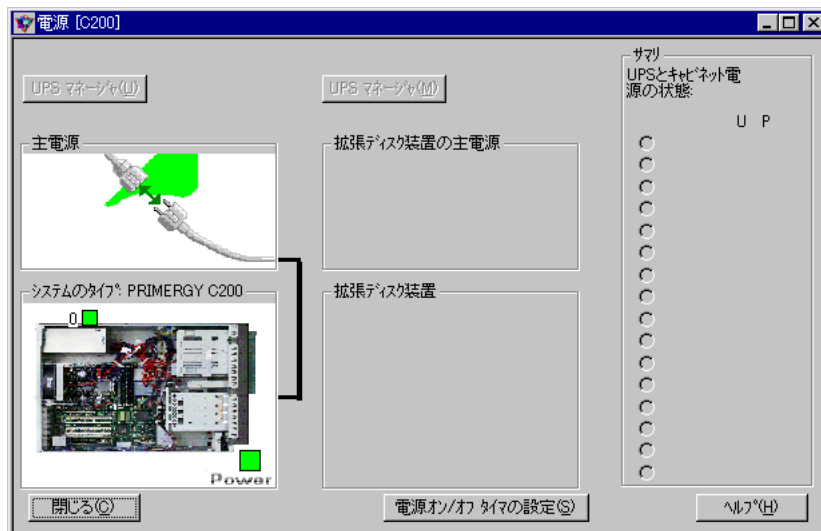


図 16：電源ウィンドウ

(1) UPS マネージャ

使用できません。

(2) 主電源

サーバに接続されており、必要な場合は拡張記憶装置に接続される黒色のケーブルが表示されます。サーバや拡張記憶装置の誤動作は、黄色または赤色の四角で示されます。

通常、状態は 60 秒ごとに調べられます。無停電電源の本線の電圧に障害があると、表示された値の高速ポーリング (5 秒間隔) を開始するトラップが送信されます。その後、Elapsed Time UPS running on Battery フィールドが黄色で縁取られます。無停電電源の本線は赤色で表示されます。

(3) システムのタイプ

サーバと、利用可能な場合は収納装置内の BBU がここに表示されます。サーバの電源の全体的なステータスが、緑色、黄色、または赤色の四角で示されます。

(4) 拡張ディスク装置

ここには、存在する拡張記憶装置が表示されます。BBU の設置もここで検出できます。拡張記憶装置内の電源の全体的なステータスが、緑色または赤色の四角で示されます。

(5) サマリ

ここでは、[選択] ラジオボタンを使用して拡張記憶装置を選択できます。同時に、各選択ボタンの隣にある緑色または赤色の四角により、すべての拡張記憶装置内の電源のステータスが常に通知されます。

(6) 電源 ON / OFF タイマの設定

このボタンをクリックすると、ASR のプロパティページ「Power ON/OFF」ページを開くことができます。

このページではサーバの起動 / 終了時間を指定することができます。

詳細は「 「Power ON/OFF」プロパティページ」(132 ページ) を参照してください。

環境

[環境] ボタンをクリックすると、サーバとサーバに接続されているメモリ拡張ユニットの温度とファンのステータスが表示され、ドアやサーバのケースが開いているかどうかが表示されます。



ポイント

すべてのサーバタイプが、ドアまたはサーバのケースが開いているかどうかの情報を返信するわけではないことに注意してください。

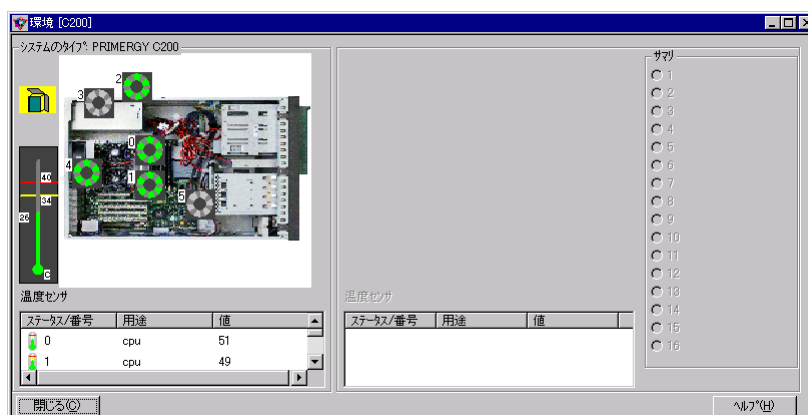


図 17：環境ウィンドウ

ダイアグラムの左上隅にある黄色のサーバアイコンは、ドアまたはサーバのケースが開いていることを意味します。これは、拡張記憶装置についても [サマリ] フィールドの黄色の四角により示されます。

ファンと温度は、アイコンで示されます。アイコンの意味は「付録 1 アイコンリスト」(259 ページ) に記載されています。さらに、それぞれの色の一般的な使用方法に対応するカラーシンボルのシステムが使用されています。

	シャットダウン	危険	OK	センサの故障	確認不可能
温度	赤色	黄色	緑色	青色	灰色
ファン	赤色	黄色	緑色	---	灰色

温度センサは、最も重要なセンサの値を常に表示します。つまり、すべてのセンサのリストが表示され、その中で値が最も高いセンサが表示されます。すべてのセンサの値が同じ (たとえば緑色) 場合は、リストの中で最後のセンサが表示されます。

単一のセンサのステータスを呼び出す場合は、リストからそのセンサに対応する行をクリックします。それにより、値が温度計に転送されます。

冗長ファンは、重なり合うファン制御シンボルによって示されます。シンボルはどちらも真の冗長性を示す緑色である必要があります。

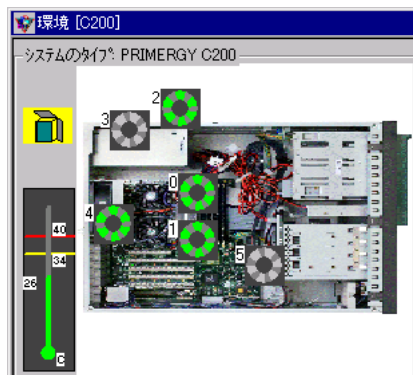


図 18 : 冗長ファンを示すウィンドウ

ネットワークインタフェース

[ネットワークインタフェース] ボタンをクリックすることにより、ネットワークに関するデータを取得できます。

既存のネットワークボードに関して取得できる情報には、アダプタモデル、種類、物理アドレス、IPX ネットワーク、スピード、IP アドレス、IP サブネットマスク、バスタイプ & 番号、スロット番号、ファンクション、IRQ、DMA チャンネル、I/O アドレスレンジ、メモリアドレスレンジなどがあります。



ポイント

常に、情報を取得する必要があるリストエントリを最初にクリックしてください。そうしないと、別のリストエントリの情報が表示されることがあります。

しきい値

このボタンをクリックすると、[しきい値マネージャ] ウィンドウが開きます。「しきい値マネージャ」(104 ページ) を参照してください。

レポート

このボタンをクリックすると、[レポートマネージャ] ウィンドウが開きます。「レポートマネージャ」(102 ページ) を参照してください。

デフォルト

このボタンをクリックすると、[デフォルト設定] ウィンドウが開きます。ここでは、サーバのデフォルト値を指定できます (「10 設定」(100 ページ) も参照)。



ポイント

しきい値、レポート、アラームの各メニューのマネージャは、それらが呼び出されると、画面の下隅にアイコンとしてのみ表示されます。ServerView セッション中にこれらのウィンドウを閉じることはできません。

10 設定

[設定] メニューの [レポートを無効にする] をチェックすると、定義済みで起動中のすべてのレポートを無効にできます。

アプリケーションプログラムやその開始パラメータの定義は [外部アプリケーション] で行います。定義したアプリケーションプログラムは、[ファイル] - [アプリケーション] で開かれる [アプリケーションの起動] ウィンドウに表示されます。

[デフォルトの設定] ウィンドウを用いて、特定サーバの初期設定値のコピーを作成し、その値を別のサーバに割り当てることができます。この手順により、多数のサーバのインストールや設定に必要な時間が大幅に削減されます。

[単位の設定] では、表示される温度値の測定単位を設定できます。

[ユーザ認証] では、ユーザ名とパスワードを設定できます。

外部アプリケーション

このウィンドウでは、アプリケーションプログラムとその開始パラメータを定義します。定義したアプリケーションプログラムはファイル - アプリケーションウィンドウに表示されます。

デフォルトの設定

初期値管理により、ServerView で指定された設定（しきい値やレポートなど）の別のサーバへの格納や転送、またはその保存を実行できます。

サーバの設定を完了した後、[設定] メニューの [デフォルトの設定] を選択します。



図 19：デフォルトの設定ウィンドウ

現在までに登録されたサーバのリストが表示されます。

- 1 設定の転送や格納を行うサーバを選択します。

コピーする設定（SNMP セットパラメータ、レポートの設定、しきい値の設定、アラーム転送の設定）を選択します。

2 設定の転送先のサーバを選択するか、ファイル名を指定して選択を確認します。

これで、選択したサーバに、以前にユーザが設定したサーバと同じ設定が適用されます。

この手順を用いると、SNMP パラメータ、アラーム転送、しきい値、レポートの各機能の設定を非常に簡単にコピーできるので、毎回設定し直す必要はありません。そのため、多数のサーバのインストールや設定に必要な時間を大幅に削減できます。

これらの値はファイルに格納されるので、必要な場合はいつでも定義済みの初期設定にアクセスできます。

単位の設定

単位の設定では、温度値を摂氏と華氏のどちらで表示するかを定義できます。



ポイント

すでに開いているウィンドウに表示された測定単位は、単位の設定で新しい設定を定義しても変更されません。

ユーザ認証

[ユーザ認証] では、サーバのオブジェクトの変更や監視を行うすべての操作を保護するために使用されるユーザ名やパスワードの入力が求められます。

ユーザ名とパスワードは、インストール後のサーバの設定で、「管理ユーザを設定する」(42 ページ) で設定したものを uses。

セキュリティシステムは、ServerView エージェントと ServerView コンソールを使用している場合にだけ使用できます。SNMP は、パスワード保護を提供していないため、他の管理システムを使用している場合は、システムセキュリティ機構が無効になります。

11 レポート

[レポート] メニューにより、操作時間カウンタが評価され、サーバの長期的な監視が可能になります。

選択した値は、一定の期間、定期的に計測され記憶されます。その後、このデータは評価のために表または図の形で表されます。

ユーザは、パフォーマンスの問題のために不定期に発生する問題を、プロセッサの追加、ディスク容量の追加、より高速なネットワークアダプタのインストール、またはその他同様の方法により解決できます。

レポートマネージャ



ここでは、レポートの開始と停止を実行できます。レポートを開始する前に、監視対象の MIB 変数を指定したレポートテーブルを定義する必要があります。それらの変数が記録される開始時刻や期間も定義できます。

レポートマネージャでは、開始時刻、頻度、曜日、期間、単位を指定します。

テーブルの設定ボタンを用いて、表または図の形で出力できる Report List を設定します。テーブルの設定をクリックすると、Report Table Settings ウィンドウが開きます。このウィンドウでは、レポート (レポートテーブル) に表示させる MIB 変数値を指定します。追加ボタンや削除ボタンを用いて、この変数のリストの内容を指定します。

レポートを選択したら、既存のレポートの内容を編集できます。1 つのレポートに表示できる変数の総数は最大 13 個に制限されています。

ServerView のレポートは、ASCII 形式でファイルに書き込まれます。作成されたテキストファイルは、repnnn.txt という名前でディレクトリ

ServerView_install_dir\Reports\server_name\ に保存されます。必要であれば、このファイルを Excel にエクスポートできます。エクスポートするには、レポートを生成し、

Excel テキストウィザードを使用して Excel にインポートします。この処理の時点では、ServerView のレポートのフィールドは固定幅ではなく、空白で区切られていることに注意してください。次に、Excel のレポートレイアウトをカスタマイズするか、グラフィック形式に変換することができます。

レポート一覧

[レポート一覧] ウィンドウは、[レポート] メニューの [一覧] を使用して開きます。レポート一覧は、レポート名、ステータス、レポートテーブル、サーバ名、開始時刻、頻度と期間という各パラメータと共に、このウィンドウに表示されます。

12 しきい値

アラームの割り込みを要求する運用状態やサーバのシャットダウンを除き、一部のパラメータには固有の値を定義できます。この「しきい値」は、評価を行い、アラーム管理機能と組み合わせて、追加アラームの割り込みに使用することもできます。しきい値の定義や設定は、しきい値メニューで行います。

しきい値は、管理者が自らの経験に従って、しきい値テーブルで定義できます。上限や下限、差分しきい値、測定間隔などを定義できます。

アラームマネージャで行った指定と共に使用すると、アクションを結び付けることができます。相対値の上限、相対値の下限、上限、下限という4つのしきい値により、アラーム管理にリンクされます。これらのしきい値はすべて固定で、デフォルト有効化されます。しきい値の管理は、管理コンソールで行われます。しきい値の測定とアラームの割り込みは、サーバのエージェントにより個別に処理されます。

しきい値マネージャ

しきい値マネージャのテーブルの設定では、選択したサーバで監視される変数の選択や設定を実行できます。これらの変数は、テーブル（しきい値テーブル）にグループ化され、しきい値マネージャでサーバに割り当てられます。同じ変数が誤って2つのテーブルで参照され、その変数が停止されることを防ぐために、1つのサーバで開始できるテーブルの数は1つだけです。

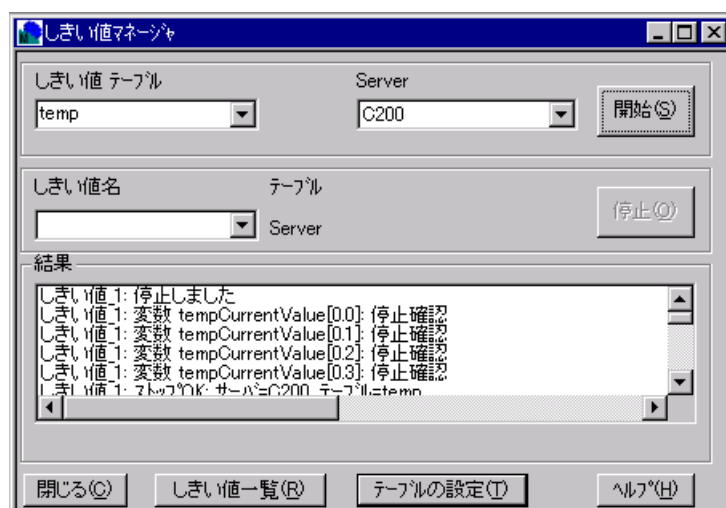


図 20 : しきい値マネージャウィンドウ



注意

しきい値マネージャでの設定は、ServerView で元々監視している各監視項目とは直接関連がありません。

しきい値マネージャで設定した範囲を逸脱した場合、以下のしきい値逸脱のトラップが送信されますが、「環境」で表示される温度センサの設定範囲など）元々の監視項目で使用されている値は変更されず、エラー報告もされません。

固定値で設定した値から逸脱：Threshold exceeded
Threshold underflow

相対値で設定した値から逸脱：DELTA-Threshold exceeded
DELTA-Threshold underflow

このトラップに対して何らかのアクションを起こしたい場合、AlarmService にて設定を行ってください（「アラーム設定」（112 ページ）参照）。

テーブルの設定

- 変数の選択
以前に定義した変数リストから 1 つを選択するか、定義済みのリストから 1 つまたは複数の変数を用いて変数リストを新しく作成します。
- 監視する項目
追加を使用して変数を監視する項目にコピーすると、[しきい値設定の追加] ウィンドウが自動的に表示されます。初期値に対して必要な変更を行うか、またはデフォルト値を使うを用いて設定を確認します。
保存を用いると、ユーザが設定した変数リストに名前を割り当てることができます。この名前は、しきい値マネージャのしきい値テーブルに表示されます。開始を用いると、選択したサーバでこのしきい値テーブルの監視を開始できます。ただし、最初にしきい値名の入力が必要です。このしきい値名は、テーブルが存在するサーバを一意に識別し、しきい値一覧に表示されます。各テーブルは選択したサーバで開始できますが、1 つのサーバで 1 度に開始できるテーブルは 1 つだけです。
監視を開始する前に、ServerView により、選択したサーバ用のユーザ名とパスワードの入力が求められ、ユーザ認証メニューが表示されます。



注意

OS のインストール中、ユーザ名とパスワードを割り当てる必要があります。セットアップ - ユーザ認証メニューでは、ユーザ名とパスワードの両方の入力が求められます。これらのデータは、サーバ上のオブジェクトの変更や監視を行うすべての操作を保護するために使用されます。

- しきい値一覧
[しきい値一覧] ウィンドウへの切替に使用します。しきい値名、しきい値テーブル、サーバ名、開始時刻が表示されます。
サーバのしきい値を定義すると、更新されたしきい値テーブルが保存され、そのテーブルから対応する値を監視するタスクがサーバのエージェントに割り当てられます。これらの値はサーバと管理コンソールの両方で維持されるので、以下のような状況で矛盾が生じることがあります。

- サーバが [サーバの一覧] ウィンドウから削除されたが (再インストールなどによる) しきい値は削除されず、その後サーバがサーバの一覧に再度追加されたとき。
 ServerView によりしきい値の監視が再開されますが、値は表示されません。
 解決策 : しきい値の監視を停止するか、エージェントを再インストールします。
- シャットダウンや再インストールの後、エージェントによりすべてのしきい値の監視が停止されたが、サーバから値が返信されないにもかかわらず、ServerView によりしきい値監視の通知が継続される。
 解決策 : しきい値マネージャを用いて問題のあるサーバのしきい値監視を停止してから、サーバを再起動します。

しきい値一覧

しきい値名、しきい値テーブル、サーバ名、開始時刻が表示されます。



図 21 : しきい値テーブルウィンドウ

リストには、ユーザが起動したしきい値監視、使用されているしきい値テーブル、しきい値監視が開始されたサーバ名、しきい値監視の開始時刻が表示されます。

13 アラームサービス

アラームサービスにより、情報を受信しようとするイベントと運用状態を定義できます。ネットワークにおいてサーバの可用性は非常に重要なので、サーバの可用性を危険にさらす可能性のあるステータスは適切に設定します。アラームはさまざまな段階で起動し、適宜セットアップすることができます（メール、ポケットベル）。エージェントによりサーバの異常な運用ステータスが検出されると、SNMP を経由してアラームサービスにアラーム（割り込み）が送信されます。

アラームサービスは、管理コンソールソフトウェアと共に自動的にインストールされます。

アラームサービスは、次のコンポーネントで構成されています。

- アラームマネージャ
アラームマネージャは、アラームログリストに格納されたすべてのアラームを参照し編集するために使用できます。「アラームマネージャ」（108 ページ）を参照してください。
- アラームモニタ
アラームモニタは、すべてのアラームを参照するために使用できます。「アラームモニタ」（110 ページ）を参照してください。
- アラームの設定
アラームの設定は、アラームを設定するために使用できます。たとえば、アラームアクションや、アラームメッセージの転送先を定義できます。「アラーム設定」（112 ページ）を参照してください。

これらのコンポーネントでは、Web ベースの GUI が採用されています。このため、HTML バージョン 3.2、Javascript、および Java をサポートしているブラウザ（Microsoft Internet Explorer）であれば、どれでもこれらのコンポーネントを実行することができます。

ServerView からアラームサービスの各コンポーネントを開くと、同時にアラームサービスウィンドウも開かれます。

このウィンドウから、直接アラームサービスの各コンポーネントを開くことができます。



図 22 : アラームサービス

アラームの表示

受信されたアラームは、[ServerView] ウィンドウのステータスバーに表示されます。同時に、アラームアイコンが [サーバの一覧] ウィンドウの状況列のサーバの隣に表示されます。同じサーバについて複数の受領前のアラームが受信された場合には、重大度のもっとも高いアラームが表示されます。

アラームアイコンの削除

アラームアイコンを削除するには、まずアラームを受領する必要があります。次の方法で、1 つ以上のアラームを受領できます。

- 選択したサーバのアラームを受領するには、ポップアップメニューから [アラーム設定] を選択するか、[アラーム] メニューから [設定] を選択します。
- すべてのサーバのアラームを受領するには、アラームメニューから [すべての認証] を選択します。

アラームマネージャ

アラームマネージャを使用すると、アラームログリストにあるすべてのアラームの編集、管理を行うことができます。アラームメニューからマネージャを選択して、アラームマネージャを起動します。起動すると、次のウィンドウが表示されます。

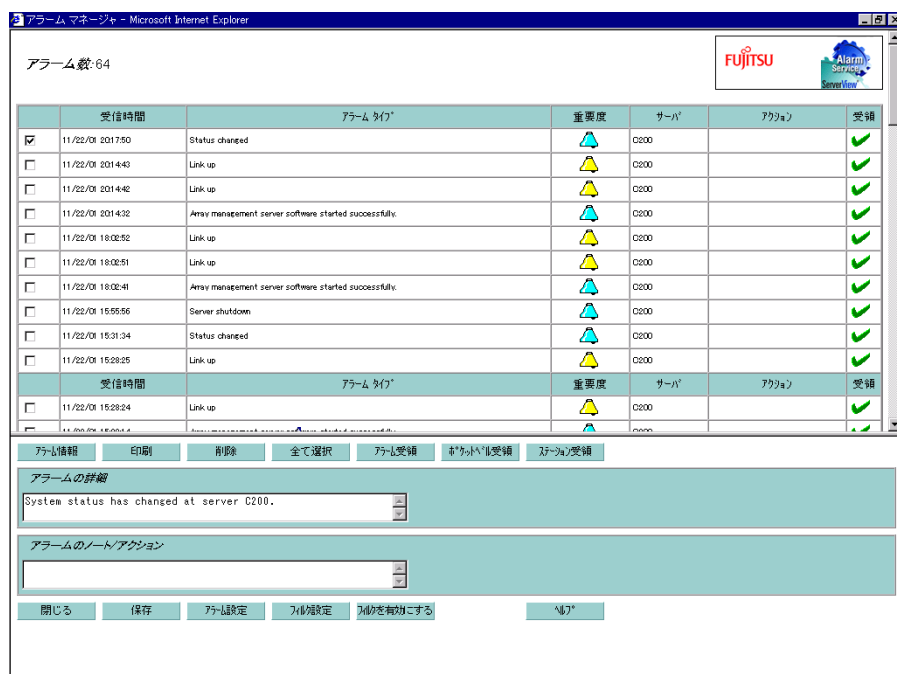


図 23 : アラームマネージャ

ウィンドウ上部にはアラームの概要が表示されます。[アラーム数] にログされたアラームの総数、表の部分には受信時間、アラームタイプ、重要度、サーバ、アクション、受領の情報が表示されます。

アラームが転送された場合またはエントリが削除された場合には、表示内容が更新されます。

短いテキストメッセージ（関連する MIB から）が [アラームの詳細] に表示されます。これは、選択したアラームの詳細を示すメッセージです。

[アラームノート/アクション] に、必要なアラームまたはアクションに関する詳細情報を示す短い注を入力できます。[保存] を使用してこの情報を保存します。このエントリは変更できませんが、別のエントリを追加できます。エントリが作成されて初めてアラームは受領されます。

[アラームマネージャのフィルタ] には、アラームの現在のフィルタ設定が表示されます。[フィルタの設定] ボタンを使用して、新しいフィルタ設定を定義します。設定できるフィルタは次のとおりです。

サーバの選択

選択したサーバのアラームにフィルタをかけます。

種類の選択

重大性のレベルが選択したレベル以下か、以上かによってアラームにフィルタをかけます。

アラーム

未処理が受領済みのアラームに基づいてフィルタをかけます。

時刻

アラームが指定した時刻の前と後のいずれに発生したかによって、アラームにフィルタをかけます。

未処理のポケットベル

未処理のポケットベルメッセージに基づいてフィルタをかけます。

未処理のマネージメントステーション

トラップを他のマネージメントステーションに送信した未処理のアラームに基づいてフィルタをかけます。

[フィルタを無効にする] ボタンを押すと、アラームのフィルタ設定が無効になります。

ボタンを用いて、次のアクションを実行できます。

アラームの情報

アラームに関する詳細情報を表示するウィンドウが開きます。

削除

選択した受領済みのアラームをすべて削除します。

すべて選択

すべてのアラームを選択します。

アラームの受領

すべてのアラームを受領します。

アラーム設定

[共通設定] ウィンドウを開きます。このウィンドウでアラーム設定を編集できます。

アラームモニタ

アラームモニタには、受信したすべてのアラームが表示されます。アラームモニタを起動するには、アラームメニューから [モニタ] を選択します。次のウィンドウが表示されます。



図 24 : アラームモニタ

[アラーム数] には、アラームエントリの数が表示されます。

アラームの概要には、現行セッション中のアラームの [受信時間] [アラームタイプ] [重要度] [サーバ] [アクション] が表示されます。

[アラームの詳細] には、選択したアラームを多少詳細に説明した短いテキスト (関連する MIB から) が表示されます。

ボタンを用いて、次のアクションを実行できます。

アラームの情報

アラームに関する詳細情報を表示するウィンドウが開きます。

ログ

選択したアラームをアラームログリストに書き込みます。

削除

選択したアラームをアラームの概要から削除します。

すべて選択

すべてのアラームを選択します。

除外アラーム一覧

フィルタ設定をリセットします。

印刷

選択したアラームを印刷します。

アラームマネージャ

アラームマネージャを呼び出します。「アラームマネージャ」(108 ページ)を参照してください。

アラーム設定

[共通設定] ウィンドウを開きます。このウィンドウでアラーム設定を編集できます。

テストトラップ

接続テストのためにトラップを送信するサーバを選択できるウィンドウを開きます。[テストトラップ] ボタンを使用してテストを開始します。

アラーム設定

アラーム処理の設定を定義するために使用するコンポーネントを起動するには、[アラーム] メニューから [設定] を選択します。アラームサービス自体が実行されていない場合でも、このメニュー項目を呼び出すことができます。[アラーム設定の開始] ウィンドウには次のオプションがあります。

ウィザード使用

デフォルト値です。ウィザードで表示されるそれぞれのウィンドウに従って、アラームパラメータを設定できます。

共通設定

このオプションでは、アラーム処理の全体的な設定を定義できます。[共通設定] ウィンドウが開きます。「 設定」(113 ページ)を参照してください。

サーバのフィルタ

このオプションでは、アラームメッセージを受信したくないサーバを非表示にできます。[サーバのフィルタ] ウィンドウが開きます。「 サーバのフィルタ処理」(114 ページ)を参照してください。

アラームグループの作成 / 編集

このオプションでは、新しいアラームグループの定義や、既存のアラームグループの編集ができます。[アラームグループの作成 / 編集] ウィンドウが開きます。「 アラームグループの編集」(114 ページ)を参照してください。

アクションの作成 / 編集

このオプションでは、アラーム転送の設定を定義できます。[アクションの作成 / 編集] ウィンドウが開きます。「 アラームのアクション」(115 ページ)を参照してください。

全設定の表示

このオプションでは、すべてのアラーム定義の概要を表示できます。[全設定の表示] ウィンドウが開きます。「 全設定の表示」(116 ページ)を参照してください。

起動するには、[次へ] ボタンをクリックします。

ボタン

複数のウィンドウで次のボタンを使用できます。

次へ

次のウィンドウを表示します。

戻る

直前のウィンドウに戻ります。

適用

変更を確認し適用します。

終了

[アラーム設定の開始] ウィンドウに戻ります。

ヘルプ

オンラインヘルプシステムを呼び出します。

設定

[共通設定] ウィンドウで、アラーム処理の全体的な設定を定義できます。

フィルタ設定

次のフィルタ設定を定義できます。

フィルタリング間隔 (秒)

定義時間内に同一サーバから同じアラームが発行された場合にフィルタをかけます。

不明なアラームのフィルタ処理

不明なアラームにフィルタをかけます。

不明なサーバのフィルタ処理

不明なサーバにフィルタをかけます。

重要度 <severity> に基づくフィルタ処理

エラーの重要度に応じてフィルタをかけます。

アラームの削除

アラームを削除する時期を指定します。指定の時間が経過した場合またはアラームログリストに指定の数のエントリが作成された場合に、アラームを削除できます。

アラームアクション

トリガされる着信アラームのアクションです。それぞれのエラーカテゴリに応じて、エントリをアラームログリストに保存するかどうか、アラームモニタウィンドウを最前面にポップアップするかどうかを設定できます。任意の組み合わせが可能です。重大なエラーは、必ずアラームログリストに書き込まれます。

アラームマネージャ

アラームログリストに書き込めるエントリの最大数を指定し、この最大数に達した場合の動作を指定します。

警告ポップアップ

メッセージが出力されます。

上書き

もっとも古いエントリがシステムにより上書きされます。

サーバのフィルタ処理

[サーバのフィルタ] ウィンドウで、アラームにフィルタをかけるサーバを指定できます。サーバ上でアラームサービスが実行されておりサーバの一覧に別のサーバが入力されていない場合に、アラームサービスが実行されているサーバがローカルホストとして表示されます。この場合、追加設定は必要ありません。

これ以外の場合は、サーバの一覧にあるすべてのサーバが [サーバの一覧] ウィンドウに表示されます。[>>>] ボタンと [<<<] ボタンを使用して、必要なサーバを選択できます。一度に選択できるのは1つのサーバだけです。[情報] ボタンをクリックすると、選択したサーバに関する追加情報を表示できます。

アラームグループの編集

[アラームグループの作成 / 編集] ウィンドウで、新しいアラームグループの定義や既存のアラームグループの編集ができます。アラームグループとは、サーバのグループであり、そのグループに対するアラームです。アラームグループを定義するには、新しいグループの名前を入力します。既存のアラームグループを編集するには、アラームグループのリストから該当するアラームグループを選択します。

サーバの選択

このアラームグループに入るサーバを指定します。[グループに属するサーバ] のリストが空である場合、既知のサーバだけでなく、すべてのサーバがアラームグループに追加されます。

>>>

選択したサーバがアラームグループに追加されます。

<<<

選択したサーバがアラームグループから削除されます。

すべて

既知のサーバがすべてアラームグループに追加されます。

情報

選択したサーバの追加情報が表示されます。

アラームの選択

アラームグループのアラームを定義します。

アラームの並べ替え

Severity、Name、File、または Source に基づいて、選択したアラームにフィルタをかけることができます。次に、選択リストに追加値が表示されます。たとえば Severity を選択した場合はエラーの重大度がリストに表示されるので、必要な重大度を選択できます。

>>>

選択したアラームがアラームリストに追加されます。

<<<

選択したアラームがアラームリストから削除されます。

全て

表示されたアラームがすべてアラームリストに追加されます。

情報

選択したアラームに関する追加情報が表示されます。

(1) アラームグループの削除

次の方法でアラームグループを削除します。

- 1 リストからアラームグループの名前を選択するか、手作業で名前を入力する。
- 2 [削除] ボタンをクリックしてアラームグループを削除する。

アラームのアクション

[アクションの作成 / 編集] ウィンドウで、アラームのアクションに関する設定を行うことができます。アラームグループを選択し、次にこのアラームグループによりトリガできるアクションを定義します。アラーム転送の実際の処理は、[有効] ボタンで有効または無効にできます。

アラームグループが次のアクションを行うかどうかを指定できます。

- メールの送信
- メッセージの出力
- アラームのログ
- ポケットベルまたは携帯電話の呼び出しのトリガ

- 実行プログラムの開始
- ブロードキャストメッセージのトリガ
- トラップの作成

選択したオプションに応じて、追加ウィンドウが表示されます。これらのウィンドウでさらに詳細な設定を行います。これらのウィンドウの説明を見るには、[ヘルプ] ボタンをクリックしてください。

メールの転送

メールサービス (MAPI) を設定する際の注意事項は次のとおりです。

メールサービスを設定するには、Microsoft メールシステムがインストールされているかどうかを確認します。Windows NT 4.0、Windows 2000 では、メールサービスは「Microsoft Exchange」と呼ばれます。

Microsoft メールシステムがインストールされていない場合は、オペレーティングシステムのセットアッププログラムを再実行してメールシステムをインストールする必要があります。

詳細情報については、ServerView のインストールディレクトリにある HINTS.TXT ファイルを参照してください。

(1) メールの設定

アラーム転送用の [メール] オプションを選択すると、デフォルトのメール設定を示すウィンドウが表示されます。使用されているメールサービスに応じて、MAPI または SMTP と表示されます。

注) MAPI によるメール転送はサポートしていません。SMTP を利用してください。



ポイント

異なるプロファイル名やパスワードを入力すると、メールメカニズムは機能しません。

[プロパティ] を選択し、SMTP のユーザ名と SMTP サーバを [ユーザ名] と [SMTP サーバ] に入力します。[ポート] にはポート番号を入力します。デフォルト値は Port 25 です。

サービスメールの転送

この機能はサポートしていません。

全設定の表示

[全設定の表示] ウィンドウには、アラーム定義の概要が表示されます。表示内容は、[ルート選択] で選択した並べ替え順序によって異なります。

[アクションの作成 / 編集] ウィンドウで行った設定によっては、[有効] ラジオボタンが使用できないことがあります。

ポケットベルの設定について

⚠ 注意

- 海外では、ポケットベルへの送信はできません。
- NTT のポケットベルのみ対応しています。

ポケットベル送信の設定

以下のように設定してください。

以下のとおりでない場合、正常に動作しません。

ポケットベルの設定

設定項目	設定値	説明
説明	任意	
所有者	任意	
COM ポート	任意	モデムを接続した COM ポートを選択してください。
リトライ間隔	5 ~ (5 以下に設定しないでください)	
リトライ回数	0 ~ (0 を設定した場合は、リトライしません)	
ポケットベルタイプ	NTT (必ず「NTT」を選択してください。他の項目を選択した場合は、その後の動作は保証されません)	
ポケットベル番号	任意	ポケットベルの番号を設定します。 0 発信の場合は、「0,」をポケットベルの番号の前に付けてください。
タイムモデル	任意	

通信ポート (COM) とモデムの設定

以下のように設定してください。

設定項目	設定値 説明
COM ポート	モデムを接続した COM ポートを設定します。 サーバのポケットベルプロパティページの [ポートの設定] で設定した値と同じ番号を設定してください。
ボーレート	モデムの性能によります。モデムの仕様を確認して設定してください。
フロー制御	None (モデムの性能によりますが、通常は「None」を設定します。)
モデム用ポートとして選択する	必ずチェックボックスをオンにします。
データビット	8 (モデムの性能によりますが、通常は「8」を設定します。)
パリティ	None (モデムの性能によりますが、通常は「None」を設定します。)
ストップビット	1 (モデムの性能によりますが、通常は「1」を設定します。)
ダイヤル	ATDT
アクティビティ	>

送信されるメッセージのフォーマットについて

ポケットベルにメッセージを送信する場合、以下のフォーマットで送信されます。

送信	フォーマット
テスト送信ボタンで送信した場合	4/TESTSERVER
通常の場合	x/yyyyyyyyy x : 1= 危険、2= 重度、3= 軽度、4= 情報 yyyyyyyyyy : サーバ名 文字数制限があります。

留意事項

- サーバ名に、日本語名は設定しないでください。
- サーバ名は、英数半角 12 文字以内で設定してください。
12 文字以上で設定した場合、13 文字目からは送信されません。
- サーバ名に英小文字を設定した場合、英大文字に変換して送信されます。
- サーバ名に、NTT DoCoMo ポケットベルで表現できない文字を使用した場合、代わりに「?」が表示されます。

使用できない文字の例：_、+、など

インストール後のコンピュータ情報変更

ServerView をインストール後に、インストールしたマシンのコンピュータ名、または IP アドレスを変更した場合、次の操作を行います。

- 1 ServerView およびアラームサービスのウィンドウを起動している場合には、すべて終了します。
- 2 [スタート] - [プログラム] - [Fujitsu ServerView] - [Change Computer Details] をクリックします。
- 3 新しいコンピュータ情報を設定します。
- 4 ServerView エージェントがインストールされている場合は、[スタート] - [プログラム] - [Fujitsu ServerView] - [SNMP Agents] - [Restart Services] を実行します。

14 ツール

[ツール] メニューには [アーカイブマネージャ] [エクスポート] [Global Flash] があります。

アーカイブマネージャ

アーカイブ マネージャはサーバからアーカイブ データを作成する機能、および、アーカイブ データの表示、比較を行う機能を提供します。アーカイブ マネージャには、ServerView のデータベースからすべてのサーバとグループ、すべてのスケジュール タスク、すべての有効なアーカイブを表示します。

アーカイブマネージャの詳細については、オンラインヘルプを参照してください。

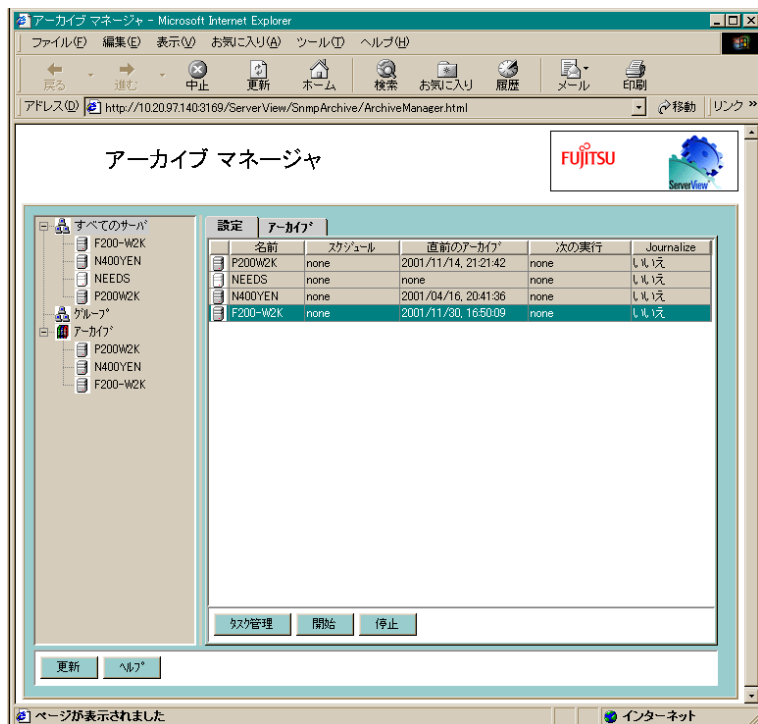


図 25 : アーカイブマネージャ

アーカイブマネージャの起動

ServerView のメニューから [ツール] - [アーカイブマネージャ] を選択します。
または、[スタート] - [プログラムフォルダ] - [Fujitsu ServerView] - [Fujitsu ArchiveManager] を選択します。

サーバの一覧

アーカイブマネージャ ウィンドウの左側には、ServerView データベースのサーバの一覧ツリーが表示されます。このオブジェクトは複数選択が可能で、ウィンドウの右側の各タブページでは、左側で選択した（複数の）グループに含まれるすべてのサーバについての情報が表示されます。

設定タブ

このタブページでは、サーバについてのタスク管理の情報が表示されます。ウィンドウ右側の項目を以下に示します。

項目	説明
名前	オブジェクトの名前
スケジュール	このサーバのタスクスケジュール
直前のアーカイブ	このタスクで直前に作成されたアーカイブ
次の実行	このタスクで Archive Service が次回に実行される時間
Journalize	Journalize 情報

ユーザは（複数の）行を選択できます。タスク管理ボタンをクリックすると、右側の枠で選択した（複数）サーバについてのアーカイブの設定ページが別ウィンドウで表示されます。すでにアーカイブの設定ページが存在している場合、このページは新たに選択した設定で更新されます。

開始ボタンをクリックすると、選択したサーバのアーカイブをただちに開始できます。停止ボタンをクリックすると、選択したアーカイブ スケジュールを停止できます。

設定タブは、タスクが開始・停止されるたび、またはアーカイブ設定が変更されるたびに自動的に更新されます。サーバの一覧や、タスク情報を含む、Web ページ全体をただちに更新するには、更新ボタンをクリックしてください。

（１）アーカイブの開始

アーカイブ機能を開始する手順を以下に示します。

- 1 [サーバの一覧] から表示したいサーバ（グループ）を選択してから、設定タブで、設定したいサーバを選択します。
- 2 [設定] タブの [開始] ボタンをクリックすると、選択した（複数の）サーバで一度きりのアーカイブタスクを直ちに開始します。
または、
[タスク管理] ボタンをクリックして [タスク管理] ウィンドウを表示し、開始したいタスクを選択して [開始] ボタンをクリックします。

（２）アーカイブの停止

- 1 [サーバの一覧] から表示したいサーバ（グループ）を選択してから、設定タブで、設定したいサーバを選択します。

- 2 [停止] ボタンをクリックすると、選択した（複数の）サーバで現在実行中のアーカイブを停止します。
または、
[タスク管理] ボタンをクリックして [タスク管理] ウィンドウを表示し、開始したいタスクを選択して [開始] ボタンをクリックします。

(3) タスク管理

- 1 [サーバの一覧] から表示したいサーバ（グループ）を選択してから、設定タブで、設定したいサーバを選択します。
- 2 [設定] タブの [開始] ボタンをクリックすると、選択した（複数の）サーバでタスクの作成・編集・削除・開始・停止を実行できる、Archive Task Management ウィンドウが開きます。

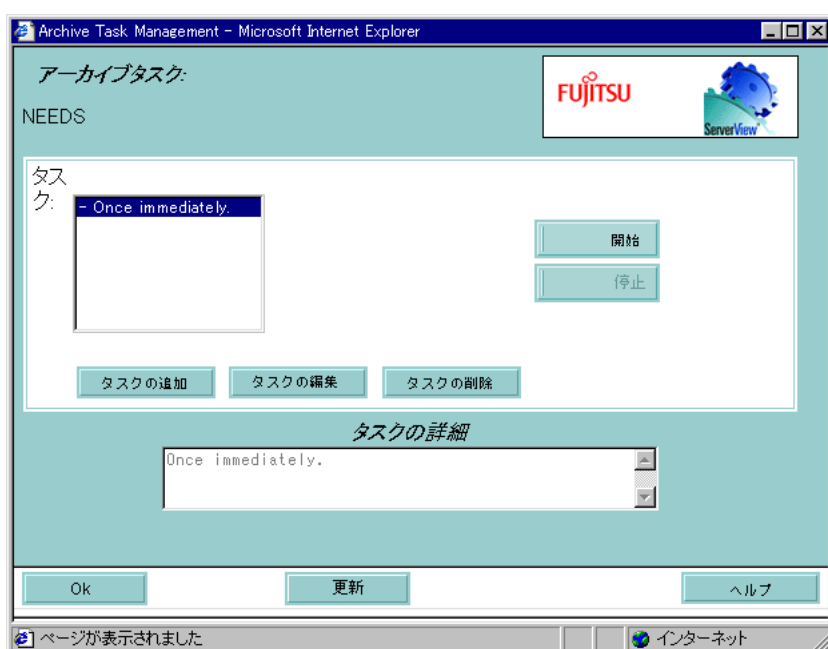


図 26：アーカイブタスク管理
このウィンドウの詳細については、オンラインヘルプを参照してください。

アーカイブタブ

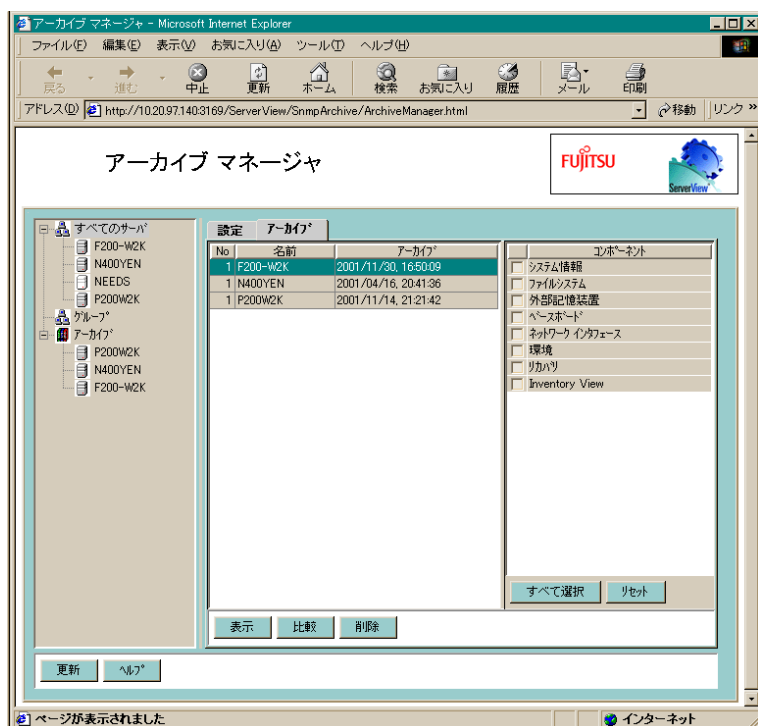


図 27：アーカイブマネージャ - アーカイブタブ

アーカイブデータの表示

アプリケーションのアーカイブデータを表示する手順を以下に示します。

- 1 サーバの一覧から表示したいアーカイブデータが存在するサーバを選択します。
- 2 [アーカイブ] タブページから対応するアーカイブを選択します。
- 3 [コンポーネント] の一覧で表示したい内容だけを選択して、出力を制限できます。
- 4 [表示] ボタンをクリックして処理を開始します。

これで、アーカイブマネージャの HTML ビューアに要求したアーカイブデータが表示されます。

アーカイブの比較

サーバのアーカイブデータを比較する手順を以下に示します。

- 1 サーバの一覧から比較したいアーカイブデータが存在するサーバを（複数）選択します。
- 2 [アーカイブ] タブページから対応するアーカイブを 2 つ選択します。
- 3 [コンポーネント] の一覧で必要な内容だけを選択して、出力を制限できます。

4 [比較] ボタンをクリックし処理を開始します。
相違点は第 1 カラムで識別され、2 つの異なる色を使用して示されます。アーカイブのどちらか片方にあり他方にある内容と、アーカイブの両方にあるが値が互いに異なる内容は区別されます。

アーカイブデータの削除

- 1 サーバの一覧から削除したいアーカイブデータが存在するサーバを（複数）選択します。
- 2 [アーカイブ] タブページから対応するアーカイブを選択します。
- 3 [削除] ボタンをクリックして処理を開始します。

データのエクスポート

ServerView フロントエンドのエクスポート機能を使用すると、あらゆるサーバの内容を外部ファイルに出力することができます。この機能の説明については、「4 エクスポート機能」(204 ページ) を参照してください。

Global Flash

使用できません。

15 ウィンドウ

[ウィンドウ] メニューの [アイコンの整列] [重ねて表示] [縦に並べて表示] を用いて、管理コンソールのウィンドウを再編成できます。
[すべて閉じる] では、[サーバの一覧] ウィンドウ以外の管理コンソール内のすべてのウィンドウを閉じることができます。



ポイント

ここで説明されていないすべてのメニュー項目は、他の MS Windows プログラム (Print メニューなど) のメニュー項目と同じ方法で機能するか、またはメニューが明白で説明の必要がないものです。

16 プロパティウィンドウ

ServerView では、プロパティウィンドウのプロパティページを用いて複数のサーバのパラメータの表示や設定を 1 度に行うことができます。

すべての ServerView プログラムの機能には、ServerView ウィンドウのプルダウンメニューを用いて到達できます。また、ポップアップメニューも利用できます。ServerView でのサーバやクラスタのパラメータの設定に使用するプロパティウィンドウには、次の 3 種類があります。

- サーバやクラスタを新しく定義する場合は、サーバブラウザウィンドウが表示されます。
- 登録済みのサーバのパラメータを変更する場合は、プロパティの設定ウィンドウを使用します。これらの 2 種類のウィンドウについては、以下で詳しく説明します。
- システムの監視にかかわるサーバエージェントのパラメータの変更や表示には、[ASR プロパティの設定] ウィンドウを使用します。

これらの異なるウィンドウには、表示や変更の対象となるパラメータを実際に表示するダイアログである、プロパティページが含まれます。プロパティページにはさまざまな種類があり、それぞれで異なる種類のパラメータが扱われます。

これらのウィンドウにはさまざまなボタンがあります。

次に、プロパティウィンドウの詳細について説明します。

サーバブラウザ

サーバブラウザウィンドウを用いて、サーバの一覧にサーバを新しく定義することができます。新しいサーバのパラメータを定義するには、プロパティページを使用します。その後、ブラウザからサーバを選択して適用ボタンをクリックするか、サーバをサーバの一覧ウィンドウにドラッグします。

プロパティの設定

[プロパティの設定] ウィンドウは、次のように起動します。

- サーバの一覧から 1 つまたは複数のサーバを選択し、サーバのプロパティを選択する。

クラスタに属するサーバのプロパティウィンドウは、次のように起動します。

- サーバの一覧からクラスタを選択し、サーバのプロパティを選択する。

このプロパティウィンドウは、通常のプロパティウィンドウとは異なり、2 つのモードを使用できるように拡張されています。1 つ目のモードは、サーバの一覧からサーバを 1 つ選択し、マウスの右ボタンを用いてメニューで設定を指定する際に使用します。このモードの表示は、通常のプロパティウィンドウの表示と同じですが、[サーバ一覧 >>] ボタンが追加されています。このボタンを押すと、プロパティウィンドウが 2 つ目のモードに切り替わります。チェックリストには、そのグ

グループに属するすべてのサーバが表示されますが、チェックリストボックスでは、サーバの一覧から選択したサーバだけが選択されます。

2 つ目のモードは、サーバのグループや複数のサーバを選択し、[プロパティ] アクションを起動する際に使用します。その後、プロパティウィンドウには、選択したサーバまたは選択したグループに属するサーバを含むチェックボックスリストが表示されます。[サーバー一覧 <<] ボタンを押すことにより、プロパティウィンドウの 1 つ目のモードに戻ることができます。選択したグループにサブグループが含まれる場合、そのサブグループのサーバは無視されます。表示されるのは、そのグループ自体に含まれるサーバだけです。

プロパティウィンドウの右下隅に [すべて有効] ボタンがあります。このボタンを押すと、チェックリストボックスに表示されたすべてのサーバがチェックされます。すべてのサーバがチェックされると、[すべて有効] ボタンが [すべて無効] ボタンに変わります。[すべて無効] ボタンにより、サーバのすべてのチェックが解除されます。

チェックリストでは、以下の 2 つのアクションを実行できます。

- 該当するサーバの隣にあるチェックボックスをクリックすることにより、サーバをチェックできます。サーバをチェックすると、[適用] ボタンまたは [OK] ボタンを押したとき、[アクティブ] プロパティページに表示された値がそのサーバに適用されます。
- サーバをクリックすることにより、そのサーバを選択できます。これにより、選択した通常モードでその名前が表示されます。また、ユーザがこのサーバの現在の値を参照する必要があることが、プロパティページに通知されます。これらの値は、異なるサーバの値の編集や設定を行うための起点として使用できます。

複数のサーバのチェックや選択を 1 度に行うことができます (後述するシングルサーバプロパティページでの作業中を除く)。

複数のサーバを選択すると、選択した各サーバの値が比較されます。値が一致すると、その値がプロパティページのフィールドに表示されます。一致しない値があると、一致する情報だけが表示され、その他のフィールドには灰色の影が付けられます。

プロパティページの値は必要に応じて変更し、これらの値を適用するサーバをチェックすることができます。データを変更したり、サーバをチェックした場合、そのサーバ名の隣に * が表示されます。これは、そのサーバのデータが変更されたが、まだ保存されていないことを意味します。[適用] または [OK] ボタンをクリックして値を保存します。これで、チェックしたサーバに値が保存され、その名前の隣にある * が削除されます。

クラスタのプロパティウィンドウ

この機能は未サポートです。

ASR 設定

Automatic Server Recovery (ASR) 設定により、システムを監視するエージェントの値の表示や設定を実行できます。ASR 設定には、ファン制御、温度センサ制御、およびこのエリアでエラーが発生したときにシステムに通知するために使用されるコマンドが含まれます。

プロパティページの右下隅に、[有効] チェックボックスがあります。[サーバ] チェックリストボックスで選択したサーバ（1 つまたは複数）の設定が変更可能である場合は、このチェックボックスがチェックされます。選択したサーバの設定が変更不可である場合は、このチェックボックスはチェックされません。

チェックボックスが灰色である（選択できない）場合は、選択したサーバに、設定の変更ができるものとできないものがあります。



注意

すべての設定が、すべてのサーバでサポートされるわけではありません。サーバを選択し、1 つまたは複数のフィールドが "N/A" に設定されていることが確認された場合、それらのパラメータがサポートされないことを意味します。

RSB プロパティウィンドウ

リモートサービスボード（RSB）のパラメータの設定を実行できます。

このウィンドウはアクションウィンドウの [RSB] ボタンをクリックすることで開くことができます。パラメータの表示と定義についての追加情報は状況依存ヘルプを参照してください。

ボタンとその他の項目

[適用] ボタン

[適用] ボタンをクリックと、現在のプロパティページに表示された値が、チェックしたすべてのサーバに適用されます。ただし、追加設定を指定する必要がある場合でも、このウィンドウが開いたままになります。現在のページで値を変更し、次のプロパティページに移動しようとする、ページを移る前に変更した値を適用するかどうかを尋ねられます。

[キャンセル] ボタン

このボタンをクリックと、ウィンドウが閉じられ、サーバへの変更は行われません。

[すべて有効] ボタン

サーバをすべてチェックする場合、このボタンを押します。サーバをすべてチェックし、[適用] または [OK] をクリックすると、現在のプロパティページに表示された値がすべてのサーバに適用されます。すべてのサーバをチェックすると、ボタンのラベルが [すべて無効] に変わります。サーバのチェックをすべて解除する場合は、[すべて無効] をクリックします。この後 [適用] または [OK] をクリックしても、サーバの値は変わりません。

[設定] ボタン

[設定] ボタンをクリックすると、RSB の設定を行うために WEB ブラウザを起動します。設定を行う前にユーザ名とパスワードの入力が求められます。再起動設定のリストでサーバを On / Off するには、このログインデータの入力が必要です。

[OK] ボタン

[OK] ボタンを押すと、現在のプロパティページに表示された値が、チェックされているすべてのサーバに適用され、ウィンドウが閉じられます。

[サーバ一覧 >>] ボタン

Server プロパティページが表示されていないときに値の設定または参照を行っているサーバの名前を参照する場合、このボタンを押します。Server チェックリストボックスが表示されると、このボタンのラベルが Servers << になります。Servers << のラベルが付いているときにこのボタンをクリックすると、プロパティページが消えます。

サーバチェックリストボックス

このエリアでは、プロパティを参照するサーバや、プロパティを設定するサーバを指定します。

値を参照するサーバを選択し、値を設定するサーバをチェックします。

プロパティページのタイプ

各プロパティページの右上にはそのページのタイプを表すアイコンが付いています。そのタイプによって、設定可能な項目、パラメータの保持される場所、複数設定の可否などに違いがあります。

以下に各プロパティページの名前と種類を表示します。

サーバプロパティページ

サーバプロパティページでは、サーバ（場合によってはクラスタ）のパラメータを設定できます。これらのパラメータはローカル（データベース）に記憶されます。1 度に複数のサーバの値を設定できます。

シングルサーバプロパティページ

シングルサーバプロパティページでは、サーバ、および場合によってはクラスタのパラメータを設定できます。これらのパラメータはローカル（データベース）に記憶されます。ただし、各ページには 1 つのサーバにのみ有効なパラメータ（IP アドレスなど）が含まれます。このため、これらのページで 1 度に設定できるのは 1 つのサーバの値だけです。

クラスタプロパティページ

この機能は未サポートです。

新しいサーバプロパティページ

[新しいサーバ] プロパティページでは、サーバの一覧にまだ設定されていない、新しいサーバやクラスタのパラメータの表示や設定を行えます。各パラメータはローカル（データベース）に記憶されます。ただし、このページには、1つのサーバにのみ有効な、シングルサーバプロパティページのパラメータと同様のパラメータ（IP アドレスなど）が含まれます。ブラウザリストから複数のサーバを選択すると、このページのプロパティのエントリが削除され、フィールドに灰色の影が付けられます。ただし、[適用] ボタンをクリックすると、値がサーバに適用されます。

サーバスタートプロパティページ

サーバスタートプロパティページでは、サーバのパラメータの表示や設定を実行できます。これらのパラメータはサーバ（リモート）に記憶されます。各パラメータは、サーバから取得され、サーバに転送される必要があります。このタスクは、ネットワーク接続や、値の表示や設定を行うサーバの数によっては、多少時間がかかることがあります。この間に、後述するメッセージボックスが表示されます。このメッセージボックスには、このタスクをまだ完了していないサーバのリストが含まれ、必要な場合にはタスクをキャンセルできるようになっています。

すべてのサーバスタートプロパティページとシングルサーバスタートプロパティページには、ページの右下に [有効] チェックボックスが表示されます。[サーバ] チェックリストボックスで選択したサーバが設定を変更できるように構成されている場合、このチェックボックスがチェックされ、サーバの設定を変更できます。設定を変更できないように構成されている場合、このチェックボックスはチェックされず、設定を変更しようとするエラーが発生します。チェックボックスが灰色（不確定）の場合、選択したサーバに、設定を変更できるように構成されているものと変更できないように構成されているものも含まれます。

[適用] ボタンまたは [OK] ボタンをクリックすると、チェックしたサーバへのログインが試行されます。そのサーバが、パスワードなしで設定を変更できるように構成されている場合、または [サーバのログイン] プロパティページにサーバの正しいパスワードが格納され、ログインが成功している場合は、値が設定されます。サーバのログイン手順が失敗した場合、値の設定が許可される前に、そのサーバへの Login ウィンドウが表示されます。値の設定時にエラーが発生すると、メッセージボックスが現れます。

このページでは、複数のサーバの値の表示や設定を1度に行うことができます。

シングルサーバスタートプロパティページ

シングルサーバスタートプロパティページは、サーバスタートプロパティページに似ています。両者の違いは、シングルサーバスタートページには特別なサーバ設定（ファンや温度センサなど）用のパラメータが含まれることです。このため、1度値の表示や設定を行えるサーバは1つだけです。

プロパティページ

「サーバ（クラスタ）のアドレス」プロパティページ（サーバ／クラスタ／サーバブラウザ）

このプロパティページでは、サーバまたはクラスタのアドレスやアドレスのタイプを設定できます。実際の動作は、使用中のプロパティページのタイプによって異なります。

「ネットワーク / SNMP」プロパティページ（サーバ／クラスタ／サーバブラウザ）

このプロパティページでは、ネットワーク上のサーバやクラスタの操作のパラメータを設定できます。複数のコンポーネントのネットワークパラメータを1度に設定する際に使用できます。指定できる値は、[コミュニティ名（ユーザコミュニティの名前）] [ポーリング間隔] [タイムアウト値] [接続状態変更トラップ（サーバのステータスが変化したときにトラップを送信する）] および [更新間隔]（開いたウィンドウを更新する間隔）です。

「ローカルノート」プロパティページ（サーバ／クラスタ／サーバブラウザ）

このプロパティページでは、サーバやクラスタのローカルノートを編集できます。ローカルノートは、[サーバの一覧] ウィンドウでサーバを見つける際に役立ちます。[MIB からコピー] ボタンをクリックすると、エージェントから取得した MIB 情報がローカルノートに追加されます。ローカルノートが MIB 情報以外は同一である場合、その特定の場所に [MIBINFO<>] が表示されます。

「ログイン」プロパティページ（サーバ）

このプロパティページでは、サーバへの設定 / 変更の要求の送信時に使用される [ユーザ名] と [パスワード] を指定できます。

セキュリティ上の理由から、パスワードの設定を行うには、「パスワード設定」チェックボックスをチェックする必要があります。

同様に、セキュリティ上の理由から、パスワードはデータベースに保存されません。1度パスワードを設定すると、プログラムが終了するまでは有効ですが、再立ち上げすると、再度設定する必要があります。パスワードを保存しない設定にして、毎回入力を求める事も可能です。

「トラップの設定」プロパティページ（サーバ）

このプロパティページでは、指定したサーバのトラップの有効、無効を切り替える事ができます。指定したトラップを有効にすると、サーバがそのシステムでエラーを検出し、このエラーに対してトラップが定義されている場合、サーバから管理コンソールにトラップが送信されます。トラップを無効にすると、トラップは送信されません。

「TCP アプリケーション」プロパティページ (サーバ)

このプロパティページでは、TCP/IP 機器用のアプリケーションの設定をすることができます。

アプリケーションのパスとコマンドラインパラメタを参照ボタンをクリックダイアログから設定するか、編集フィールドを用い直接入力してください。

(例: DOS のコマンドラインで「ping -n 25 127.0.0.1」のように入力している場合、ping 自身もコマンドラインパラメタに含まれます)

「リモート サービス ボード」プロパティページ (サーバ/サーバブラウザ)

リモート サービス ボード (RSB) ページでは、サーバ名とセカンダリチャネルの IP アドレスを表示できます。[RSB 接続テスト] ボタンで RSB との接続をテストする事ができます。

このページは、サーバブラウザウィンドウ内にも表示されます。ここではサーバがプライマリチャネル経由で接続できない場合、サーバ名とセカンダリチャネルの IP アドレスを指定できます。サーバが再び有効になればプライマリチャネルは自動的に再入力されます。

「ファン」プロパティページ (ASR)

このプロパティページでは、ファンアクションを定義できます(「ファン」(81 ページ) 参照)。

「温度センサ」プロパティページ (ASR)

このプロパティページでは、温度センサアクションを定義できます(「温度センサ」(81 ページ) 参照)。

「再起動設定」プロパティページ (ASR)

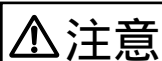
このプロパティページでは、サーバの再開始アクションを定義できます。(「再起動設定」(82 ページ) 参照)

「ポケットベル」プロパティページ (ASR)

この機能は未サポートです。

「Power ON/OFF」プロパティページ

ここでは、サーバのオン/オフ時間を曜日ごとに設定できます。これにより、たとえば週末にはサーバをシャットダウンし、月曜に再起動することができます(このオプションはすべてのサーバでサポートされるわけではありません)。

**注意**

この設定はスケジューリングを行うサーバの Bios に記憶されません。
ServerView をこのサーバからアンインストールする前には必ず、スケジューリングを無効にしてください。
有効なまま、ServerView をアンインストールしてしまうと、予期せぬ時間にサーバがシャットダウンされることがあります。

「クラスタ情報」プロパティページ（クラスタ）

この機能は未サポートです。

「バックアップ バッテリ」プロパティページ（RSB）

バックアップバッテリプロパティページでは、追加バッテリパックのステータスを表示します。[充電サイクル] ボタンは、バッテリパックを充電 / 放電を行います。

「インタフェース」プロパティページ（RSB）

インタフェースプロパティページでは、プライマリ / セカンダリチャネルの構成と電話番号設定を表示します。

再起動設定ページ（RSB）

このプロパティページではサーバの起動、シャットダウン、再起動の定義、起動ステータスの表示が行えます。サーバの電源 On、Off 処理はパスワードで保護されています。パスワードは、サーバプロパティウィンドウのログインプロパティページで定義するか、またはこのアクションを実行するたびに毎回指定できます。

**ポイント**

すべての再開始プロパティが、すべてのサーバでサポートされるわけではありません。サーバを選択し、フィールドが N/A に設定されていることが確認された場合、このパラメータがサポートされないことを意味します。

17 ServerView Linux Agent の使用方法

ServerView Linux Agent の状態表示

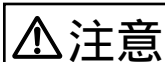
ServerView Linux Agent の状態を知りたい場合は、スーパーユーザでログインし、次のコマンドを実行します。なお、出力結果は例です。

```
# /etc/rc.d/init.d/srvmagt status
Running agents: sc bus hd mylex unix ether bios secur sta-
tus inv vv

# /etc/rc.d/init.d/eecd status
eecd (pid 2085 2084 2059 1980 1979 1978 1977 1976 1975
1974 1973 1972 1971 1967 1965 1964 1963 1962) is run-
ning...
```

ServerView Linux Agent の起動

ServerView Linux Agent は、サーバ起動時に自動的に起動されます。



注意

ServerView Linux Agent を起動する場合は、スーパーユーザでログインし、次のコマンドを実行します。

```
# /etc/rc.d/init.d/eecd start
# /etc/rc.d/init.d/srvmagt start
```

/etc/rc.d/init.d/srvmagt が起動できない場合は、SNMP サービスの状態を確認し、SNMP サービスが停止していたら起動してください。

```
# /etc/rc.d/init.d/snmpd status
# /etc/rc.d/init.d/snmpd start
```

ServerView Linux Agent の停止

ServerView Linux Agent を停止する場合は、スーパーユーザでログインし、次のコマンドを実行します。なお、出力結果は例です。

```
# /etc/rc.d/init.d/srvmagt stop
Stopping agent scagt      [ OK ]
Stopping agent busagt     [ OK ]
Stopping agent hdagt      [ OK ]
Stopping agent mylexagt   [ OK ]
Stopping agent unixagt    [ OK ]
```

```
Stopping agent etheragt [ OK ]
Stopping agent biosagt [ OK ]
Stopping agent securagt [ OK ]
Stopping agent statusagt [ OK ]
Stopping agent invagt [ OK ]
Stopping agent vvagt [ OK ]
```

```
# /etc/rc.d/init.d/eecd stop
Shutting down eecd: TERM [ OK ]
```

ServerView Linux Agent のログについて

ServerView Linux Agent 起動中のログが、/var/log に log.xxxx という名前で格納されます。

ただし、これらのログは ServerView Linux Agent を再起動するとクリアされるので注意してください。

以下に、ログの例を示します。

```
-rw-r--r-- 1 root root 194 8 月 23 13:25 /var/log/log.biosagt
-rw-r--r-- 1 root root 193 8 月 23 13:25 /var/log/log.busagt
-rw-r--r-- 1 root root 30 8 月 23 13:25 /var/log/log.eecd
-rw-r--r-- 1 root root 195 8 月 23 13:25 /var/log/log.etheragt
-rw-r--r-- 1 root root 191 8 月 23 13:25 /var/log/log.hdagt
-rw-r--r-- 1 root root 193 8 月 23 13:25 /var/log/log.invagt
-rw-r--r-- 1 root root 268 8 月 23 13:25 /var/log/log.mylexagt
-rw-r--r-- 1 root root 257 8 月 23 13:25 /var/log/log.scagt
-rw-r--r-- 1 root root 194 8 月 23 13:25 /var/log/log.securagt
-rw-r--r-- 1 root root 195 8 月 23 13:25 /var/log/log.statusagt
-rw-r--r-- 1 root root 193 8 月 23 13:25 /var/log/log.unixagt
-rw-r--r-- 1 root root 280 8 月 23 13:26 /var/log/log.vvagt
```

WebExtension/AlarmService について

ここでは、サーバ管理クライアント機能を WEB ベースで提供する WebExtension についての説明および、SNMP トラップの管理や、トラップをトリガにしたアクションを行う AlarmService について説明しています。

WebExtension/AlarmService は、Linux のみの環境を構築する場合にどれか 1 台のサーバにインストールすることにより、他のサーバの状態も監視することができます。

WebExtension/AlarmService の起動 / 停止について

WebExtension/AlarmService は、httpd サービスとして動作しますので、個別に起動 / 停止を行うことはできません。

WebExtension/AlarmService の操作方法

ブラウザを使用して、WebExtension/AlarmService をインストールした <サーバ> に下記のとおりに接続します。

```
http://<サーバの IP アドレス>/sv_www.html  
http://<サーバ名>/sv_www.html
```

WebExtension/AlarmService の操作方法については、「WebExtension ユーザーズガイド」を参照してください。

インストールされている WebExtension/AlarmService の動作確認

インストールされている WebExtension/AlarmService の動作状況は、次のコマンドを実行して確認できます。

```
# /etc/rc.d/init.d/sv_fwdserver status  
snmptrapd (pid xxxx) を実行中 ...
```

ServerView Basic には、ローカルサーバの監視に必要な重要な機能だけが備わっています。

ServerView Basic では、次の機能は使用できません。

- レポート作成のためのレポートメニュー
- しきい値管理のためのしきい値メニュー
- 外部アプリケーションを統合するための、[設定] メニューの [外部アプリケーション] コマンド
- InventoryView アプリケーションのための、タスクメニューの [InventoryView] コマンド
- デフォルト値設定のための、[設定] メニューの [デフォルトの設定] コマンド
- サーバにインストールされているオペレーティングシステムに関する情報を表示するための、[Server View] ウィンドウの [オペレーティングシステム] ボタン
- サーバに関する一般情報を表示するための、[Server View] ウィンドウの [構成情報] ボタン
- ハードディスクとコントローラに関する追加情報を表示するための、[外部記憶装置] ウィンドウの [ロジカルビュー] ボタンと [パーティションビュー] ボタン
- 使用可能なバスシステムに関する情報を出力するための、[ベースボード] ウィンドウの [バスとアダプタ] ボタン

ローカルモニタリングを行うには、対応するエージェントをローカルサーバにインストールする必要があります (「2 インストール」(7 ページ) を参照)。

1 ServerView Basic のインストール

ServerView Basic のインストール手順は、ServerView のインストール手順と同じです (「2 インストール」(7 ページ) を参照)。



ポイント

ServerView Basic または ServerView のどちらか一方を完全にインストールできますが、両方を同時にインストールすることはできません。

2 ServerView Basic の使用方法

ServerView Basic を起動するには、[スタート] [プログラム] [Fujitsu ServerView] [Fujitsu ServerView] をクリックします。



ポイント

ServerView Basic を起動できない場合は、インストールディレクトリに CTTxxxx.tmp (この場合の xxxx は、0000 ~ FFFF の間の 16 進数) という名前のファイルがないかどうかをチェックし、あれば削除してください。

ServerView Basic が起動すると、[サーバの一覧] メインウィンドウが表示されます。インストール後に初めて ServerView Basic を起動すると、ローカルサーバが自動的にサーバの一覧に追加されます。

ServerView Basic の動作と設定は、限られた機能の範囲内では ServerView と全く同じです (「3 ServerView の使用方法」(55 ページ) を参照)。

ServerView Basic を終了するには、ファイルの [終了] メニューを使用します。

1 概要

ServerView によるオプション装置の割り込み認識を行う場合は、オプション装置の割り込み情報の登録を行う必要があります。

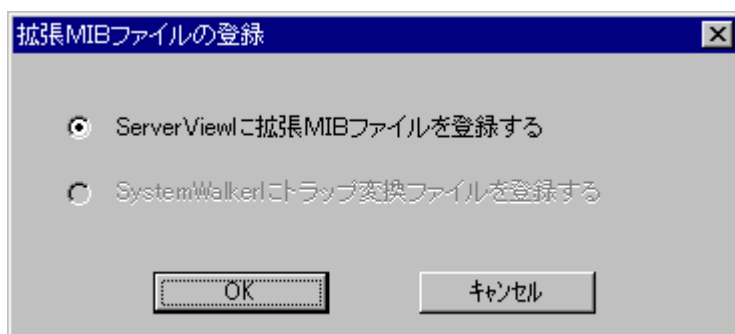
2 割り込み情報の登録処理

ServerView の監視システムに、オプション装置の割り込み情報の登録をします。以下に、監視システム（管理端末、サーバ）に割り込み情報の登録を行う操作方法を示します。

- 1 ServerView の CD-ROM から、次のプログラムを起動します。

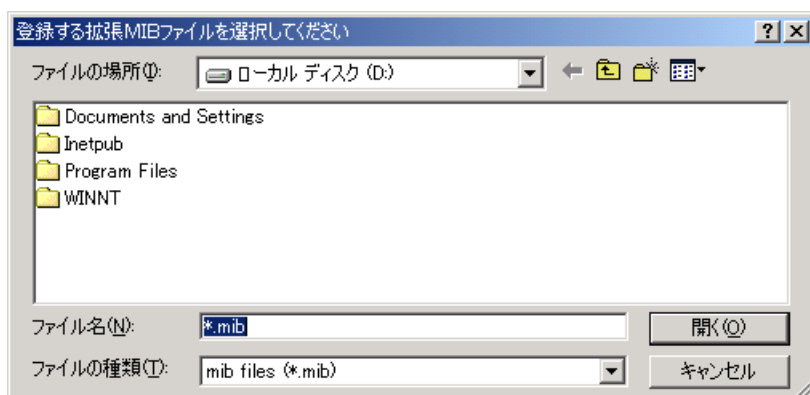
```
<CD-ROM のドライブ>:\$SVMANAGE¥Tools¥SystemWalker¥
F5FBSW01.EXE
```

割り込み情報の登録処理が起動し、[拡張 MIB ファイルの登録] ダイアログが表示されます。



- 2 [拡張 MIB ファイルの登録] ダイアログで、「ServerView に拡張 MIB ファイルを登録する」をチェックして、[OK] ボタンをクリックします。

- 3 割り込み情報 (mib ファイル) の登録元装置、およびフォルダ内のファイルを設定します。



- 4 画面の案内に従い、処理を実行します。
- 5 割り込み情報の登録が終了すると、最初の画面に戻ります。
[キャンセル] をクリックし、処理を終了します。

以上の操作で、オプション装置の割り込み情報が登録されます。

なお、監視する管理端末が複数のシステムに存在する場合には、すべての管理端末で同様の処理が必要となります。

3 オプション装置のアラーム監視

アラームサービスでは、ServerView の [サーバの一覧] ウィンドウに登録されていない IP アドレスからのアラーム (SNMP トラップ) は、不明なサーバからのアラームとして処理します。オプション装置自身が SNMP トラップによるアラームを送信する場合は、次の操作を行うことにより、アラームサービスでオプション装置からのアラームを受け取ることができます。

- 1 ServerView 管理コンソールを起動します。
[スタート] - [プログラム] - [Fujitsu ServerView] - [Fujitsu ServerView] をクリックします。
- 2 [アラーム] メニューの [設定] を選択します。
アラームサービスが起動し、[アラーム設定の開始] ウィンドウが開きます。
- 3 [共通設定] を選択して、[次へ] ボタンをクリックします。
共通設定ウィンドウが開きます。
アラーム設定の開始ウィンドウにおいて [ウィザード] を選択し、[次へ] ボタンをクリックして共通設定ウィンドウを開くこともできます。その場合、共通設定ウィンドウには [終了] ボタンは表示されずに、[次へ] / [戻る] ボタンが表示されます。
- 4 [不明なサーバを除外] のチェックマークをはずして、[適用] ボタンをクリックします。
[終了] ボタンをクリックすると、[アラーム設定の開始] ウィンドウに戻ります。



図 28 : 共通設定ウィンドウ



ポイント

オプション装置からのアラームは、アラームモニタに表示されます。
オプション装置からのアラームを受信すると、[共通設定] ウィンドウの [デフォルト アクション] で指定されたアクションを実行します。それ以外のアクションを指定することはできません。

6 LDSM 連携

ここでは、Intel LANDesk® Server Manager (LDSM) 連携について説明します。

1 LDSM 連携について

LDSM で管理されているサーバを ServerView 管理コンソールに登録する以下の手順により、LDSM で管理されているサーバを、ServerView 管理コンソールに登録することができます。

- 1 ServerView 管理コンソールのサーバブラウザウィンドウを開き、[LDSM] ラジオボタンをクリックします。
- 2 LDSM で管理されているサーバ名をリストから選択して、[適用] ボタンをクリックします。
- 3 LDSM で管理されているサーバ名が、ServerView 管理コンソールのサーバの一覧ウィンドウに登録されます。



ポイント

[自動] ラジオボタンを指定して [適用] した場合、ServerView 管理コンソールは、LDSM サーバとして認識しません。必ず、[LDSM] ラジオボタンを指定してください。

留意事項

- LDSM 連携では、LDSM V6.0 コンソールとのみ連携することができます。LDSM V2.52 以前のコンソールとの連携はできません。
- LDSM 連携を行うには、LDSM コンソールを ServerView 管理コンソールと同じ PC にあらかじめインストールしておく必要があります。
- ServerView Basic では、本機能 (LDSM 連携) は使用できません。

LDSM コンソールを ServerView 管理コンソールから起動する

以下の手順により、ServerView 管理コンソールから LDSM コンソールを起動することができます。

- 1 ServerView 管理コンソールのサーバの一覧ウィンドウから、LDSM で管理されているサーバの名前をダブルクリックします。
- 2 LDSM コンソールのユーザ名 / パスワードを入力する画面が表示されます。
詳細は、LDSM のマニュアルを参照してください。
- 3 LDSM コンソールが起動されます。

留意事項

- サーバの一覧ウィンドウで、タスクが「InventoryView」になっている場合、LDSM コンソールは起動しません。
タスクを「ServerView」に変更してください。
- LDSM で管理されていないサーバを、LDSM で管理されているサーバとして ServerView 管理コンソールに登録した場合、そのサーバ名をダブルクリックしても LDSM コンソールは起動できません。

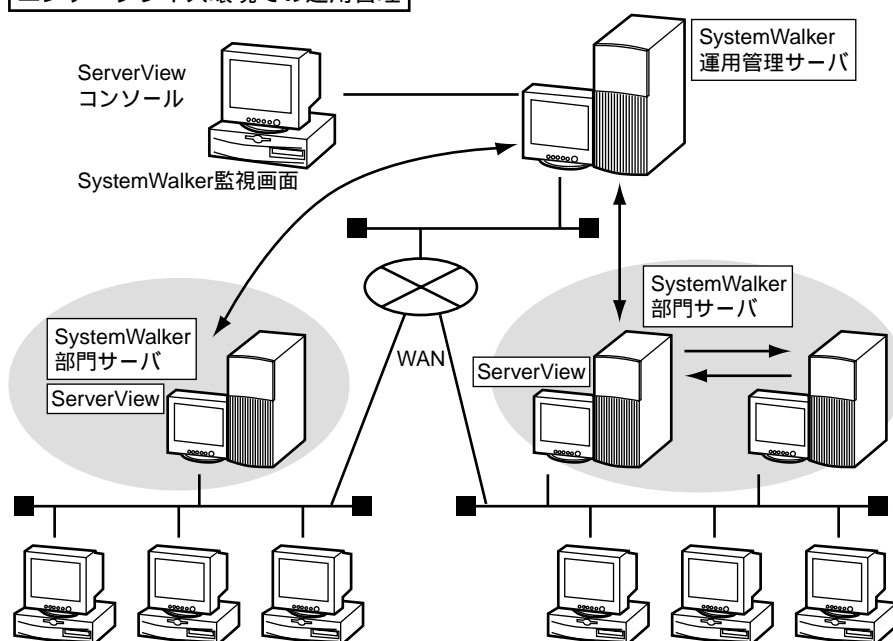
7 SystemWalker 連携

ここでは、SystemWalker 連携について説明します。

1 SystemWalker と ServerView 連携による管理

SystemWalker は、エンタープライズ環境における、システム、ネットワーク、アプリケーションなどの統合運用管理に特化されており、ServerView の連携により、各部門サーバが受信した ServerView からの異常通知を運用管理サーバへ通知することで、各部門（単一セグメント）における ServerView の被監視 PRIMERGY サーバを、エンタープライズ環境において、統合管理することができます。

エンタープライズ環境での運用管理



7

SystemWalker 連携

2 SystemWalker/CentricMGRとの連携による機能

- SystemWalker による ServerView からの Trap イベントの監視
各部門サーバが受信する ServerView から送信される Trap メッセージを、監視者が分かるようなメッセージテキストに変換して、SystemWalker の監視画面に表示できます。
- SystemWalker による、Trap イベントの絞込み監視
ServerView で受信した PRIMERGY サーバからのメッセージを、条件で絞り込んで監視できます。
- SystemWalker 画面から、ServerView 画面の起動
SystemWalker の監視画面の操作メニューから、ServerView 画面を起動することができ、異常の発生した PRIMERGY サーバに対して、即座に ServerView 画面から対処することができます。
- PRIMERGY サーバの MIB 値取得 / 拡張
PRIMERGY サーバの MIB を取得して、SystemWalker の MIB 拡張機能により、以下の MIB などを設定できます。
 - Server コントロール MIB : FAN などのデバイス、CPU 温度、サーバ管理用 MIB
 - インベントリ MIB : しきい値設定などシステム全体の状態監視用 MIB
 - HDD MIB : HDD デバイスなどの監視用 MIB
 - Trap MIB : ServerView の Trap 用 MIB
- PRIMERGY サーバの MIB を用いた MIB しきい値監視
上記で拡張された MIB を用いて、SystemWalker の MIB しきい値監視機能により、CPU の温度監視など、MIB のしきい値監視を行うことができます。

3 SystemWalker/CentricMGRとの連携手順

ServerView の SystemWalker/CentricMGR との連携では、以下の手順を行うことによって、SystemWalker によるエンタープライズ環境での統合管理を実現します。

- 1 ServerView からの SNMPTrap のメッセージテキスト変換 (NTC) 定義
- 2 手順 1 のイベントのフィルタリング定義
- 3 ServerView の操作メニューへの登録
- 4 PRIMERGY サーバアイコン設定

SNMPTrap のメッセージテキスト変換 (NTC) 定義

ServerView からの SNMP Trap を、SystemWalker 監視画面へメッセージテキストとして監視者がわかるような形で表示するためのメッセージテキスト変換定義を行います。

- 1 変換定義データのメッセージテキスト
変換定義データのメッセージテキストには、ServerView からのメッセージだと判別できるように、メッセージテキストの先頭に、「[ServerView]」のキーワードが埋め込まれています。

例：ServerView からの SNMP トラップが変換されて、表示される場合

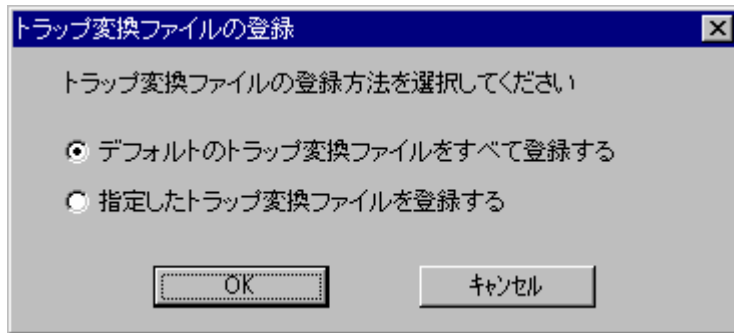
```
AP: MpApplink: ERROR: 106: [ServerView]: SMART predicts  
failure on disk .....
```

- 2 トラップ変換ファイルを SystemWalker に適用します。

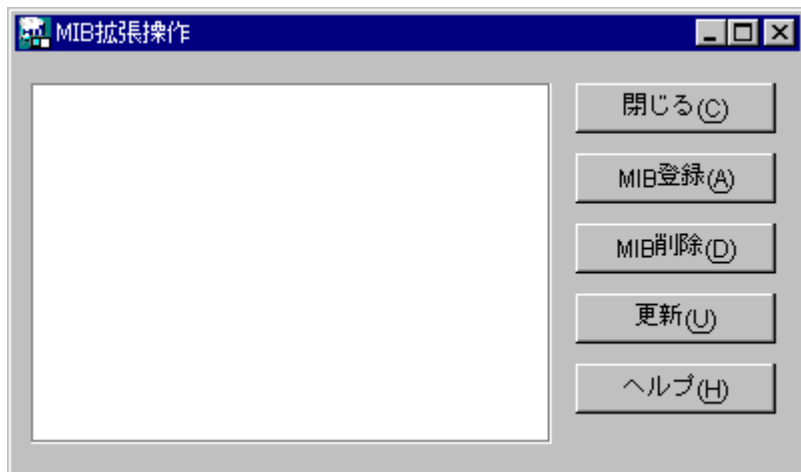
以下の変換定義適用コマンドを実行します。

```
<CD-ROM のドライブ>:¥SVMANAGE¥Tools¥  
SystemWalker¥F5FBSW01.exe
```

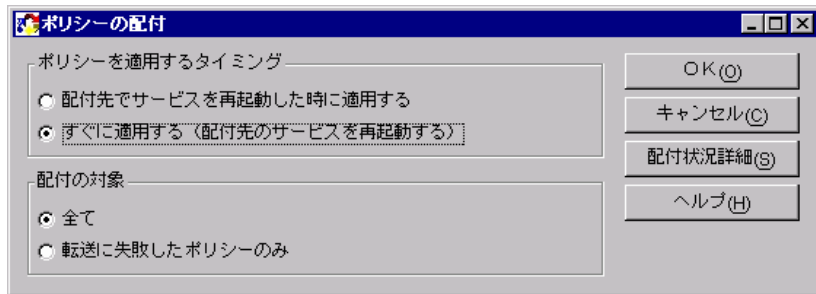
以下のダイアログより、「デフォルトのトラップ変換ファイルをすべて登録する」をチェックして、[OK] ボタンをクリックし適用操作を実行します。



- 3 Trap 変換で使用する OID をキャラクタ表記させるために、MIB 拡張操作を行います。
画面の操作メニューから、MIB 拡張操作を選択し、以下のダイアログで、登録操作を行います。
操作方法の詳細については、SystemWalker/CentricMGR のマニュアルを参照してください。
拡張 MIB ファイル格納フォルダ：SVMANAGE¥Tools¥SYSTEMWALKER¥mib

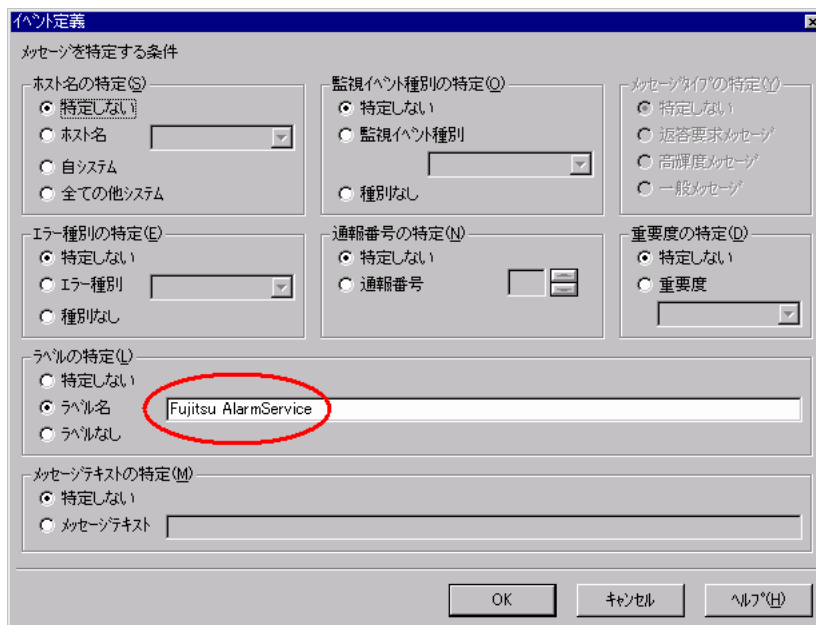


- 4 SystemWalker に適用された Trap 変換ファイルを各部門サーバ、運用管理サーバへポリシー配布を行います。
画面のポリシーメニューから、ポリシー配布を選択し、以下のダイアログで「すぐに適用する」をチェックして、OK ボタンをクリックしてポリシーを各部門サーバへ適用します。



イベントフィルタリング定義

- 1 ServerView AlarmService が格納する NT イベントログに対するフィルタリング定義を行います。
 操作方法の詳細については、SystemWalker/CentricMGR のマニュアルを参照してください。
 ポリシーメニューから、[ポリシーの定義] - [イベント] - [フォルダ] を選択します。「イベント監視の条件定義ウィンドウ」のイベントメニューから、[イベント追加]を行います。



[ラベル名の特定]において、[ラベル名]に「Fujitsu AlarmService」を指定します。

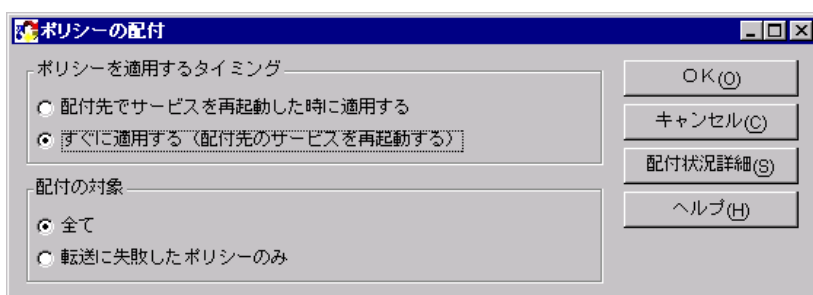
- 2 「イベント監視の条件定義ウィンドウ」のアクションメニューから [アクションの設定] - [アクション定義] を行います。



[上位システムに送信] [ログ格納] において共に「しない」を設定します。

- 3 イベントフィルタリング定義を各部門サーバ、運用管理サーバへポリシー配布を行います。

画面のポリシーメニューから、ポリシー配布を選択し、以下のダイアログで [すぐに適用する] をチェックして、[OK] ボタンをクリックしポリシーを各部門サーバへ適用します。

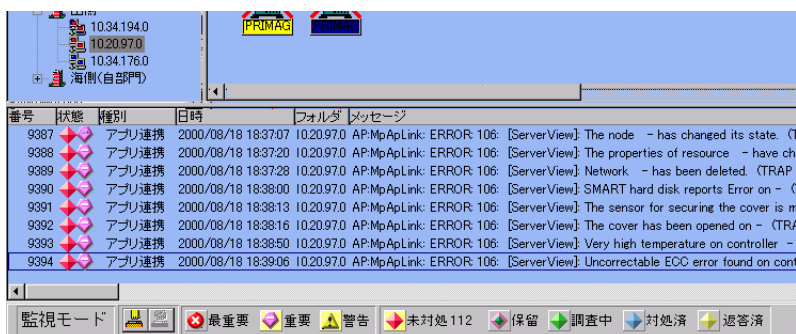


- 4 コマンドプロンプト画面より以下のコマンドを実行します。

MPMSTS ON

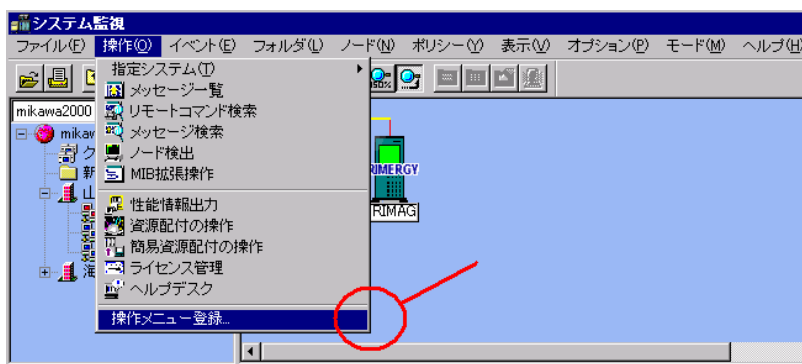


- 5 システムの再起動後 Trap イベントが正しく変換されて、監視画面に表示されるようになります。

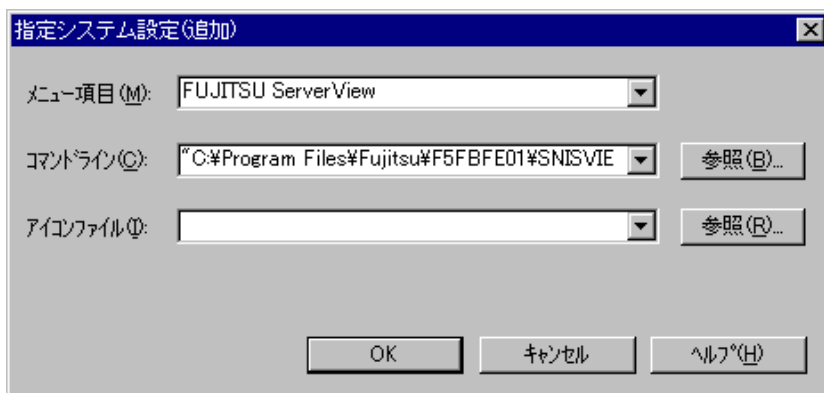


メニュー登録

- 1 SystemWalker から ServerView を起動できます。以下のように、操作メニューに ServerView コンソールプログラムを登録します。
画面の操作メニューから、操作メニュー追加を選択し、操作メニューを追加します。



メニュー項目、起動アプリを指定して、操作メニューを追加します。



上記のように、項目を「FUJITSU ServerView」
起動コマンドを「"C:\Program Files\Fujitsu\F5fbfe01\SNISVIEW.exe"」

と指定します。



ポイント

コマンドは必ず "" (ダブルクォーテーション) で括ってください。操作メニューに表示されないことがあります。

- 2 PRIMERGY サーバノードから、ServerView コンソールの起動
登録された操作メニューから、ServerView を選択して起動できるようになります。



8 UPS 管理ソフトウェア連携

ここでは、UPS 管理ソフトウェアとの連携機能について説明します。

1 UPS 管理ソフトウェア連携でできる機能

- ServerView 管理コンソールのステータスアイコン変化
UPS 管理ソフトウェアから、商用電源異常（停電など）が通知されると、ServerView 管理コンソールのステータスアイコンを変化させ、異常を知らせることができます。
- バックアップ残り時間を表示
バッテリー運用時、ServerView 管理コンソールにバックアップ残り時間を表示します。
- UPS 管理ソフトウェア（クライアントプログラム）起動
ServerView 管理コンソールの電源ビューの「UPS マネージャ」ボタンをクリックすることで、UPS 管理ソフトウェア（クライアントプログラム）を起動できます。

2 連携できる UPS 管理ソフトウェアについて

連携できる UPS 管理ソフトウェアを、以下に示します。

- NetpowerView F V4.8 以降
高機能無停電電源装置（NetpowerProtect シリーズ）を管理するソフトウェアです。

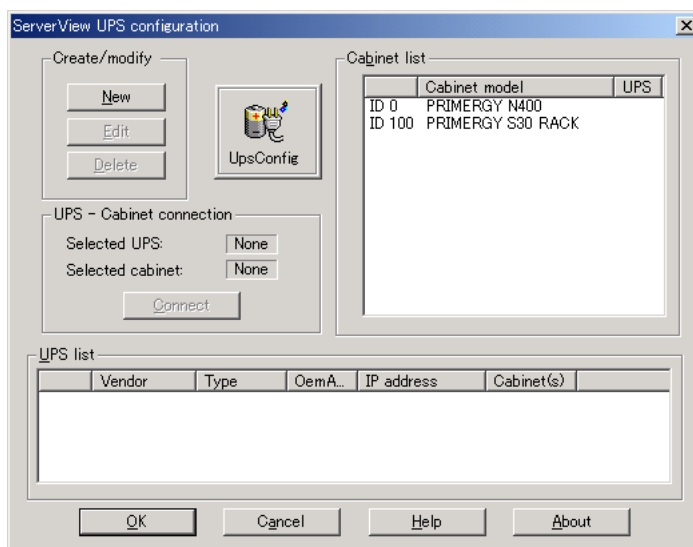
3 UPS 管理ソフトウェア連携を行うための設定について

UPS 管理ソフトウェア連携を行うためには、UPS Configuration を使用して ServerView に UPS 接続情報を設定する必要があります。

また、UPS 管理ソフトウェアを別途インストールする必要があります。

UPS 接続情報設定 (UPSCONFIGURATION)

- 1 [スタート] - [プログラム] - [Fujitsu ServerView] - [SNMP Agents] - [Ups Configuration] をクリックし、UPS Configuration を起動します。



Create / modify

- New
新規に UPS 設定を行います。
- Edit
UPS list 内の UPS 設定を変更します。
- Delete
UPS list 内の UPS 設定を削除します。

UPS - Cabinet connection

- Connect
UPS と Cabinet を接続します。
- Disconnect

UPS と Cabinet を切断します。

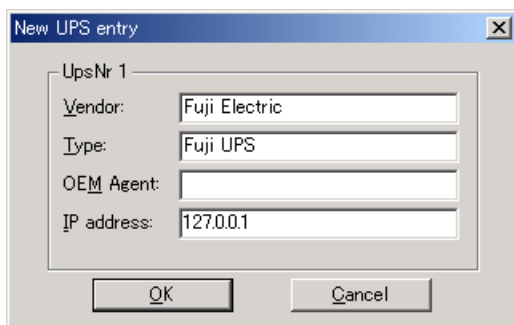
Cabinet list

ServerView で監視できる Cabinet (装置) を表示します。

UPS list

設定した UPS を表示します。

2 [New] ボタンをクリックします。



下記のとおり各設定項目を入力します。

Vendor、Type

UPS 管理ソフトウェアで指定の文字列を入力してください。
文字列については、UPS 管理ソフトウェアの取扱説明書を参照してください。

OEM Agent

入力の必要はありません。

IP Address

UPS を接続し、UPS 管理ソフトウェアが動作しているサーバの IP アドレスを入力してください。

入力終了後、[OK] ボタンをクリックしてください。

「UPS list」に設定した UPS が追加されます。

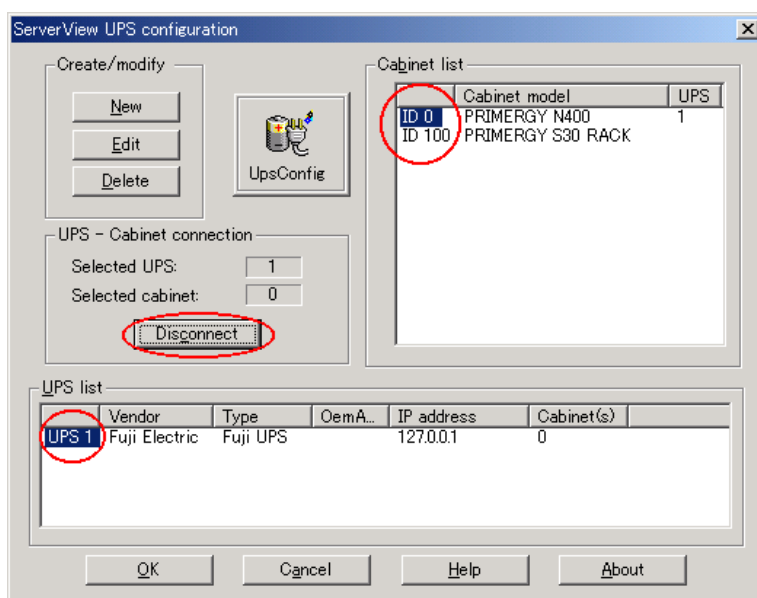
3 設定した UPS と、「Cabinet list」に表示されている装置の接続設定を行います。

これは、UPS から電源を供給されている装置を選択するものです。

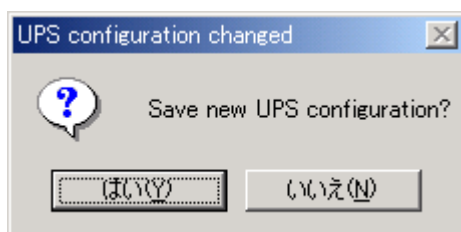
なお、UPS から電源供給されていても、「Cabinet list」に表示されていない装置は設定できません。

UPS list の「UPS x」、Cabinet list の「ID xx」を選択し、「UPS - Cabinet connection」の「Connect」ボタンをクリックします。

UPS list の「Cabinet(s)」に ID が設定されます。

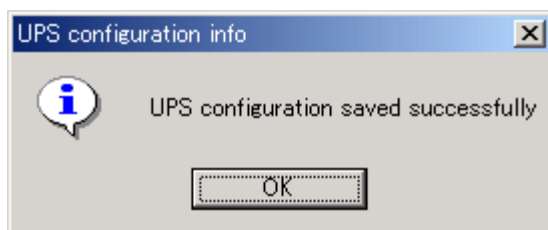


- 4 [OK] ボタンをクリックすると、以下のダイアログが表示されます。

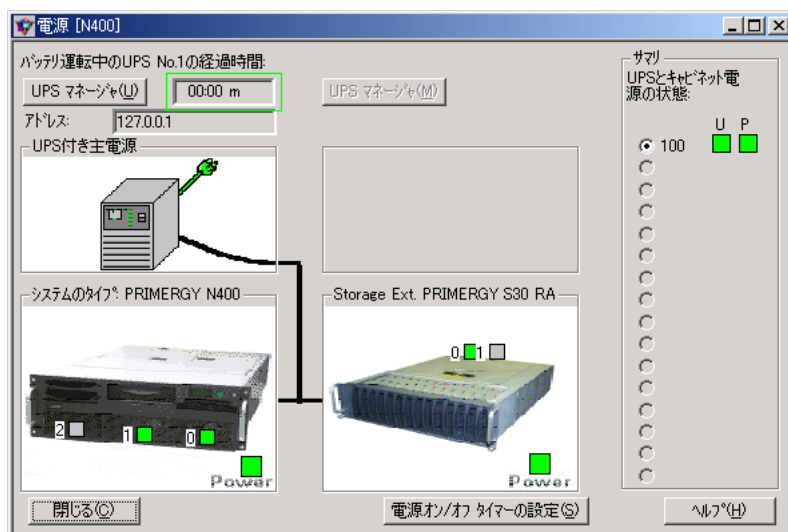


「はい」をクリックします。

- 5 以下のダイアログが表示されますので、[OK] をクリックします。



- 6 ServerView 管理コンソールの電源ビューを開くと、以下のようにUPS の図が表示されます。



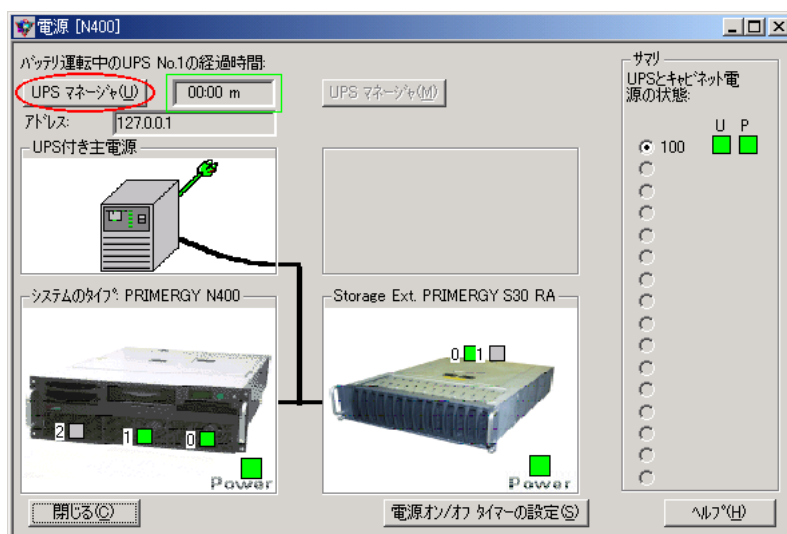
4 UPS 管理ソフトウェア（クライアントプログラム）を ServerView 管理コンソールから起動する

ServerView 管理コンソールの「電源ビュー」を開きます。

「UPS マネージャ」ボタンが、有効状態になっている場合、ボタンをクリックすると UPS 管理ソフトウェアを起動できます。

「UPS マネージャ」ボタンを有効状態にするには、サーバに対して UPS を設定し、UPS 管理ソフトウェア連携に対応したソフトウェアをインストールしてください。

（UPS の設定については、「3 UPS 管理ソフトウェア連携を行うための設定について」（154 ページ）を参照）



1 RemoteControlService の概要

RemoteControlService は、PRIMERGY サーバ向けリモートコントロール用ソフトウェアです。

RemoteControlService を使用すると、管理端末からサーバのシステム起動フェーズ (POST) にアクセスし、リモートコントロールできます。これにより、管理端末からサーバの BIOS セットアップなどを行えます。

また、管理端末にセットした MS-DOS のフロッピーディスクから、サーバ上に MS-DOS を起動し、MS-DOS 上で動作するプログラムを実行することができます。

RemoteControlService の操作は、管理端末から LAN 経由または WAN 経由で行います。

RemoteControlService とサーバの LAN 経由接続は、サーバの BIOS 拡張機能 (RomPilot または RemoteConsoleManager: 以下「RomPilot/RCM」と記述します) でサポートされています。RomPilot/RCM の機能により、サーバの POST 時における LAN 経由のリモートコントロールが実現されます。

また、サーバにリモートサービスボードを取り付けると、RemoteControlService から、LAN 経由または WAN 経由で、サーバの画面表示 / キーボード操作 (テキストモード時のみ) 、電源投入、電源切断などを行うことができます。

2 RemoteControlService の構成

RemoteControlService は次のコンポーネントから構成されています。

- RomPilot/RCM
RomPilot/RCM はサーバの BIOS 拡張機能で、サーバの POST 時の LAN ドライバをサポートします。RomPilot/RCM により、POST 時のサーバに LAN 経由でアクセスできます。
サーバにオンボード LAN がある場合、オンボード LAN ドライバはサーバに標準実装されています。
- RemoteControlService/LAN
管理端末にインストールし、サーバをリモートコントロールするソフトウェアです。

3 RemoteControlService の機能

リモートコントロール用ソフトウェアとして、RemoteControlService では次のことができます。

- リモートドライブ
管理端末にセットしたフロッピーディスク、またはイメージファイルから、サーバ上に MS-DOS を起動することができます。
- コンソールリダイレクション
サーバの POST 時に、管理端末からサーバの画面の表示、キーボード操作および再起動をリモートコントロールできます。リモートドライブでサーバ上に MS-DOS を起動した場合は、MS-DOS 動作時もリモートコントロールできます。
- Wakeup On LAN (WOL)
サーバのネットワークアダプタが WOL をサポートしていると、管理端末から LAN 経由でサーバの電源を入れることができます。サーバの WOL 機能については、サーバの取扱説明書を参照してください。
- リモートサービスボードのサポート
サーバにリモートサービスボードを取り付けると、LAN 経由または WAN 経由で、サーバの画面表示 / キーボード操作 (テキストモード時のみ)、電源投入、電源切断などを行うことができます。
また、ディスクアレイ装置にリモートサービスボードを取り付けると、LAN 経由または WAN 経由で、ディスクアレイ装置の電源投入、電源切断、状態表示などを行うことができます。
なお、以降の説明では、サーバとディスクアレイ装置を合わせて「サーバ」と記述しています。

4 システム要件

ここでは、サーバと管理端末用のハードウェアとソフトウェアの要件について説明します。

サーバ要件

ハードウェア	ソフトウェア
<ul style="list-style-type: none">LAN カード 必須 (オンボード LAN がある場合は、オンボード LAN のみ使用可)	条件なし

表 13：サーバ要件

管理端末要件

ハードウェア	ソフトウェア
<ul style="list-style-type: none">パソコン IBM PC 互換機プロセッサ Pentium® 以上メモリ 32MB 以上ハードディスク 空き領域が 25MB 以上ディスプレイ SVGA(800 × 600) 以上の解像度LAN カード 必須 (オンボード LAN でも可)マウス 必須	<ul style="list-style-type: none">OS<ul style="list-style-type: none">Microsoft Windows 2000 Professional Operating System ServicePack1 以降Microsoft Windows NT Workstation Network Operating System Version 4.0 ServicePack 6a 以降プロトコル TCP/IP が動作していることサービス SNMP が動作していること

表 14：管理端末要件

5 RomPilot の設定

RemoteControlService の RomPilot の機能を使用するには、サーバの RomPilot の設定を行う必要があります。RomPilot の設定に必要な RomPilot セットアップディスクの作成、および RomPilot の設定を以下の手順で行います。

ServerStart の場合

- 1 フォーマット済みのフロッピーディスクを 1 枚用意します。
- 2 RomPilot の設定に必要な、RomPilot セットアップディスクを作成します。
ServerView の CD-ROM 内の次のディレクトリにあるすべてのファイルを、書き込み可能なフォーマット済みのフロッピーディスクにコピーします。

<CD-ROM のドライブ>: ¥SVMANAGE¥TOOLS¥ROMPILOT¥

- 3 「ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスク」を作成します。
ServerStart CD-ROM から作成します。以下に作成方法を示します。詳細は、「PRIMERGY ソフトウェアガイド」を参照してください。
 - 1 ServerStart の CD-ROM からシステムを起動します。
 - 2 ServerStart の画面で「フロッピービルダ」をクリックします。
 - 3 「ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスクの作成」をクリックします。
メッセージに従ってサーバ本体に添付の「ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスク」をフロッピーディスクドライブに挿入します。
 - 4 以降は画面のメッセージにしたがって作業を続行します。
自動的にフォーマットされ、ファイルのコピーが開始されます。
- 4 「ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスク」をフロッピーディスクドライブにセットし、サーバ本体の電源を投入します。
- 5 「Basic(BIOS Environment Support Tools)」を選択し、[Enter] キーを押します。
- 6 作成した RomPilot セットアップディスクをサーバにセットします。
- 7 次の通り入力し、[Enter] キーを押します。

```
A:\>rompilot.bat [Enter]
```

RomPilot セットアップが起動します。

- 8 1 行目の [Enabled] 設定 (1) を選択して、RomPilot 機能を有効にします。
[Enabled] を選択しないと、他の設定は有効にはなりません。

- 9 他の設定を選択します。
(「 RomPilot セットアップでの設定」(164 ページ)を参照してください)
- 10 [F3] キーを押して設定を保存します。
- 11 [Esc] キーを押して RomPilot セットアップを終了します。

ServerWizard の場合

- 1 フォーマット済みのフロッピーディスクを 1 枚用意します。
- 2 RomPilot の設定に必要な、RomPilot セットアップディスクを作成します。
ServerView の CD-ROM 内の次のディレクトリにあるすべてのファイルを、書き込み可能なフォーマット済みのフロッピーディスクにコピーします。

<CD-ROM のドライブ>:¥SVMANAGE¥TOOLS¥ROMPILOT¥
- 3 サーバの電源を投入し、ServerWizard の CD-ROM をセットします。
電源を投入して、POST 中 (RAM モジュールのチェックなどのメッセージが表示されている間) に、CD-ROM の取出しボタン (EJECT) を押して、ServerWizard の CD-ROM をセットします。
- 4 「Basic(BIOS Environment Support Tools)」を選択し、[Enter] キーを押します。
- 5 作成した RomPilot セットアップディスクをサーバにセットします。
- 6 次の通り入力し、[Enter] キーを押します。
(ServerWizard CD-ROM で起動すると、FPD は B: ドライブになります。)

```
A:\>B: [Enter]
B:\>rompilot.bat [Enter]
```

RomPilot セットアップが起動します。

- 7 1 行目の [Enabled] 設定 (1) を選択して、RomPilot 機能を有効にします。
[Enabled] を選択しないと、他の設定は有効にはなりません。
- 8 他の設定を選択します。
(「 RomPilot セットアップでの設定」(164 ページ)を参照してください)
- 9 [F3] キーを押して設定を保存します。
- 10 [Esc] キーを押して RomPilot セットアップを終了します。

RomPilot セットアップでの設定

項目	説明
Network Driver/Slot	<p>LAN 接続の場合、ネットワークアダプタとこれに対応したドライバが必要です。スロットは、LAN 接続に使用するネットワークアダプタのスロット番号を表しています。[F2] キーを押すと、システムで利用でき、RemoteControlService でサポートされているネットワークアダプタが載ったサブメニューが表示されます。目的のアダプタを選択します。ドライバは RomPilot セットアップディスクからインストールされます。</p> <p>注：[F2] キーは、使用しないでください。オンボード LAN のドライバは、標準でインストールされています。</p>
Driver Load String	<p>ここで入力した文字列は LAN ドライバに渡されます。[F2] キーを使用して LAN ドライバをロードする場合は、デフォルトの文字列がここに入力されます。</p> <p>注：[F2] キーは、使用しないでください。オンボード LAN のドライバは、標準でインストールされています。</p>
Server Name	サーバを識別する名前。サーバ名は最大 16 ASCII 文字にできます。特殊文字も使用できます。
Local IP Address	<p>サーバに装着されている LAN アダプタの IP アドレス。使用できるのは数字だけです。</p> <p>オペレーティングシステムで使用しているのと同じ IP アドレスを使用してください。</p>
Subnet Mask	<p>サーバに装着されている LAN アダプタのサブネットマスク。使用できるのは数字だけです。</p> <p>オペレーティングシステムで使用しているのと同じサブネットマスクを使用してください。</p>
Gateway Address	<p>サーバに装着されている LAN アダプタのゲートウェイアドレス。使用できるのは数字だけです。</p> <p>オペレーティングシステムで使用しているのと同じゲートウェイアドレスを使用してください。</p>
Front End 0/1/2 IP	RemoteControlService/LAN を実行する管理端末（最大 3 つ）の IP アドレス。RomPilot はまず Front End 0 に、次に Front End 1 に、最後に Front End 2 に接続を試みます。いずれの Front End にもエントリがない場合、RomPilot に接続することはできません。
Second SNMP Port	<p>RomPilot は TCP ポート 9162 に SNMP トラップを送信します。このポートが別のアプリケーションですでに使用されている場合は、代替ポートをここで定義することができます。</p> <p>注：RemoteControlService/LAN を使用する場合、TCP ポートは 9162 に設定してください。</p>

項目	説明
Reset on lost conn.	この設定を有効にした場合、RemoteControlService/LAN に接続されます。この接続が失われると、RomPilot は自動的にサーバをリセットします。
Connect Timeout	接続待ち時間。Front End 0/1/2 IP に 2 つ以上の管理端末を指定した場合、RemPilot から Front End 0、1、2 に順次接続を試みる際の待ち時間。時間内に接続が確立されなければ、次の Front End に接続を試みます。
Password	サーバのパスワード。このパスワードは暗号化されて表示されます。RemoteControlService/LAN でサーバに接続する時に、ここで設定したパスワードを入力する必要があります。 注：RomPilot を使用するために必ず設定してください。
Confirm Password	確認のためにサーバのパスワードをもう一度入力してください。
<F1>	[F1] キーを押すと、RomPilot セットアップに関するオンラインヘルプを表示できます。
<F2>	[F2] キーを押すと、サブメニューが表示されるので、別のネットワークアダプタとドライバを選択できます。 注：RomPilot は、オンボードのみサポートしています。オンボード以外の Slot は、設定しないでください。
<F3>	[F3] キーを押すと、現在の設定が保存されます。
<ESC>	[ESC] キーを押すと、変更内容が保存されずにセットアップメニューが終了します。



ポイント

- RomPilot 機能を有効にし、設定を行うと、サーバの起動時に RomPilot から管理端末に SNMP トラップが送信されます。送信された SNMP トラップは管理端末に ServerView がインストールされていれば ServerView のアラームサービスで参照できます。また、管理端末で RemoteControlService/LAN が起動されている場合、RomPilot からの SNMP トラップを受けると、自動的にそのサーバのリモートウィンドウが開きます。
- RomPilot の設定において、設定を保存する時 ([F3] キー押下時) に、下記メッセージが表示される場合があります。

```
Network Driver/Slot inappropriate for  
detected adapter(s): Select via <F2>
```

上記メッセージが表示された場合、次の操作を実施してください。

- 1 [F2] キーを押して Select Network Driver メニューを表示します。
- 2 < / > (矢印キー) を使用して "Onbrd" を選択します。

Slot	NetworkAdapter	DriverFile
Onbrd	Intel EtherExpress PRO 10/100(+)	E100BNEU.OMF
- 3 [Enter] キーを押して Driver を設定します。
- 4 [F3] キーを押して設定を保存します。
- 5 [Esc] キーを押して RomPilot セットアップを終了します。

6 インストール／アンインストール

インストール

管理端末に RemoteControlService/LAN をインストールするには、次の操作を行います。



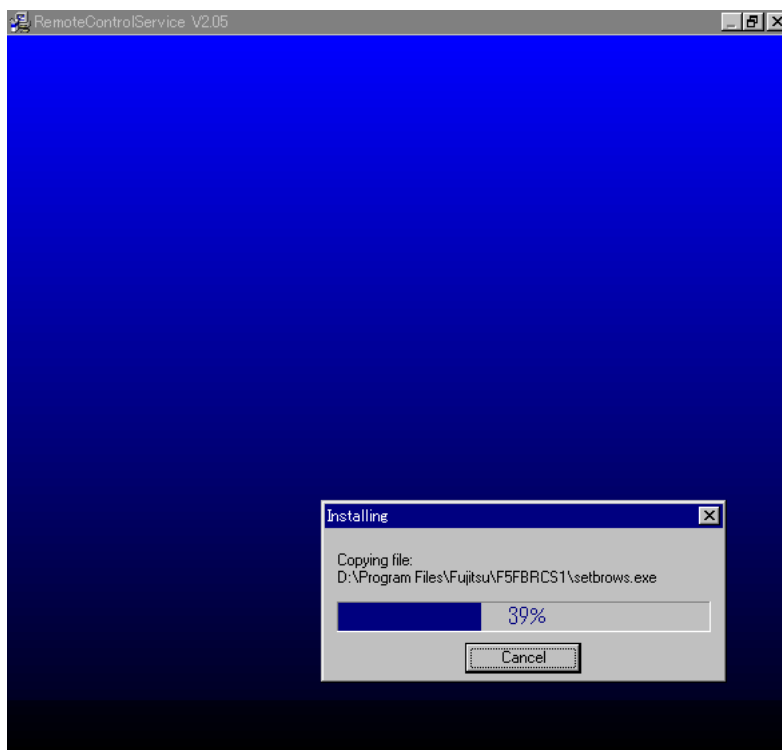
ポイント

インストール中にエラーメッセージが表示された場合は、インストールが正しく行われていません。この場合には、インストールされていないソフトウェアが正しくインストールされるように対処し、もう一度インストールし直す必要があります。

- 1 管理者または管理者と同等の権限をもつユーザ名でログインします。
- 2 実行中のアプリケーションをすべて終了させます。
- 3 ServerView の CD-ROM から、次のプログラムを起動します。

<CD-ROM のドライブ>: ¥\$VMANAGE¥JAPANESE¥RCS¥SETUP.EXE

インストール画面が表示されます。



インストールが完了すると、インストール画面が自動的に終了します。

アンインストール

管理端末から RemoteControlService/LAN をアンインストールするには、次の操作を行います。

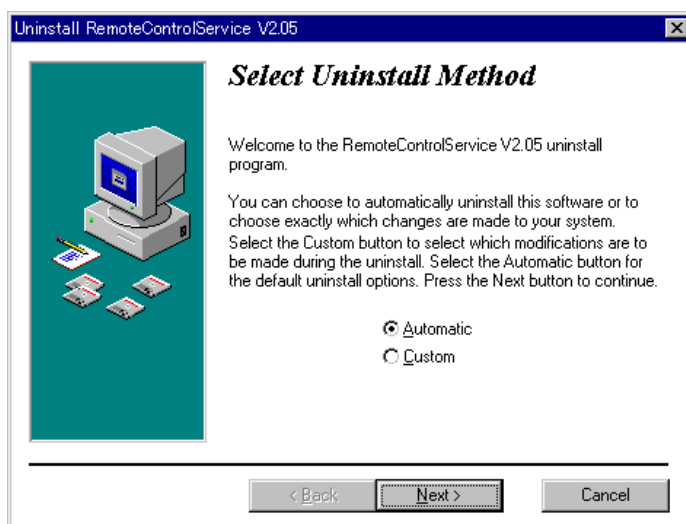


ポイント

アンインストールを行う時に、途中で処理を中断したり下記手順以外の操作を行うと、正しくアンインストールされません。アンインストールは最後まで確実に行ってください。

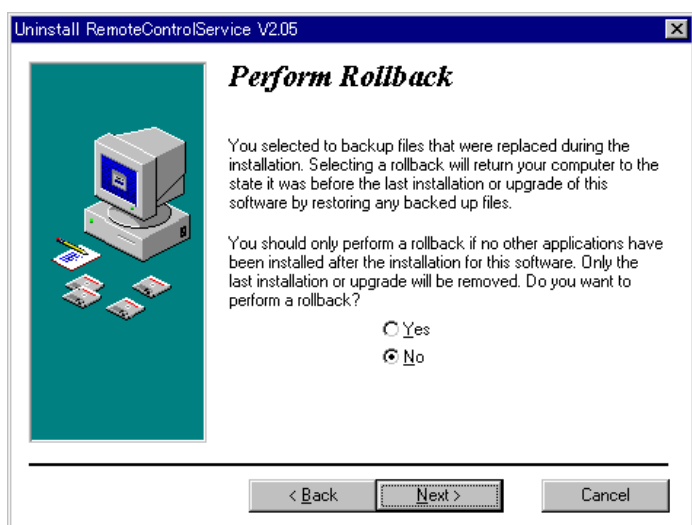
- 1 [スタートボタン] - [プログラム] - [Fujitsu RemoteControlService] - [Uninstall Fujitsu RemoteControlService] をクリックします。

次の画面が表示されます。

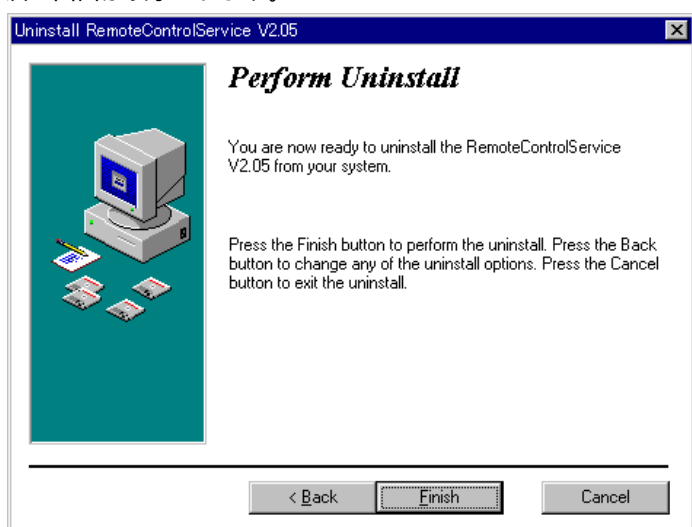


- 2 「Automatic」を選択し、[Next] をクリックします。

次の画面が表示されます。



- 3 「No」を選択し、[Next] をクリックします。
次の画面が表示されます。



- 4 [Finish] をクリックすると、アンインストールが開始されます。
アンインストールが終了すると、アンインストール画面が自動的に終了します。

7 RemoteControlService/LAN の起動と終了

起動

RemoteControlService/LAN を起動するには、[スタート] - [プログラム] - [Fujitsu RemoteControlService] - [Fujitsu RemoteControlService LAN] をクリックします。



ポイント

- 初めて RemoteControlService/LAN を起動すると、RemoteControlService/LAN データディレクトリのフルパスを入力するように求められます。



このデータディレクトリには、ヒストリファイルやメッセージログファイルなどのデータが保存されます。また、データファイルは RemoteControlService/LAN を起動したユーザごとに保存されるため、サブディレクトリ<ユーザ名>がデータディレクトリに作成されます。データディレクトリ用の標準パス名が候補として表示されますので、変更しない場合はそのまま [OK] ボタンを押してください。変更する場合はフルパス名を入力して、[OK] ボタンをクリックしてください。

[キャンセル] ボタンをクリックすると、RemoteControlService/LAN は起動されません。



ポイント

- 初めて RemoteControlService/LAN を起動すると、RemoteControlService/LAN ユーザパスワードの作成を求められます。



[OK] ボタンをクリックして、RemoteControlService/LAN ユーザパスワードを作成してください。[キャンセル] ボタンをクリックすると、RemoteControlService/LAN は起動されません。

RemoteControlService/LAN ユーザパスワードの作成方法については、「 ユーザパスワード 」 (176 ページ) を参照してください。

- RemoteControlService/LAN を起動すると、「警告：ヒストリログファイルのサイズが大きすぎます。古いログを削除してください。」というメッセージが表示されることがあります。


この場合、[OK] ボタンを押し、パスワードを入力した後、[表示] - [ヒストリログ] メニューを選択し、ログを確認してください。もし、不要なログがあれば、[削除] ボタンで削除することをお勧めします。ただし、RemoteControlService のデータディレクトリがあるディスクの空き容量に余裕がある場合は、ログを削除する必要はありません。

終了

RemoteControlService/LAN を終了するには、[ファイル] - [閉じる] を選択してください。

8 RemoteControlService/LAN の使用

ここでは、RemoteControlService/LAN のメニューおよび使用方法の概略について説明します。RemoteControlService/LAN の操作方法の詳細については、該当するオンラインヘルプを参照してください。

 **ポイント**

RemoteControlService/LAN の起動方法については、「7 RemoteControlService/LAN の起動と終了」(170 ページ) を参照してください。

RemoteControlService/LAN のメニュー

ここでは、RemoteControlService/LAN のメニューについて説明します。
RemoteControlService/LAN を起動し、メインウィンドウを開きます。
メインウィンドウでは、サーバへの接続を確立し、次のようなサーバ管理タスクを実行できます。

- サーバの追加と削除
- サーバのプロパティとデフォルト値の定義
- RemoteControlService/LAN とサーバとの接続
- サーバのリブートとリセットのオプション定義

[ファイル] メニュー

[ファイル] メニューには、次のメニュー項目があります。

メニュー項目	説明
新規 ...	新規に追加するサーバのサーバ名と IP アドレスを入力します。
開く ...	サーバリストから目的のサーバを選択し、接続を確立します。
閉じる	選択したサーバへの接続を閉じます。リモートコンソールウィンドウも閉じられます。
削除 ...	サーバリストからサーバを削除します。
プロパティ ...	サーバのプロパティ (名前、IP アドレス、デバイスアドレスなど) を設定します。
デフォルト ...	サーバプロパティのデフォルト値を定義します。
設定 ...	データディレクトリやユーザパスワードなどを設定します。
終了	RemoteControlService/LAN を終了し、サーバへの接続を閉じます。接続がアクティブな場合、接続を閉じるかどうかの確認をまず求められます。

表 15 : [ファイル] メニュー

[表示] メニュー

[表示] メニューには、次のメニュー項目があります。

メニュー項目	説明
ツールバー	画面の上部にあるツールバーの表示と非表示を切り替えます。
ステータスバー	画面の下部にあるステータスバーの表示と非表示を切り替えます。
オブジェクトサマリ	サーバリストにあるすべてのサーバの現在のステータスを表示します。
ヒストリログ	すべてのアクションが記録されているヒストリファイルを表示します。
メッセージログ	すべてのメッセージが記録されているメッセージファイルを表示します。 Telnet ウィンドウまたはリモートコンソールウィンドウが開いているときには、この項目は表示されません。

表 16 : [表示] メニュー

[リセット / リブート] メニュー

[リセット / リブート] メニューは、リモートコンソールウィンドウがアクティブになっているときにのみ表示されます。

サーバに接続すると、[リセット / リブート] メニューのメニュー項目がアクティブになります。

[リセット / リブート] メニューには、次のメニュー項目があります。

メニュー項目	説明
コールドリセット	サーバを再起動します。
リセットして診断システムの起動 (RomPilot を継続する)	RemoteControlService/ 診断システムを使用して、サーバを IDE ストレージメディアからブートします (BIOS セットアップで定義したブート順序に関係なく)。 注 : 本機能は、サポートされていません。
次回のリセットオプション	次にシステムを開始するときの設定を定義します。この項目では、リモートドライブからの次のリスタートも定義できます。
ウェイクアップ	サーバのネットワークアダプタが Wakeup On LAN (WOL) をサポートしていると、管理端末から LAN 経由でサーバの電源を入れることができます。サーバの WOL 機能については、サーバの取扱説明書を参照してください。
次回接続時に一時停止	次の接続時に、BIOS POST を一時停止します。BIOS POST を再開するには、[実行 (RomPilot をアンロードする)] を選択してください。

表 17 : [リセット / リブート] メニュー

[ウィンドウ] メニュー

サーバリストからサーバを選択すると、[ウィンドウ] メニューがアクティブになります。

[ウィンドウ] メニューには、次のメニュー項目があります。

メニュー項目	説明
重ねて表示	開いているウィンドウを重ねて表示します。
並べて表示	開いているウィンドウを並べて表示します。
アイコンの整列	アイコンを整列します。
すべて閉じる	開いているウィンドウをすべて閉じます。

表 18 : [ウィンドウ] メニュー

[ヘルプ] メニュー

[ヘルプ] メニューには、次のメニュー項目があります。

メニュー項目	説明
概要	RemoteControlService/LAN の概要
新機能	新しい機能の概要
トピックの検索	RemoteControlService/LAN のヘルプシステムを呼び出します。
ヘルプの使い方	ヘルプを使用するためのヘルプです。
RemoteControlService/LAN オンラインマニュアル	オンラインマニュアルへのリンクです。
Fujitsu と連絡をとるには	Fujitsu への連絡方法。
RemoteControlService/LAN について	使用している RemoteControlService/LAN のバージョン情報を表示します。

表 19 : [ヘルプ] メニュー

RemoteControlService/LAN のポップアップメニュー

ここでは、右クリックで開くことができる、RemoteControlService/LAN のポップアップメニューについて説明します。サーバの現在のステータスによっては、利用できないメニュー項目もあります。

メニュー項目	説明
RomPilot リモートコンソールウィンドウ	
閉じる	RomPilot リモートコンソールウィンドウを閉じます。
接続	サーバに接続します。
接続 / セットアップ	サーバに接続し、BIOS セットアップを起動します。

メニュー項目	説明
切断	サーバへの接続を切断します。リモートコンソールウィンドウは開いたままです。
ウェイクアップ	サーバのネットワークアダプタが Wakeup On LAN (WOL) をサポートしていると、管理端末から LAN 経由でサーバの電源を入れることができます。サーバの WOL 機能については、サーバの取扱説明書を参照してください。
ディスクイメージの変更	リモートドライブでブートしている場合に、フロッピー / イメージファイルを変更します。
プロパティ	目的のサーバプロパティ (名前、IP アドレス、デバイスアドレスなど) を定義します。
実行 (RomPilot を継続する)	[POST の一時停止] または [次回接続時に一時停止] により、サーバが POST 段階で一時停止した場合、[実行 (RomPilot を継続する)] を使用すると継続できます。この機能を使用するのは、サーバが診断モードで稼働している場合だけにしてください。 注：診断モードはサポートされていません。
実行 (RomPilot をアンロードする)	[POST で一時停止] または [次回接続時に一時停止] により、サーバが POST 段階で一時停止した場合、[実行 (RomPilot を継続する)] を使用すると継続できます。
直前の画面を復旧	直前に表示されていたリモートコンソールウィンドウが復旧されます。
画面の消去	[直前の画面を復旧] で表示されたリモートコンソールウィンドウをクリアします。
色の変更	リモートコンソールウィンドウの色パレットを変更します。
コールドリセット	サーバを再起動します。
リセットして診断システムを起動 (RomPilot を継続する)	RemoteControlService/ 診断システムを使用して、サーバを IDE ストレージメディアからブートします (BIOS セットアップで定義したブート順序に関係なく)。 注：本機能は、サポートされていません。
次のリセットのオプション	次にシステムを再起動するときの設定を定義します。ここでは、リモートドライブからの次の再起動も定義できます。
次回接続時に一時停止	次の接続のセットアップ時に、実行コマンドが入力されるまで BIOS POST を中断します。
RCM ウィンドウ	
閉じる	RCM ウィンドウを閉じます。
切断	サーバへの接続を切断します。 RCM ウィンドウは開いたままです。
再接続	サーバへの接続を切断し、サーバを再起動します。
プロパティ	目的のサーバプロパティ (名前、IP アドレスなど) を定義します。
直前の画面を復旧	直前に表示されていた RCM ウィンドウ画面が表示されます。
再描画	RCM ウィンドウを再描画します。

メニュー項目	説明
画面の消去	RCM ウィンドウを消去します。
コールドリセット	サーバを再起動します。 Console Redirection の設定は、Disabled に変更されます。
電源 OFF	サーバの電源を OFF します。
次回接続時 BIOS Setup に入る	次の接続時に、BIOS セットアップを起動します。 「再接続」との併用はできません。
次のリセットオプション	次にシステムを再起動するときの設定を定義します。ここでは、リモートドライブからの再起動も定義できます。
ヘルプ	オンラインヘルプを表示します。
Telnet リモートマネージャウィンドウ	
閉じる	Telnet リモートマネージャウィンドウを閉じます。
接続	サーバに接続します。
切断	サーバへの接続を切断します。
エスケープシーケンスを送出する	サーバにエスケープシーケンスを出力します。
プロパティ	サーバプロパティを定義します。

表 20：ポップアップメニュー

パスワード保護

サーバへの不正なリモートアクセスを防ぐため、RemoteControlService にはパスワード保護機能があります。RemoteControlService には、ユーザパスワードとサーバパスワードの 2 つのパスワードが必要です。

ユーザパスワード

ユーザパスワードは、RemoteControlService/LAN にログインする場合の認証に使用します。

(1) ユーザパスワードの作成

初めて RemoteControlService/LAN を開始すると、パスワードの入力と確認をするよう求められます。

- 1 [OK] をクリックします。
- 2 パスワードの入力、パスワード確認の入力後、[OK] をクリックします。

(2) ユーザパスワードの変更

ユーザパスワードを変更するには、次の手順に従います。

- 1 [ファイル] - [設定] - [ユーザパスワード] メニュー項目を選択します。
- 2 古いパスワードを入力して、[OK] をクリックします。

3 新しいパスワードを入力して、[OK] をクリックします。



ポイント

ログイン時にパスワードを指定せずに、[キャンセル] をクリックすると、新しいパスワードを入力できます。ただし、サーバリストは削除されます。

サーバパスワード

サーバパスワードは、RemoteControlService/LAN を使用してサーバの RomPilot/RCM にアクセスするために必要です。

サーバパスワードは、RomPilot セットアップまたはサーバの BIOS セットアップメニューで設定します (RomPilot セットアップの詳細については、「5 RomPilot の設定」(162 ページ) を参照してください)。

パスワードは接続の確立ごとに必要になり、サーバの POST 時で入力する必要があります。POST の時間は、サーバのハードウェア構成によって異なります。

(1) パスワードプロンプトの無効化

サーバパスワードのプロンプトを無効にすると、接続の確立ごとにサーバパスワードを改めて入力する必要がなくなります。



ポイント

RemoteControlService/LAN にサーバパスワードを保存してから、サーバパスワードプロンプトを無効にすると、サーバパスワードの入力を求められずに接続が確立されるようになります (保存方法は、「(2) RemoteControlService/LAN へのサーバパスワードの保存」(177 ページ) を参照してください)。



注意

パスワードプロンプトを無効にすると、セキュリティの危険を招く場合があることを忘れないでください。

- 1 [ファイル] - [プロパティ] を選択して表示されるサーバリストから、パスワードプロンプト無効にするサーバを選択します。
サーバとの接続が確立されている場合は、そのサーバのプロパティが表示されます。
- 2 [BIOS 拡張機能] タブをクリックします。
- 3 [接続するごとにパスワードを要求する] のチェックボックスをオフにします。

(2) RemoteControlService/LAN へのサーバパスワードの保存

サーバパスワードは、RemoteControlService/LAN に保存できます。サーバパスワードを保存し、[接続するごとにパスワードを要求する] を無効にすると、サーバへの接続の確立時にパスワードプロンプトを非表示にできます。

- 1 [ファイル] - [プロパティ] を選択して表示されるサーバリストから、パスワードを保存するサーバを選択します。
サーバとの接続が確立されている場合は、そのサーバのプロパティが表示されます。
- 2 [BIOS 拡張機能] タブをクリックし、[パスワードの入力] をクリックします。
- 3 パスワードを入力し、[OK] をクリックします。



ポイント

RomPilot セットアップ時に定義したサーバパスワードは変更されません。

リモートサーバの管理

RemoteControlService/LAN を使用してサーバをリモートで管理するには、サーバの RomPilot/RCM またはリモートサービスボード (Telnet) に接続します。

サーバの追加

サーバリストにサーバが登録されていない場合は、追加してください。

- 1 [ファイル] - [新規] を選択するか、またはツールバーにある次のアイコンをクリックします。



- 2 新しいサーバの IP アドレスを入力し、[プロパティ] をクリックします。
- 3 [共通] ページで、サーバ名を入力します。
- 4 サーバにリモートサービスボードを取り付けている場合は、[デフォルト設定を使用] のチェックをはずし、[Telnet] をチェックし、[Telnet] ページの [セカンダリ IP アドレス] に、リモートサービスボードの IP アドレスを入力し、[OK] をクリックします。

サーバのリモートウィンドウを開く

サーバリストに登録されているサーバのリモートコンソールウィンドウを開くには、次の手順に従います。

- 1 [ファイル] - [開く] を選択するか、またはツールバーにある次のアイコンをクリックします。



- 2 サーバリストから目的のサーバを選択し、[開く] をクリックします。
リモートコンソールウィンドウが開きます。



ポイント

RemoteControlService は、サーバの RomPilot/RCM またはリモートサービスボードに接続することができます。

- RomPilot に接続する場合
[ファイル] - [プロパティ] をクリックし、[共通] ページで [BIOS 拡張機能の使用 (Server)] をチェックし、[RomPilot] をチェックします。[RomPilot] ページの [UUID] と [MAC アドレス] は、RomPilot と接続すると自動的に入力されます。
- RCM に接続する場合
[ファイル] - [プロパティ] をクリックし、[共通] ページで [BIOS 拡張機能の使用 (Server)] をチェックし、[RCM] をチェックします。
- リモートサービスボードに接続する場合
[ファイル] - [プロパティ] をクリックし、[共通] ページで [デフォルト設定を使用] のチェックをはずし、[Telnet] をチェックし、[Telnet] ページの [セカンダリ IP アドレス] に、リモートサービスボードの IP アドレスを入力します。

サーバへの接続

サーバの選択が完了したら、次の手順でサーバに接続します。

- 1 リモートサービスボードに接続する場合は、リモートウィンドウで右クリックし、ポップアップメニューの [接続] を選択するか、ツールバーにある次のアイコンをクリックします。

RomPilot リモートコンソールウィンドウまたは RCM ウィンドウの接続は、サーバの POST 開始時にサーバからの SNMP トラップの送信によって開始されます。



RomPilot に接続する場合は、[接続 / セットアップ] を選択して、BIOS セットアップを起動することもできます。

- 2 RomPilot/RCM に接続した場合は、サーバパスワードを入力します (「サーバパスワード」(177 ページ) も参照してください)。
リモートサービスボードに接続した場合は、リモートサービスボードのユーザアカウントを入力します。(「リモートサービスボード (Telnet) のサポート」の「リモートサービスボードへの接続」(183 ページ) 参照)

サーバへの接続を終了する

サーバと RemoteControlService/LAN との接続を終了するには、次の手順に従います。

- 1 右クリックし、ポップアップメニューの [切断] を選択するか、ツールバーにある次のアイコンをクリックします。



サーバへの接続は閉じられますが、ウィンドウは開いたままです。

管理端末からのサーバの BIOS セットアップ

ここでは、RemoteControlService/LAN を使用し、LAN 経由でサーバの BIOS セットアップを起動する方法について説明します。



ポイント

次のシナリオを実行するには、サーバを再起動する必要があります。サーバの OS が動作している場合は、ServerView を使用して、管理端末からサーバを再起動することができます。

サーバリストにサーバが登録されていない場合は、「サーバの追加」(178 ページ)を参照してサーバを追加してください。

- 1 [ファイル] - [開く] を選択するか、またはツールバーにある次のアイコンをクリックします。



- 2 サーバリストから目的のサーバを選択し、[開く] をクリックします。
- 3 RomPilot リモートコンソールウィンドウで右クリックして、ポップアップメニューの [接続 / セットアップ] を選択するか、または RCM ウィンドウで右クリックしてポップアップメニューの [次回接続時 BIOS Setup に入る] を選択します。
- 4 サーバを起動または再起動します。
- 5 サーバパスワードを入力します。
(「サーバパスワード」(177 ページ)を参照してください)
サーバとの接続が確立されると自動的に [F2] キーの入力がサーバに送信されます。
- 6 サーバの POST 後に、サーバの BIOS セットアップが表示されます。

管理端末からのサーバのブート

ここでは、RemoteControlService/LAN による、サーバのブート動作の制御方法について説明します。



ポイント

- RemoteControlService/LAN を使用してサーバの電源を投入するには、サーバのネットワークアダプタが Wakeup On LAN (WOL) をサポートしていて、LAN 経由の電源投入が「Enabled」に設定されているか、またはサーバにリモートサービスボードが取り付けられている必要があります。サーバの WOL 機能および設定については、サーバの取扱説明書を参照してください。
- RemoteControlService/LAN からサーバの電源を投入するには、そのサーバが RemoteControlService/LAN のサーバリストに入っていて、接続が確立されたことがある必要があります。

サーバの電源投入は、以下の手順で行います。

WOL を使用する場合

- 1 [ファイル] - [開く] を選択するか、またはツールバーにある次のアイコンをクリックします。



- 2 サーバリストから目的のサーバを選択し、[開く] をクリックします。
- 3 右クリックしてポップアップメニューの [ウェイクアップ] を選択するか、または [リセット/リブート] - [ウェイクアップ] を選択します。

リモートサービスボードを使用する場合

「リモートサービスボード (Telnet) のサポート」の「サーバの保守」(185 ページ) を参照してください。

リモートドライブからのサーバのブート

RemoteControlService/LAN と RomPilot/RCM を使用すると、リモートドライブからサーバをブートすることができます。
リモートドライブとは、管理端末のフロッピーディスクまたはイメージファイルです。



ポイント

- リモートドライブからサーバをブートした場合、MS-DOS 動作時もサーバをリモートコントロールできます。
- イメージファイルは、フロッピーディスクの内容をハードディスクにコピーしたものです。
このイメージファイルは、RemoteControlService/LAN で作成できます。
([ファイル] - [プロパティ] - [リモートドライブ] - [イメージファイルの作成 / コピー])
- リモートドライブ機能を利用するには、RomPilot/RCM を使用する必要があります。
リモートサービスボードに接続しても、リモートドライブ機能は利用できません。
- RCM はフロッピーディスクからのリモートドライブはサポートしていません。
RCM でリモートドライブをご使用になるには、イメージファイルを作成して、イメージファイルから起動する設定にしてください。

リモートドライブからのサーバのブートは、次の手順で行います。

- 1 [ファイル] - [開く] を選択するか、またはツールバーにある次のアイコンをクリックします。



- 2 サーバリストから目的のサーバを選択し、[開く] をクリックします。
- 3 右クリックして、ポップアップメニューの [次回接続時に一時停止] (RCM の場合は、[次回接続時 BIOS Setup に入る]) を選択します。
- 4 サーバを起動または再起動します。
- 5 サーバパスワードを入力します。
(「サーバパスワード」(177 ページ) を参照してください。)
サーバと接続されると、自動的にサーバの POST が一時停止します。
- 6 [リセット / リブート] - [次のリセットのオプション] を選択するか、右クリックして、[次のリセットのオプション] を選択します。
- 7 [リモートドライブオプション] をクリックします。
- 8 [デフォルト設定を使用] のチェックをはずして、[フロッピー A:] または [イメージファイル] を選択し、[OK] をクリックします。
[イメージファイル] を選択した場合は、イメージファイルを入力するか、[参照] でイメージファイルを指定します。
- 9 [リモートドライブを有効にする] をチェックし、[コールドリモートブート] をクリックします。
サーバが、リモートドライブから再起動します。
- 10 サーバパスワードを入力します。

サーバは、POST 後にリモートドライブから起動します。リモートウィンドウには、リモートドライブを示す RD が表示されます。

リモートサービスボード (Telnet) のサポート

ここでは、RemoteControlService/LAN による、リモートサービスボードのサポートについて説明します。

リモートサービスボードへの接続

リモートサービスボードには、リモートマネージャと呼ばれる Telnet インタフェースがあり、RemoteControlService/LAN から接続することができます。特に Telnet を使用すると、安全なコンソールリダイレクションをテキストモードで利用できます。

リモートマネージャウィンドウでは、対象となるサーバに関する情報を確認できます。情報の中には、システム名のように、初めて ServerView エージェントを起動した後や、サーバが正しく設定された場合しか表示されないものもあります。

リモートマネージャを使用できるようにするには、リモートサービスボードのユーザアカウントでログインする必要があります。ログインすると、このイベントがイベントログに記録され、リモートマネージャのメインメニューが表示されます (「リモートマネージャメインメニュー (サーバ)」(184 ページ))。

ユーザ名とパスワードのデフォルト値は、「ユーザ名 (root)」、「パスワード (fsc)」です。ユーザ名「root」とパスワード「fsc」を入力すると、最初に今後もこのパスワードを使用するかどうかを尋ねるメッセージが表示されます。次に、リモートマネージャのメインメニューが表示されます。

[Ctrl] + [D] キーを押すと、いつでもログインプロセスを終了できます。

RemoteControlService/LAN から、リモートサービスボードへの接続は、以下の手順で行います。

- 1 [ファイル] - [プロパティ] をクリックし、サーバのプロパティウィンドウを開きます。
- 2 [共通] ページで [デフォルト設定を使用] のチェックをはずし、[Telnet] をチェックし、[Telnet] ページの [セカンダリ IP アドレス] に、リモートサービスボードの IP アドレスを入力します。
リモートサービスボードの Telnet ポート番号を変更している場合は、[デフォルト設定を使用] のチェックをはずして、[リダイレクションポート] に Telnet ポート番号を入力します。
- 3 [OK] をクリックします。
- 4 [ファイル] - [開く] をクリックし、サーバを選択し、[開く] をクリックします。
タイトルバーに「RSB」と表示された、リモートマネージャウィンドウが開きます。
- 5 右クリックして、[接続] をクリックします。
- 6 リモートサービスボードのユーザ名とパスワードを入力します。

リモートマネージャメインメニュー（サーバ）

サーバのリモートマネージャのメインメニューには、以下の項目があります。
メニューはすべて英語です。

メニュー項目	説明
Console Redirection	コンソールをリダイレクトするときに使用します。
Console History	記録されたコンソールの内容を表示するときに使用します。
Remote Maintenance	サーバの電源状態を制御するとき、リモートサービスボードのエラーログやイベントログのメッセージを確認するときに使用します。
Change password	パスワードを変更するときに使用します。
Firmware Update	ファームウェアをアップデートするときに使用します（当機能は未サポートです。また、当項目はファームウェアのバージョンに依存します）。

カッコ内の番号や文字を入力すると、メニューの項目を選択できます。ユーザに使用が許可されていない機能には（-）が表示され、利用できない機能には（*）が表示されます。

[0] キーを押すと上位メニューへ移行します。最上位メニューの場合はリモートサービスボードとの接続を切断します。

このイベントは、リモートサービスボードのイベントログに記録されます。

コンソールリダイレクション

リモートサービスボードのコンソールリダイレクションによって、サーバの画面およびキーボード操作を、リモートコンソールへリダイレクトできます。

コンソールリダイレクションによって次の操作ができます。

- POST 中の画面表示
- BIOS セットアップ
- オペレーティングシステムがクラッシュした場合には、最新の内容とまだ表示可能な画面（テキストモード）を表示し、システムを復旧する。

コンソールリダイレクションを選択すると、サーバの画面がリモートマネージャウィンドウに転送されます。キーボードから入力する内容は、サーバのキーボードコントローラに送られます。

コンソールリダイレクションは、ティルデ（~）とピリオド（.）を2秒以内に続けて入力すると終了します。

保存したコンソールの内容の表示

サーバを再起動したり画面の解像度を変更したりすると、直前の画面の内容はリモートサービスボードの2つのバッファの一方に保存されます。メニュー項目の [Console History] を選択すると、最近保存された画面の内容が表示されます。どちらかキーを押すと、もう一方のバッファに保存された画面の内容が表示されます。この表示は、コンソールリダイレクション中の画面表示と同じ内容です。もう一度どちらかキーを押すと、Remote Manager のメインメニューに戻ります。

サーバの保守

メインメニューの [Remote Maintenance...] を選択すると、以下のメニューが表示されます。

メニュー項目	説明
Immediate Power Off	オペレーティングシステムの状態に関係なく、サーバの電源を切断します。
Immediate Reset	オペレーティングシステムの状態に関係なく、サーバを再起動します。
Graceful Power Off	サーバをシャットダウンします。リモートサービスボードが、シャットダウン要求をサーバの ServerView エージェントに送信しようとします。エージェントがインストールされていないなどの理由で要求を送信できない場合は、リモートマネージャは別のダイアログに進み、オペレーティングシステムの状態に関係なくサーバをシャットダウン (Immediate Power Off) するかどうかを尋ねるメッセージを表示します。
Graceful Reset	サーバを再起動します。リモートサービスボードが、リセット要求をサーバの ServerView エージェントに送信しようとします。エージェントがインストールされていないなどの理由で要求を送信できない場合は、リモートマネージャは別のダイアログに進み、オペレーティングシステムの状態に関係なくサーバをリセット (Immediate Reset) するかどうかを尋ねるメッセージを表示します。
Power On	サーバの電源を投入します。
View Eventlog	リモートサービスボードのイベントログの内容が、時間順に (最後のエントリが先頭) 画面表示されます。
View Errorlog	リモートサービスボードのエラーログの内容が、時間順に (最後のエントリが先頭) 画面表示されます。
Clear Error/Eventlog	リモートサービスボードのエラーログとイベントログの内容を削除します。
Firmware Update	ファームウェアをアップデートするときに使用します (当機能は未サポートです。また、当項目はファームウェアのバージョンに依存します)。
Configure IP Parameters	リモートサービスボードの IP address/Subnet Mask/GateWay address を変更するときに使用します (当項目は、ファームウェアのバージョンに依存します)。

リモートマネージャメインメニュー (拡張ディスク装置)

拡張ディスク装置のリモートマネージャのメインメニューには、以下の項目があります。

メニューはすべて英語です。

メニュー項目	説明
RAID Configuration 1	当機能は使用しないでください。
RAID Configuration 2	当機能は使用しないでください。
Remote Maintenance	以下のときに使用します。 <ul style="list-style-type: none"> 拡張ディスク装置の電源状態を制御するとき エラーログやイベントログのメッセージを確認するとき ファームウェアをアップデートするときに
System Cofiguration	拡張ディスク装置のシステム構成を確認するときに使用します。
Change password	パスワードを変更するときに使用します。

カッコ内の番号や文字を入力すると、メニューの項目を選択できます。

[0] キーを押すと上位メニューへ移行します。最上位メニューの場合はリモートサービスボードとの接続を切断します。

このイベントは、リモートサービスボードのイベントログに記録されます。

RAID コンフィグレーション 1

当機能は使用しないでください。

RAID コンフィグレーション 2

当機能は使用しないでください。

拡張ディスク装置の保守

拡張ディスク装置のメインメニューの [Remote Maintenance...] を選択すると、次のメニューが表示されます。

メニュー項目	説明
Power Off	拡張ディスク装置の電源を切断します（拡張ディスク装置動作時使用禁止）。
Power On	拡張ディスク装置の電源を投入します。
View Eventlog	拡張ディスク装置リモートサービスボードのイベントログの内容が、時間順に（最後のエントリが先頭）画面表示されます。
View Errorlog	拡張ディスク装置リモートサービスボードのエラーログの内容が、時間順に（最後のエントリが先頭）画面表示されます。
Clear Error/Eventlog	拡張ディスク装置リモートサービスボードのエラーログとイベントログの内容を削除します。

メニュー項目	説明
Firmware Update	拡張ディスク装置リモートサービスボードのファームウェアを更新します（当機能は未サポートです）。
Configure IP Parameters	リモートサービスボードの IP address/Subnet Mask/GateWay address を変更するときに使用します（当項目は、ファームウェアのバージョンに依存します）。

拡張ディスク装置システム構成の確認

拡張ディスク装置のメインメニューの [System Configuration...] を選択すると、以下のメニューが表示されます。

メニュー項目	説明
Enclosure Cofiguration	拡張ディスク装置内の電源、ファン、ディスクなどのコンポーネントの数を表示します。
Power Supply	拡張ディスク装置内電源の状態を表示します。
Temperature	拡張ディスク装置内温度の状態を表示します。
Fans	拡張ディスク装置ファンの状態を表示します。
Door Lock	拡張ディスク装置ドアロックの状態を表示します。
Chassis Identification	拡張ディスク装置の筐体 ID を表示します。
Hard Disks	拡張ディスク装置内ハードディスクの状態を表示します。
Fibre Channel Port Bypass	ファイバーチャネルのバイパス状態を表示します。
Disk Array Controller	ディスクアレイコントローラの状態を表示します。
DAC-GBIC-State	GBIC Node の状態を表示します。

9 留意事項

RemoteControlService のご使用にあたり、下記の留意事項があります。

RomPilot


PomPilot 機能は、サーバに依存します。Bios 拡張機能に RomPilot がサポートされていないサーバは、RomPilot 機能は使用できません。

リモートサービスボード

- コンソールリダイレクション機能は、サーバに依存します。本機能のサポートについては、サーバ本体に添付の取扱説明書を参照してください。
- コンソールリダイレクションは、サーバの電源切断、リセット、および OS 起動時に自動的に終了します。コンソールリダイレクションが自動的に終了せず、画面が乱れた場合には、コンソールリダイレクション中のウィンドウを閉じてください。

RCM (RemoteConsoleManeger)

- RCM 機能は、サーバに依存します。BIOS 拡張機能に RCM がサポートされていないサーバは、RCM 機能は使用できません。
- RCM を使用するには、BIOS セットアップメニューにある Console Redirection の設定が必要です。この設定については、サーバ本体に添付の取扱説明書を参照してください。
- RCM の設定には、以下のことに注意してください。
 - [Console Redirection] - [Connection over] には、「Ethernet」を設定してください。
 - [Console Redirection] - [Server Name] には、RemoteControlService/LAN の [サーバ名] と同一名を設定してください。サーバ名が不一致の場合、接続時に以下のメッセージが表示され、接続できません。

Could not resolve address for host (サーバ名)
 - [Console Redirection]-[Athorization password] には、「Present」を設定してください。
- RCM の使用には、以下のことに注意してください。
 - RCM リモートコンソールウィンドウではツールバーの一時停止ボタン () はサポートしていません。
 - 意図せずに [コールドリセット (RCM を無効にする)] または [コールドブート (RCM を無効にする)] を行った場合、コンソールリダイレクションは以下の方法で有効にできます。

1 RemoteControlService を起動します。

- 2 対象サーバの OS を起動します。
- 3 ServerView を起動します。
- 4 ServerView の [アクション] 画面にある [再起動オプション] の [診断システムの起動] を選択します。
- 5 ServerView の [アクション] 画面にある [Restart] を実行します。
対象サーバがシャットダウン & 再起動処理を行います。
サーバ起動時、対象サーバは Console Redirection の接続処理を行います。
- 6 RemoteControlService で、ConsoleRedirection の接続を行います。
- 7 BIOS のセットアップユーティリティを起動します。
セットアップユーティリティは、[F2] キーで起動できます。
- 8 セットアップユーティリティの [Console Redirection] メニューにある [Console Redirection] を [Enabled] に設定します。
- 9 セットアップユーティリティの [IPMI Configuration] メニューにある [Next Boot Use] を [Boot Selection] に設定します。
- 10 セットアップユーティリティを終了します。

1 エージェントと管理コンソール

ネットワーク、システム、およびアプリケーションの管理の背後には、ネットワークコンポーネントから提供される管理情報にアクセスできるのは管理コンソールであるという基本的な考え方があります。つまり、ネットワーク、システム、およびアプリケーションに関連する情報はすべて、管理コンソールによって提供されているのです。この管理コンソールとは、通常ネットワークの1つのシステムにインストールされるソフトウェアパッケージのことです。

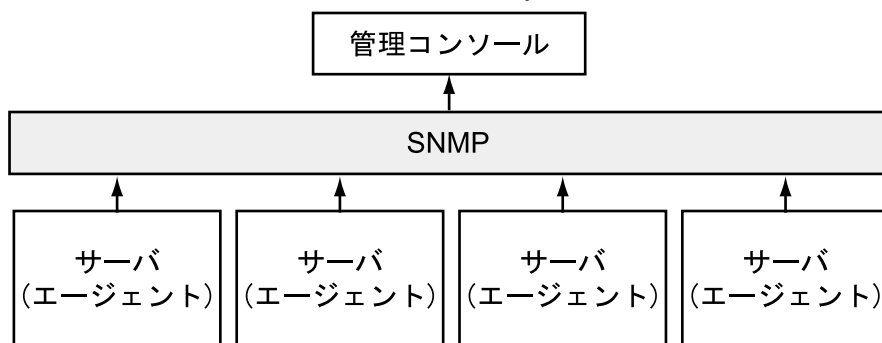


図 29 : エージェントと管理コンソール

管理コンソールとネットワークコンポーネントとの間で交換される情報は、大まかに次の2つのカテゴリに分類することができます。

- 管理コンソールがネットワークコンポーネントに送信するジョブ。たとえば、アクションの開始やシステム利用のクエリを実行する命令など。
- ネットワークコンポーネントから管理コンソールへの自発的メッセージ。たとえば、コンポーネントのステータスを管理コンソールに通知するメッセージなど。

この管理情報のレイアウトと管理情報の交換規則を正式に定義する必要があります。この定義を管理プロトコルと呼びます。SNMP (Simple Network Management Protocol) が標準の管理プロトコルです。

管理コンソールでは、このプロトコルに基づいて通信できる監視対象ネットワークコンポーネント側に、同じような機能を持つものを必要とします。この管理コンソールと同様の機能を持っているものがエージェントです。エージェントは、ローカルのリソースとコンポーネントにアクセスでき、プロトコルを使用すると情報にもアクセスできます。この管理コンソールとエージェントとの相互関係は、管理コンソールとエージェントの原則とも呼ばれます。

エージェントは、OS 依存のソフトウェアで、ネットワークのサーバすべてにインストールする必要があります。エージェントには次の特性があります。

- プログラムとしては、きわめて小さく効果的である必要がある。エージェントの存在がコンポーネントそのものに影響を与えないように、大量のシステムリソースの使用は許されていない。

- 標準機能として、管理コンソールと通信する基本的な機能を備えている。
- 管理コンソールに対しては、影響を受けるネットワークコンポーネントとそれに関係する特性の代理となる。
- ネットワークの管理コンセプトに簡単に統合できる。

2 Management Information Base

管理コンソールとエージェントとの通信では、共通の管理プロトコルの実装が必要な要件となります。また、管理コンソールとそれに対応するエージェントは、どの情報の提供および要求が可能であるか、合意していなければなりません。したがって、リソース監視用の管理モデルが一致している必要があります。

管理モデルが一致すると、管理コンソールからエージェントに送信されたジョブが、受信したエージェントによって実行できることも保証されます。逆に言えば、管理コンソールは、ネットワークの特定のイベントに関連しているエージェントからのメッセージを正しく解釈できる必要があります。

したがって、両方の通信相手が、自由に使用できる共通の情報ベースを持っている必要があります。この共通の情報ベースは、Management Information Base (MIB) とも呼ばれます。

ネットワークのどのエージェントも MIB を提供しています。その結果、MIB により該当するコンポーネントの抽象データモデルが構成されます。

MIB の特殊な面としては、エージェントが MIB から提供された特別なリソースとして動作し、MIB を使ってエージェントが自身を設定できるという側面があります。これは、たとえば、Fujitsu エージェントが個々の MIB オブジェクトのしきい値の監視に使用される場合に行われます。

MIB に含める値を記述するには、正式な記述言語である ASN.1 (Abstract Syntax Notation One) を使用します。ASN.1 は、国際標準規格 ISO 8824 および ISO 8825 で定義されています。

自分自身の担当範囲を認識するだけで済むエージェントとは反対に、管理コンソールでは、そのタスクを実行するために、ネットワーク全体の完全な情報ベースを必要とします。したがって、ネットワークでエージェントから提供されるすべての MIB ファイルが、管理コンソールシステムに存在する必要があります。

MIB 記述の次の 2 つのカテゴリが、エージェントにとって重要です。

- 国際標準化委員会によって承認された標準 MIB ファイル。たとえば、このような標準 MIB ファイルの 1 つが「MIB II」ファイルであり、インターネットのあらゆるネットワークコンポーネントでその使用が義務づけられています。MIB II ではすでにシステムとルータの管理用の適切なデータモデルが規定されています。
- メーカー独自の拡張が含まれているプライベート MIB ファイル。通常、ネットワークコンポーネントの新製品を発売するメーカーは、標準 MIB の適用範囲を超えた、コンポーネントの管理面を記述するプライベート MIB ファイルを規定しています。

3 SNMP の基本原理

ServerView プログラムでは、Simple Network Management Protocol (SNMP) を使用します。

SNMP は Internet Engineering Task Force (IETF) によって承認された標準プロトコルで、TCP/IP ネットワークの管理用に世界中で使用されています。

SNMP は RFC1157 で定義されています。ここでの説明は、ネットワークコンポーネントの監視と制御、およびエージェントの設定に関連した SNMP の概要を簡単に要約するだけにとどめます。

SNMP のデータ要素

MIB に含まれている情報の個々の部分は、MIB 独自のオブジェクトによって記述されます。各オブジェクトでは、世界中で一意的オブジェクト識別子を受け取りません。アクセスタイプも指定されます。

SNMP のプロトコル要素

情報はプロトコル要素を使用してネットワーク上を転送されます。SNMP では、管理情報に含まれている値の要求、設定、および表示に、4 つの異なるプロトコル要素を必要とします。5 つ目のプロトコル要素 (trap) を使用すると、エージェントは非同期で重要なイベントをレポートできます。

プロトコル要素	タイプ	機能
GetRequest PDU	0	管理コンソールからの MIB オブジェクト要求を読み込む
GetNextRequest PDU	1	管理コンソールからの次の MIB 要求を読み込む (エンティティ ID 別)
GetResponse PDU	2	要求された値または設定された値が含まれている内容をエージェントから応答する
SetRequest PDU	3	管理コンソールからの MIB オブジェクトの要求を書き込む
Trap PDU	4	特別なイベント発生時の非同期メッセージ

表 21 : SNMP プロトコル要素

SNMP メッセージは SNMP ヘッドと PDU (プロトコルデータ単位) で構成されます。ヘッドにはバージョン識別コードと認証チェック用のコミュニティストリングが含まれています。PDU そのものは、PDU タイプ (表を参照) と「変数のバインド」のリストです。変数のバインドとは、MIB オブジェクトに値を割り当てることです。このリストは、MIB オブジェクトの名前と割り当てられる値で構成されません。

コミュニティ

コミュニティとは、SNMP を使用して相互通信する複数のシステム（管理コンソールとエージェント）を 1 つのグループにまとめたものです。グループは、グループ用のコミュニティストリングで一意に識別されます。同じコミュニティに属するシステムのみが相互に通信可能です。1 つのシステムが複数のコミュニティに属していることもあります。管理コンソールとエージェントが相互通信する場合、このコミュニティストリングがパスワードのように使用されます。エージェントは、管理コンソールからコミュニティストリングを取得してからでなければ、エージェントシステムで情報提供はできません。この制限は、SNMP パケットごとに適用されます。

読み取り専用または読み書き可能など、実行可能なアクセスタイプは、MIB のオブジェクトごとに定義されます。管理コンソールのエージェント情報に対するアクセス権も、コミュニティストリングにバインドされます。コミュニティストリングにバインドされたアクセス権によって、MIB アクセスタイプをさらに制限できます。これらのアクセス権の拡張はできません。読み取り専用アクセス権をオブジェクトに定義するように MIB 定義で規定されている場合、コミュニティストリングが読み書きアクセス権にバインドされていたとしても、そのオブジェクトを読み書き可能で使用することはできません。

コミュニティストリングとアクセス権の使用方法を次の例で説明します。

- 例

ある SNMP エージェントが、public という名前のコミュニティに属し、読み取り専用アクセス権を持っています。public コミュニティには管理コンソールも含まれていて、この管理コンソールは public コミュニティストリングを使用して対応するメッセージを送信することにより、この SNMP エージェントからの情報を要求できます。同時に、この SNMP エージェントは、net_5 という名前の 2 つ目のコミュニティにも属しており、このコミュニティには読み書きアクセス権が関連付けられています。net_5 コミュニティには、もう 1 つ管理コンソールが含まれています。この例では、2 つ目の管理コンソール、つまり net_5 コミュニティの管理コンソールに、SNMP エージェントを介して書き込み操作を実行する権限が与えられます。

トラップ

特別なイベントがネットワークコンポーネントで発生した場合、SNMP エージェントは 1 つ以上の管理コンソールにメッセージを送信してそのイベントの発生を通知できます。このメッセージのことを SNMP ではトラップと呼んでいます。管理コンソールは、受け取ったトラップに基づいて、ネットワークで発生したイベントに対処できます。管理コンソールが SNMP トラップを受け取ったことは、コミュニティストリングでも表されます。SNMP エージェントがトラップメッセージを管理コンソールに送信する場合には、管理コンソールがメッセージを受け取るために必要なトラップのコミュニティストリングを使用する必要があります。

ServerView トラップのリストは、「付録」の「2 トラップリスト」(271 ページ)に記載されています。

Fujitsu サーバ管理

サーバ管理の背後には、管理コンソールがネットワークにあるサーバの管理情報にアクセスするという基本的な考え方があります。

この機能を実現するために、それに合わせてサーバのハードウェアとファームウェアが設計されています。

エージェントは既存情報にアクセスし、SNMP を使用して管理コンソールがその情報にアクセスできるようにします。

11 トラップ

トラップは SNMP エージェントから送信される SNMP Protocol Data Unit アラームです。これは、エラーメッセージや、選択したしきい値レベルを超えているために発生するステータスの変化などの予期しなかったイベントを管理ステーションに通知するためのものです。

トラップは、次のいずれかのアラーム重大度を持っています。

- 危険
- 重度
- 軽度
- 情報

[アラーム] - [設定] から [共通設定] ウィンドウを開いて、各サーバと各重大度に対して異なる対策を選択できます。

- ログ
イベントがデータベース表にあるアラームログリストに書き込まれます。
- ポップアップ
[アラームモニタ] ウィンドウが開きます。
- 危険アラームイベントは、ログファイルのアラームログリストに常に書き込まれます。

受信されるすべてのトラップは、アラームモニタに表示されますが、[アラームマネージャ] ウィンドウにはログファイルに書き込まれたイベントだけが表示されます。

「付録 2 トラップリスト」(271 ページ) に代表的なトラップの概要を説明します。トラップはカテゴリのアルファベット順に分類され、カテゴリ内では名前のアルファベット順に分類されています。

12 InventoryView

InventoryView は ServerView のバージョン管理タスクの機能の一つです。バージョン管理タスクとは ServerView の一部分でサーバ管理タスクとバージョン管理タスクで共通のフレームワークを使用しています。サーバ管理タスクとバージョン管理タスクでは同じサーバの一覧を共有しています。

InventoryView のメインタスクは指定されたマシンのハードウェアとソフトウェアの構成の検査です。また、InventoryView 独自のインベントリ情報取得をサポートするネットワークのすべてのサーバ上で、InventoryView 機能を実行できるようにする統合管理ツールも提供しています。このツールを使用すると、システム管理者は、InventoryView のタスクを実行する中央管理ステーションを 1 つ（または複数）定義できるようになります。この機能はサーバ管理機能と類似しているため、InventoryView は ServerView の管理コンソールに組み込まれています。ServerView と InventoryView のタスクでは、管理対象のサーバの一覧として同じものを使用します。

1 構造

InventoryView は 2 つのモジュールで構成されています。

- 管理コンソール機能は、管理端末にて動作します。インストールしたコンポーネントに関するデータをエージェントから受け取るコンポーネントで構成されています。

InventoryView では、インストールしたコンポーネントに関する情報を InventoryView SNMP エージェントから受け取ります。個々の結果は、InventoryView の更新済み表示とともにウィンドウに表示されます。

- エージェント機能は、各クライアントマシンで動作します。この機能は、各サーバのインベントリをネットワーク上で使用できるようにします。管理コンソールでは、特定サーバのこのインベントリ情報を取得し、それを評価して結果を表示します。

SNMP エージェントにより、特定マシンに関する InventoryView 情報がすべて提供されます。管理コンソールが現在ダウンしているクライアントの情報を表示できるようにするには、インベントリ情報をファイルに保存します。

InventoryView は、次のプラットフォームをサポートしています。

- Windows 2000 Server (ServicePack 1 以上)
- Windows NT 4.0 (ServicePack 6a 以上)

InventoryView は、ServerView の一部としてインストールされます。

2 サーバ管理タスクとの統合

ServerView はサーバ管理タスクとバージョン管理タスクを提供する共通の枠組です。この枠組は提供される他のコンポーネントとの統合のために開かれています。ServerView では中心となる管理対象のサーバの一覧を管理し、管理対象のサーバの追加と削除を行うことができます。サーバ管理と同様にアラーム管理にも関係があります。

タスクの選択

ServerView は、サーバ管理、およびバージョン管理の 2 つのタスクで構成されています。サーバの一覧からサーバを選択して開くと、サーバ管理のタスクが選択されているときは、ServerView ウィンドウが表示され、バージョン管理タスクが選択されているときは、InventoryView ウィンドウが表示されます。サーバ管理タスクとバージョン管理タスクは切り替えることができ、サーバ管理タスクが選択されると InventoryView ウィンドウは非表示になり、バージョン管理タスクが選択されると ServerView ウィンドウが非表示になります。

メインメニューで「表示」 - 「タスクバー」で、タスクバーの表示 / 非表示を切り替えることができます。タスクバーを非表示にしている場合は、「タスク」メニューを使用してタスクを切り替えることができます。こうすると、より広い領域を使用できます。

(1) タスクバー

タスクバーは、ServerView のメインウィンドウの左側にあります。その中にサーバ管理とバージョン管理の両方のタスクを表す画像ボタンが入っています。

(2) サーバ管理

タスクバーにあるサーバ管理ボタンを選択すると、Fujitsu ServerView のサーバ管理機能が使用可能になります。これで、メインメニューや「サーバの一覧」ウィンドウで提供される機能がサーバ管理タスクのものになります。

たとえば、ポップアップメニューから「開く」を選択するか、サーバの一覧にあるサーバをダブルクリックすると、新しい ServerView ウィンドウが開きます。

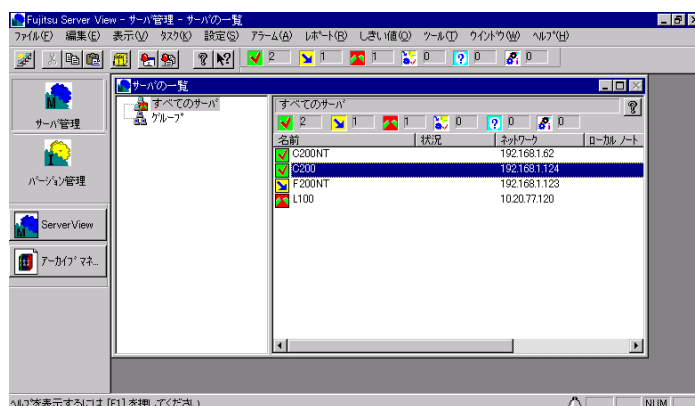


図 30：サーバの一覧ウィンドウ

(3) バージョン管理

タスクバーにあるバージョン管理ボタンを選択すると、Fujitsu ServerView のバージョン管理機能が使用可能になります。これで、メインメニューや「サーバの一覧」ウィンドウで提供される機能がバージョン管理タスクのものになります。たとえば、ポップアップメニューから「開く」を選択するか、サーバの一覧にあるサーバをダブルクリックすると、新しい InventoryView ウィンドウが開きます。

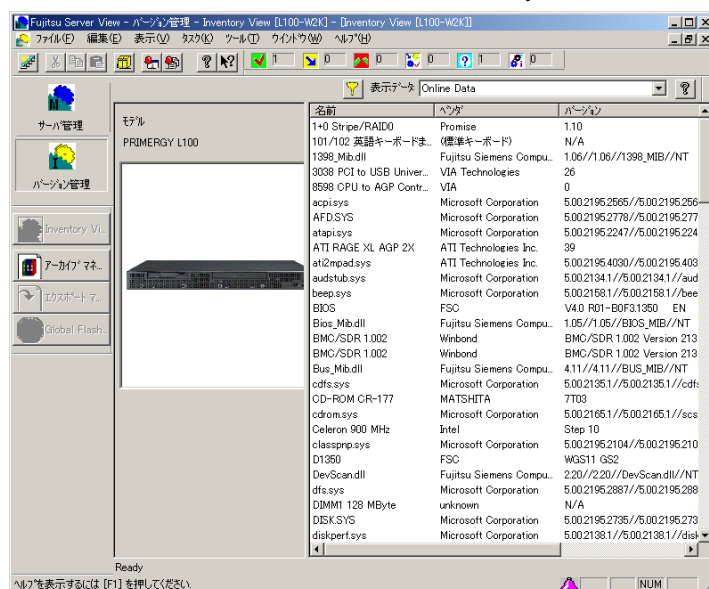


図 31：InventoryView

3 InventoryView ウィンドウ

InventoryView ウィンドウは、次の要素で構成されています。

- ウィンドウ上部のメニューバー
- 中央左側の Server アイコン
- 中央右側のコンポーネントのリスト
- ウィンドウ下部のステータスバー

InventoryView には、InventoryView SNMP エージェントによってリストアップされたコンポーネントすべてのリストが表示されます。InventoryView ウィンドウを開くと、インベントリ情報が SNMP によって取得され、(SNMP エージェントによって)検索されたコンポーネントのリストとして次の情報とともに表示されます。

- 名前列のコンポーネント名
- ベンダ列のコンポーネントのベンダ
- パージョン列のコンポーネントのパージョン
- コンポーネントタイプ列のコンポーネントのタイプ

対応する列のヘッダをクリックすると、列の値によってコンポーネントのリストをソートすることができ、マウスを使って列のヘッダの幅を変更すると列幅を変更できます。

InventoryView ウィンドウのメニューバーには、ドロップダウンリストが含まれています。このドロップダウンリストには、インベントリ情報のさまざまなソースのエントリが入っています。サーバのプロパティのアーカイブを使用すると、インベントリ情報は対応するアーカイブに書き込まれます。すると、このアーカイブをインベントリ情報のソースとして使用できます。ドロップダウンリストには次のエントリが含まれています。

- Archive Data : 選択されたサーバの各アーカイブに対するアーカイブデータの表示
- Online Data : オンラインデータの表示
- Last Data : 対応するサーバがダウンしている場合の最新データの表示
- Rescan Inventory : インベントリの再スキャン

[Online Data] が初期値で、実際のインベントリが表示されていることを意味します。ただし、確実に表示を最適化するために、Inventory View SNMP エージェントでは最後にインベントリが変更された日付が別情報として保存されます。Inventory View の管理コンソール機能では、別ファイルに実際のインベントリが格納されます。

[Online Data] を選択すると、格納されているインベントリ情報がなかったり、エージェントから取得したインベントリ情報の日付が現在のインベントリ情報の日付より新しい場合のみ、インベントリ全体が SNMP エージェントにより取得されます。選択したサーバがダウンしていて、最近格納されたインベントリデータが入っているファイルを利用できる場合は、[Last Data] のエントリが表示され、このファイ

ルのインベントリ情報が使用されます。[Rescan Inventory] のエントリでは、インベントリ情報の日付に関係なく、インベントリの完全再走査が実行されます。また、InventoryView ウィンドウのドロップダウンリストの横にあるボタンをクリックすると、表示するコンポーネントタイプの選択を行うウィンドウが表示されます。

4 エクスポート機能

バージョン管理タスクには Inventory データのエクスポート機能が有り、サーバからデータをエクスポートすることができます。

詳細は次章「エクスポートマネージャ」を参照してください。

13 エクスポートマネージャ

エクスポートマネージャは ServerView のバージョン管理タスクの機能の一つで、ServerView からデータをエクスポートし、外部メディア（例：ファイル、データベース）に保存する事ができます。

このデータはサーバで使用される、モデル名、BIOS バージョン、プロセッサタイプについての情報から構成されていて、データについて編集、評価することが可能です。

エクスポートマネージャは以下の 3 つのセクションからなる GUI（グラフィカルユーザインタフェース）でエクスポートするデータに関しての設定を行います。

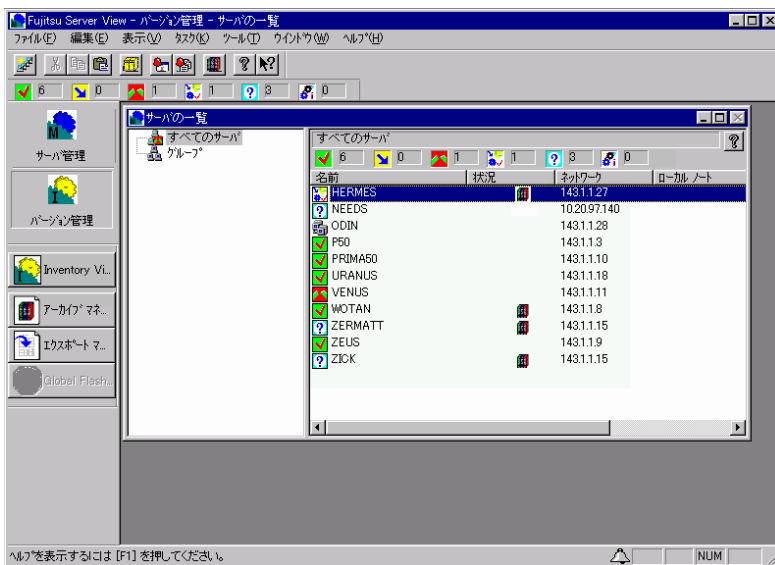
- エクスポートするデータの選択
- エクスポートするデータのフォーマットの選択
- エクスポートデータの格納場所の選択

さらに、エクスポートの進行状況の表示設定を行う事が可能です。

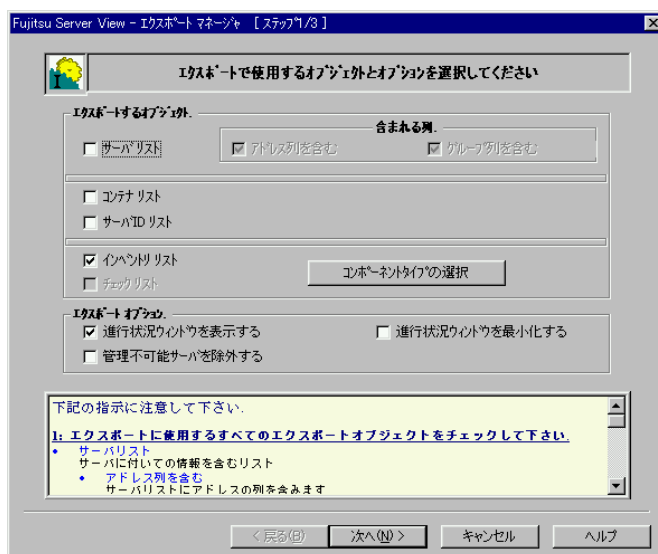
1 エクスポートマネージャの開始

以下の手順でエクスポートマネージャを開始できます。

- 1 バージョン管理ボタンをクリックし、バージョン管理コンポーネントを表示します。



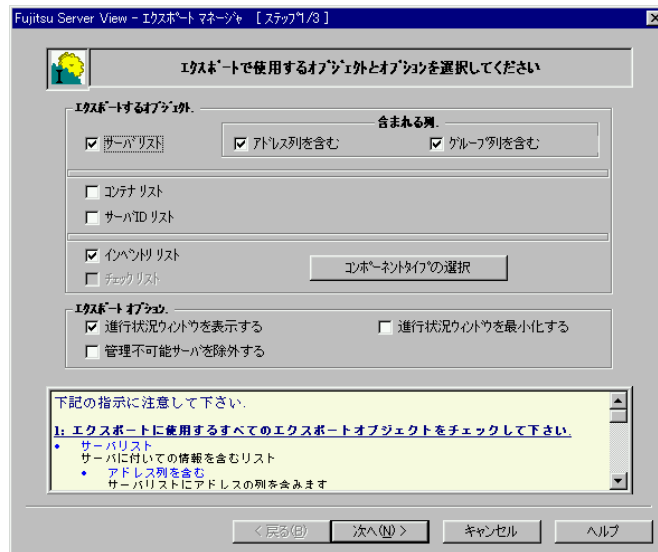
- 2 サーバの一覧ウィンドウでエクスポートを行う（複数の）サーバ、またはサーバグループを選択すると [エクスポートマネージャ] ボタンがアクティブになります。この時、すべてのサーバ、またはグループを選択した場合、サーバの一覧上のサーバすべてがエクスポートされます。
- 3 エクスポートマネージャボタンをクリックするとエクスポートマネージャの一枚目のウィンドウが表示されます。



また、[メイン]メニューの[ツール]と、サーバの一覧のプルダウンメニューからもエクスポートマネージャを開始できます。

2 エクスポートデータの定義とエクスポート操作

エクスポートマネージャの一枚目のウィンドウでは、選択した（複数の）サーバについてエクスポートするデータを定義します。さらに、進行状況の表示 / 非表示を選択できます。



サーバリスト

サーバについての情報を含むリストをエクスポートします。

アドレス列を含む

サーバのアドレスを追加エクスポートします。

グループ列を含む

サーバのアドレスを追加エクスポートします。

コンテナリスト

サーバについてのコンテナのリストをエクスポートします。

例：ベースボード、SCSI デバイス、LAN システム、サブシステムコンテナ

サーバ ID リスト

サーバ名や IP アドレスなどのサーバ ID のリストをエクスポートします。

インベントリリスト

サーバについてのすべてのインベントリデータを含むリストをエクスポートします。

進行状況ウィンドウを表示する

エクスポート作業が実行されている時、その進行状況を表示します。

進行状況ウィンドウを最小化する

進行状況ウィンドウを最小化してタスクバーに入れます。

管理不可能サーバを除外する

ServerView によって管理不可能なサーバをエクスポート作業の間除外します。インベントリリストを選択した場合、個々のコンポーネントを選択するオプションウィンドウが使用できます。[コンポーネントタイプの選択] ボタンをクリックすると追加ウィンドウが表示されます。



コンポーネントタイプリストでは、エクスポート作業で必要とするコンポーネントを選択できます。[すべて選択] / [すべて無効] ボタンはそれぞれ、すべてのコンポーネントを選択状態 / 未選択状態にします。

クラス無し

選択リストにコンポーネントタイプとしてクラス無しを含みます。

その他

選択したサーバ上で、発生する可能性はあるが、今現在選択リスト中に存在しないコンポーネントタイプをエクスポート作業に加えます。

その他は複数のサーバがサーバの一覧で選択された場合、または選択したサーバが起動していない時のみ利用可能です。

[OK] をクリックすると選択が反映され、[キャンセル] をクリックすると行った選択が無効になります。

[次へ] ボタンをクリックすると、エクスポートマネージャの次のステップに進みます。

3 エクスポートフォーマットの定義

エクスポートマネージャの2番目のウィンドウ（エクスポートマネージャ [ステップ2/3]）では、エクスポートデータで使用する出力フォーマットを定義します。



CSV [Comma Separated Values]

カンマ区切りテキストファイル（Microsoft EXCEL）

ODBC [Open Database Connectivity]

データベース（Microsoft Access / Microsoft SQL Server）

SQL [Structured Query Language]

SQL スクリプト（Microsoft SQL Server）

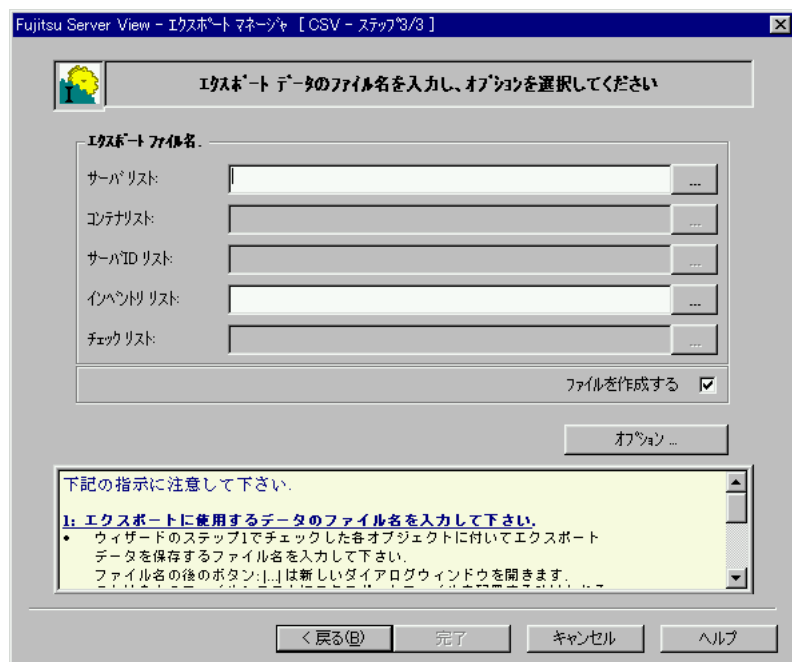
フォーマットを選択したら、[次へ] ボタンをクリックしてエクスポートマネージャの3枚目のウィンドウに移動してください。3枚目のウィンドウでは、データの格納場所を指定します。加えて追加情報の指定もあるため、フォーマットの選択により異なったウィンドウが表示されます。

4 CSV フォーマットでの保存作業の定義

13

エクスポートマネージャ

2 番目のウィンドウで CSV フォーマットを選択した場合、以下のウィンドウが表示されます。



このウィンドウでは、リストが保存されるファイルの場所を指定できます。各リストごとに別のエクスポートファイルが作成されます。1 番目のウィンドウで選択したリストについてのみ入力可能です。上図ではサーバリストとインベントリリストが入力できます。

エクスポートファイル名

エクスポートファイルに使用する名前を指定します。各リストで別のファイル名を入力します。

ファイルを作成する

ファイルを作成するを選択して指定したファイルが既に存在する場合、新しいデータが格納される前に、元のファイルの内容は削除されます。

エクスポートファイル名の入力フィールド右側の [...] ボタンをクリックすると、ファイル格納場所を選択できるダイアログボックスが表示されます。



「[保存]」ボタンをクリックするとウィンドウが閉じ、入力したファイル名がエクスポートマネージャのファイル名フィールドに入力されます。

エクスポートファイルの構造定義

[オプション] ボタンをクリックすると、区切りとテキスト区切りの設定を行う追加ウィンドウが表示されます。

区切り

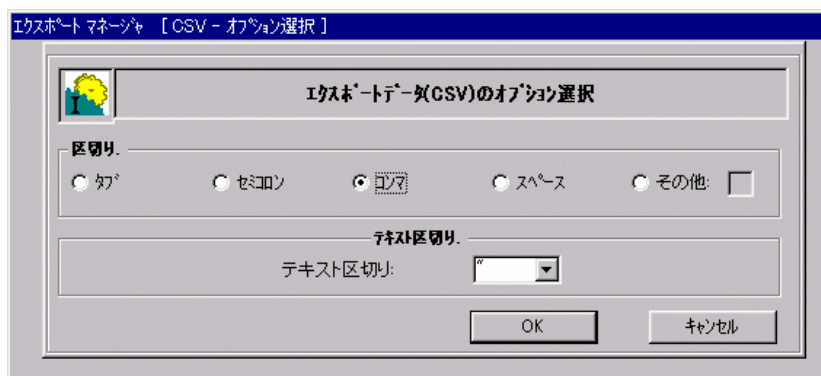
区切り文字（セパレータ）としてタブ、セミコロン、コンマ、スペースから選択するか、またはその多くの文字を使用します。初期値はコンマです。

テキスト区切り

テキスト区切り文字（デリミタ）を定義します。ダブルクォーテーション、シングルクォーテーション、無し、から選択します。初期値はダブルクォーテーションです。

5 ODBC フォーマットでの保存作業の定義

2 番目のウィンドウで ODBC フォーマットを選択した場合、以下のウィンドウが表示されます。



このウィンドウでは、リストが保存されるデータベーステーブルを指定できます。各リストごとに別のテーブルが作成されます。1 番目のウィンドウで選択したリストについてのみ入力可能です。上図ではサーバリストとインベントリリストが入力できます。

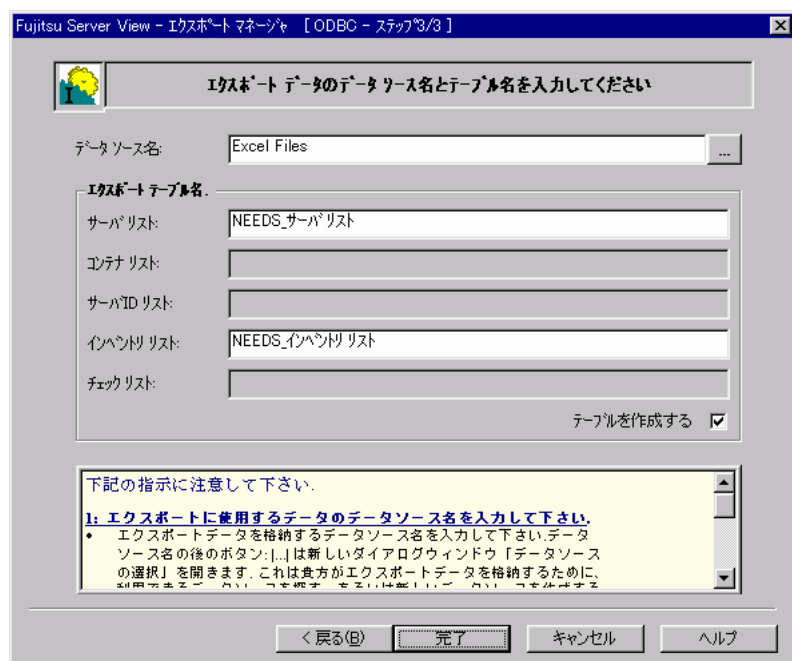
データソース名

エクスポートされたデータを、格納するデータベースの名前を指定します。

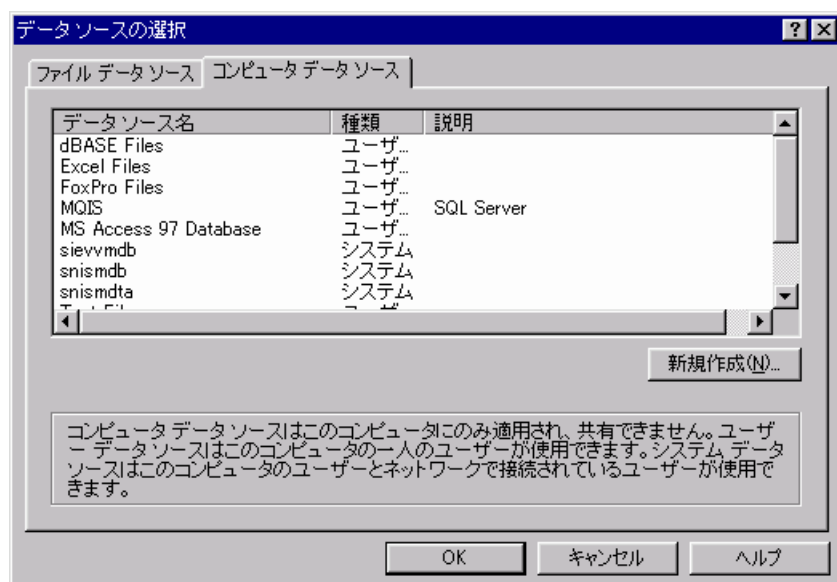
エクスポートテーブル名

エクスポートされたデータを、格納するテーブルの名前を指定します。各リストで別のテーブル名を指定します。テーブルを作成するを選択して指定したテーブルが既に存在する場合、新しいデータが格納される前に、元のテーブルの内容は削除されます。

データソース名の入力フィールド右側の [...] ボタンをクリックすると、データソースを選択できるウィンドウが表示されます。



[新規作成] ボタンをクリックした場合、「データソースの新規作成」ウィンドウが表示されます。



このウィンドウでは要求するデータソースのタイプを選択できます。

ユーザデータソース

このマシンだけで使用し、作成したユーザのみが閲覧できます。

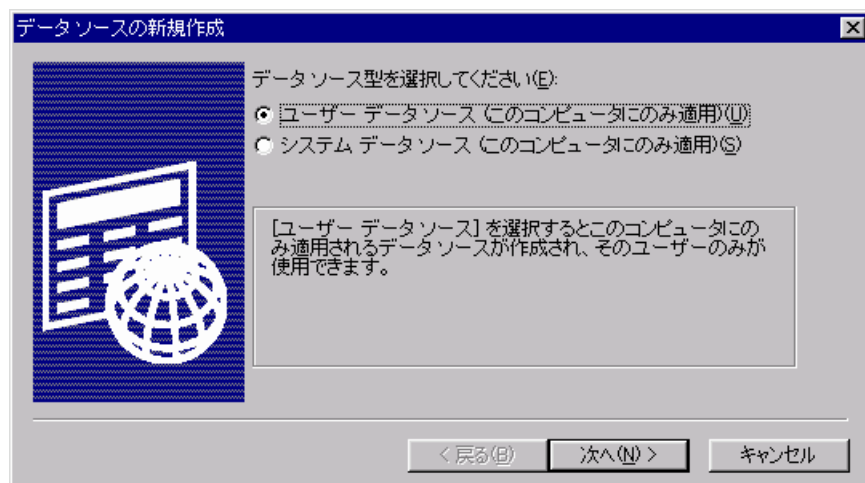
システムデータソース

このマシンのみで使用しますが、このマシンにログインしたユーザが閲覧できます。

[完了] ボタンをクリックすると、ウィンドウが閉じてデータソース名フィールドに名前が入力されます。

6 SQL フォーマットでの保存作業の定義

2 番目のウィンドウで SQL フォーマットを選択した場合、以下のウィンドウが表示されます。



このウィンドウでは、SQL スクリプトが保存されるファイルの場所を指定できます。さらに、各リストごとのテーブル名も指定します。後で SQL スクリプトをデータベースに読み込む時、この名前の下にテーブルが読み込まれます。1 番目のウィンドウで選択したリストについてのみ入力可能です。上図ではサーバリストとイベントリリストが入力できます。

ファイル名

エクスポートファイルに使用する名前を指定します。(拡張子: .sql)

ファイルを作成する

ファイルを作成するを選択して指定したファイルが既に存在する場合、新しいデータが格納される前に、元のファイルの内容は削除されます。

エクスポートテーブル名

エクスポートされたデータを格納するテーブルの名前を指定します。各リストで別のテーブル名を指定します。

テーブルを作成する

テーブルを作成するを選択し、指定したテーブルが既に存在する場合、新しいデータが格納される前に、元のテーブルの内容は削除されます。

エクスポートファイル名の入力フィールド右側の [...] ボタンをクリックすると、ファイル格納場所を選択できるダイアログボックスが表示されます。

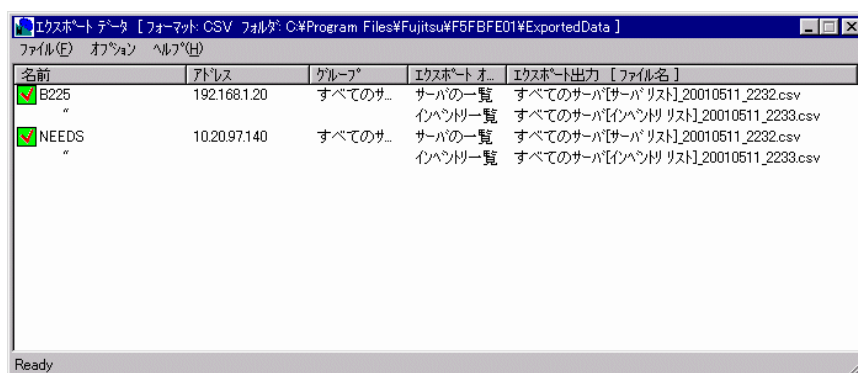


[保存] ボタンをクリックするとウィンドウが閉じ、入力したファイル名がエクスポートマネージャのファイル名フィールドに入力されます。

7 エクスポート作業の開始

エクスポート作業についてのすべての入力要求を完了すると、[完了] ボタンが実行可能になります。






1 枚目のウィンドウで [進行状況ウィンドウを表示する] を選択した場合、エクスポートデータウィンドウが開きます。



エクスポートデータウィンドウは、ServerView と同様のアイコンを用いて調査中の個々のサーバの情報を表示します。

- ステータスバーの「データの収集中です」は調査がまだ終了していない事を示し、「Ready」は調査が完了した事を示します。
- 各サーバリストの左側のアイコンは現在のデータ獲得の状態を示します。

下記の表は接続中に表示されるアイコンを示しています。

アイコン	意味
	データ収集が完全に終了しました。
	SNMP タイムアウト、またはエラーが発生しました。
	実行中ステータス。プロセス実行中のステータスは定義されていません。
	不明ステータス。サーバにアクセスできません。
	サーバに関連したエラーが発生しました。

ファイルメニュー

メニュー項目	説明
開く	エクスポートデータを表示します（「8 エクスポートデータの閲覧」（220 ページ）参照）。このメニュー項目はエクスポート作業が完了した後に有効になります。
キャンセル	エクスポート作業をキャンセルします。このメニュー項目はエクスポート作業が未完了の時のみ有効です。

オプションメニュー

メニュー項目	説明
エクスポートファイル	エクスポート作業の追加オプションを選択できるウィンドウを開きます。[保存] をクリックすると新しい設定でエクスポート作業を繰り返します（CSV フォーマットの時のみ有効です）。
デフォルトアプリケーション	エクスポートデータの表示に使用するアプリケーションを選択します（「8 エクスポートデータの閲覧」（220 ページ）参照）。

エクスポートマネージャの1枚目で「進行状況ウィンドウを表示する」を選択していなかった場合、エクスポート作業が完了するとエクスポートされたデータについての情報ウィンドウを表示します。

エクスポート作業の途中でエラーが発生した場合、エラーを検知したアプリケーションによってエラーテキストを含むウィンドウで通知されます。エラーが発生したサーバの左側のアイコンはそれに従って変更されます。エクスポート作業は直ちに中止されます。

8 エクスポートデータの閲覧

エクスポート作業が完了した時、進行状況ウィンドウのメインメニューの [ファイル] - [開く] からエクスポートデータの閲覧ができます。

[オプション] - [デフォルト アプリケーション] でエクスポートデータを閲覧するデフォルトのアプリケーションを選択する事が可能です。

ファイル拡張子に関連付けられたアプリケーションで開く

デフォルトのアプリケーションでデータを表示します。

以下で定義されたアプリケーションで開く

ユーザ定義のアプリケーションでデータを表示します。

Microsoft EXCEL ワークシートでの CSV 形式エクスポートデータの閲覧

Microsoft EXCEL ワークシートで CSV 形式エクスポートデータを閲覧するためには、次の先行条件を満たす必要があります。

- Microsoft EXCEL がインストールされている
- [オプション] - [デフォルトアプリケーション] で「ファイル拡張子に関連付けられたアプリケーションで開く」を選択する

9 エクスポートされるコンテンツの一覧

下記に、生成されるコンテンツの一覧を表示します。

サーバリスト コンテンツ：

Server_ID
IP_Address
Server_Group
Server_Name
Location
Contact
Model
Serial_Number
BIOS_Version
Number_of_Processors
Number_of_Processor_Sockets
Processor_Type
Memory_Size_MB
Cache_KB
Number_of_File_Systems
Size_of_File_Systems_MB
Largest_Available_Space_MB
Operating_System

コンテナリスト コンテンツ：

Server_ID
Time
Functional_Container_No
Functional_Container_Name
Container_Parent_No

サーバID リスト コンテンツ：

Server_ID
Time
Server_Name
IP_Address

インベントリリスト コンテンツ :

Server_ID
Time
Component_Name
Product_Number
Vendor
Version
Component_Type
Manufacturing_Date
Serial_Number
Language
Functional_Container_No
Functional_Container_Name
Physical_Container_No
Physical_Container_Name

チェックリスト コンテンツ :

Server_ID
Time
Component_Name
Product_Number
Vendor
Version
Component_Type
Manufacturing_Date
Serial_Number
Language
Update_Status
Update_Information
Systemboard_Compatibility
Missing_Required_Components
Exclusion_Information
ComponentsAddedByRequirement
Functional_Container_No
Functional_Container_Name
Physical_Container_No
Physical_Container_Name

14 リモートサービスボード

ここでは、リモートサービスボード（RSB）について説明します。

1 リモートサービスボードについて

14

リモートサービスボード

リモートサービスボードは、専用の CPU・OS・通信インタフェース・電源により、サーバの状態に依存せずに動作し、サーバを監視するハードウェア製品です。リモートサービスボードは、ServerView と連携し、以下の機能を管理者に提供します。

- サーバの状態監視（OS ハング、電源異常、温度異常、電圧異常）
- サーバ異常時の管理者への通知
- サーバ異常時の自動サーバシャットダウン
- サーバの遠隔操作（再起動、電源投入 / 切断）
- サーバのスケジュール運転

さらに、リモートサービスボードは、RemoteControlService と連携し、以下の機能を管理者に提供します。

- 管理コンソールからのサーバの POST 時の画面表示、キーボード操作

また、リモートサービスボードは、以下の通信インタフェースをサポートしています。

- LAN インタフェース
- シリアルインタフェース（モデム接続用）

また、リモートサービスボードを搭載した拡張ディスク装置では、以下の機能を提供します。

- 拡張ディスク装置の状態監視
- 拡張ディスク装置の異常時の管理者への通知
- 拡張ディスク装置の遠隔操作（電源投入 / 切断）
- 拡張ディスク装置のスケジュール運転
- 他リモートサービスボードと連携した電源制御（電源投入 / 切断）

2 ファームウェアのアップデート

リモートサービスボードを使用する場合、ファームウェアのアップデートが必要です。ファームウェアのアップデートは、ServerView CD-ROM から作成した Remote Service Board Utility を使用します。

Remote Service Board Utility のフロッピーディスクは以下の手順で作成できます。

なお、ファームウェアのアップデート方法については、リモートサービスボードに添付の取扱説明書を参照してください。

OS が Windows NT または Windows 2000 の場合

- 1 フォーマット済みのフロッピーディスク (2HD) を 1 枚用意します。
- 2 ServerView の CD-ROM 内の次のディレクトリにあるすべてのファイルをフロッピーディスクにコピーします。

```
<CD-ROM のドライブ>:¥Svmanage¥Tools¥RSBFlash
```

- 3 スタートメニューから、コマンドプロンプト画面を表示します。

[Windows NT の場合]

[スタート] - [プログラム] - [コマンドプロンプト] をクリックします。

[Windows 2000 の場合]

[スタート] - [プログラム] - [アクセサリ] - [コマンドプロンプト] をクリックします。

- 4 コマンドプロンプト画面で、ファイルの権限を変更します。
次のコマンドを実行します。

```
> a: [Enter]  
> abset [Enter]
```

- 5 フロッピーディスクを取り外し、書き込み禁止状態にします。

OS が Linux の場合

- 1 フロッピーディスク (2HD) を 1 枚用意します。
- 2 スーパーユーザでログインします。
- 3 フロッピーディスクをフォーマットします。
フロッピーディスクをドライブにセットし、次のコマンドを実行します。

```
# fdformat /dev/fd0h1440  
# mkfs -t msdos /dev/fd0h1440
```

- 4 フロッピーディスクをマウントします。

次のコマンドを実行します。

```
# mount -t vfat /dev/fd0 /mnt/floppy/
```

5 ServerView の CD-ROM をマウントします。

ServerView の CD-ROM をドライブにセットし、次のコマンドを実行します。

```
# mount /mnt/cdrom/
```



ポイント

特定のアプリケーションがインストールされている場合には、CD-ROM 挿入と同時に自動的にマウントされます。

6 CD-ROM 内のユーティリティのディレクトリに移動します。

次のコマンドを実行します。

```
# cd /mnt/cdrom/Svmanage/TOOLS/RSBFlash/
```

7 モジュールをフロッピーディスクにコピーします。

次のコマンドを実行します。

```
# cp -a *.* /mnt/floppy/
```

8 ファイルの権限を変更します。

次のコマンドを実行します。

```
# cd /mnt/floppy/  
# chmod +w core.bin
```

9 フロッピーディスクをアンマウントして、取り出します。

フロッピーディスクを取り出す前には、必ずアンマウントしてください。

```
# cd  
# umount /mnt/floppy/
```

10 CD-ROM をアンマウントして、取り出します。

CD-ROM を取り出す前には、必ずアンマウントしてください。

```
# umount /mnt/cdrom/
```

11 フロッピーディスクを、書き込み禁止状態にします。

3 ドライバのインストール

リモートサービスボードのドライバは、リモートサービスボードの有無にかかわらず、サーバに ServerView V02.51 以降の ServerView エージェントをインストールすると自動的にインストールされます。ServerView エージェントのインストール方法については「2 インストール」(7 ページ)を参照してください。

リモートサービスボードのドライバに関する留意事項については、リモートサービスボードに添付の取扱説明書を参照してください。なお、OS が Linux の場合には、留意事項はありません。



ポイント

ServerView V02.51 以降のバージョンでリモートサービスボードをサポートします。

すでにサーバに ServerView V02.50 がインストールされている場合は、管理コンソールのアンインストールを実行し、PRIMERGY ServerView V02.51 以降の CD-ROM 内に格納されている「UNAGENT.EXE」を実行しアンインストールを行ってから、ServerView V02.51 以降を再度インストールしてください。

4 通信インタフェースの設定

お使いになる通信インタフェースに応じて、以下の手順で必要な項目を設定します。
リモートサービスボードの通信インタフェースの設定は、リモートサービスボードのドライバをインストールしてから行ってください。

LAN インタフェースの設定

14

リモートサービスボード

OS が Windows NT または Windows 2000 の場合

- 1 ローカルの Administrators グループに所属するユーザ名で、サーバにログインします。
なお、Domain Admins グループでは、設定できません。
- 2 実行中のアプリケーションをすべて終了させます。
- 3 次のプログラムを起動します。

```
<システムドライブ> :¥Program Files¥Fujitsu  
¥F5FBAG01¥rsb_uty.exe
```

- 4 [LAN Interface] タブを選択し、各項目を設定します。
- 5 各項目を設定後、[Apply] ボタンをクリックします。

[LAN Interface] タブについては、「 [LAN Interface] タブ」(228 ページ)を参照してください。

OS が Linux の場合

- 1 スーパーユーザでログインします。
- 2 ServerView の CD-ROM をマウントします。
ServerView の CD-ROM をドライブにセットし、次のコマンドを実行します。

```
# mount /mnt/cdrom/
```



ポイント

特定のアプリケーションがインストールされている場合には、CD-ROM 挿入と同時に自動的にマウントされます。

- 3 CD-ROM 内のユーティリティを起動します。
次のコマンドを実行します。

```
# /mnt/cdrom/Svmanage/TOOLS/RSB_UTILITY/rsb_util
```

4 「LAN Interface」を選択します。

[1] [Enter] を押します。

5 項目の編集を選択します。

[e] [Enter] を押します。

6 メッセージに従って各項目を設定します。



ポイント

- 項目を入力後、[Enter] を押すと、次の項目編集に移ります。
- 各項目の入力で、[Enter] のみを押した場合、その項目の設定は、変更されません。
- 全項目の設定が完了すると、「LAN Interface」画面に戻ります。

7 設定を保存します。

[s] [Enter] を押します。

8 「LAN Interface」を終了します。

[x] [Enter] を押します。

9 ユーティリティを終了します。

[x] [Enter] を押します。

10 CD-ROM をアンマウントして、取り出します。

CD-ROM を取り出す前には、必ずアンマウントしてください。

```
# umount /mnt/cdrom/
```

[LAN Interface] タブについては、「 [LAN Interface] タブ」(228 ページ) を参照してください。

[LAN Interface] タブ

以下に [LAN Interface] タブについて説明します。

設定項目	説明
Internet Protocol	
IP Address	リモートサービスボードの IP アドレスを設定します。 (設定必須 デフォルト値 : 192.168.0.10)
Subnet Mask	サブネットマスクを設定します。 (設定必須 デフォルト値 : 255.255.255.0)
Gateway	デフォルトゲートウェイサーバの IP アドレスを設定します。
Domain Name Server	

設定項目	説明
Use DHCP	DHCP を使用するかどうかを設定します。 - enabled DHCP を使用します。 - disabled DHCP を使用しません。
Use DNS	DNS を使用するかどうかを設定します。 - enabled DNS を使用します。 - disabled (デフォルト値) DNS を使用しません。
DNS Server	プライマリ DNS サーバを設定します。
DNS Server2	セカンダリ DNS サーバを設定します。
HTTP	
Port	Web インタフェースのポート番号を設定します。
Use SSL	SSL を使用するかどうかを設定します。 - enabled SSL を使用します。 - disabled SSL を使用しません。
Telnet	
Port	Telnet インタフェースのポート番号を設定します。 (デフォルト値: 2307)
Drop Time	休止状態の Telnet 接続が自動的に切断されるまでの時間 (秒) を設定します。(デフォルト値: 600)
Console Colour	コンソールリダイレクションで使用する色を設定します。 ・ Monochrome 白黒 ・ ANSI Colours ANSI 規格の色指定
Charset Mapping	コンソールリダイレクション中のキャラクタコードを設定 します。以下のいずれかより選択します。 ・ No Mapping キャラクタコードを変換しません。 ・ Map to VT100 VT100 のキャラクタコードに変換します。 ・ Map to WinAnsi ANSI 規格のキャラクタコードに変換します。

シリアルインタフェースの設定

OS が Windows NT または Windows 2000 の場合

- 1 ローカルの Administrators グループに所属するユーザ名で、サーバにログインします。
なお、Domain Admins グループでは、設定できません。
- 2 実行中のアプリケーションをすべて終了させます。
- 3 次のプログラムを起動します。

```
<システムドライブ> :¥Program Files¥Fujitsu  
¥F5FBAG01¥rsb_uty.exe
```

- 4 [Serial Line Configuration] タブを選択します。各項目を設定します。
- 5 各項目を設定し、[Apply] ボタンをクリックします。

[Serial Line Configuration] タブについては、「 [Serial Line Configuration] タブ」
(231 ページ) を参照してください。

OS が Linux の場合

- 1 スーパーユーザでログインします。
- 2 ServerView の CD-ROM をマウントします。
ServerView の CD-ROM をドライブにセットし、次のコマンドを実行します。

```
# mount /mnt/cdrom/
```



ポイント

特定のアプリケーションがインストールされている場合には、
CD-ROM 挿入と同時に自動的にマウントされます。

- 3 CD-ROM 内のユーティリティを起動します。

```
# /mnt/cdrom/Svmanage/TOOLS/RSB_UTY/rsb_uty
```

- 4 「Serial Line Configuration」を選択します。
[2] [Enter] を押します。
- 5 項目の編集を選択します。
[e] [Enter] を押します。
- 6 メッセージに従って各項目を設定します。



ポイント

- 項目を入力後、[Enter] を押すと、次の項目編集に移ります。
- 各項目の入力で、[Enter] のみを押した場合、その項目の設定は、変更されません。
- 全項目の設定が完了すると、「Serial Line Configuration」画面に戻ります。

7 設定を保存します。

[s] [Enter] を押します。

8 「Serial Line Configuration」を終了します。

[x] [Enter] を押します。

9 ユーティリティを終了します。

[x] [Enter] を押します。

10 CD-ROM をアンマウントして、取り出します。

CD-ROM を取り出す前には、必ずアンマウントしてください。

```
# umount /mnt/cdrom/
```

[Serial Line Configuration] タブについては、「 [Serial Line Configuration] タブ」 (231 ページ) を参照してください。

[Serial Line Configuration] タブ

以下に [Serial Line Configuration] タブについて説明します。

設定項目	説明
The serial interface should be used at all	<p>リモートサービスボードのシリアルインタフェースを使用するかしないかを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - チェックボックス オン (デフォルト値) シリアルインタフェースを使用します。 - チェックボックス オフ シリアルインタフェースを使用しません。
Connection Type	<p>シリアルインタフェースの接続タイプを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - direct (デフォルト値) RS-232C クロスケーブルで接続できます。 - dial-out 管理コンソールから接続することはできませんが、ポケットベルへのアラート通知はできます。 - dial-in 管理コンソールから接続することも、ポケットベルへのアラート通知もできます。 - dial-in/out 呼び出しがあったときにコールバックできます。ポケットベルへのアラート通知もできます。 - dial-in/out with extension 呼び出しがあったときにコールバックできます。ポケットベルへのアラート通知もできます。
Baud Rate	シリアルインタフェースの通信速度を設定します。
Init String	<p>モデムの初期化コマンドを設定します。</p> <p>たとえば、管理コンソールから接続 (dial-in) する場合、「AT¥N3S0=1&D0¥J0¥Q0¥V2」と設定します。</p>
Dial-out Prefix	<p>コールバック (dial-in/out または dial-in/out with extension) する際のモデムの初期化コマンドを設定します。</p> <p>たとえば、トーン回線で外線 (0 発信) にコールバックする場合、「ATDT 0」と設定します。</p>
Dial-out Number	コールバックする電話番号を設定します。

設定項目	説明
Dial-out Delay/ Callback Delay	呼び出しがあってからコールバックするまでの、待ち時間（秒）を設定します。
Use PPP	<p>ダイヤルアップ接続時に、PPP を使用するかどうかを設定します。</p> <p>管理コンソールからリモートサービスボードにダイヤルアップ接続する際は、「enabled」を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none">- enabled ダイヤルアップ接続時に、PPP を使用します。- disabled（デフォルト値） ダイヤルアップ接続時に、PPP を使用しません。 <p>ダイヤルアップ接続時は、以下の IP アドレスが割り当てられます。</p> <p>リモートサービスボード :192.168.0.11 管理コンソール :192.168.0.12</p>

5 管理ユーザの設定

リモートサービスボードには、デフォルトで管理者権限をもつユーザ名「root」(パスワード「fsc」)が設定されています。セキュリティ確保のためにパスワードを必ず変更してください。

LAN インタフェースからのパスワードの変更

- 1 サーバにログインします。
- 2 [スタート] - [プログラム] - [Fujitsu ServerView] - [Fujitsu ServerView] をクリックし、ServerView コンソールを起動します。
- 3 サーバの一覧にあるサーバのアイコンを選択し、[ファイル]メニューの[サーバのプロパティ]を選択します。
[プロパティの設定]ウィンドウが開きます。
- 4 [リモートサービスボード]タブを選択し、[設定]ボタンをクリックします。
[ネットワークパスワード入力]ウィンドウが開きます。
- 5 「ユーザ名 (root)」と「パスワード (fsc)」を入力し、[OK] ボタンをクリックします。
リモートサービスボードの Web インタフェースが開きます。
- 6 [User Accounts] をクリックします。
[User Accounts] ページが開きます。
- 7 [root] をクリックします。
ユーザ名: root の [Account] ページが開きます。
- 8 以下の項目を入力し、[Apply] ボタンをクリックします。

Old Password	: fsc を入力します。
New Password	: 新しいパスワードを入力します。
Confirm New Password	: 新しいパスワードを再度入力します。

シリアルインタフェースからのパスワードの変更

- 1 管理コンソールからリモートサービスボードへダイヤルアップ接続します。
- 2 Web ブラウザを起動し、アドレスバーに以下のいずれかのアドレスを入力します。
 - http://192.168.0.11:<ポート番号 (デフォルト 80)> (SSL が disabled の場合)

- `https://192.168.0.11:<ポート番号 (デフォルト 443)>` (SSL が enabled の場合)

なお、初期状態では、ポート番号を指定する必要はありません。
[ネットワークパスワード入力] ウィンドウが開きます。

- 3 「ユーザ名 (root)」、「パスワード (fsc)」を入力し、[OK] ボタンをクリックします。
リモートサービスボードの Web インタフェースが開きます。
- 4 [User Accounts] をクリックします。
[User Accounts] ページが開きます。
- 5 [root] をクリックします。
ユーザ名 : root の [Account] ページが開きます。
- 6 以下の項目を入力し、[Apply] ボタンをクリックします。

Old Password : fsc を入力します。
New Password : 新しいパスワードを入力します。
Confirm New Password : 新しいパスワードを再度入力します。

6 Web インタフェース

リモートサービスボードは Web インタフェースをサポートしており、以下の Web ブラウザからアクセスできます。

- Internet Explorer (Version 4.0 以降)
- Netscape (Version 4.5 以降)

リモートサービスボードに Web インタフェースからアクセスするには、Web ブラウザを起動し、アドレスバーに以下のいずれかのアドレスを入力します。

- [http://<IP アドレス>:<ポート番号 \(デフォルト : 80\)>](http://<IP アドレス>:<ポート番号 (デフォルト : 80)>) (SSL が disabled の場合)
- [https://<IP アドレス>:<ポート番号 \(デフォルト : 443\)>](https://<IP アドレス>:<ポート番号 (デフォルト : 443)>) (SSL が enabled の場合)



ポイント

- リモートサービスボードにダイヤルアップ接続している場合は、IP アドレスに 192.168.0.11 を入力します。
- ServerView コンソールから、Web インタフェースにアクセスすることもできます。アクセス方法については、「3 ServerView の使用方法」の「5 リモートサービスボードのサポート」の「[Remote Service Board] プロパティページ」(66 ページ) を参照してください。

スタート画面

開始アドレスにアクセスし、ユーザ名とパスワードを入力して認証されると、スタート画面が表示されます。

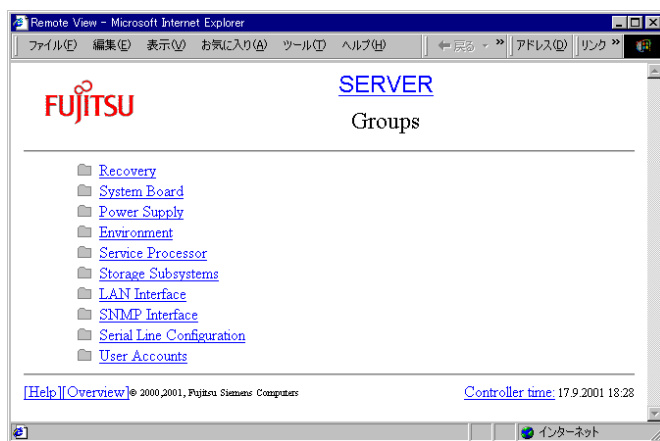


図 32 : Web インタフェースのスタート画面

Web インタフェースは、すべてのページのヘッダ領域とフッタ領域が同じ方法で構成されています。

ヘッダ領域には、サーバ名と現在のページのタイトルが表示されます。

フッタ領域には、以下の 3 つのリンクが表示されます。

- [Help]
各インタフェースの項目を詳しく説明するヘルプ（英語）を表示します。
- [Overview]
「 [Overview] ページ」(237 ページ) を表示します。
Web インタフェース内を簡単に移動するには、[Overview] のリンク先にあるスタート画面の拡張オプションを利用します。
- [Controller time]
リモートサービスボードの時間を確認できる [System Board] ページを表示します。

[Overview] ページ

[Overview] ページでは、すべての機能グループへのリンクが展開された形で表示されます。

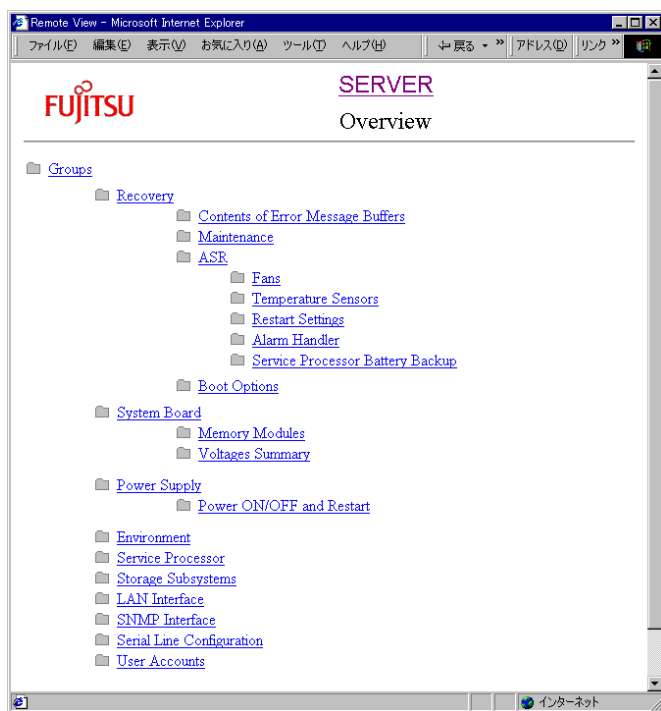


図 33 : [Overview] ページ

各機能の概要を、以下に示します。監視中のサーバで ServerView エージェントが稼働している間は、Web インタフェースで以下の機能を利用できます。

- [Recovery]

ログを表示したり、異常発生時のアクションとアラームハンドラなどを設定します（「 [Recovery] ページ」（ 239 ページ）参照）。

- [Contents of Error Message Buffers]
エラーログとイベントログを表示します（「 [Contents of Error Message Buffers]」（ 239 ページ）参照）。
- [Maintenance]
CMOS バッテリーの使用期限とファンの状態に関する情報を表示します（「 [Maintenance]」（ 239 ページ）参照）。
- [ASR]
ファン、温度、再起動時の動作、アラームハンドラの設定に関する情報を表示します（「 [ASR]」（ 239 ページ）参照）。
- [Fans]
ファンに関する情報を表示します。
- [Temperature Sensors]
温度に関する情報を表示します。
- [Restart Settings]
再起動設定を表示します。
- [Alarm Handler]
アラームハンドラを設定します。
- [Service Processor Battery Backup]
バッテリーバックの状態を表示します。
- [Boot Options]
電源の投入 / 切断の理由と起動状態を表示します（「 [Boot Options]」（ 240 ページ）参照）。
- [System Board]
ベースボードに関する情報を表示します（「 [System Board] ページ」（ 246 ページ）参照）。
- [Memory Modules]
メモリモジュールに関する情報を表示します。
- [Voltages Summary]
電圧に関する情報を表示します。
- [Power Supply]
電源に関する情報を表示します（「 [Power Supply] ページ」（ 247 ページ）参照）。
- [Power ON/OFF and Restart]
電源 ON/OFF タイマーを設定します。
- [Environment]
ファンの状態などに関する情報を表示します（「 [Environment] ページ」（ 247 ページ）参照）。
- [Service Processor]
バッテリーバックの状態を表示します。また、リモートサービスボードのファームウェアをリモートで更新する操作を行います。
- [Storage Subsystems]

リモートサービスボードを搭載した外部記憶装置と電源連動を行う情報を設定します（「[Storage Subsystems] ページ」（ 247 ページ）参照）。

- [LAN Interface]
LAN インタフェースを設定します（「[LAN Interface] ページ」（ 248 ページ）参照）。
- [SNMP Interface]
SNMP コミュニティとトラップの送信先を設定します（「[SNMP Interface] ページ」（ 249 ページ）参照）。
- [Serial Line Configuration]
シリアルインタフェースを設定します（「[Serial Line Configuration] ページ」（ 249 ページ）参照）。
- [User Accounts]
ユーザアカウントを設定します（「[User Accounts] ページ」（ 249 ページ）参照）。

[Recovery] ページ

[Recovery] ページでは、ログを表示したり、異常発生時のアクションとアラームハンドラなどを設定できます。リモートサービスボードは、サーバの異常な運用ステータスを検出すると、ユーザにより設定された方法にしたがって対処します。たとえば、サーバがオーバーヒートし始めたときには自動的にシャットダウンし、指定した時間を経過したら再起動するように、設定することができます。

[Recovery] ページには、以下のページへのリンクが表示されています。

[Contents of Error Message Buffers]

[Contents of Error Message Buffers] をクリックすると、[Contents of Error Message Buffers] ページが表示され、リモートサービスボードに記録されたエラーログとイベントログのメッセージを確認できます。サーバで ServerView エージェントが稼働している間は、サーバに記録されたエラーログとイベントログのメッセージも同時に確認できます。エラーログメッセージは「Critical Error Message」という表題の下に表示され、イベントログメッセージは「Non-critical Error Message」という表題の下に表示されます。

[Maintenance]

[Maintenance] ページでは、ベースボードの CMOS バッテリーの使用期限やファンの状態に関する情報を確認できます。また、ファンの障害時のアクションを設定することもできます。

[ASR]

[ASR Properties] ページでは、ファン、温度、再起動時の動作、アラームハンドラの設定に関する情報を確認できます（「[ASR Properties] ページ」（ 240 ページ）参照）。

[Boot Options]

[Boot Options] ページでは、電源の投入 / 切断の理由と起動結果に関する情報が表示されます。表示される情報は、以下のとおりです。

- Error Halt Settings
サーバの POST 時にエラーが発生した場合の動作の設定が表示されます。
- Current Boot
現在の起動状態が表示されます。例えば、サーバで ServerView エージェントが稼働している場合は、os-running と表示されます。
- Current Boot Result
POST の結果が表示されます。
- Last Power On Reason / Last Power Off Reason
直前の電源投入および電源切断の結果が表示されます。
- Last Server Boot Result
前回のシステムの起動の結果が表示されます。

[ASR Properties] ページ

[ASR Properties] ページでは、ファン、温度、再起動時の動作、アラームハンドラの設定に関する情報を確認できます。

[Recovery] ページには、以下のページへのリンクが表示されます。

[Fans]

[Fans] ページでは、ファンの状態の表示と、ファン故障時のアクションを設定することができます。ファン故障の予兆監視のために、設定された時刻 (Check Time) になると、ファンの動作テストが行われます。

アクションには、以下のオプションがあります。

- continue :
ファン故障時にもサーバを継続稼働させます。
- shutdown and poweroff :
ファン故障が発生すると、一定の遅延 (delay) 時間の後にサーバをシャットダウンします。故障したファンが、遅延時間内に復旧すると、シャットダウンは中止されます。

[Temperature Sensors]

[Temperature Sensors] ページでは、温度の表示と、温度異常時のアクションを設定することができます。アクションには、以下のオプションがあります。

- continue
温度異常時にもサーバを継続稼働させます。
- shutdown-power off
温度が危険 (Critical-Level) な値に達すると、サーバをシャットダウンします。

[Restart Settings]

[Restart Settings] ページでは、自動再起動を実行する条件や OS ハングなどを検出するウォッチドッグを設定します。

- Action after Power Failure

電源異常（停電等）時のアクションを設定します。例えば、停電により電源切断した後に、停電が回復した場合、自動的に電源を投入するように設定することができます。アクションには、以下のオプションがあります。

- Restart server

サーバを再起動（復電）する。

- Don't restart server

サーバを再起動（復電）しない。

- Automatic Power on Delay <MM> Minutes

サーバを再起動するまでの遅延時間（delay : MM [分]）を指定します。

遅延時間は、高温異常時の場合などに、サーバを再起動（復電）する前に冷却するなどの目的で指定します。この遅延時間は、Don't restart server を選択した場合にも有効で、ファン故障時、温度異常時に設定されたアクションによりサーバが自動シャットダウンされた場合、この遅延時間後に自動的に再起動（電源投入）されます。再起動は、最大で「Max Number of Reboot Tries」に設定された回数まで行われます。

- Max Number of Reboot Tries

ファン故障時、温度異常時に設定されたアクションによりサーバが自動シャットダウンされた場合に、再起動回数の最大値を指定します。

- Action after exceeding reboot tries

Action after Power Failure による再起動（復電）または Software/Boot Watchdog による再起動の最大リトライ回数と、再起動を最大リトライ回数繰り返した後のアクションを設定します。アクションには、以下のオプションがあります。

- Stop rebooting and power off

再起動を中止する。

Software/Boot Watchdog による再起動の場合は、最大リトライ回数後にサーバの電源を自動的に切断します。

- Start diagnostic system

診断システムを起動する。（未サポート。選択しないでください。）

- Software Watchdog

サーバの OS ハング時のアクションを設定します。リモートサービスボードは、ServerView エージェントと定期的に通信することにより、OS ハングを監視します。リモートサービスボードは、ServerView エージェントとの通信が、OS シャットダウン処理されずに途絶えた場合、タイムアウト時間（timeout delay）後に OS ハングを検出し、アクションを実行します。アクションには、以下のオプションがあります。

- Reboot

再起動する。

- Continue

再起動しない。



ポイント

Reboot アクションを実行できるようにするには、サーバのシステムを次のように設定する必要があります。

- Windows NT4.0 の場合
コントロールパネルの [システム] をダブルクリックし、[起動 / シャットダウン] ページで [自動的に再起動する] のチェックをはずします。
- Windows 2000 の場合
コントロールパネルの [システム] をダブルクリックし、[詳細] ページの [起動 / 回復] をクリックし、[自動的に再起動する] のチェックをはずします。

- Boot Watchdog

サーバの OS 起動失敗時のアクションを設定します。リモートサービスボードは、サーバの POST が終了してから、ServerView エージェントが起動するまでの間隔を監視することにより、サーバの OS 起動を監視します。サーバの POST が終了してから、タイムアウト時間 (timeout delay) の間に、リモートサービスボードと ServerView エージェントとの通信が開始されない場合、OS 起動失敗を検出し、アクションを実行します。アクションには、以下のオプションがあります。

- Reboot
再起動する。
- Continue
再起動しない。

[Alarm Handler]

[Alarm Handler] ページでは、アラームハンドラの設定全体を確認できます。このページでは、アラームハンドラの有効化 (Enabled) / 無効化、テスト送信 (Test Alarm)、削除 (Delete) ができます。このページの下に表示される [Create] ボタンをクリックすると、目的の形式の新しいアラームハンドラを設定できます。該当するリンクをクリックすると、アラームハンドラの設定ページに移動します。テスト送信する場合は、「Enabled」をチェックし、[Apply] をクリックしてから、[Test Alarm] をクリックします。

アラームハンドラの設定は、タイプにより異なります。アラームハンドラには、以下のタイプがあります。

- signal (シグナル式ポケットベル用)
- numeric (数字式ポケットベル用)
- alpha (英数字式ポケットベル用)
- sms (ポケットベルまたは携帯電話への SMS メッセージ用)
- docomo (NTT DoCoMo のポケットベル用)
- smtp (SMTP メール用)



ポイント

日本国内では、以下のタイプだけ使用できます。その他のタイプは、使用しないでください。

- docomo
- smtp

選択項目が多いため、アラームハンドラの設定ページは複数のセクションに分かれています。セクションごとに [Apply] ボタンがあるため、各セクションを個別に変更できます。

この後の説明では、smtp を一例として取り上げます。docomo に関しては、smtp とは異なるオプションのみを説明します。

図 34 : SMTP アラームハンドラ (Part 1)

- [Description]
任意の名前を入力します。ここに入力する文字列は、[Alarm Handler] ページの 2 番目の欄に表示されます。
- [User Name]
ユーザ名を入力します。[Description] を入力していない場合は、ここに入力したユーザ名が [Alarm Handler] ページの 2 番目の欄に表示されます。
- [Forwarding Behavior]
サーバで ServerView エージェントが稼動していない場合のみアラームを送信する ([level 2/3]) か、常にアラームを送信する ([always on]) かを選択します。
- Alarm Sending Retry

このセクションでは、失敗した送信を再試行する間隔 ([Retrying after <MM> minutes]) と、送信の最大試行回数 ([Max. Number of Retries]) を設定します。

- Error Forwarding

このセクションでは、送信するアラームのフィルタを設定します。アラームハンドラでは、アラームグループとエラーレベルで送信するアラームをフィルタできます。エラーレベルのフィルタにより、指定したレベルより重要度の低いアラームを送信しないようにできます。

The screenshot shows a web-based configuration interface for an SMTP alarm handler. It is titled 'Remote View - Microsoft Internet Explorer'. The main content area is divided into two sections: 'Forward Time' and 'Mail Settings'.

Forward Time Section:

	On Time	Off Time
Sunday	00:00	disabled
Monday	00:00	disabled
Tuesday	00:00	disabled
Wednesday	00:00	disabled
Thursday	00:00	disabled
Friday	00:00	disabled
Saturday	00:00	disabled

hour : minute or disabled

Apply

Everyday disabled disabled

Mail Settings Section:

To: [text box]
From: [text box]
Host: [text box]
Subject: [text box]
Message: [text box]
User Info 0: [text box]
User Info 1: [text box]
Type: User defined (dropdown menu)
SMTP Port: 25

Apply

Footer: [Help][Overview] © 2000,2001, Fujitsu Siemens Computers Controller time: 5.3.2001 19:05

図 35 : SMTP アラームハンドラ (Part 2)

- Forward Time

ここでは、アラームハンドラを有効にする時間帯を設定できます。

この設定により、平日、週末、夜間など時間帯に応じて、異なる送信先にアラームを送信することもできます。

各曜日ごとに [On Time] と [Off Time] を設定できます。時間帯を指定せずに、常に送信したい場合は、[On Time] に「00:00」、[Off Time] に「disabled」を指定します。

- Mail Settings

ここでは、メール送信に関する設定を指定します。

設定項目	説明
[To]	受信側の電子メールアドレスを入力します。
[From]	送信側の電子メールアドレスを入力します。
[Host]	SMTP サービスにアクセスするために使用するホストを入力します。
[Subject]	電子メールの件名を入力します（日本語は使用できません）。
[Message]	メッセージを入力します（日本語は使用できません）。
[User Info 0/1]	ITS format 用の情報を入力します。
[Type]	<p>メッセージのタイプを選択します。次の値の中から選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • User defined 一般的なタイプのメール • ITS ITS フォーマットメール（未サポート。使用しないでください。） • Fujitsu REMCS Mail 富士通 REMCS メール（未サポート。使用しないでください。）
[SMTP Port]	SMTP サービスにアクセスするためのポート番号を入力します。

NTT DoCoMo アラームハンドラでは、SMTP アラームハンドラの「Mail Settings」の代わりに、以下の項目を設定します。

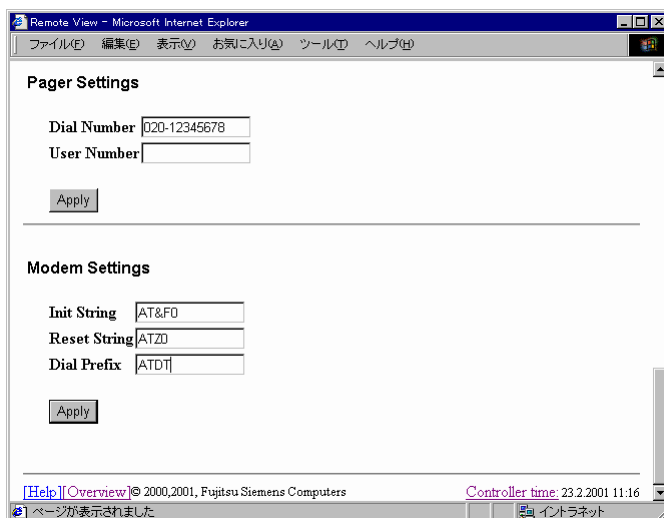


図 36 : NTT DoCoMo アラームハンドラ

- Pager Settings

設定項目	説明
[Dial Number]	ポケット電話サービスを呼び出すために使用する電話番号を入力します。
[User Number]	呼び出すユーザの番号を入力します（入力不要）。

- Modem Settings

設定項目	説明
[Init String]	モデムの初期化コマンドを入力します（例：AT&F0）。
[Reset String]	モデムのリセットコマンドを入力します（例：AT&Z0）。
[Dial Prefix]	ダイヤルモードのコードを入力します。たとえば、ダイヤル方法がパルスの場合は「ATDP」、トーンの場合は「ATDT」と入力します。

ポケットベルに送信されるメッセージのフォーマットは、ServerView のアラームサービスと同様です。メッセージのフォーマットの詳細については、「送信されるメッセージのフォーマットについて」（119 ページ）を参照してください。

[Service Processor Battery Backup] ページ

[Service Processor Battery Backup] ページでは、リモートサービスボードに搭載するバッテリーバックの状態が表示されます。

ただし、バッテリーバックは、サポートしていません。また、本ページは、表示されない場合があります。

[System Board] ページ

[System Board] ページでは、サーバのベースボード、CPU、メモリモジュール、電圧に関する情報を確認できます。

[System Board] ページには、以下のページへのリンクが表示されます。

[Memory Modules]

[Memory Modules] ページでは、メモリモジュールに関する情報を確認できます。

[Voltages Summary]

[Voltages Summary] ページでは、電圧に関する情報を確認できます。

[Power Supply] ページ

[Power Supply] ページでは、サーバの電源ユニットの状態に関する情報を確認できます。

[Power Supply] ページには、以下のページへのリンクが表示されます。

[Power ON/OFF and Restart]

[Power ON/OFF and Restart] ページでは、各曜日ごとに電源の投入時刻と切断時刻を設定できます。

[Environment] ページ

[Environment] ページでは、温度 (Temperature)、ファン (Fans)、カバーの状態 (Door Status) に関する情報を確認できます。温度異常、ファン故障時のアクションを設定することもできます。

[Service Processor] ページ

[Service Processor] ページでは、バッテリーパックの状態を表示します。

また、リモートサービスボードのファームウェアを、リモートで更新する操作を行います。

ただし、バッテリーパックは、サポートしていません。また、ファームウェアのリモート更新機能は、サポートしていません。

[Storage Subsystems] ページ

[Storage Subsystems] ページでは、リモートサービスボードを搭載した外部記憶装置と電源連動を行う情報を設定します。

[New Storage Subsystem] ボタンをクリックすると、連動させる対象装置を新規作成する [Storage Subsystems] ページが表示されます。

[Change] または [Delete] ボタンをクリックすると、既存の設定を変更、または削除できます。

[Storage Subsystems] ページでは、以下の設定を行います。

- [Name]
対象装置のリモートサービスボードに設定されたユーザアカウントの Name を設定します。
- [Old Password]
対象装置のリモートサービスボードに設定されたユーザアカウントのパスワードを設定します。本設定は、[Change] の場合に表示されます。
- [New Password]
対象装置のリモートサービスボードに設定されたユーザアカウントのパスワードを設定します。

- [Confirm New Password]
上記 [Password] に設定したパスワードを再度設定します。
- [IP Address]
対象装置のリモートサービスボードに設定された IP アドレスを設定します。
- [Port]
Port 番号を設定します。
- [Startup Delay]
対象装置の電源を投入する遅延時間を設定します。
- [Retry Count]
対象装置の電源投入 / 切断処理が失敗した場合のリトライ数を設定します。
- [Retry Interval]
対象装置の電源投入 / 切断処理が失敗した場合のリトライの間隔を設定します。



ポイント

- 本情報を設定したサーバ（以下、管理装置と記述）の電源が投入 / 切断された場合、対象装置の電源が投入 / 切断されます。ただし、サーバは対象装置となりません。
- 同一対象装置を設定した管理装置が複数台ある場合、次の動作となります。
 - 管理装置のいずれか 1 台の電源が投入された場合、対象装置の電源が投入されます。
 - 管理装置のすべての電源が切断された場合、対象装置の電源が切断されます。



注意

- 本情報を新規に作成した場合、電源制御は次回の管理装置の電源投入時から有効となります。
- 本情報を削除した場合、対象装置は管理装置が電源切断されたものと見なします。
- 対象装置を変更する場合、本情報は削除してください。その後、本情報を新規に作成してください。
- 本情報は、管理装置・対象装置であるサーバ・拡張ディスク装置の電源が切断されている状態で設定（作成、変更、削除）することを推奨します。
- 本機能により対象装置の電源制御を行う場合、対象装置のリモートサービスボードに設定されているユーザアカウントには、次の権限が許可されている必要があります。
Reset/Switch off

[LAN Interface] ページ

[LAN Interface] ページでは、リモートサービスボードの IP アドレスや、HTTP および Telnet のポート番号など、LAN インタフェースを設定できます。各項目の詳細は、本章の「3 ServerView の使用方法」（ 55 ページ ）を参照してください。

[SNMP Interface] ページ

[SNMP Interface] ページでは、SNMP コミュニティとトラップの送信先を設定できます。[New Community] ボタンをクリックすると、新しいコミュニティを作成できます。[New Trap Destination] ボタンをクリックすると、新しい送信先を作成できます。ServerView コンソールから、設定の変更を行う場合は、[Permissions] に「read/write」を指定してください。



ポイント

ServerView エージェントが稼働中に、ServerView コンソールから、ASR 設定や電源の投入 / 切断などを行う場合は、サーバのシステム上で「FUJITSU SERVER」グループに所属するユーザアカウントと同一のユーザ名とパスワードを持つユーザアカウントを、リモートサービスボードにも作成してください。サーバのシステム上のユーザアカウントの作成については、「2 インストール」の「5 インストール後の処理について」の「管理ユーザを設定する」(42 ページ) を参照してください。

[Serial Line Configuration] ページ

[Serial Line Configuration] ページでは、シリアルインタフェース、およびシリアルインタフェースに接続するモデムの全体的な設定を入力できます。データ形式は内部的に 8N1 (データビット = 8、パリティビット = なし、ストップビット = 1) に設定されます。

シリアルインタフェースを利用する際は、[The serial interface should be used at all] をチェックします。

各項目の詳細については、本章の「3 ServerView の使用方法」(55 ページ) を参照してください。

[User Accounts] ページ

[User Accounts] ページでは、新しいユーザ名の作成、パスワードと権限の設定、既存のユーザアカウントの削除などができます。ユーザ名に権限を設定しないと、そのユーザは読み取りアクセスしか許可されません。

既存のユーザ名または [New User Account] ボタンをクリックすると、ユーザアカウントを変更または新規作成できる [Account] ページが表示されます。



ポイント

ServerView エージェントが稼働中に、ServerView コンソールから、設定の変更を行う場合は、サーバのシステム上で「FUJITSU SERVER」グループに所属するユーザアカウントと同一のユーザ名とパスワードを持つユーザアカウントを、リモートサービスボードにも作成してください。サーバのシステム上でのユーザアカウントの作成については、「2 インストール」の「5 インストール後の処理について」の「管理ユーザを設定する」(42 ページ) を参照してください。

7 ダイアルアップ接続

リモートサービスボードにモデムを接続すると、リモートサービスボードにダイアルアップ接続できるようになります。



ポイント

リモートサービスボードにダイアルアップ接続すると、以下の IP アドレスが割り当てられます。

リモートサービスボード : 192.168.0.11

管理コンソール : 192.168.0.12

管理コンソールからリモートサービスボードにダイアルアップ接続を行う場合、以下の設定を行います。

リモートサービスボードの設定

本章の「4 通信インタフェースの設定」(227 ページ) に従って、シリアルインタフェースの設定を行います。

推奨設定は、以下のとおりです。

設定項目	設定値
Connection Type	dial-in
Baud Rate	38400
Init String	AT¥N3S0=1&D0¥J0¥Q0¥V2
Use PPP	enabled

管理コンソールの設定

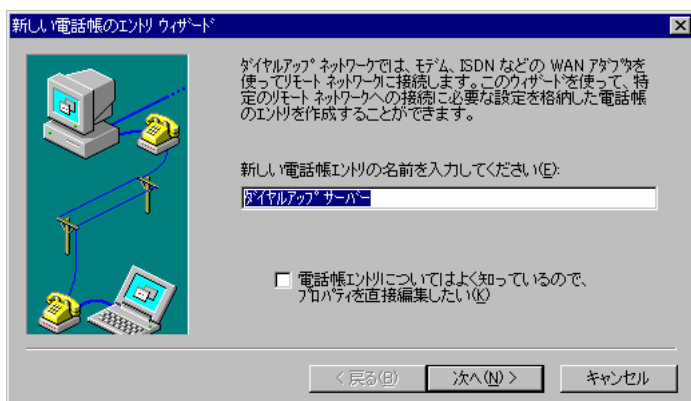
以下の手順で、管理コンソールを設定します。

Windows NT4.0 の場合

- 1 管理コンソールに管理者または管理者と同等の権限をもつユーザ名でログインします。
- 2 リモートアクセスサービスを設定します。
コントロールパネルの [ネットワーク] アイコンをダブルクリックします。
- 3 [ネットワーク] の [サービス] ページで、[リモートアクセスサービス] を選択し、[プロパティ] をクリックしてください。
[リモートアクセスサービス] がインストールされていない場合は、[追加] をクリックして、[リモートアクセスサービス] をインストールしてください。
- 4 [リモートアクセスセットアップ] で、[構成] をクリックします。



- 5 [ポート使用の構成]で、「ダイヤルアウトのみ」または「ダイヤルアウトと着信」を選択し、[OK]をクリックします。
- 6 [リモートアクセスセットアップ]で、[ネットワーク]をクリックします。
- 7 [ネットワークの構成]の[ダイヤルアウトプロトコル]で、「TCP/IP」をチェックし、[OK]をクリックします。
- 8 [リモートアクセスセットアップ]で、[継続]をクリックします。
設定を変更していない場合は、[キャンセル]をクリックします。
- 9 [ネットワーク]で、[閉じる]をクリックし、管理コンソールを再起動し、管理コンソールにログインします。
設定を変更していない場合は、[キャンセル]をクリックします。
- 10 ダイヤルアップネットワークを設定します。
[スタート] - [プログラム] - [アクセサリ] - [ダイヤルアップネットワーク]をクリックします。
- 11 [所在地情報]が表示された場合は、各項目を入力し、[閉じる]をクリックします。
[ダイヤルアップネットワーク]が表示された場合は、[新規]をクリックします。
[新しい電話帳のエントリウィザード]が表示されます。



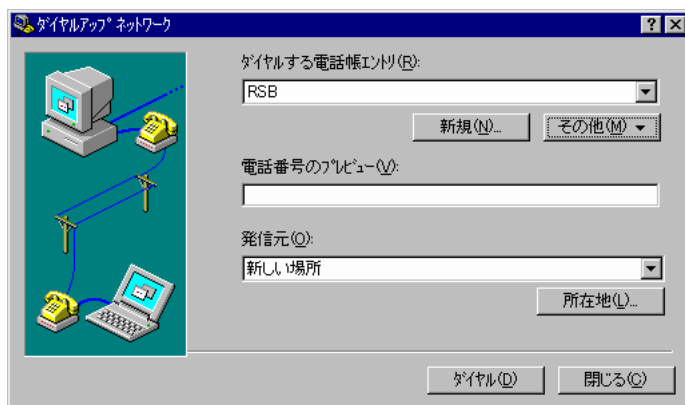
- 12 新しい電話帳のエントリの名前を入力し、[次へ]をクリックします。
[サーバー]が表示されます。
- 13 いずれの項目も選択せずに、[次へ]をクリックします。

[電話番号] が表示されます。

- 14 リモートサービスボードの電話番号を入力し、[次へ] をクリックします。

- 15 [完了] をクリックします。

[ダイヤルアップネットワーク] が表示されます。



- 16 [その他] をクリックし、「エントリとモデムのプロパティの編集」をクリックします。

[電話帳のエントリの編集] が表示されます。



- 17 [基本] ページで、「ダイヤル方法」から使用するモデムをクリックします。

- 18 [サーバー] ページで、「PPP: Windows NT, Windows 95 Plus, インターネット」をクリックし、「TCP/IP」をチェックし、[TCP/IP の設定] をクリックします。

[PPP TCP/IP の設定] が表示されます。



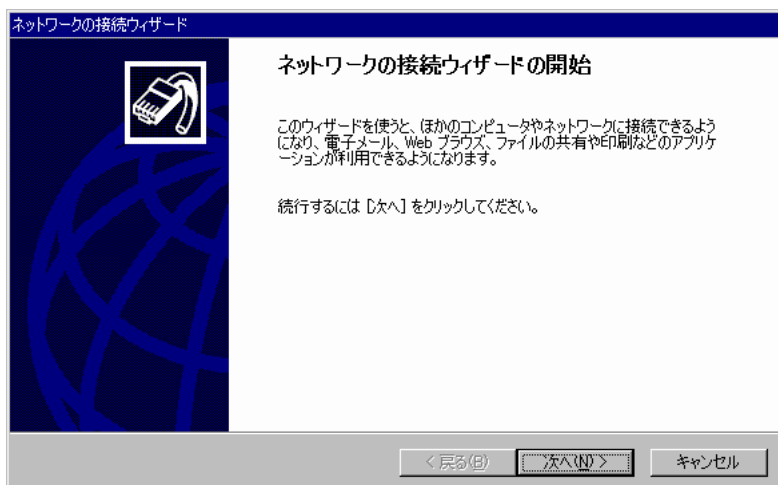
- 19 「IP ヘッダー圧縮を使う」と「リモートネットワーク上のデフォルト」のチェックをはずし、「サーバーが割り当てた IP アドレス」と「サーバーが割り当てたネームサーバーアドレス」をチェックし、[OK] をクリックします。
[電話帳のエントリの編集] に戻ります。
- 20 [スクリプト] ページで、「なし」をチェックします。
- 21 [セキュリティ] ページで、「クリアテキストを含む任意の認証を受け付ける」をチェックします。
- 22 [X25] ページで、「なし」をチェックし、[OK] をクリックします。
[ダイヤルアップネットワーク] に戻ります。
- 23 [ダイヤル] をクリックすると、ダイヤルアップ接続が開始されます。

Windows 2000 の場合

- 1 管理コンソールに管理者または管理者と同等の権限をもつユーザ名でログインします。
- 2 ダイヤルアップネットワークを設定します。
コントロールパネルの [ネットワークとダイヤルアップ接続] アイコンをダブルクリックします。
[ネットワークとダイヤルアップ接続] が表示されます。



- 3 「新しい接続の作成」をダブルクリックします。
[ネットワークの接続ウィザード] が表示されます。



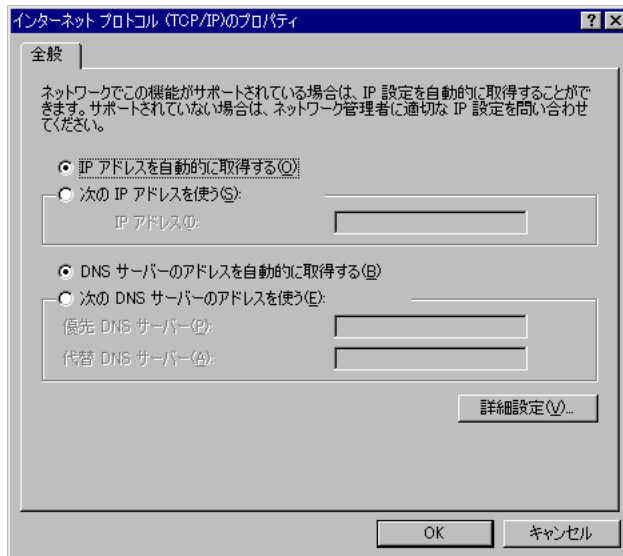
- 4 [次へ] をクリックします。
- 5 「プライベートネットワークにダイヤルアップ接続する」をチェックし、[次へ] をクリックします。
- 6 リモートサービスボードの電話番号を入力し、[次へ] をクリックします。
- 7 「自分のみ」をチェックし、[次へ] をクリックします。
- 8 接続に付ける名前を入力し、[完了] をクリックします。
[X X X へ接続] (X X X は接続の名前) が表示されます。



- 9 [プロパティ] をクリックします。
[ダイヤルアップ接続] が表示されます。



- 10 [オプション] ページで、「名前、パスワード、証明書などの入力を求める」をチェックします。
- 11 [セキュリティ] ページで、「標準 (推奨設定)」をチェックします。
- 12 [ネットワーク] ページで、「PPP: Windows 95/98/NT4/2000, Internet」を選択し、「インターネットプロトコル (TCP/IP)」をチェックし、[プロパティ] をクリックします。
[インターネットプロトコル (TCP/IP) のプロパティ] が表示されます。



- 13 「IP アドレスを自動的に取得する」と「DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する」をチェックし、[詳細設定] をクリックします。
[TCP/IP 詳細設定] が表示されます。



- 14 [全般] ページで、「リモートネットワークでデフォルトゲートウェイを使う」と「IP ヘッダーの圧縮を使う」のチェックをはずし、[OK] をクリックします。
[インターネットプロトコル (TCP/IP) のプロパティ] に戻ります。
- 15 [OK] をクリックします。
[ダイアルアップ接続] に戻ります。

- 16 [共有] ページで、「この接続でインターネット接続の共有を有効にする」のチェックをはずし、[OK] をクリックします。
[XXX へ接続] (XXX は接続の名前) に戻ります。
- 17 リモートサービスボードに設定した、ユーザ名とパスワード (デフォルト: root、fsc) を入力し、[ダイヤル] をクリックすると、ダイヤルアップ接続が開始されます。

8 留意事項

リモートサービスボードのご使用にあたり、下記の留意事項があります。

リモートサービスボード

バッテリーパックは、サポートしていません。

Web インタフェース

- 各ページの設定は、英数字を使用してください。
- FAN のチェックタイムなどのようにサーバ本体にのみ装備している機能の設定は、ドライバをとおしてサーバの Bios に記憶されます。このため、各ページの設定は、OS が稼働している状態で実施することを推奨します。
- ASR 機能である再起動リトライ回数超過時のアクションの「診断システム開始」は、使用しないでください。
[Restart Settings] ページの [Action after exceeding reboot tries] には、「Start diagnostic system」を設定しないでください。
- OS の起動時、または、終了時に、FAN、温度、電圧、メモリなどの情報が正しく表示されない場合があります。いったん、[Overview] をクリックして再表示してください。
- ページの更新を行うと、直前の操作が繰り返される場合があります。設定、電源制御などの操作を行った場合は、いったん [Overview] をクリックし、[Overview] ページに移動してください。特に、以下の操作の後には、ご注意ください。
 - [Power ON/OFF Restart] ページの「Restart」操作
 - [Alarm Handler] ページでの「Create」操作
- サーバにサポートされていない機能に関する情報の表示、および設定は、正しく動作しない場合があります。

1 アイコンリスト

アイコンは、1 つまたは複数のオブジェクトのステータスやその変化が一目で分かるように表されています。

Server List

Server List ウィンドウに表示されるアイコンのリストとその意味は次のとおりです。

アイコン	意味
	OK。すべてのコンポーネントは OK。
	エラー。1 つまたは 1 つ以上のコンポーネントでエラーが発生。
	ステータスが悪化。1 つまたは 1 つ以上のコンポーネントのステータスが悪化。
	管理不可能。コンポーネントのステータスを特定できない。
	調査ステータス。調査プロセス中の未定義のステータス。
	不明。サーバにアクセスできない。
	DeskInfo。DeskInfo ツールを開始可能。
	拡張サーバマネージャを起動できます。
	Intel LANDesk® Server Manager (LDSM) を起動できます。
	ServerView がサーバからアラームを受信。
	このサーバでのしきい値測定を開始。
	このサーバでアーカイブデータが使用可能。
	クラスタのステータスは正常。
	調査ステータス! 調査プロセス中に未定義のステータス。
	エラー! クラスタの 1 つ以上のコンポーネントでエラーが発生。
	OK! クラスタのすべてのコンポーネントは OK。
	管理不可能。クラスタのステータスを特定できない。
	クラスタのステータスを特定できない。
	ステータスが悪化! クラスタの 1 つ以上のコンポーネントのステータスが悪化。
	サーバが反応しないため、RSB がセカンダリチャネルを介して応答します。

表 1 : Server List ウィンドウのアイコン



ポイント

サーバリストの LDSM サーバをダブルクリックすると、LDSM コンソールが開きます。異なる LDSM サーバを表示したい場合、まず LDSM コンソールを閉じてから、必要なサーバの LDSM コンソールをそのサーバをダブルクリックして開く必要があります。

ServerView メニュー

ServerView メニューに表示されるアイコンのリストとその意味は次のとおりです。

アイコン	意味
	メンテナンス バッテリーのサポート
	ASR: 自動サーバ再構成 自動サーバ検索
	再起動 サーバの再起動
	サーバのシャットダウンが中止
	シャットダウンと OFF サーバのシャットダウンと電源の切断
	メモリモジュール
	温度（赤色：危険、緑色：稼働中、黄色：スタンバイ状態、青色：センサが故障、灰色：不明）
	ファン（赤色：故障、緑色：稼働中、黄色：スタンバイ状態、青色：不明）
	サーバのドアが閉じられている
	サーバのドアが開いている
	サーバのケースが閉じられている
	サーバのケースが開いている

表 2 : ServerView メニューのアイコン

Mylex の Device View ウィンドウ

Device View ウィンドウに表示されるアイコンのリストとその意味は次のとおりです。

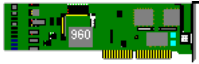

アイコン	意味
	Mylex コントローラ
MB または GB の能力	Mylex 赤色の文字 : 停止中 黄色の文字 : スタンバイモード 緑色の文字 : OK で稼働中 赤紫色の文字 : S.M.A.R.T. が故障 青色の文字 : 不明な状態または再構築状態
	ホスト

表 3 : Device View ウィンドウのアイコン

DPT Disk Array Devices ウィンドウ

DPT Disk Array Devices ウィンドウに表示されるアイコンのリストとその意味は次のとおりです。





アイコン	意味
	ステータス : 最適 (緑色)
	ステータス : 調査、警告、ステータス悪化、再構築、調査終了 (黄色)
	ステータス : エラー、デバイスのフォーマット中、デバイスのセットアップ中 (赤色)
	ステータス : 無効、欠落、セットアップされていない、消去済み (青色)

表 4 : DPT Disk Array Devices ウィンドウのアイコン

ネットワークインタフェースウィンドウ

ネットワークインタフェースウィンドウに表示されるアイコンのリストとその意味は次のとおりです。

アイコン	意味
	イーサネットネットワークカード
	ファストイーサネットネットワークカード
	イーサネットネットワークカード (複数のネットワーク接続、マルチポート)
	ファーストイーサネットネットワークカード (複数のネットワーク接続、マルチポート)
	トークンリングネットワークカード
	FDDI ネットワークカード
	統計情報の入力
	統計情報の出力

表 5：ネットワークインタフェースウィンドウのアイコン

バスとアダプタウィンドウ

バスとアダプタウィンドウに表示されるアイコンのリストとその意味は次のとおりです。


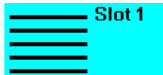



アイコン	意味
	システムボード上のスロットの位置：スロット 1 が一番下
	システムボード上のスロットの位置：スロット 1 が一番上
	選択レベルの分岐が開いている
	選択レベルの分岐が閉じられている
	最低位置の選択レベル、これ以上選択できない

表 6：バスとアダプタウィンドウのアイコン

Alarm Manager ウィンドウと Alarm Monitor ウィンドウ

Alarm Manager ウィンドウと Alarm Monitor ウィンドウに表示されるアイコンのリストとその意味は次のとおりです。


アイコン	意味
	赤色のアラーム：危険
	ピンク色のアラーム：重度
	黄色のアラーム：軽度
	青色のアラーム：情報
	白色のアラーム：不明
	ユーザのエントリによりアラームは確定済みである。
	このアラームにより、ほかの実行可能プログラムが起動された。
	このアラームに対してブロードキャスト メッセージが送信された。
	このアラームに対してメールが送信された。
	このアラームにより、ポケットベル呼び出しが起動された。
	このアラームは、マネージャまたは管理ステーションに送信される。
	このアラームは、ローカル NT イベントログに送信される。
	このアラームは、データベースに格納される。
	緑色：ポケットベルを確認。
	黄色：ポケットベルを完了。
	赤色：ポケットベルあり（まだ動作中）
	緑色：転送を確認。
	黄色：転送を完了。
	赤色：転送あり（まだ動作中）

表 7：Alarm Manager ウィンドウと Alarm Monitor ウィンドウのアイコン

クラスタのステータス（未サポート）

クラスタオブジェクトを表したアイコンのリストとその意味は次のとおりです。






アイコン	意味
	クラスタのステータスアイコン
	クラスタサーバノードのステータスアイコン
	クラスタグループのステータスアイコン
	クラスタリソースのステータスアイコン
	クラスタネットワークのステータスアイコン

表 8：クラスタオブジェクト

サーバノードのステータス

クラスタサーバノードのステータスアイコンとその意味は次のとおりです。







アイコン	意味
	不明：ノードの状態を特定できない、または、この表のどの状態にも一致しない。
	アップ：サーバノードは稼働中。
	ダウン：サーバノードは故障中。
	停止：サーバノードは、現在グループサービスを提供していない。
	結合：サーバノードは現在クラスタサービスを開始しているが、まだ利用できる状態にはなっていない。
	使用不可：サーバノードは使用できない。

表 9：クラスタサーバノードのステータスアイコン

グループのステータス

クラスタグループのステータスアイコンとその意味は次のとおりです。







アイコン	意味
	不明：グループの状態を特定できない、または、この表のどの状態にも一致しない。
	オンライン：グループはオンライン状態。
	オフライン：グループはオフライン状態。
	部分的オンライン：グループは部分的にオンライン状態。
	故障：グループは故障中。
	使用不可：グループは使用できない。

表 10：クラスタグループのステータスアイコン

リソースのステータス

クラスタリソースのステータスアイコンとその意味は次のとおりです。











アイコン	意味
	不明：リソースの状態を特定できない、または、この表のどの状態にも一致しない。
	オンライン：リソースは使用可能。
	オフライン：リソースは現在使用不可。
	故障：リソースは故障中。
	オンライン待機中：リソースの立ち上げ処理中。
	オフライン待機中：リソースの停止処理中。
	オンラインステータス不確定：リソースの状態を特定できず、現在使用できない。
	使用不可：リソースは使用できない。
	継承済み：リソースは継承済み。
	初期化段階：現在リソースの初期化中。

表 11：クラスタリソースのステータスアイコン

ネットワークのステータス

クラスタネットワークのステータスアイコンとその意味は次のとおりです。






アイコン	意味
	不明：ネットワークの状態を特定できない、または、この表のどの状態にも一致しない。
	アップ：ネットワークインタフェースはフル稼働中。
	シャットダウン：ネットワークはシャットダウン済み。
	接続中断：クラスタの1つ以上のノードで相互間の通信ができない。
	使用不可：ネットワークは使用できない。

表 12：クラスタネットワークのステータスアイコン

ネットワークインタフェースのステータス

クラスタネットワークインタフェースのステータスアイコンとその意味は次のとおりです。


















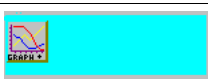







アイコン	意味
	不明：ネットワークインタフェースの状態を特定できない、または、この表のどの状態にも一致しない。
	アップ：ネットワークインタフェースは稼働中。
	故障：ネットワークインタフェースは稼働していない。
	アクセス不可：ネットワークインタフェースはほかのノードからアクセスできない。
	使用不可：ネットワークインタフェースは使用できない。

表 13：クラスタネットワークインタフェースのステータスアイコン

その他のアイコン

特定のウィンドウに対応付けられないアイコンのリストとその意味は次のとおりです。

アイコン	意味
	CD-ROM (赤色: エラー、緑色: オンライン、黄色: スタンバイ、青色: 不明)
	通信デバイス (赤色: エラー、緑色: オンライン、黄色: スタンバイ、青色: 不明)
	CPU (赤色: エラー、緑色: オンライン、黄色: スタンバイ、青色: 不明)
	ジュークボックス、自動 CD-ROM チェンジャ (赤色: エラー、緑色: オンライン、黄色: スタンバイ、青色: 不明)
	MOD (赤色: エラー、緑色: オンライン、黄色: スタンバイ、青色: 不明)
	プリンタ (赤色: エラー、緑色: オンライン、黄色: スタンバイ、青色: 不明)
	スキャナ (赤色: エラー、緑色: オンライン、黄色: スタンバイ、青色: 不明)
	テープドライブ装置 (赤色: エラー、緑色: オンライン、黄色: スタンバイ、青色: 不明)
	WORM 装置 (Write Once Read Many) (赤色: エラー、緑色: オンライン、黄色: スタンバイ、青色: 不明)
	ハードディスク ハードディスク (赤色: 故障、緑色: OK)
	不明デバイス (赤色: エラー、緑色: オンライン、黄色: スタンバイ、青色: 不明)
	グラフィック表示
	グラフ表示
	テキストまたは表による表示
	ポケットベル監視 (赤色: エラー、緑色: オンライン、黄色: スタンバイ、青色: 不明)
	OK
	管理不可
	調査モード
	エラー
	初期設定、環境 [< サーバ >]、または電源 [< サーバ >]







アイコン	意味
	ネットワーク関連のすべてのウィンドウ： ネットワークインタフェース [<Server>]、トークンリング 統計情報 [<Server>]、イーサネット MAC 統計情報 [<Server>]、FDDI MAC 統計情報 [<Server>]
	外部記憶装置関連のすべてのウィンドウ： 外部記憶装置 [<Server>]、デバイスの表示 [<Server>]、外部記憶装置：パーティションビュー [<Server>]、外部記憶装置：ロジカルビュー [<Server>]、 Mylex ディスクアレイウィンドウ： デバイスビュー [<Server>]、アダプタビュー [<Server>]、物理デバイスビュー [<Server>]
	システム情報（特に、OS）
	ベースボード [<Server>]
	Windows デスクトップ上の Server Manager、サーバリスト、ServerView[<Server>]、アラームマネージャ、しきい値マネージャ、レポートマネージャ、しきい値リスト、レポートリスト
	Windows デスクトップ上の Server Manager のヘルプシステム

表 14：その他のアイコン

2 トラップリスト

Adaptec トラップ

次の表は、Adaptec トラップをアルファベット順に掲載して、概要を示したものです。

トラップ名	ID	意味	エラーの クラス
DuralinkStatusTrap	1	ポートのステータスが変化した	情報
FailoverStatusTrap	1	Failover Status が変化した	情報

表 15 : Adaptec トラップ

APC トラップ

次の表は、APC トラップをアルファベット順に掲載して、概要を示したものです。

トラップ名	ID	意味	エラーのクラス
baseFanFailure	25	ベースモジュールのバイパス電源が故障している。	危険
batteryPackCommLost	26	外部バッテリーパックとの通信が中断した。	軽度
batteryPackCommEstablished	27	UPS は外部バッテリーパックと通信可能。	情報
bypassPowerSupplyFailure	24	ベースモジュールのバイパス電源が故障している。	危険
calibrationStart	28	バッテリーの強度を調べるテストを UPS が開始した。	情報
codeAuthenticationDone	32	エージェントのコードイメージに基づく認証が完了した。	情報
communicationEstablished	8	エージェントと電源の間で通信が確立した。	情報
communicationLost	1	エージェントと電源の間の通信が中断された。	危険
contactFault	18	Measure UPS 上の接点のひとつが、そのデフォルト位置から移動した。	危険
contactFaultResolved	19	Measure UPS 接点の中のひとつの接点のエラーが解決した。	情報
hardwareFailureBypass	20	ハードウェア故障のために UPS がバイパスされている。	危険
lowBattery	7	通常電源が回復しなければ、UPS はスリープ状態になり、その負荷に対する電源を切ります。	危険
powerRestored	9	upsOnBattery 状態の発生後、通常電源が回復した。	情報
restartAgent	29	マネージャの命令によりエージェントが再起動した。	情報
returnFromBypass	23	UPS がバイパスモードから回復した。	情報
returnFromLowBattery	11	UPS が lowBattery 状態から回復した。	情報
smartAvrReducing	31	UPS が SmartAVR の電圧低下させた。	軽度
smartBoostOn	6	UPS が SmartBoost を有効にした。	軽度
softwareBypass	21	ユーザがソフトウェアまたは UPS フロントパネルを介して、UPS をバイパスするように設定した。	軽度
switchedBypass	22	ユーザが背面にあるスイッチを使用して、UPS をバイパスするように設定した。	軽度

トラップ名	ID	意味	エラーのクラス
upsBatteryNeeds Replacement	17	UPS バッテリーをただちに取り替える必要がある。	危険
upsDiagnosticsFailed	3	内部 UPS 自己テストに失敗した。	危険
upsDiagnosticsPassed	10	内部 UPS 自己テストにパスした。	情報
upsDipSwitchChanged	16	UPS の DIP スイッチの設定が変更された。	軽度
upsDischarged	4	UPS バッテリーが放電している。通常電源が故障していると、ただちにバッテリー不足状態が生じます。必要な動作を行うための十分なランタイムを保証できません。	危険
upsOnBattery	5	UPS は、現在バッテリーのバックアップ電源を提供している。	重度
upsOverload	2	UPS がその定格容量の 100% よりも大きい負荷を感知した。	危険
upsRebootStarted	15	UPS がリブートのシーケンスを開始した。UPS は、このときリブートします。	重度
upsTurnedOff	12	管理ステーションが UPS のスイッチをオフにした。	重度
upsSleeping	13	UPS がスリープモードに入ろうとしている。	重度
upsTurnedOn	30	UPS の電源が入る。	情報
upsWokeUp	14	UPS がスリープモードから戻る。負荷への電源が回復した。	情報

表 16 : APC トラップ

クラスタトラップ

次の表は、クラスタトラップをアルファベット順に掲載して、概要を示したものです。

トラップ名	ID	意味	エラーのクラス
sniWpChangeClusterActiveAgain	811	SNMP エージェントがクラスタサービスとの接続を確立した。	情報
sniWpChangeClusterNoLongerActive	812	SNMP エージェントがクラスタサービスとの接続を失った。	危険
sniWpChangeClusterNotFoundActive	810	SNMP エージェントがクラスタサービスとの接続を開始したが、このサービスと通信できない。	危険
sniWpChangeGroupAdded	851	新しいリソースグループが作成された。	情報
sniWpChangeGroupDeleted	850	リソースグループが削除された。	危険
sniWpChangeGroupProperty	853	リソースグループの設定が変更された。	重度
sniWpChangeGroupState	852	リソースグループの状態が変更した。	重度
sniWpChangeNetInterfaceAdded	921	新しいネットワークインタフェースが作成された。	情報
sniWpChangeNetInterfaceDeleted	920	ネットワークインタフェースが削除された。	危険
sniWpChangeNetInterfaceProperty	923	ネットワークインタフェースの設定が変更された。	重度
sniWpChangeNetInterfaceState	922	ネットワークインタフェースのステータスが変更された。	重度
sniWpChangeNetworkAdded	911	ネットワークがクラスタに追加された。	情報
sniWpChangeNetworkDeleted	910	ネットワークがクラスタから削除された。	危険
sniWpChangeNetworkProperty	913	ネットワークの設定が変更された。	重度
sniWpChangeNetworkState	912	ネットワークの状態が変化した。	重度
sniWpChangeNodeAdded	831	新しいノードがクラスタに追加された。	情報
sniWpChangeNodeDeleted	830	ノードがクラスタから削除された。	情報

トラップ名	ID	意味	エラーのクラス
sniWpChange NodeState	832	クラスタのノードの状態が変化した。	重度
sniWpChange RegistryAttributes	895	クラスタのレジストリアトリビュートが変更された。	情報
sniWpChange RegistryKey	896	クラスタのレジストリキーが作成されたか、削除された。	情報
sniWpChange RegistryValue	897	クラスタのレジストリ値が変更されたか、削除された。	情報
sniWpChange ResourceAdded	861	クラスタの新しいリソースが作成された。	情報
sniWpChange ResourceDeleted	860	クラスタのリソースが削除された。	危険
sniWpChange ResourceProperty	863	クラスタのリソースの設定が変更された。	重度
sniWpChange ResourceState	862	クラスタのリソースの状態が変化した。	重度
sniWpChange ResourceTypeAdded	841	新しいタイプのリソースが作成された。	情報
sniWpChange ResourceTypeDeleted	840	ある種類のリソースが削除された。	危険
sniWpChange Unknown	801	クラスタの API が、対応するトラップ定義を持たないノートタイプ (note type) を返した。	危険

表 17 : クラスタトラップ

DPT トラップ

次の表は、DPT トラップをアルファベット順に掲載して、概要を示したものです。

トラップ名	ID	意味	エラーのクラス
DptArrayCfgChangeTrap	12	RAID アレイの設定が、次のいずれかのイベントによって、変更された。 - 新しいアレイの作成 - 既存のアレイの削除 - アレイの修正（ストライプサイズの変更など）	情報
DptDevBlockReassignedTrap	6	HBA がブロックを再割り当てを行った。 dptScsiDevBadBlockNumber には、再割り当てされたブロック番号が含まれます。	情報
dptDevDataInconsistentTrap	7	RAID 確認機能が、データの不整合を発見した。dptScsiDevBadBlockNumber に開始ブロック番号が、dptScsiDevBadBlockCount に影響を受けるブロック数がそれぞれ含まれます。	情報
dptDevErrorThresholdHitTrap	8	変更された特定のデバイスのステータスと、デバイスのクラッシュしきい値を超えたエラーカウント。	情報
dptDevLockingStatusChangedTrap	10	ドライブのロッキングが開始 / 終了した。	情報
dptDevReqSenseTrap	11	HBA から検知要求（request sense）情報が受信された。	情報
dptDevStatusChangedTrap	9	SCSI デバイスのステータスが変更された。	情報
dptHbaCorrectedHardRAMErrorTrap	4	HBA で ECC RAM エラーが発生し、訂正した。dptScsiHbaBadMemoryAddress には、その RAM アドレスが含まれます。	情報
dptHbaSoftRAMErrorTrap	3	HBA で ECC RAM エラーが発生したが、そのエラーが物理ディスクブロックではみつからない。 dptScsiHbaBadMemoryAddress には、その RAM アドレスが含まれます。	情報
dptHbaTemperatureChangeTrap	2	HBA で標準温度が回復した。	情報
dptHbaUnCorrectableHardRAMErrorTrap	5	HBA で ECC RAM エラーが発生し、それを訂正できない。 DptScsiHbaBadMemoryAddress には、その RAM アドレスが含まれます。	情報

トラップ名	ID	意味	エラーの クラス
DptHbaVoltage ChangeTrap	1	HBA で低電圧が検出された。	情報
DptUnknownErrorTrap	13	dptScsiEventInfo の値で定義されたよう に、イベントが発生した。	情報

表 18 : DPT トラップ

DuplexWrite トラップ

次の表は、DuplexWrite トラップをアルファベット順に掲載して、概要を示したものです。

トラップ名	ID	意味	エラーのクラス
sieDWActiveLun-Changed	1310	ユーザが、DuplexWrite グループに対する読み出しパスを特定のディスクに変更した。	情報
sieDWConfig Changed	1308	ドライバが、設定を再度読み出し、修正された設定を発見した。	情報
SieDWConfigInvalidated	1309	DuplexWrite クラスタサービスが、あるディスクに対する設定情報を無効にした。この設定情報は、このクラスタ要素上のディスクへの次のアクセス前に、再度読み出されます。	情報
sieDWDiskRegistered	1351	登録を変更することによって、DuplexWrite と合わせて使用するディスクをユーザがロックしたか、または解放した。この設定は、システムが再起動するまでドライバに影響を与えません。	情報
SieDWConfigRemoved	1302	ユーザが DuplexWrite グループを削除した。この動作は、設定ユーティリティによって、要求されたものです。	情報
sieDWNewConfig	1300	設定ユーティリティの要求によって、ユーザが新しい DuplexWrite グループを作成したか、または既存の DuplexWrite グループにディスクを追加した。	情報
sieDWPieceFailed	1311	ドライバが DuplexWrite グループのディスクのひとつでエラーを検出した。	危険
sieDWPieceRecovered	1305	DuplexWrite グループが回復した。DuplexWrite グループの両方の要素のステータスが ONLINE になっています。	情報
sieDWPieceRemoved	1301	ユーザが DuplexWrite グループからディスクを取り外した。この動作は設定ユーティリティによって、要求されたものです。	情報
SieDWRecover-Aborted	1306	ユーザが DuplexWrite グループの回復プロセスを異常終了した。	軽度
SieDWRefreshFinished	1350	ドライバのインタフェースが、内部データ構造を更新した。	情報
SieDWReservation-Conflict	1307	ドライバが予約の矛盾を検出した。DuplexWrite グループ全体がアクセス不可能になった。これは、初期化段階で発生した場合は、エラーではありません。	重度

トラップ名	ID	意味	エラーのクラス
sieDWStatusSet	1303	ユーザが DuplexWrite グループのディスクのステータスを修正した。この動作は、設定ユーティリティによって、要求されたものです。	軽度
sieDWUpdateStatus	1304	ドライバが DuplexWrite グループのステータスを更新した。	軽度

表 19 : DuplexWrite トラップ

EMC トラップ

次の表は、EMC トラップをアルファベット順に掲載して、概要を示したものです。

トラップ名	ID	意味	エラーのクラス
DiscoveryTableChange	4	このトラップは、アタッチされている Symmetrixes の定期チェックで新しくアタッチされた Symmetrixes が見つかったとき、または以前アタッチされた Symmetrixes の設定の変更が見つかった場合に送信されます。	情報
EmcDeviceStatusTrap	1	このトラップは、アタッチされている各 Symmetrixes に対する Device Not Ready 状態に対する最近のテスト中に、NOT READY が見つかった場合に、各デバイスに送信されます。	危険
EmcRatiosOutofRangeTrap	3	このトラップは、Hit Ratio、Write Ratio のいずれかまたは両方の比率が、最近のテスト中に、指定した範囲外である場合に、アタッチされている各 Symmetrix に送信されます。Hit 率と Write 率は、エージェントのスタートアップ時に事前に設定され、アタッチされているすべての Symmetrix に適用されます。	情報
EmcSymmetrixStatusTrap	2	このトラップは、アタッチされている各 Symmetrix の health テスト中に見つかった WARNING および FATAL のエラー条件に対して送信されます。	重度

表 20 : EMC トラップ

Generic トラップ

次の表は、Generic トラップをアルファベット順に掲載して、概要を示したものです。

トラップ名	ID	意味	エラーのクラス
ColdStart	0	エージェントが再起動した。MIB ビューオブジェクトが変更した可能性がある。	軽度
EgpNeighborLoss	5	管理下にあるノードの EGP ネーバ (neighbor) が、UP から DOWN 状態に変化した。	重度
LinkDown	2	管理下にあるノードのインタフェースが、UP から DOWN 状態に変化した。	危険
LinkUp	3	管理下にあるノードのインタフェースのひとつが、DOWN から UP 状態に変化した。	軽度
WarmStart	1	エージェントが再初期化された。オブジェクトはそのままです。	軽度

表 21 : Generic トラップ

HardDisk トラップ (S.M.A.R.T.)

次の表は、HardDisk トラップをアルファベット順に掲載して、概要を示したものです。

トラップ名	ID	意味	エラーのクラス
sniSMARTFailure Predicted	750	S.M.A.R.T. がハードディスクが故障する可能性があることを警告している。	危険
sniSMARTMonitoring Disabled	751	S.M.A.R.T. 設定が変更された。	情報

表 22 : HardDisk トラップ

MultiPath トラップ

次の表は、MultiPath トラップをアルファベット順に掲載して、概要を示したものです。

トラップ名	ID	意味	エラーのクラス
sieMP ActivePortChanged	1202	ユーザが MultiPath グループのパスを有効または無効にした。	情報
sieMPAutoRecovered	1205	エラー状態であった MultiPath グループのパスが、自動回復により再度アクセス可能になった。	情報
sieMPError	1200	MultiPath グループは、現在ひとつのパスだけで構成されていて、このパスでエラーが検出された。この MultiPath グループは、操作不可能な状態になっている。	危険
sieMPErrorCleared	1206	MultiPath グループのパスのエラー状態をユーザがクリアした。	情報
sieMPReconfigured	1203	MultiPath グループからパスが削除されたか、追加された。	情報
sieMPRetry	1201	MultiPath グループのパスでエラーが検出された。MultiPath グループの他のパスでコマンド実行の試みがあった。	危険
sieMPStatusChanged	1204	ユーザが MultiPath グループを変更した（自動回復がオンまたはオフにされたか、ロードバランシングがオンまたはオフにされたか、またはあるパスが有効または無効にされた。）	情報

表 23 : MultiPath トラップ

Mylex トラップ

次の表は、Mylex トラップをアルファベット順に掲載して、概要を示したものです。

トラップ名	ID	意味	エラーのクラス
mylexAdapterDied	221	ディスクアレイコントローラへの接続が中断された。	危険
mylexAutoRebuild Started	200	ユニットの自動再構築が開始した。	危険
mylexAutoRebuild Started2	222	システムドライブの自動再構築が開始した。	情報
mylexBBUFound	275	BBU が見つかった。	情報
mylexBBUPowerLow	276	BBU 電源が少なくなってる。	危険
mylexBBUPowerOK	277	BBU 電源に異常はない。	情報
mylexGamDriver IncorrectVersion	262	インストールされている GAM ドライバのバージョンが正しくない。	軽度
mylexGamDriverMissing	261	GAM ドライバがインストールされていないか、または起動しない。	軽度
mylexInitialization Cancelled	231	システムドライブの初期化がキャンセルされた。	情報
mylexInitializationDone	230	システムドライブの初期化が完了した。	情報
mylexInitializationFailed	232	システムドライブの初期化に失敗した。	重度
mylexInitializationStarted	229	システムドライブの初期化が開始した。	情報
mylexLogicalDriveCritical	215	論理ドライブが緊急を要する状態にある。RAID 構成のドライブのひとつが故障した。	重度
mylexLogicalDriveOffline	214	論理ドライブがオフラインになっている。	危険
mylexLogicalDriveOnline	216	論理ドライブがオンラインになっている。	危険
mylexManualRebuild Started	201	手動再構築が開始した。	情報
mylexManualRebuild Started2	223	手動再構築が開始した。再構築の成功後、mylexRebuildDone2 が送信される。	情報
mylexParityCheck Cancelled	210	パリティチェックがキャンセルされた。	情報
mylexParityCheckDone	209	パリティチェックが完了した。	情報
mylexParityCheckError	212	パリティチェックエラーが検出された。	重度

トラップ名	ID	意味	エラーのクラス
mylexParityCheckLogicalDriveFailed	213	パリティチェック：論理ドライブが故障した。	重度
mylexParityCheckStarted	208	パリティチェックが開始した。	情報
mylexParityCheckStatus	211	パリティチェックのステータス	情報
mylexPhysicalDeviceAdded	257	物理デバイスが追加された。	情報
mylexPhysicalDeviceAlive	218	物理デバイスがオンラインになっている。	情報
mylexPhysicalDeviceDied	217	物理デバイスがオフになっている。	危険
mylexPhysicalDeviceHardError	251	物理デバイスで永久エラーが発生した。	軽度
mylexPhysicalDeviceHotspare	250	物理デバイスは現在、Hotspare デバイスです。	情報
mylexPhysicalDeviceMiscError	254	物理デバイスでその他のエラーが発生した。	軽度
mylexPhysicalDeviceParityError	253	物理デバイスでパリティエラーが発生した。	軽度
mylexPhysicalDevicePrefailure	255	物理デバイスからの事前故障警報	重度
mylexPhysicalDeviceRemoved	258	物理デバイスが取り外された。	重度
mylexPhysicalDeviceSoftError	252	物理デバイスで通常（ソフト）エラーが発生した。	軽度
mylexPhysicalDeviceUnconfigured	256	物理デバイスの設定が解除された。	軽度
mylexRaidExpansionDone	236	RAID 容量拡張が完了した。	軽度
mylexRaidExpansionFailed	237	RAID 容量拡張に失敗した。	重度
mylexRaidExpansionStarted	235	RAID 容量拡張が開始した。	情報
mylexRaidTypeChanged	240	システムドライブの RAID タイプが変更された。	情報
mylexRebuildCancelled	203	再構築がキャンセルされた。	情報
mylexRebuildCancelled2	225	システムドライブの再構築がキャンセルされた。	情報
mylexRebuildDone	202	再構築が完了した。	情報
mylexRebuildDone2	224	システムドライブの再構築が完了した。	情報

トラップ名	ID	意味	エラーのクラス
mylexRebuildError	205	再構築エラーが検出された。	重度
mylexRebuildError2	226	システムドライブで再構築エラーが検出された。	重度
mylexRebuildLogical DriveFailed	207	ディスクアレイアダプタで再構築を終了し、不良ブロックが検出された。	重度
mylexRebuildLogical DriveFailed2	228	システムドライブの再構築が終了した。サーバのシステムドライブが故障している。	重度
mylexRebuildNew DeviceFailed	206	再構築が終了した。新しいデバイスが故障している。	重度
MylexRebuildNew DeviceFailed2	227	システムドライブの再構築。新しいデバイスが故障している。	重度
mylexRebuildStatus	204	再構築のステータス	情報
mylexSMART ConfigurationChanged	271	S.M.A.R.T. 設定が変更された。	情報
mylexSMART FailurePredicted	270	物理ディスクで故障 (S.M.A.R.T.) が予測された場合に送信される。	危険
mylexStateChange TableFull	220	キャッシュ変更テーブルがいっぱい。最後のウォームスタート以降の設定変更が多すぎる。	重度
mylexSystemDriveBad Block	238	システムドライブで不良ブロックが検出された。	軽度
mylexSystemDrive Created	233	システムドライブが作成された。	情報
mylexSystemDrive Deleted	234	システムドライブが削除された。	情報
mylexSystemDrive SizeChanged	239	システムドライブのサイズが変更された。	情報
mylexWriteBackError	219	コントローラキャッシュのライトバックエラー	重度
mylexWriteBackError2	260	コントローラキャッシュのライトバックエラー	重度

表 24 : Mylex トラップ

NetWare トラップ

次の表は、NetWare トラップをアルファベット順に掲載して、概要を示したものです。

トラップ名	ID	意味	エラーのクラス
sniNWActivateScreen	14	画面が起動した。	情報
sniNWAlert	44	Netware アラートメッセージがコンソールに書き込まれた。	情報
sniNWAllocateConnection	37	接続が割り当てられた。	情報
sniNWChangeSecurity	13	セキュリティの変更が発生した (NetWare)。	情報
sniNWChangeTime	51	時間が変更されたか、一様でない時間調整が発生した (NetWare)。	情報
sniNWClearConnection	9	接続がクリアされた。	情報
sniNWCloseFile	50	ファイルを閉じた。	情報
sniNWCloseScreen	21	画面が閉じた。	情報
sniNWCreateBinderyObj	11	バインダリオブジェクトが作成された。	情報
sniNWCreateObject	46	ディレクトリサービスオブジェクトが作成された。	情報
sniNWCreateProcess	28	プロセスが作成された。	情報
sniNWDataDeMigration	42	ファイルのデータの移行が取り消された。	情報
sniNWDataMigration	41	ファイルのデータが移行された。	情報
sniNWDeactivateScreen	18	画面が非活動状態になった。	情報
sniNWDeleteBinderyObj	12	バインダリオブジェクトが削除された。	情報
sniNWDeleteObject	47	ディレクトリサービスオブジェクトが削除された。	情報
sniNWDestroyProcess	29	処理が破棄される。	情報
sniNWDownServer	4	サーバがダウンしようとしている。(NetWare)	危険
sniNWExitToDos	7	サーバが DOS に切り替わろうとしている。	危険
sniNWKeyWasPressed	17	キーが押された。	情報
sniNWLoginUser	10	ユーザがサーバにログインした。	情報
sniNWLogoutConnection	38	ユーザがサーバからログアウトした。	情報
sniNWMLIDDeRegister	40	MLID の登録が解除された。	情報
sniNWMLIDRegister	39	MLID が登録された。	情報
sniNWModifyDirEntry	22	ディレクトリのエントリが変更された。	情報
sniNWModuleLoaded	27	モジュールがロードされた。	情報
sniNWModuleUnloaded	8	モジュールがアンロードされた。	情報
sniNWNewPublic	32	新しいパブリック記号が登録された。	情報

トラップ名	ID	意味	エラーのクラス
sniNWNoRelinquish Control	23	NLM が制御を放棄しなかった。	危険
sniNWOpenScreen	20	画面が開いた。	情報
sniNWProtocolBind	33	プロトコルが MLID にバインドされた。	情報
sniNWProtocolUnbind	34	プロトコルが MLID からのバインドを解除された。	重度
sniNWQueueAction	43	待ち行列が開始、停止、作成、または削除された。	情報
sniNWRenameObject	48	ディレクトリサービスのオブジェクトがリネームされた。	情報
sniNWSysVolume Dismounted	1	SYS ボリュームのマウントが解除された。このトラップの後、エージェントとのインタラクションは通常できなくなります。	危険
sniNWThreadSwitch	25	スレッドの切り替えが発生した。	情報
sniNWTrusteeChange	19	トラスティが変更した。 (NetWare)	情報
sniNWUpdateCursor	16	カーソル位置が更新された。	情報
sniNWUpdateScreen	15	画面が更新された。	情報
sniNWValueChanged	49	ディレクトリサービスのオブジェクトの値が変更した。	情報
sniNWVolSysMounted	0	SYS ボリュームがマウントされた。	情報
sniNWVolume Dismounted	3	ボリュームのマウントが解除された。	情報
sniNWVolumeMounted	2	ボリュームがマウントされた。	情報

表 25 : NetWare トラップ

NT トラップ

次の表は、NT トラップをアルファベット順に掲載して、概要を示したものです。

トラップ名	ID	意味	エラーのクラス
sniNTAlert	304	NT アラートメッセージがイベントログに書き込まれた。	情報
sniNTChangeSecurity	302	セキュリティの変更が発生した。	情報
sniNTChangeTime	305	時間が変更されたか、または一様でない (non-uniform) 時間調整が発生した。	情報
sniNTDownServer	300	サーバがダウンしようとしてる (NT)。	情報
sniNTEventLogError	330	新しく指定したエラーエントリがイベントログにある。	情報
sniNTEventLogFailure	334	新しく指定した故障エントリがイベントログにある。	情報
sniNTEventLogInformation	332	新しく指定した情報エントリがイベントログにある。	情報
sniNTEventLogSuccess	333	新しく指定した成功エントリがイベントログにある。	情報
sniNTEventLogWarning	331	新しく指定した警告エントリがイベントログにある。	情報
sniNTFileChangeAttr	322	ファイルまたはディレクトリのアトリビュートが変更された。	情報
sniNTFileChangeDirName	321	ディレクトリ名が変更、作成、または削除された。	情報
sniNTFileChangeLastWrite	324	ファイル上の最後の書き込み時間が変更された。	情報
sniNTFileChangeName	320	ファイル名が変更、作成、または削除された。	情報
sniNTFileChangeSecurity	325	ファイルのセキュリティが変更された。	情報
sniNTFileChangeSize	323	ファイルサイズが変更された。	情報
niNTLoginUsers	301	ユーザがログインした。	情報
sniNTRegChangeAttr	311	レジストリにあるキーのアトリビュートまたはそのサブツリーのアトリビュートが変更された。	情報
sniNTRegChangeLastWrite	312	レジストリにあるキーまたはそのサブツリーに対する最後の書き込み時間が変更された。	情報
sniNTRegChangeName	310	レジストリにあるキーの名前が変更された	情報
sniNTRegChangeSecurity	313	レジストリにあるキーまたはそのサブツリーのセキュリティが変更された。	情報
sniNTTrusteeChange	303	トラスティが変更された (NT)。	情報

表 26 : NT トラップ

PCI HotPlug トラップ

次の表は、PCI HotPlug トラップをアルファベット順に掲載して、概要を示したものです。

トラップ名	ID	意味	エラーの クラス
sieDeviceHotPlug TrapHotAdd	1022	SCSI デバイスが追加された。	情報
sieDeviceHotPlug TrapHotRemoval	1020	SCSI デバイスが取り外された。	情報
sieDeviceHotPlug TrapHotReplace	1021	SCSI デバイスが取り替えられた。	情報
siePciHotPlugTrap EndHotPlugAction	1002	pciHotPlugTrapPhysicalSlotNumber オブ ジェクトに保持されている物理スロット 番号に対する HotPlug 動作が終了した。	情報
siePciHotPlugTrap HotRemoval	1000	Hot Removal 動作が開始した。	情報
siePciHotPlugTrap HotReplace	1001	Hot Replace 動作が開始した。	情報

表 27 : PCI HotPlug トラップ

PXRE トラップ

次の表は、PXRE トラップをアルファベット順に掲載して、概要を示したものです。

トラップ名	ID	意味	エラーのクラス
cacheBatteryFailureTrap	7	コントローラのキャッシュのバッテリーが故障した。キャッシュのバッテリーを取り替えるか、または充電してください。	重度
cacheBatteryInformationTrap	9	コントローラのキャッシュのバッテリーが GOOD 状態です。	情報
cacheBatteryLowTrap	8	コントローラのキャッシュのバッテリーが LOW 状態です。キャッシュのバッテリーを取り替えるか、または充電してください。	軽度
communicationFailureTrap	12	サブシステムとの通信に失敗した。考えられる原因としては、データ経路の中断、通信 LUN 故障、2 つ以上の電源の故障、2 つ以上のファンの故障、制限を超えた温度、コントローラが両方とも故障したなどがあります。	危険
CommunicationInformationTrap	13	サブシステムとの通信が回復した。	情報
controllerFailureTrap	14	サブシステムの Secondary Controller が、故障した。コントローラを取り替えてください。考えられる原因としては、PCMCIA メモリカードが排出された、コントローラが物理的に取り外された、実際のハードウェア故障などがあります。	重度
controllerInformationTrap	15	サブシステムの Secondary Controller が回復しました。	情報
diskFailureTrap	1	ディスクドライブが故障した。ディスクの位置がディスク名によって示されます。そのディスクデバイスを取り替えてください。名前の中の番号は、そのコントローラのペアの背後にある Port, Target, Lun を示します。 例 - DISK10100 は、ディスク位置 Port 1, Target 01, Lun 00 です。 - DISK30300 は、ディスク位置 Port 3, Target 03, Lun 00 です。	重度

トラップ名	ID	意味	エラーの クラス
diskInformationTrap	2	ディスクドライブが回復しました。ディスクの位置が、ディスク名によって示されます。名前の中の番号は、そのコントローラのベアの背後にある Port, Target, Lun を示します。 例 - DISK10100 は、ディスク位置 Port 1, Target 01, Lun 00 です。 - DISK30300 は、ディスク位置 Port 3, Target 03, Lun 00 です。	情報
externalInputFailureTrap	20	ユーザ定義の EMU への External Input が故障を示しています。状態が FAILURE ならば、ユーザ定義の外部入力装置のひとつが問題があることを報告しています。	重度
externalInputInformationTrap	21	ユーザ定義の EMU への External Input が回復を示している。	情報
fanFailureTrap	5	指定した位置のファンが故障した。ファンを取り替えてください。	重度
fanInformationTrap	6	指定した位置のファンが回復した。	情報
lunFailureTrap	16	LUN が故障し、オフラインになっています。考えられる原因としては、LUN を構成するディスクドライブでの故障している数が多いか、またはその他の理由で OS が LUN と通信できないという可能性があります。	危険
lunInformationTrap	19	再構築プロセスが問題なく完了したことにより、LUN が最適になった。	情報
lunReconstructTrap	17	LUN が再構築プロセスを開始しましたが、通常の使用は可能。考えられる原因としては、利用可能なディスクドライブがそのセットに挿入するように予備として作成されたか、メンバーディスク装置の故障時に、再構築のために既存の予備が自動的にそのセットに追加されたという可能性があります。	軽度
lunReducedTrap	18	メンバーディスクが故障したために、LUN が劣化した。故障したディスク装置を取り替えて、システムに予備を追加し、再構築が行われるようにしてください。	重度
powerSupplyFailureTrap	3	指定された場所の電源が故障した。電源を取り替えてください。	重度
powerSupplyInformationTrap	4	電源が回復した。	情報

トラップ名	ID	意味	エラーの クラス
temperature InformationTrap	11	温度センサが、WARNING しきい値制限 より下を示している。	情報
temperatureOver ThresholdTrap	10	温度センサが WARNING しきい値制限を 越えた。アプリケーションに応じて、環 境温度をより低くするか、または内部し きい値制限を上げてください。	重度

表 28 : PXRE トラップ

RAID Adapter トラップ

次の表は、RAID Adapter トラップをアルファベット順に掲載して、概要を示したものです。

トラップ名	ID	意味	エラーのクラス
rtBatteryMissing	9020	Adapter-%d: Battery Module がない。	情報
rtBatteryTemperatureHigh	9022	Adapter-%d: Battery Module 温度が Danger Threshold を超えた。	情報
rtBatteryVolatageLow	9021	Adapter-%d: Battery Module 電圧が低くなっている。	情報
rtCheckConditionStatus	9018	Adapter-%d, Channel-%d, Target-%d: Sense_Key-0x%x ASC-0x%x ASCQ-0x%x でコマンドが完了した。	情報
rtCheckConsistencyAborted	9010	Adapter-%d, Logical Drive-%d: ユーザが一貫性検査を異常終了した。	情報
rtCheckConsistencyCompleted	9009	Adapter-%d, Logical Drive-%d: 一貫性検査が完了した。不整合はありませんでした。	情報
rtCheckConsistencyFailed	9012	Adapter-%d, Logical Drive-%d: 一貫性検査に失敗した。	情報
rtCheckConsistencyStarted	9008	Adapter-%d, Logical Drive-%d: 一貫性検査が開始された。	情報
rtConfigUpdated	9001	Adapter-%d: 新しい設定が書き込まれた。	情報
rtConsistencyCorrected	9011	Adapter-%d, Logical Drive-%d: 一貫性検査オペレーションが完了した。不整合が修正された。	情報
rtInitializeAborted	9006	Adapter-%d, Logical Drive-%d: ユーザが初期化を異常終了した。	情報
rtInitializeCompleted	9005	Adapter-%d, Logical Drive-%d: 初期化が完了した。	情報
rtInitializeFailed	9007	Adapter-%d, Logical Drive-%d: 初期化に失敗した。	情報
rtInitializeStarted	9004	Adapter-%d, Logical Drive-%d: 初期化が開始した。	情報
rtLogicalDriveStateChange	9003	Adapter-%d, Logical Drive-%d: 状態が、%s から %s に変化した。	情報
rtNewDriveInserted	9019	Adapter-%d, Channel-%d, Target-%d: 新しいデバイスが挿入された。	情報
rtPhysicalDriveStateChange	9002	Adapter-%d, Channel-%d, Target-%d: ドライブの状態が、%s から %s に変化した。	情報

トラップ名	ID	意味	エラーの クラス
rtPredictiveFailures Exceeded	9016	Adapter-%d, Channel-%d, Target-%d: 予測される故障が報告された。ドライブ識別ストリング = %s Sense Key = 0x%x, ASC = 0x%x, ASCQ = 0x%x.	情報
rtPredictiveFailures False	9017	Adapter-%d, Channel-%d, Target-%d: 報告された故障予測しきい値が、[FALSE]を超えた。ドライブ識別ストリング = %s Sense Key = 0x%x, ASC = 0x%x, ASCQ = 0x%x.	情報
rtReconstruction Completed	9014	Adapter-%d, Logical Drive-%d: 再構築が完了した。	情報
rtReconstructionFailed	9015	Adapter-%d, Logical Drive-%d: 再構築に失敗した。	情報
rtReconstruction Started	9013	Adapter-%d, Logical Drive-%d: 再構築が開始した。	情報

表 29 : RAID Adapter トラップ

RomPilot トラップ

次の表は、RomPilot トラップをアルファベット順に掲載して、概要を示したものです。

トラップ名	ID	意味	エラーのクラス
RomPilotColdReset	258	コールドシステムリセット後に、Phoenix RomPilot がロードされた。	情報
RomPilotDiagnosticReset	259	診断システムのリセット後に、Phoenix RomPilot がロードされた。	情報
RomPilotFatalError	769	Phoenix RomPilot が、致命的誤りを検出した。	情報
RomPilotGenericBoot	512	Phoenix RomPilot が、一般的なブート（OS をロードすることについて）を告知する。	情報
RomPilotIDEBootReset	260	IDE Boot システムのリセット後に、Phoenix RomPilot がロードされた。	情報
RomPilotOSStarted	1280	Phoenix RomPilot が OS が起動したことを告知する。	情報
RomPilotPostWarningError	771	Phoenix RomPilot が事後警告エラーを検出した。	情報
RomPilotPressF1	770	Phoenix RomPilot が実行していて、続けるには F1 キーを押す必要がある。	情報
RomPilotUnspecifiedReset	256	指定されていないシステムのリセット（コールドリセットとみなされる）後に、Phoenix RomPilot がロードされた。	情報
RomPilotWarmReset	257	ウォームシステムリセット後に、Phoenix RomPilot がロードされた。	情報

表 30 : ROMPilot トラップ

ServerControl トラップ

次の表は、ServerControl トラップをアルファベット順に掲載して、概要を示したものです。

トラップ名	ID	意味	エラーのクラス
cabinetNotConfigured	623	キャビネットが設定されていません。	情報
cabinetSwitchedOff	617	キャビネットのスイッチがオフになっています。	情報
cabinetSwitchedOn	618	キャビネットのスイッチがオンになっています。	情報
communicationEstablished	636	サーバ管理コントローラとの通信が確立しました。	情報
communicationFailure	610	サーバ管理コントローラとの通信が中断しました。	危険
correctableMemError	643	訂正可能メモリエラー	軽度
correctableMemErrorAddr	637	address での、訂正可能メモリエラー	軽度
correctableMemErrorBank	639	bank での訂正可能メモリエラー	軽度
correctableMemErrorModule	641	module での訂正可能メモリエラー。	軽度
CPUSpeedchanged	656	温度が原因で、CPU 速度が変化しました。	情報
fanCriticalError	622	ファンがクリティカルな状態で、間もなく故障します。	情報
fanError	601	ファンが故障しました。	危険
fanOk	629	ファンは正常です。	情報
frontDoorStatusChanged	646	フロントドアのステータスが変化しました。	情報
housingOpenStatusChanged	647	ハウジングのステータスが変化しました。	情報
internalError	620	サーバ管理コントローラソフトウェアの内部エラー。	情報
notEnoughCabinets	615	storage extensions の実際の数が、設定で保存されている数よりも少なくなっています。	重度
powerOffTimeReached	645	電源をオフにする時間に到達しました。	情報
powerSupplyAdded	625	電源が追加されました。	情報
powerSupplyFailed	626	電源が故障しました。	重度
powerSupplyOk	627	電源が再度機能しています。	情報
powerSupplyRemoved	624	電源が取り外されました。	情報
powerSupplyStatusCritical	628	十分な電源が供給されていません。	危険
scbBBUNotdetected	614	BBU が設定されていますが、BBU が検出されません。	情報
scbUnconfiguredBBUDetected	613	BBU が検出されましたが、BBU は設定されていません。	情報
scbUnconfiguredUPSDetected	611	UPS が検出されましたが、UPS は設定されていません。	情報
scbUPSNotdetected	612	UPS が設定されていますが、UPS は検出されていません。	重度
selftestError	609	サーバ管理コントローラが故障しました。	危険

トラップ名	ID	意味	エラーの クラス
selftestWarning	608	サーバ管理コントローラが、その自己テスト中に小さな問題を検出しました。	軽度
serverManagementDisabled	631	Server Management BIOS が無効になります。	情報
sniPagerOff	255	ポケットベルがオフになっています。	情報
sniScFanAdded	653	表示されているホットプラグファンが挿入されました。	情報
sniScFanRemoved	654	表示されているホットプラグファンが取り外されました。	情報
sniScRedundantFanFailed	648	表示されている冗長ファンが故障しました。	重度
sniScRedundantPowerSupplyFailed	649	ひとつの冗長ホットリブレース (hot replace) 電源が故障しました。	重度
sniScShutdownCancelled	655	保留中のサーバシャットダウンをユーザがキャンセルすると、このトラップが送信されます。	情報
sniScVoltageOk	650	電源の電圧が、通常範囲内にあります。	情報
sniScVoltageTooHigh	652	電源の電圧が高すぎます。	危険
sniScVoltageTooLow	651	電源の電圧が低すぎます。	危険
serverShutdown	621	サーバがシャットダウンされました。	情報
tempCritical	604	温度がクリティカルなレベルに到達しました。	危険
tempOk	602	温度が通常範囲内にあります。	情報
tempSensorBroken	630	温度センサに欠陥があるか、または接続されていません。	重度
tempSensorOk	635	温度センサが再度機能しています。	情報
tempWarn	603	温度が警告レベルに到達しました。	重度
testTrap	600	トラップ接続を確認するために、テストトラップが送信されました。	情報
tooManyCabinets	616	storage extensions の実際の数が、設定に保存されている数よりも多くなっています。	軽度
trapAcFailed	632	交流電源が故障しました。	危険
trapDuplicateCabinetId	633	2 つ以上のキャビネット (サーバまたは storage extensions) が同じ ID 番号を持っています。	重度
trapEventLog	634	エラーが記録されました。詳細については、サーバ管理イベント / エラーログ (回復) を参照してください。これは、エージェントの実行前にエラーが発生した場合、または特定のトラップがないエラーの場合に起こる可能性があります。	重度
trapOnBattery	606	交流電源が故障しました。キャビネットがバッテリー電源で作動しています。この UPS はバッテリー電源で作動しているか、またはバックアップバッテリーユニット (BBU) から電流をひいています。このトラップは持続性があり、交流電源が復帰するか、またはシステムのスイッチがオフになるまで、1 分間隔で再送されます。	危険
trapOnMains	607	交流電源が正常です。	情報

トラップ名	ID	意味	エラーのクラス
uncorrectableMemError	644	訂正不可能なメモリエラー	危険
uncorrectableMemErrorAddr	638	address での訂正不可能なメモリエラー	危険
uncorrectableMemError Bank	640	bank での訂正不可能なメモリエラー	危険
uncorrectableMemError Module	642	module での訂正不可能なメモリエラー	危険
sieScPowerOn	657	サーバが電源投入されました。	情報
sieScBootWatchdogExpired	662	起動監視の異常を検出しました。	重度
sieScSoftwareWatchdogExpired	663	ウォッチドックタイマ監視の異常を検出しました。	重度
sieScUserAuthenticationFailure	664	ログインの認証に失敗しました。	情報
sieScDiagnosticBoot	665	診断実行のブートが開始されました。	情報

表 31 : ServerControl トラップ

ServerView トラップ

次の表は、ServerView トラップをアルファベット順に掲載して、概要を示したものです。

トラップ名	ID	意味	エラーのクラス
sniSvGenericTrapForward	700	ServerView アラーム信号が受信されました。	情報
sniSvPagerOff	701	ポケットベルをオフにする必要があります。	情報
sniSvPassThroughTrapForward	703	ServerView が転送するトラップを受信する場合に転送されます。オリジナルの ServerName と緊急度は、保持されます。	情報
sniSvServerStateChanged	702	Server が状態を変更（管理可能 / 管理不能）する場合に、ServerView が作成します。	情報

表 32 : ServerView トラップ

ServerView ステータストラップ

次の表は、ServerView ステータストラップをアルファベット順に掲載して、概要を示したものです。

トラップ名	ID	意味	エラーのクラス
sieStTrapStatusChanged	1100	サーバ %s でシステムのステータスが変化しました。	情報

表 33 : ServerView ステータストラップ

Tape トラップ

次の表は、Tape トラップをアルファベット順に掲載して、概要を示したものです。

トラップ名	ID	意味	エラーのクラス
tapeAlertTrap1	1	このテープドライブは、データの読み出しに問題がある。データは失われていませんが、テープの性能が低下している。	軽度
tapeAlertTrap10	10	テープドライブが使用中であるため、カートリッジを排出できない。オペレーションが完了してから、カートリッジを排出してください。	情報
tapeAlertTrap11	11	ドライブに入っているテープは、クリーニング用カートリッジです。バックアップまたは回復したい場合は、データ用のテープを挿入してください。	情報
tapeAlertTrap12	12	このドライブがサポートしていないタイプのカートリッジをロードしようとした。	情報
tapeAlertTrap13	13	ドライブに入っているテープが切れたために、オペレーションが失敗した。 1. そのテープを破棄してください。 2. 別のテープでオペレーションを再起動してください。	危険
tapeAlertTrap14	14	ドライブに入っているテープが切れたために、オペレーションが失敗した。 1. テープカートリッジを引き出さないでください 2. テープドライブ供給元のサポートセンタに問い合わせてください。	危険
tapeAlertTrap15	15	テープカートリッジのメモリが故障し、そのため性能が低下しています。このカートリッジを今後、バックアップ操作に使用しないでください。	軽度
tapeAlertTrap16	16	テープドライブが書き込み、読み出しを行っている最中に手動でカートリッジを排出したために、オペレーションが失敗した。	危険
tapeAlertTrap17	17	リードオンリータイプのカートリッジを、このドライブにロードした。このカートリッジはライトプロテクトとして表示されます。	軽度
tapeAlertTrap18	18	テープカートリッジ上のディレクトリが改ざんされた。ファイル検索の性能が低下します。	軽度

トラップ名	ID	意味	エラーのクラス
tapeAlertTrap19	19	テープカートリッジの有効寿命に近づいています。次を行うことを推奨します。 1. 次回のバックアップ用には、別のテープカートリッジを使用してください。 2. このテープカートリッジから、データを復元する必要がある場合に備えて、安全な場所に保管してください。	情報
tapeAlertTrap2	2	このテープドライブは、データの書込みに問題がある。データは失われていませんが、テープの容量は低下しています。	軽度
tapeAlertTrap20	20	テープドライブのクリーニングが必要です。 1. オペレーションが停止したら、テープを排出し、ドライブをクリーニングしてください。 2. オペレーションが停止しなかったら、終了するまで待ってからドライブをクリーニングしてください。	危険
tapeAlertTrap21	21	テープドライブの定期クリーニングを行う時期です。 1. 現在のオペレーションが完了するまで待ってください。 2. 次にクリーニングカートリッジを使用してください。	軽度
tapeAlertTrap22	22	テープドライブで前回使用したクリーニングカートリッジが磨耗している。 1. 磨耗したクリーニングカートリッジを破棄してください。 2. 現在のオペレーションが完了するまで待ってください。 3. 次に新しいクリーニングカートリッジを使用してください。	危険
tapeAlertTrap23	23	テープドライブで前回使用したクリーニングカートリッジのタイプが無効です。 1. このドライブで、このクリーニングカートリッジを使用しないでください。 2. 現在のオペレーションが完了するまで待ってください。 3. 次に有効なクリーニングカートリッジを使用してください。	危険

トラップ名	ID	意味	エラーのクラス
tapeAlertTrap256	256	ライブラリメカニズムが、ドライブとの通信で問題を生じている。 1. ライブラリをオフにし、次にオンにします。 2. オペレーションを再起動します。 3. 問題が解決しなければ、ライブラリ供給元のサポートセンタに問い合わせてください。	危険
tapeAlertTrap257	257	ライブラリメカニズムに問題がある。問題が解決しなければ、ライブラリ供給元のサポートセンタに問い合わせてください。	軽度
tapeAlertTrap258	258	ライブラリにハードウェアの故障があります。 1. ライブラリをリセットします。 2. オペレーションを再起動します。ライブラリユーザマニュアルをチェックし、デバイスのリセットについてのデバイス固有の指示を参照してください。	危険
tapeAlertTrap259	259	ライブラリにハードウェア故障があります。 1. ライブラリをオフにし、次にオンにします。 2. オペレーションを再起動します。 3. 問題が解決しなければ、ライブラリ供給元のサポートセンタに問い合わせてください。ライブラリユーザマニュアルをチェックし、デバイスの電源のオン、オフについてのデバイス固有の指示を参照してください。	危険
tapeAlertTrap260	260	ライブラリメカニズムに、ハードウェア故障がある可能性があります。拡張診断を実行し、問題を確認および診断してください。ライブラリユーザマニュアルをチェックし、拡張診断テストの実行についてのデバイス固有の指示を参照してください。	軽度
tapeAlertTrap261	261	ライブラリがホストとのインタフェースで問題を生じています。 1. ケーブルおよびその接続をチェックします。 2. オペレーションを再起動します。	危険
tapeAlertTrap262	262	ライブラリのハードウェア故障が予測されます。ライブラリ供給元のサポートセンタに問い合わせてください。	軽度

トラップ名	ID	意味	エラーのクラス
tapeAlertTrap263	263	ライブラリの予防保守が必要です。ライブラリユーザマニュアルをチェックして、デバイス固有の予防保守作業を参照するか、またはライブラリ供給元のサポートセンタに問い合わせてください。	軽度
tapeAlertTrap264	264	ライブラリ内の一般的な環境条件が湿度仕様を超えています。	危険
tapeAlertTrap265	265	ライブラリ内の一般的な環境条件が、温度仕様を超えています。	危険
tapeAlertTrap266	266	ライブラリへの電圧が、仕様を超えています。電源に潜在的な問題があるか、または冗長電源が故障しています。	危険
tapeAlertTrap267	267	以前のハードウェア故障により、カートリッジがライブラリ内のドライブに残っています。 1. 故障を解決するために、空のマガジンを挿入してください。 2. 故障が解決しなければ、ライブラリをオフにし、続いて再度オンにします。 3. 問題が解決しなければ、ライブラリ供給元のサポートセンタに問い合わせてください。	危険
tapeAlertTrap268	268	ドライブを排出するカートリッジが短い、またはスロットからカートリッジを取り出すライブラリメカニズムに潜在的な問題があります。問題が解決しなければ、ライブラリ供給元のサポートセンタに問い合わせてください。	軽度
tapeAlertTrap269	269	カートリッジをスロットに入れるライブラリメカニズムに潜在的な問題があります。問題が解決しなければ、ライブラリ供給元のサポートセンタに問い合わせてください。	軽度
tapeAlertTrap270	270	ドライブまたはカートリッジをロードするライブラリメカニズム、互換性のないカートリッジに潜在的な問題があります。	軽度
tapeAlertTrap271	271	ライブラリのドアが開いていたために、オペレーションが失敗しました。 1. ライブラリのドアに障害物があれば、取り除きます。 2. ライブラリのドアを閉じます。 3. 問題が解決しなければ、ライブラリ供給元のサポートセンタに問い合わせてください。	危険
tapeAlertTrap272	272	ライブラリメディアのインポートおよびエクスポートのメーカスロットで機械的な問題があります。	危険

トラップ名	ID	意味	エラーのクラス
tapeAlertTrap273	273	ライブラリは、マガジンなしにはオペレーションできません。 1. マガジンをライブラリに挿入します。 2. オペレーションを再起動します。	危険
tapeAlertTrap274	274	ライブラリのセキュリティが危険にさらされました。	軽度
tapeAlertTrap275	275	ライブラリのセキュリティモードが変更されました。ライブラリは、安全モードに入ったか、または安全モードを終了したかのいずれかです。	情報
tapeAlertTrap276	276	ライブラリが手動でオフラインになり、使用できません。	情報
tapeAlertTrap277	277	ライブラリ内のドライブが、オフラインになりました。	情報
tapeAlertTrap278	278	ライブラリメカニズム内のバーコードラベルまたはスキャナハードウェアに潜在的な問題があります。問題が解決しなければ、ライブラリ供給元のサポートセンタに問い合わせてください。	軽度
tapeAlertTrap279	279	ライブラリが目録で不整合を検出しました。 1. ライブラリの目録をやり直し、不整合を修正してください。 2. オペレーションを再起動してください。アプリケーションのユーザマニュアルまたはハードウェアのユーザマニュアルをチェックして、ライブラリの目録をやり直すことについての具体的な指示を参照してください。	危険
tapeAlertTrap280	280	この時点で無効なライブラリのオペレーションが、試みられました。	軽度
tapeAlertTrap29	29	テープドライブの予防保守が必要です。テープドライブのユーザマニュアルをチェックして、デバイス固有の予防保守作業を参照するか、またはテープドライブ供給元のサポートセンタに問い合わせてください。	軽度
tapeAlertTrap3	3	オペレーションが停止しました。これは、読み出し、書込み中にドライブが修正できないエラーが発生したためです。	軽度
tapeAlertTrap30	30	テープドライブに、ハードウェア故障があります。 1. テープまたはマガジンを排出します。 2. ドライブをリセットします。 3. オペレーションを再起動します。	危険

トラップ名	ID	意味	エラーのクラス
tapeAlertTrap31	31	テープドライブに、ハードウェア故障があります。 1. テープドライブをオフにし、次に再度オンにします。 2. オペレーションを再起動します。 3. 問題が解決しなければ、テープドライブ供給元のサポートセンタに問い合わせてください。	危険
tapeAlertTrap32	32	ホストのインタフェースで、テープドライブに問題があります。 1. ケーブルおよびその接続をチェックします。 2. オペレーションを再起動します。	軽度
tapeAlertTrap33	33	オペレーションが失敗しました。 1. テープまたはマガジンを排出します。 2. テープまたはマガジンを再度挿入します。 3. オペレーションを再起動します。	危険
tapeAlertTrap34	34	ファームウェアのダウンロードに失敗しました。これは、このテープドライブに対して誤ったファームウェアを使用しようとしたためです。正しいファームウェアを入手し、再度試みてください。	軽度
tapeAlertTrap35	35	テープドライブ内の環境条件が、湿度仕様を超えています。	軽度
tapeAlertTrap36	36	テープドライブ内の環境条件が、温度仕様を超えています。	軽度
tapeAlertTrap37	37	テープドライブへの電圧が仕様を超えています。	軽度
tapeAlertTrap38	38	テープドライブのハードウェア故障が予測されます。テープドライブ供給元のサポートセンタに問い合わせてください。	危険
tapeAlertTrap39	39	テープドライブにハードウェア故障がある可能性があります。拡張診断を実行し、問題を確認し、診断してください。テープドライブのユーザマニュアルをチェックし、拡張診断テストの実行についてのデバイス固有の指示を参照してください。	軽度
tapeAlertTrap4	4	データが危険にさらされています。 1. このテープから、必要なデータをコピーします。 2. このテープを以後使用しないようにしてください。 3. 別のテープでオペレーションを再起動します。	危険

トラップ名	ID	意味	エラーの クラス
tapeAlertTrap40	40	チェンジャメカニズムに、テープドライブとの通信で問題があります。 1. オートローダをオフにし、次にオンにします。 2. オペレーションを再起動します。 3. 問題が解決しなければ、テープドライブ供給元のサポートセンタに問い合わせてください。	危険
tapeAlertTrap41	41	以前のハードウェア故障により、オートローダにテープが残っています。 1. 故障を解決するために、空のマガジンを挿入してください。 2. 故障が解決しなければ、オートローダをオフにし、続いてオンにします。 3. 問題が解決しなければ、テープドライブ供給元のサポートセンタに問い合わせてください。	危険
tapeAlertTrap42	42	オートローダのメカニズムに問題があります。	軽度
tapeAlertTrap43	43	オートローダのドアが開いていたために、オペレーションが失敗しました。 1. オートローダのドアに障害物があれば、取り除きます。 2. マガジンを排出し、次に再度挿入します。 3. 故障が解決しなければ、オートローダをオフにし、再度オンにします。 4. 問題が解決しなければ、テープドライブ供給元のサポートセンタに問い合わせてください。	危険
tapeAlertTrap44	44	オートローダにハードウェア故障があります。 1. オートローダをオフにし、次に再度オンにします。 2. オペレーションを再起動します。 3. 問題が解決しなければ、テープドライブ供給元のサポートセンタに問い合わせてください。	危険
tapeAlertTrap45	45	オートローダは、マガジンなしにはオペレーションできません。 1. マガジンをオートローダに挿入します。 2. オペレーションを再起動します。	危険
tapeAlertTrap46	46	チェンジャメカニズムのハードウェア故障が予測されます。テープドライブ供給元のサポートセンタに問い合わせてください。	軽度

トラップ名	ID	意味	エラーのクラス
tapeAlertTrap5	5	テープが損傷しているか、またはドライブが故障しています。テープドライブ供給元のサポートセンタに問い合わせてください。	危険
tapeAlertTrap6	6	テープが不良バッチからのものか、またはテープドライブが故障しています。 1. ドライブをテストするために良好なテープを使用してください。 2. 問題が解決しなければ、テープドライブ供給元のサポートセンタに問い合わせてください。	危険
tapeAlertTrap7	7	テープカートリッジが、計算上の有効寿命になりました。 1. 必要なデータを別のテープにコピーします。 2. このテープを破棄します。	軽度
tapeAlertTrap8	8	このテープカートリッジはデータグレードにありません。このテープにデータをバックアップすると、リスクがあります。データグレードにあったカートリッジと取り替えてください。	軽度
tapeAlertTrap9	9	ライトプロテクトされているカートリッジに書込みを行おうとしています。ライトプロテクトを解除するか、または別のテープを使用してください。	危険

表 34 : Tape トラップ

Team Server トラップ (Fujitsu)

次の表は、Fujitsu Team Server トラップをアルファベット順に掲載して、概要を示したものです。

ASM PRIVATE COMMIB のトラップ

トラップ名	ID	意味	エラーのクラス
trapACFail	13	AC Power failed.AC 電源が故障しました。	重度
trapAssetChange	23	アセットが変更されました。	重度
trapBatteryFail	15	UPS バッテリーが故障しました。	重度
trapBusUtilization	8	バス利用率がしきい値を超えました。	重度
trapBiosEventLog	20	BIOS に新しいイベントログがあります。	重度
trapBiosEventLog Utilization	21	BIOS イベントログ利用率がしきい値を超えました。	重度
trapChassisIntrusion	16	シャーシ侵入が発生しました。	重度
trapCPUAbnormal	22	CPU に内部エラーがあります。	重度
trapCPUUtilization	7	CPU 利用率がしきい値を超えました。	重度
trapECC1BitError	3	EEC 1 ビットエラーが発生しました。	重度
trapECCMBitError	4	EEC マルチビットエラーが発生しました。	危険
trapFanStop	5	いずれかのファンが機能停止しました。	重度
trapFuseFail	17	ヒューズが故障しました。	重度
trapMemoryUtilization	9	メモリ利用率がしきい値を超えました。	重度
trapNICCounter	11	NIC 統計カウンタがしきい値を超えました。	重度
trapPowerFanFail	14	いずれかの電源サブシステムファンが故障しました。	重度
trapPSFail	12	いずれかの電源が故障しました。	重度
trapRPSFail	18	予備電源が故障しました。	重度
trapRPSFanFail	19	予備電源ファンが故障しました。	重度
trapTemperatureCritical	2	温度が第 2 レベルのしきい値を超えました。	危険
trapVoltage	6	いずれかの電圧読み取り値が節電動作範囲を超えました。	重度
trapVolumeUtilization	10	ボリューム利用率がしきい値を超えました。	重度

表 35 : ASM PRIVATE MIB のトラップ

LDCM-MIB のトラップ

トラップ名	ID	意味	エラーのクラス
ldcmCriticalTrap	5	マネージャが重大性が危険のイベントを報告しました。	危険
ldcmFatalTrap	6	マネージャが重大性が致命的のイベントを報告しました。	危険
ldcmInfoTrap	2	マネージャが情報レベルのイベントを報告しました。	情報
ldcmOkTrap	3	マネージャが重大性が OK のイベントを報告しました。	情報
ldcmUnknownTrap	1	マネージャが不明のイベントを報告しました。	情報
ldcmWarningTrap	4	マネージャが重大性が警告のイベントを報告しました。	軽度

表 36 : LDCM-MIB のトラップ

LDSM-MIB のトラップ

トラップ名	ID	意味	エラーのクラス
ldsmCriticalTrap	4	マネージャがステータスが危険のイベントを報告しました。	危険
ldsmInformationalTrap	2	マネージャがステータスが参考程度のイベントを報告しました。	情報
ldsmOkTrap	1	マネージャがステータスが OK のイベントを報告しました。	情報
ldsmWarningTrap	3	マネージャがステータスが警告のイベントを報告しました。	軽度

表 37 : LDSM-MIB のトラップ

しきい値トラップ

次の表は、しきい値トラップをアルファベット順に掲載して、概要を示したものです。

トラップ名	ID	意味	エラーのクラス
snlInvDeltaTrap Underflow	131	DELTA しきい値のアンダーフロー。このトラップは、ポーリングされた変数のひとつが、ユーザ指定の間隔を通過したことを意味します。この変数は、snlInvPollAlarm フィールドで指定されます。	情報
snlInvPollDeltaExceed	130	DELTA しきい値を超えました。このトラップは、ポーリングされた変数のひとつが、ユーザ指定の間隔を通過したことを意味します。この変数は、snlInvPollAlarm フィールドで指定されます。	情報
snlInvPollTrapExceed	128	しきい値を超えました。このトラップは、ポーリングされた変数のひとつが、ユーザ指定の間隔を通過したことを意味します。この変数は、snlInvPollAlarm フィールドで指定されます。	情報
snlInvPollTrapUnderflow	129	しきい値のアンダーフロー。このトラップは、ポーリングされた変数のひとつが、ユーザ指定の間隔を通過したことを意味します。この変数は、snlInvPollAlarm フィールドで指定されます。	情報
snlInvTrapInvalid	132	しきい値が無効になりました。	情報
snlInvTrapValid	133	しきい値が有効になりました。	情報

表 38：しきい値トラップ

UPS トラップ

次の表は、UPS トラップをアルファベット順に掲載して、概要を示したものです。

UPS トラップ 1

トラップ名	ID	意味	エラーのクラス
communicationEstablished	4	UPS との通信が確立しました。	情報
communicationLost	1	UPS との通信が失われました。	危険
powerRestored	5	通常電源が UPS で回復しました。	情報
testCompleted	8	UPS テストが完了しました。	情報
testStarted	7	UPS テストが開始しました。	情報
upsOnBattery	6	UPS システムがバッテリーバックアップ電源に切り替わりました。	重度
upsOverload	2	UPS がその定格容量の 100% よりも高い負荷を感知しました。	危険
upsTurnedOff	3	UPS が、管理ステーションによって、UPS のスイッチがオフになりました。	重度

表 39 : UPS トラップ

UPS トラップ 2

Trap name	ID	Meaning	Error class
boostOn	6	UPS がブースタをオンにしました。	重度
communicationEstablished	8	UPS との接続が確立されました。	情報
communicationLost	1	UPS との接続が失われました。	危険
lowBattery	7	バッテリーの残量が少なく、まもなく空になります。	危険
powerRestored	9	通常電力が UPS に回復しました。	情報
returnFromLowBattery	11	UPS が低バッテリー状態から回復しました。バッテリーは OK です。	情報
upsDiagnosticsFailed	3	UPS が内部診断チェックに失敗しました。	危険
upsDiagnosticsPassed	10	UPS が内部診断チェックに合格しました。	情報
upsDischarged	4	UPS が放電したところです。	危険
upsOnBattery	5	UPS がバッテリー電源に切り替わりました。	重度
upsOverLoad	2	UPS がその容量の 100% を超える負荷を検出しました。	危険
upsRebootStarted	15	UPS が再起動を開始しました。	重度
upsSleeping	13	UPS がスリープモードに切り替わりました。	重度

Trap name	ID	Meaning	Error class
upsTurnedOff	12	UPS がマネージャによってオフにされました。	重度
upsWokeUp	14	UPS がスリープモードから戻りました（ウェークアップ）。	情報

3 しきい値リスト

しきい値の監視に使用する ServerView 変数の概要を次に示します。

監視される値

次に示すしきい値が監視対象となります。

値	意味
DAC960-AdapterInfo-Values	DAC960 アダプタ設定のしきい値
DAC960-PhysicalDevice-Values	DAC960 アダプタに接続するデバイスのデバイスエラーのしきい値
Environment-Values	ファン速度のしきい値
Ethernet-MAC-Statistics	イーサネット MAC エラーのしきい値
FDDI-MAC-Statistics	FDDI-MAC エラーのしきい値
FDDI-Port-Statistics	FDDI ポートエラーのしきい値
Interface-Values	インタフェース統計情報とインタフェースエラーのしきい値
IP-Info	IP 統計情報のしきい値
Memory-Values	メモリエラーのしきい値
NetWare-Info	NetWare 接続のしきい値
OnOffTimes	電源のオン / オフ時間のしきい値
PC-Inventory-CPUValues	CPU 使用のしきい値
PC-Inventory-FileSystem	使用可能ブロックのしきい値
PC-Inventory-Info	マウント済みファイルシステムのしきい値
SystemBoard-Info	バスのロードのしきい値
SystemControl-Info	キャビネット数のしきい値
TokenRing-MAC-Statistics	TokenRing エラーのしきい値
UPS-Values	バッテリーによる稼働時間のしきい値

表 40 : しきい値 : 監視される値

概要

DAC960-AdapterInfo-Values

値	意味
mylex.NumChannels	現在のチャネル数
mylex.NumLogicalDrives	現在の論理ドライブ数
mylex.NumPhysicalDevices	現在の物理デバイス数

表 41 : しきい値 : DAC960-AdapterInfo-Values

DAC960-PhysicalDevice-Values

値	意味
physDev960.HardErrorCount	ハードウェアエラーカウント（設定済み DAC ディスクのみ）
physDev960.MiscErrorCount	さまざまなエラーカウント（設定済み DAC ディスクのみ）
physDev960.ParityErrorCount	パリティエラーカウント（設定済み DAC ディスクのみ）
physDev960.SoftErrorCount	ソフト（通常）エラーカウント（設定済み DAC ディスクのみ）

表 42：しきい値：DAC960-PhysicalDevice-Values

Environment-Values

値	意味
fan.CurrentMaxSpeed	最大パワー時のファンの現在速度（回転 / 分）（-1 = 不明）
fan.CurrentSpeed	ファンの現在速度（回転 / 分、-1 = 不明）

表 43：しきい値：Environment-Values

Ethernet-MAC-Statistics

値	意味
ethS.AlignmentErrors	長さは整数バイトではなく、FCS チェックをパスしていない、特定のインタフェース上で受信したフレーム数。
ethS.CarrierSenseErrors	特定のインタフェース上でのフレームの送信時に、キャリア検出テストが失敗して実行されなかった回数。
ethS.DeferredTransmissions	媒体がビジー状態のため、特定のインタフェース上で最初の送信に遅れがあったフレーム数。
ethS.ExcessiveCollision	過度の衝突のため、特定のインタフェース上での送信に失敗したフレーム数。
ethS.FCSErrors	長さは整数バイトであるが、FCS チェックをパスしていない、特定のインタフェース上で受信したフレーム数。
ethS.FrameTooLongs	最大許容フレームサイズを超えた、特定のインタフェース上で受信したフレーム数。
ethS.InternalMacReceiveErrors	内部 MAC サブレイヤ受信エラーのため、特定のインタフェース上での受信に失敗したフレーム数。
ethS.InternalMacTransmitErrors	内部 MAC サブレイヤ送信エラーのため、特定のインタフェース上での送信に失敗したフレーム数。
ethS.LateCollisions	512 ビットを超えるパケットの送信後、特定のインタフェース上で衝突を検出した回数。
ethS.MultipleCollisionFrames	複数の衝突が発生したため送信が除去された特定のインタフェース上で、正常に送信されたフレーム数。
ethS.SingleCollisionFrames	1 つの衝突が発生したため送信が除去された特定のインタフェース上で、正常に送信されたフレーム数。
ethS.SQETestErrors	特定のインタフェースに対して、SQE TEST ERROR メッセージが PLS サブレイヤによって生成された回数。

表 44 : しきい値 : Ethernet-MAC-Statistics

FDDI-MAC-Statistics

値	意味
fddiM.ErrorsCts	Error_Count (ANSI MAC 2.2.1 を参照)
fddiM.FrameCts	Frame_Count (ANSI MAC 2.2.1 を参照)
fddiM.LostCts	Lost_Count (ANSI MAC 2.2.1 を参照)

表 45 : しきい値 : FDDI-MAC-Statistics

FDDI-Port-Statistics

値	意味
fddiP.LCTFailCts	接続管理中に、リンク信頼テストに連続して失敗した回数。
fddiP.LemCts	電源投入時、ゼロにリセットされるだけのリンクエラーモニタがカウントするエラー数。
fddiP.LemRejectCts	リンクが拒否された時間数のリンクエラー監視回数。

表 46 : しきい値 : FDDI-Port-Statistics

Interface-Values

値	意味
if.InDiscards	上位レイヤプロトコルでパケットを使用できないようにしたエラーがないのに、廃棄するよう選択された進入パケット数。
if.InErrors	上位レイヤプロトコルでパケットを使用できないようにしたエラーが含まれている進入パケット数。
if.InNUcastPkts	上位レイヤプロトコルに送信された（ブロードキャストではない）非マルチキャストパケット数。
if.InOctets	フレーム指示キャラクタを含め、インタフェース上で受信した合計バイト数。
if.InUcastPkts	上位レイヤプロトコルに送信されたサブネットワークのユニキャストパケット数。
if.InUnknownProtos	不明またはサポートされないプロトコルのため廃棄された、インタフェース経由での受信パケット数。
if.OutDiscards	パケットを送信できないようにしたエラーが検出されなくても、廃棄するよう選択された送出パケット数。
if.OutErrors	エラーにより送信できなかった送出パケット数。
if.OutNUcastPkts	廃棄されたり送信されなかったパケットを含め、上位レベルプロトコルが非ユニキャストアドレスに送信を要求した合計パケット数。
if.OutOctets	フレーム指示キャラクタを含め、インタフェース上で送信された合計バイト数。
if.OutQLen	出力パケットキューの長さ（パケット内）
if.OutUcastPkts	廃棄されたり送信されなかったパケットを含め、上位レベルプロトコルがサブネットワークのユニキャストアドレスに送信するよう要求した合計パケット数。
if.Speed	インタフェースの現在の帯域幅の見積もり（ビット / 秒）。

表 47：しきい値：Interface-Values

IP-Info

値	意味
ip.ForwDatagrams	このエンティティが最終 IP 宛先でないため、データグラムを最終宛先に転送する経路を検索しようと試みた、入力データグラム数。
ip.InReceives	誤って受信したデータグラムを含め、インタフェースから受信した合計入力データグラム数。
ip.OutRequests	送信を要求したため、ローカル IP ユーザプロトコル（ICMP を含む）が IP に提供した合計 IP データグラム数。

表 48：しきい値：IP-Info

Memory-Values

値	意味
memModule.Errors	最後のエラーカウントがリセットされてから、このモジュールで発生した（パリティ）エラー数（-1 = 不明）

表 49：しきい値：Memory-Values

NetWare-Info

値	意味
sniNW.ConnectionsInUse	現在使用されている接続数。
sniNW.PeakConnectionsUsed	使用された接続のピーク数。

表 50：しきい値：NetWare-Info

OnOffTimes

値	意味
#power.OffDuration	システムの存続期間において、電源がオフになっていた時間（時間で表示、-1 = 不明）
power.OnCounts	サーバの存続期間において、電源がオンになった回数（-1 = 不明）
power.OnDuration	システムの存続期間において、電源がオンになっていた時間（時間で表示、-1 = 不明）

表 51：しきい値：OnOffTimes

PC-Inventory-CPUValues

値	意味
sni.CPUUtilization	CPU がデータを処理している時間のパーセント

表 52：しきい値：PC-Inventory-CPU values

PC-Inventory-FileSystem

値	意味
sni.AvailableBlocks	ファイルシステムの未使用ブロック数（未使用ブロック * ブロックサイズ = ファイルシステムで使用可能なバイト数）

表 53：しきい値：PC-Inventory-FileSystem

PC-Inventory-Info

値	意味
sni.MountedFileSystems	現在マウントされているファイルシステム数。

表 54 : しきい値 : PC-Inventory-Info

SystemBoard-Info

値	意味
utilization.EisaLoad	EISA バス上のロード (パーセント表示、不明の場合は -1)
utilization.PciLoad	PCI バス上のロード (パーセント表示、不明の場合は -1)。 新たにインプリメンテーションする場合は、このオブジェクトを使用しないでください。このオブジェクトは pciUtilizationTable になりました。

表 55 : しきい値 : SystemBoard-Info

SystemControl-Info

値	意味
NumberCabinets.Detected	検出されたキャビネット数 (サーバそのものが含まれるため、最小値は 1)。

表 56 : しきい値 : SystemControl-Info

TokenRing-MAC-Statistics

値	意味
tokS.AbortTransErrors	送信中、ステーションが異常終了区切り記号を送信すると、このカウンタが増加される。
tokS.ACErrors	ステーションが A と C が等しく 0 である AMP フレームまたは SMP フレームを受信してから、最初に AMP フレームを受け取らずに、A と C が等しく 0 である別の SMP フレームを受信した場合に、このカウンタが増加される。これは、AC ビットを正しく設定できないステーションであることを示す。
tokS.BurstErrors	ステーションにより 5 つのハーフビット期間に遷移がないことが検出されると、このカウンタが増加される。(パーストファイブエラー検出)
tokS.FrameCopiedErrors	ステーションが特別なアドレスにアドレス指定されたフレームを認識し、FS フィールドの A ビットが 1 にセットされ、回線瞬断または重複アドレスの可能性があることを検出した場合に、このカウンタが増加される。
tokS.InternalErrors	ステーションが内部エラーを認識した場合に、このカウンタが増加される。
tokS.LineErrors	フレームまたはトークンがステーションによりコピーまたは繰り返され、フレームまたはトークンの E ビットが 0 であり、さらに次の条件のいずれか 1 つが存在している場合に、このカウンタが増加される。 1. フレームまたはトークンの SD と ED との間に非データビットが存在する (J ビットまたは K ビット)。 2. フレームで FCS エラーが発生している。
tokS.LostFrameErrors	ステーションが送信中で、その TRR タイマの期限が切れている場合に、このカウンタが増加される。
tokS.ReceiveCongestions	ステーションが特別なアドレスにアドレス指定されたフレームを認識しても、利用可能なバッファ容量がなく、ステーションで輻輳が発生していることを示す場合に、このカウンタが増加される。
tokS.SoftErrors	インタフェースが検出した通常の (ソフト) エラー数。この数は、このインタフェースが送信したことが記録されている不良 MAC フレーム数とちょうど一致する。
tokS.TokenErrors	稼動中のモニタとして動作しているステーションが、トークンを送信する必要のあるエラー状態を認識した場合に、このカウンタが増加される。

表 57 : しきい値 : TokenRing-MAC-Statistics

UPS-Values

値	意味
ups.TimeOnBattery	UPS がバッテリー電源に切り換わってから経過した時間。

表 58 : しきい値 : UPS-Values

4 略語

略語	意味
APC	American Power Conversion (Manufacturer)
API	Application Programming Interface
ASIC	Application Specific Integrated Circuit
ASM	Advanced Server Management
ASN.1	Abstract Syntax Notation One
ASR&R	自動再構成 / 自動再起動 (Automatic Server Reconfiguration and Restart)
AT	Attention
ATDP	Attention Dial Pulse
ATDT	Attention Dial Tone
AVR	Automatic Voltage Regulator
BBU	バッテリーバックアップユニット (Battery Backup Unit)
BIOS	Basic Input/Output System
CA	Computer Associates (Manufacturer)
CAN	Controller Area Network(s)
COD	Configuration on Disk
CPU	中央演算処理装置 (Central Processing Unit)
CSMA/CD	Carrier sense multiple access with collision avoidance
DAC	Disk Array Controller
DACCF	A configuration utility for Mylex-controllers
DMI	Desktop Management Initiative
DNS	ドメインネームサービス (Domain Name Service)
DPT	Distributed Processing Technology
DSM	Distributed State Machine
DW	Duplex Write
EGP	Exterior Gateway Protocol
EISA	Enhanced Integrated System Architecture
EMC	Manufacturer of high-available enterprise disk-sub-systems.
EMU	Electromagnetic Unit
FDDI	Fiber Distributed Data Interface
GAM	Global Array Manager Stimmt das so?
GSM	Global System for Mobile Communication
HBA	Host Bus Adapter
ICMP	Internet Control Message Protocol
ID	Identifier
IETF	Internet Engineering Task Force
IP	インターネットプロトコル (Internet Protocol)
IPX	Internet Packet Exchange
ISA	Integrated System Architecture
ISDN	サービス統合デジタル網 (Integrated Service Digital Network)
ISO	国際標準化機構 (International Standardization Organization)

略語	意味
LAN	ローカルエリアネットワーク (Local Area Network)
LDSM	Intel LanDesk® ServerManager
MAC	媒体アクセス制御 (Medium Access Control)。OSI 参照モデルの接続層に相当します。
MAPI	Messaging Application Programming Interface
MIB	Management Information Base
MIF	Management Information Format
MODEM	変調装置 / 復調装置 (Modulator / Demodulator)
MSCS	Microsoft Cluster Server
NDIS	ネットワークドライバインタフェース仕様 (Network Driver Interface Specification)
NDS	Network Directory Service
NETBEUI	Netbios Extended User Interface
NETBIOS	Net-Basis-Input-/Output-System
NIC	Network Information Center
NLM	Netware Loadable Module
NNM	Network Node Manager
NT	New Technology
OID	オブジェクト ID (Object ID)
OS	オペレーティングシステム (Operating System)
OSI	開放型システム間相互接続 (Open system Interconnection)
PCI	Peripheral Component Interconnect
PCMCIA	Personal Computer Memory Card International Association
PDA	予防保守 (Prefailure Detection and Analysis)
PDU	Protocol Data Unit
PFA	Prefailure Analysis
PLS	物理信号制御 (Physical Signaling)。OSI 参照も出るの物理層に相当します。
POST	Power On Self Test
PPC	Manufacturer of uninterruptible power supply units
PPP	Point to Point Protocol
PPTP	Point to Point Tunnel Protocol
RAID	Redundant Array of Independent Disks
RAS	リモートアクセスサービス (Remote Access Service)
RFC	Request for Comments
RFS	リモートファイルシステム (Remote File System)
RSB	Remote Service Board
SCSI	Small Computer System Interface
SCU	Server Configuration Utility
SLIP	Serial Line Internet Protocol
S.M.A.R.T	セルフモニタリングおよびレポーティング技術 (Self Monitoring and Reporting Technology)
SMS	1. Short Message System 2. Systems Management System
SNMP	簡易ネットワーク管理プロトコル (Simple Network Management Protocol)
SQL	Structural Query Language

略語	意味
SSA	SNMP Subagent
SuSe	A LINUX-Distributor
TAP	Telocator Alphanumeric Protocol
TCP/IP	転送制御プロトコル / インターネットプロトコル (Transmission Control Protocol / Internet Protocol)
TRR	Token Ring Repeater
UCP	Universal Computer Protocol
UPS	Uninterruptible Power Supply
WAN	広域ネットワーク (Wide Area Network)
WINS	Windows インターネットネームサービス (Windows Internet Name Services)

索引

あ

アーカイブマネージャ	120
アイコン	259
アイコン (クラスタのステータス)	266
アイコン (グループのステータス)	267
アイコン (サーバノードのステータス)	266
アイコン (その他のアイコン)	269
アイコン (ネットワークインタフェース ウィンドウ)	263
アイコン (ネットワークインタフェース のステータス)	268
アイコン (ネットワークのステータス)	268
アイコン (バスとアダプタウィンドウ)	264
アイコン (リソースのステータス)	267
アイコン (Alarm Manager ウィンドウ)	265
アイコン (Alarm Monitor ウィンドウ)	265
アイコン (DPT Disk Array Devices ウィンドウ)	262
アイコン (Mylex の Device View ウィンドウ)	262
アイコン (Server List)	260
アイコン (ServerView メニュー)	261
アクション	80
アラームアイコンの削除	108
アラームサービス	107
アラーム設定	112
アラームの管理	60
アラームの転送	115
アラームの表示	108
アラームマネージャ	108
アラームメニュー	69
アラームモニタ	110
アンインストール (管理コンソール) ..	49
アンインストール (サーバ)	51

い

インストール	7
インストールスクリプト	22
インストールの準備	10
インストール (ServerView Basic)	137

う

ウィンドウ	125
-------------	-----

ウィンドウメニュー	70
-----------------	----

か

外部アプリケーション	100
外部記憶装置	84
外部記憶装置 - DuplexWrite	92
外部記憶装置 - MultiPath	90
外部記憶装置 - RAID コントローラ ..	88
環境	97
監視機能	58
管理機能	3
管理コンソール	1

く

クラスタのプロパティウィンドウ	127
-----------------------	-----

こ

構成情報	79
コミュニティ	195

さ

サーバの一覧ウィンドウ	71
サーバのフィルタ	114
サーバの一覧ウィンドウ	56
サーバブラウザウィンドウ	74
サービスプロバイダ ITS へのメールの転送	116

し

しきい値	98, 104
しきい値一覧	106
しきい値の管理	61
しきい値マネージャ	104
しきい値メニュー	69
しきい値リスト	311
しきい値 (DAC960-AdapterInfo-Values) ..	311
しきい値 (DAC960-PhysicalDevice-Values)	312

しきい値 (Environment-Values)	312	動作環境 (ServerView マネージャ)	9
しきい値 (Ethernet-MAC-Statistics)	313	トラップ	195, 197
しきい値 (FDDI-MAC-Statistics)	313	トラップ (クラスタ)	274
しきい値 (FDDI-Port-Statistics)	313	トラップ (しきい値)	308
しきい値 (Interface-Values)	314	トラップ (Adaptec)	271
しきい値 (IP-Info)	314	トラップ (APC)	272
しきい値 (Memory-Values)	315	トラップ (ASM PRIVATE COMMIB)	306
しきい値 (NetWare-Info)	315	トラップ (DPT)	276
しきい値 (OnOffTimes)	315	トラップ (DuplexWrite)	278
しきい値 (PC-Inventory-CPUValues)	315	トラップ (EMC)	279
しきい値 (PC-Inventory-FileSystem)	315	トラップ (Generic トラップ)	280
しきい値 (PC-Inventory-Info)	316	トラップ (HardDisk ラップ (S.M.A.R.T.))	280
しきい値 (SystemBoard-Info)	316	トラップ (LDCM-MIB)	307
しきい値 (SystemControl-Info)	316	トラップ (LDSM-MIB)	307
しきい値 (TokenRing-MAC-Statistics)	317	トラップ (MultiPath)	281
しきい値 (UPS-Values)	317	トラップ (Mylex)	282
システムセキュリティ	3	トラップ (NetWare)	285
		トラップ (NT)	287
		トラップ (PCI HotPlug)	288
		トラップ (PXRE)	289
		トラップ (RAID Adapter)	292
		トラップ (RomPilot)	294
		トラップ (ServerControl)	294
		トラップ (ServerView ステータス)	297
		トラップ (ServerView)	297
		トラップ (Tape)	298
		トラップ (Team Server)	305
		トラップ (UPS)	308
せ			
設定メニュー	69		
た			
タスクメニュー	68		
単位の設定	101		
つ		ね	
ツールメニュー	70	ネットワークインタフェース	98
て		は	
データのエクスポート	124	パーティションビュー	85
デバイスの表示	87, 88		
デフォルト	99	ひ	
デフォルト値の管理	63	表示メニュー	68
デフォルトの設定	100		
電源	95		
と		ふ	
統合オプション	5	ファイルメニュー	67
動作環境	7	ブリッジコントローラの詳細	89
動作環境 (ServerView エージェント) ...	8		

プロパティウィンドウ	126
へ	
ベースボード	94
ヘルプメニュー	70
編集メニュー	68

ほ

ポケットベルの設定	117
-----------------	-----

ま

マルチパスステータス	90
------------------	----

め

メールの設定	116
メールの転送	116

も

モニタ機能	2
-------------	---

ゆ

ユーザ認証	101
-------------	-----

よ

予防保守機能	2
--------------	---

り

リカバリ機能	2, 59
リモートアクセスサービス	3
リモートサービスボード	5, 65, 223

れ

レポート	98, 102
レポート一覧	103
レポートの管理	62
レポートマネージャ	102
レポートメニュー	69

ろ

ロジカルビュー	86
---------------	----

A

ASR 設定	127
--------------	-----

C

Configuration Group	91
---------------------------	----

F

Firewall の設定	38
Fujitsu サーバ管理	196

G

Global Flash	124
--------------------	-----

H

Help	58
httpd サービスの自動起動設定	37
httpd サービス設定ファイルの編集	37

I

IIS	14
Internet Information Server	14
InventoryView	199

InventoryView ウィンドウ202

L

LDSM143
LDSM 連携143

M

Management Information Base193

R

RAS 3
RemoteControlService159
RemoteControlService (システム用件) 161
RPM の上書きインストール 32
RPM バージョンの確認 32
RSB5, 65, 223

S

S.M.A.R.T. サポート 5
Server View を使用する前に 55
ServerView 1
ServerView Basic 6, 137
ServerView Web-Server 14
ServerView エージェント 1, 191
ServerView 管理コンソール 1
ServerView マネージャ191
SNMP サービスの自動起動設定 37
SNMP のデータ要素194
SNMP のプロトコル要素194
SystemWalker 連携145

W

Write ステータス 93